

高崎市小八木町

ko ya gi si si kai to
小八木志志貝戸遺跡 4

2区 縄文時代・4～6区 縄文時代～平安時代編

主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

2002

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

小八木志志貝戸遺跡4 正誤表

21頁13図	重複する住居は住居2区019
76頁74図	土層断面のレベルは全て104.80m

高崎市小八木町

ko ya gi si si kai to

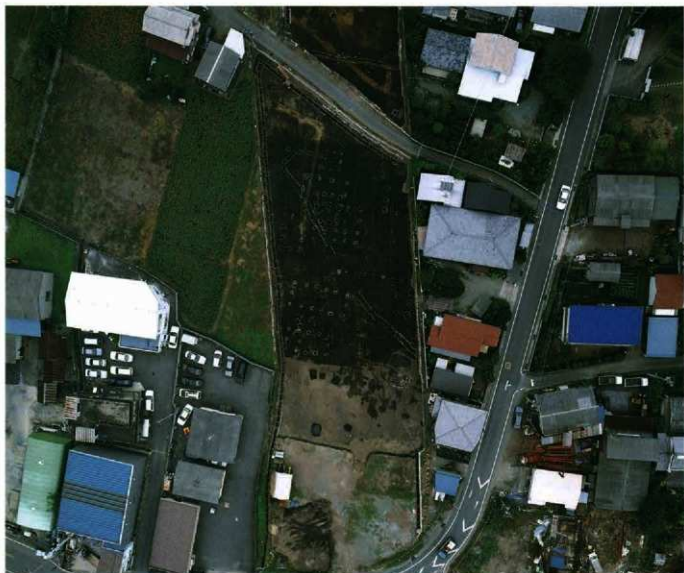
小八木志志貝戸遺跡 4

2区 縄文時代・4～6区 縄文時代～平安時代編

主要地方道高崎渋川線改築(改良)工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

2002

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



居宅3期正殿建物 掘立柱建物5区166 (S→)



居宅3期正殿建物 掘立柱建物5区166 (S→)

序

主要地方道高崎渋川線は近世の三国往還を踏襲しており、古くから往来が盛んな道路として知られております。現在では高崎市街地を南北に縦断しながら国道17号線と交差して渋川市を結ぶ地方幹線道として、近年交通量がさらに増加しています。

本道路改築(改良)工事1期は、現道の東側を迂回するバイパスとして整備しつつあり、渋滞緩和のため早期開通が囑望されておりました。この工事に先立って、当該する埋蔵文化財の記録保存として昭和63年からは群馬町教育委員会、そして平成6年からは当事業団が発掘調査を実施してまいりました。

本遺跡の周辺には三ッ寺I遺跡、保渡田古墳群、上野国府跡、日高遺跡のような重要な遺跡が存在しております。また、周辺では高速道路、新幹線建設、土地改良工事などに伴って、発掘調査が数多く行われてきました。それらの中間に当たる地域として、本遺跡は当地域の歴史を究明する上で重要な資料を提供することと思います。

本遺跡は縄文時代から中世にいたる、特に集落、墓域、祭祀などの痕跡が密集して発見されております。これまでの弥生時代編、古墳時代編、中世編に続く本書では、これまで希薄であった古代の集落と奈良時代の居宅跡について報告します。今回の調査で発見した居宅跡は古代八木郷に新たな見知を与え、当地の古代史を解明する上で重要な資料となり得ると確信します。

本報告書の刊行にいたるまでには、群馬県土木部道路建設課、高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げますとともに、本報告書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、序とします。

平成14年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

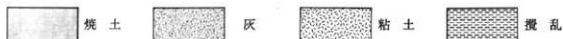
例 言

1. 本書は、群馬県主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本書の掲載する遺跡の範囲は下記のとおりである。
小八木志志貝戸遺跡 2区 縄文時代
小八木志志貝戸遺跡 4区～6区 縄文時代～古代
3. 所在地 高崎市小八木町字志志貝戸、関添、薬師前
4. 事業主体 群馬県土木部道路建設課・高崎土木事務所
5. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 調査期間 （本報告書に掲載する範囲の調査区調査期間である。）
2区 1997年9月30日～1998年6月25日
4区～6区 1999年4月1日～12月20日
7. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
8. 調査担当 坂井 隆、神谷佳明、須田正久、横山千晶、長岡将之、(嘱託)入沢雪絵、小林一弘
調査組織の詳細、調査担当者の関わった期間などについては当該年度の事業団年報を参照。
9. 整理期間 2001年4月1日～2002年3月31日
10. 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野宇三郎、常務理事 吉田 豊、赤山容造、管理部長 住谷 進、調査研究部長 能登 健
事務担当 大島信夫、小山建夫、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、森下弘美、片岡徳雄、並木綾子、
今井とも子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原おこり、狩野真子
資料整理課長 西田健彦
11. 整理担当 神谷佳明
12. 報告書作成関係者
編 集 神谷佳明、本文執筆 神谷佳明
石器・石製品石材鑑定 飯島静男、樹種同定 パレオ・ラボ
遺物観察 縄文土器 山口逸弘、石器 岩崎泰一、その他 神谷佳明
遺構写真撮影 調査担当者、(空撮)株式会社 測研、遺物写真撮影 佐藤元彦
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小村浩一、高橋初美
整理作業 大友幸江、六本木弘子、小久保トシ子、小菅優子、矢野純子、中橋たみ子
遺物実測補助 佐藤美代子、田中富子、矢島三枝子、富沢スミ江、大成エンジニアリング(株)
遺構図・遺物図淨書 (株)測研
13. 発掘調査、遺物基礎整理、遺構図基礎整理は1997年度、1998年度、1999年度、2000年度に(主)地方道高崎渋川線(改良)工事に伴う発掘調査に配属された事業団発掘作業員の方々をはじめ多くの方々に従事していただいた。本来なら本書に御芳名を記載すべきところであるが紙面の関係で掲載できなかった。
14. 発掘調査、整理作業では多くの方々にご指導、ご教示を受けた紙面の関係でご芳名を掲載できないがここに感謝の意を表したい。
15. 記録図面、記録写真、出土遺物、その他記録等は群馬県埋蔵文化財センターで保管している。
16. 副書名巻次は、群馬町教育委員会が実施した同事業の報告書を加えて修正を行っている。

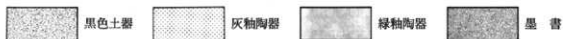
凡 例

1. 挿図中に使用した方位は、座標北を表示している。
2. 本報告書で使用したテフラの略号は、As-B 浅間山B軽石、As-C 浅間山C軽石、Hr-F P 榛名二ツ岳噴出軽石、Hr-F A 榛名二ツ岳噴出火山灰である。
3. 挿図中の遺構図縮尺は、掘立柱建物 1/80、住居 1/60、同カマド・炉 1/30、埋壘・井戸・土坑 1/40、溝平面 1/100、溝断面 1/50、その他は各図にスケールを貼付してあるとおりである。
4. 挿図中の遺物図縮尺は、原則 1/3 であるが大型については1/4、また、石器等の小型遺物については1/2、1/1で掲載してある。1/3以外の遺物については遺物No.の後ろに（ ）で縮尺を明示してある。
5. 挿図中に使用したスクリーンパターンは下記のとおりである。

遺 構



遺 物



6. 挿図・付図中の遺構名称については調査区については省略し遺構種類名称については下記のとおり略してある。
住 住居、掘立 掘立柱建物、井 井戸、土 土坑
7. 遺物観察表の凡例は、遺物観察表裏面に掲載している。
8. 本報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。
国土地理院 地勢図「長野」・「宇都宮」(1/200,000)使用は昭和58年横山衛器製作所100周年記念調整図
地形図「前橋」・「室田」(1/25,000)、「前橋」・「榛名山」(1/50,000)
高崎市都市計画図
9. 遺構の面積は、デジタルプランニメーターを使用して3回の計測値を平均したものである。
10. 図版中の遺物縮尺は個々に異なっている。

目次

序

例言

凡例

挿図・表・図版 目次

I 調査の経過

1. 調査に至る経緯 2
2. 調査の経過 4

II 調査の方法

1. 調査の方法 6
2. 調査区の設定 7
3. 基本土層 8

III 遺跡地の環境

1. 地理的環境 10
2. 歴史的環境 12

IV 遺構・遺物

1. 調査の概要 17
2. 縄文時代の遺構・遺物 18
(1)敷石住居、(2)掘立柱建物、(3)柱列、(4)配石、(5)集石、
(6)遺物集中、(7)埋塞、(8)土坑、(9)溝、(10)遺構外出土遺物
3. 弥生時代の遺構・遺物 67
(1)住居、(2)竈、(3)土坑、(4)遺構外出土遺物
4. 古墳時代の遺構・遺物 73
(1)住居、(2)古墳、(3)土坑、(4)溝、(5)畚、(6)遺構外出土遺物
5. 奈良・平安時代の遺構・遺物 90
(1)居宅、(2)住居、(3)掘立柱建物、(4)井戸、(5)土坑、
(6)溝、(7)遺構外出土遺物

V 自然科学分析

1. 樹種同定 168

VI おわりに 171

掲載遺物観察表 173

図版

遺構検索表

報告書抄録

插图目次

1 图	遗址位置图(1/200,000).....	-1	57 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图(8).....	-61
2 图	遗址调查区位置图(1/25,000).....	-3	58 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图(9).....	-62
3 图	小八木志良戸遗址调查区图.....	-5	59 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图(10).....	-63
4 图	调查区设定图.....	-7	60 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图(11).....	-64
5 图	基本土层概略图.....	-8	61 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图(12).....	-65
6 图	调查区土层柱状图.....	-9	62 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图(13).....	-66
7 图	遗址周边地形概略图.....	-11	63 图	商文时代 6 区道墙外出土遗物 遗物图.....	-66
8 图	周边道路图(1/25,000).....	-14	64 图	住居 4 区167 道横图·遗物图.....	-67
9 图	遗址地周边调查状况图.....	-15	65 图	住居 4 区215 道横图.....	-68
10 图	敷石住居 5 区439 道横图.....	-18	66 图	住居 4 区215 道横图.....	-69
11 图	敷石住居 2 区36 道横图.....	-19	67 图	灰棺 4 区180 道横图·遗物图.....	-70
12 图	敷石住居 2 区36 道横图.....	-20	68 图	土坑 4 区211·306·307 道横图·遗物图.....	-71
13 图	孤立柱建物 2 区72 道横图.....	-21	69 图	弥生时代 4 区道墙外出土遗物 遗物图.....	-72
14 图	孤立柱建物 2 区72 道横图.....	-22	70 图	弥生时代 5 区道墙外出土遗物 遗物图.....	-72
15 图	孤立柱建物 2 区90 道横图.....	-23	71 图	住居 4 区161 道横图.....	-73
16 图	円形柱列 2 区52 道横图.....	-24	72 图	住居 5 区457 道横图(1).....	-74
17 图	配石 2 区23 道横图.....	-25	73 图	住居 5 区457 道横图(2).....	-75
18 图	配石 2 区23 道物图(1).....	-26	74 图	住居 4 区226 道横图.....	-76
19 图	配石 2 区23 道物图(2).....	-27	75 图	住居 4 区226 道横图.....	-77
20 图	配石 2 区43 道横图.....	-28	76 图	古墳 4 区105 道横图.....	-78
21 图	遺物集中 2 区40 道横图·遺物图.....	-29	77 图	古墳 4 区105 道物图.....	-79
22 图	埋室 2 区51 道横图.....	-29	78 图	土坑 4 区109·110·115·119·120·125 道横图.....	-79
23 图	埋室 2 区51 道横图.....	-30	79 图	土坑 4 区124·128·249·5 区419·466· 6 区W03·W04·E02 道横图.....	-80
24 图	埋室 4 区228 道横图·遺物图.....	-30	80 图	溝 4 区116·117 道横图.....	-81
25 图	埋室 5 区464 道横图·遺物图.....	-31	81 图	溝 4 区104·5 区04 道横图·遺物图.....	-82
26 图	埋室 5 区563 道横图.....	-31	82 图	溝 4 区107·108·113·121·122·123 道横图.....	-83
27 图	埋室 5 区563 道物图.....	-32	83 图	溝 4 区111 道横图·遺物图.....	-84
28 图	土坑 2 区42·74 道横图.....	-33	84 图	溝 4 区130·131 道横图.....	-85
29 图	土坑 2 区83·84·95·113 道横图.....	-34	85 图	溝 4 区W01 道横图.....	-86
30 图	土坑 2 区112 道横图·遺物图.....	-35	86 图	溝 4 区E01 道横图·遺物图.....	-87
31 图	土坑 4 区184·186·222·223·231 道横图·遺物图.....	-36	87 图	古墳時代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(1).....	-88
32 图	土坑 4 区242·251·252·253·264 道横图·遺物图.....	-37	88 图	古墳時代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(2).....	-89
33 图	土坑 4 区262·263·302·303·314· 315·316·317·318 道横图.....	-38	89 图	古墳時代 5 区道墙外出土遗物 遺物图.....	-89
34 图	土坑 4 区319·320·321·322· 5 区486·519·559·575 道横图·遺物图.....	-39	90 图	居宅道横图全体图.....	-92
35 图	溝 4 区277 道横图.....	-40	91 图	居宅道横图史迹图 1 期.....	-92
36 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(1).....	-40	92 图	居宅道横图史迹图 2 期.....	-93
37 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(2).....	-41	93 图	居宅道横图史迹图 3 期.....	-93
38 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(3).....	-42	94 图	居宅区画溝 4 区03 道横图·遺物图.....	-94
39 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(4).....	-43	95 图	居宅区画溝 5 区172 道横图·遺物图.....	-96
40 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(5).....	-44	96 图	居宅孤立柱建物 5 区169 道横图·遺物图.....	-96
41 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(6).....	-45	97 图	居宅孤立柱建物 5 区211 道横图.....	-97
42 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(7).....	-46	98 图	居宅孤立柱建物 5 区400 道横图·遺物图.....	-98
43 图	商文时代 2 区道墙外出土遗物 遺物图(8).....	-47	99 图	居宅孤立柱建物 5 区377 道横图·遺物图.....	-99
44 图	商文时代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(1).....	-48	100 图	居宅孤立柱建物 5 区387 道横图.....	-100
45 图	商文时代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(2).....	-49	101 图	居宅孤立柱建物 5 区387 道横图.....	-101
46 图	商文时代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(3).....	-50	102 图	居宅孤立柱建物 5 区168 道横图·遺物图.....	-101
47 图	商文时代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(4).....	-51	103 图	居宅孤立柱建物 5 区166 道横图.....	-102
48 图	商文时代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(5).....	-52	104 图	居宅孤立柱建物 5 区166 道横图.....	-103
49 图	商文时代 4 区道墙外出土遗物 遺物图(6).....	-53	105 图	居宅孤立柱建物 5 区171 道横图.....	-104
50 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(1).....	-54	106 图	居宅孤立柱建物 5 区171 道横图.....	-105
51 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(2).....	-55	107 图	居宅孤立柱建物 5 区170 道横图.....	-105
52 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(3).....	-56	108 图	居宅孤立柱建物 5 区170 道横图.....	-106
53 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(4).....	-57	109 图	居宅并戸 5 区181 道横图.....	-106
54 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(5).....	-58	110 图	居宅并戸 5 区181 道横图.....	-107
55 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(6).....	-59	111 图	居宅并戸 5 区180 道横图.....	-107
56 图	商文时代 5 区道墙外出土遗物 遺物图(7).....	-60	112 图	居宅并戸 5 区180 道横图.....	-108
			113 图	居宅溝 5 区164 道横图·遺物图.....	-109

114回	居宅商業5区60	遺構図	110	
115回	居宅商業5区60	遺物図(1)	111	
116回	居宅商業5区60	遺物図(2)	112	
117回	居宅商業5区60	遺物図(3)	113	
118回	居宅商業5区60	遺物図(4)	114	
119回	居宅商業5区60	遺物図(5)	115	
120回	居宅商業5区60	遺物図(6)	116	
121回	居宅商業5区60	遺物図(7)	117	
122回	居宅商業5区60	遺物図(8)	118	
123回	居宅商業5区436	遺構図・遺物図(1)	119	
124回	居宅商業5区436	遺物図(2)	120	
125回	住居4区160	遺構図	120	
126回	住居5区49	遺構図(1)	121	
127回	住居5区49	遺構図(2)・遺物図	122	
128回	住居5区51	遺構図・遺物図(1)	123	
129回	住居5区51	遺物図(2)	124	
130回	住居5区52	遺構図(1)	124	
131回	住居5区52	遺構図(2)・遺物図	125	
132回	住居5区53	遺構図(1)	126	
133回	住居5区53	遺構図(2)	127	
134回	住居5区53	遺構図(3)・遺物図(1)	128	
135回	住居5区53	遺物図(2)	129	
136回	住居5区58	遺構図(1)	129	
137回	住居5区58	遺構図(2)	130	
138回	住居5区58	遺物図	131	
139回	住居5区61	遺構図(1)	132	
140回	住居5区61	遺構図(2)	133	
141回	住居5区61	遺物図	134	
142回	住居5区63	遺構図・遺物図	135	
143回	住居5区260	遺構図	136	
144回	住居5区260	遺物図	137	
145回	住居5区261	遺構図	138	
146回	住居5区261	遺物図	139	
147回	住居5区418	遺構図・遺物図	140	
148回	擬立柱建物5区167	遺構図・遺物図	141	
149回	井戸4区219	遺構図・遺物図	141	
150回	井戸4区224	遺構図	142	
151回	土坑4区132・134・137・145・150・151・152・153・154	遺構図	144	
152回	土坑4区150・163・164・5区50・54・56			
	57・70・71	遺構図・遺物図	145	
153回	土坑5区55・65	遺構図・遺物図	146	
154回	土坑5区74・105・114・129・134・138			
	151	遺構図・遺物図	147	
155回	土坑5区155・161・200・202・217	遺構図・遺物図	148	
156回	土坑5区219・246・271・311・319・332			
	342・347・369・426	遺構図・遺物図	149	
157回	土坑5区344・441・442・443	遺構図・遺物図	150	
158回	土坑5区445・446	遺構図・遺物図	151	
159回	溝4区114・141・146・176・177・178	遺構図・遺物図	152	
160回	溝4区148・5区48・121・147・154	遺構図	153	
161回	溝5区48	遺物図(1)	154	
162回	溝5区48	遺物図(2)	155	
163回	溝5区48	遺物図(3)・溝5区232・370	遺構図・遺物図	156
164回	溝5区326・421・444	遺構図・遺物図	157	
165回	溝5区437	遺構図・遺物図	158	
166回	溝5区438・6区溝W05・W06・W08	遺構図・遺物図	159	
167回	奈良・平安時代4区遺構外出土遺物	遺物図(1)	160	
168回	奈良・平安時代4区遺構外出土遺物	遺物図(2)・6区遺構外出土遺物	遺物図	161
169回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(1)	161	
170回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(2)	162	
171回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(3)	163	
172回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(4)	164	
173回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(5)	165	
174回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(6)	166	
175回	奈良・平安時代5区遺構外出土遺物	遺物図(7)	167	
付図1	縄文時代～古墳時代中期(3面)	全体図		
付図2	古墳時代後期～平安時代全体図(2面)	全体図		

表目次

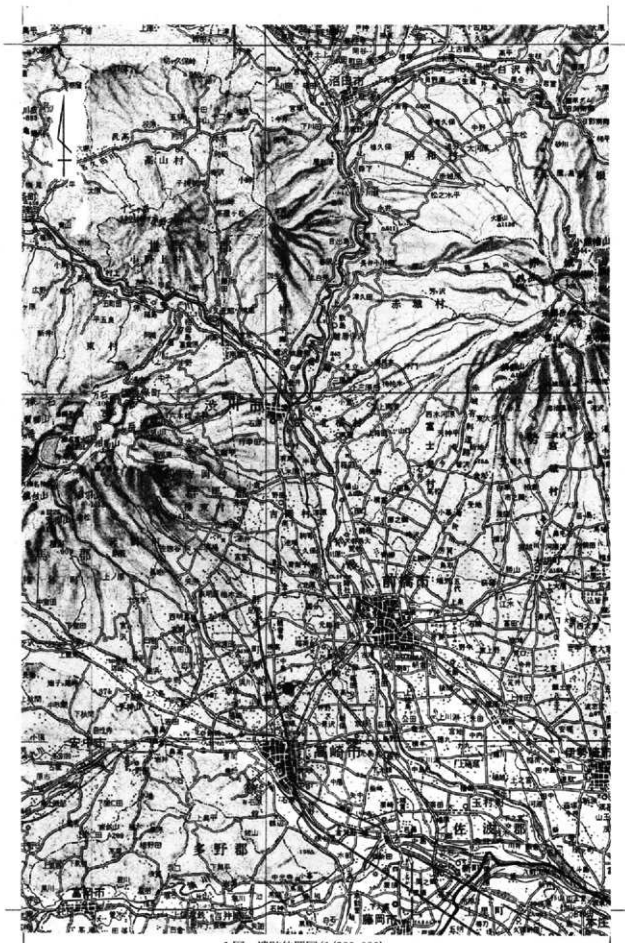
1表	調査遺跡一覧	2
2表	歌石住居2区36柱穴計測表	19
3表	擬立柱建物2区72柱穴計測表	21
4表	擬立柱建物2区90柱穴計測表	22
5表	円形柱列2区52柱穴計測表	24
6表	縄文時代土坑一覧	33
7表	古墳時代土坑一覧	77
8表	居宅内部区画番5区172柱穴計測表	95
9表	居宅獨立柱建物5区160柱穴計測表	96
10表	居宅獨立柱建物5区211柱穴計測表	97
11表	居宅獨立柱建物5区377柱穴計測表	99
12表	居宅獨立柱建物5区387柱穴計測表	100
13表	居宅獨立柱建物5区168柱穴計測表	101
14表	居宅獨立柱建物5区166柱穴計測表	102
15表	居宅獨立柱建物5区171柱穴計測表	104
16表	擬立柱建物5区167柱穴計測表	141
17表	奈良・平安時代土坑一覧	143
18表	小八木志貝戸遺跡出土材の樹種	170

目 次

- P L 1 遺跡地遺景 (S→)
遺跡地遺景 (N→)
- P L 2 2区～5区縄文時代～古墳時代中期 全景(垂直)
2区(1999年底)縄文時代 全景(垂直)
- P L 3 4区縄文時代～古墳時代中期 全景(垂直)
5区縄文時代～古墳時代中期 全景(垂直)
- P L 4 4区・5区古墳時代後期～平安時代 全景(垂直)
4区・5区古墳時代後期～平安時代 全景(N→)
- P L 5 4区古墳時代後期～平安時代 全景(垂直)
5区古墳時代後期～平安時代 全景(垂直)
- P L 6 敷石住居 2区36全景(S→)
敷石住居 2区36全景(S→)
敷石住居 2区36跡(E→)
敷石住居 2区36埋藏出土状態(S→)
敷石住居 5区439全景(N→)
- P L 7 孤立柱建物 2区72全景(N→)
孤立柱建物 2区72全景(N E→)
孤立柱建物 2区72柱穴
孤立柱建物 2区72柱穴断面(E→)
孤立柱建物 2区72柱穴断面
- P L 8 孤立柱建物 2区90全景(N→)
孤立柱建物 2区90全景(S W→)
円形柱列 2区52近景(S W→)
円形柱列 2区52柱穴断面(W→)
円形柱列 2区52柱穴断面(S W→)
- P L 9 円形柱列 2区52全景(S→)
円形柱列 2区52 全景(N→)
- P L 10 配石 2区23全景(W→)
配石 2区23-1 (W→)
配石 2区23-2 (N E→)
配石 2区23-3 (W→)
配石 2区23-4 (N W→)
- P L 11 集石 2区43全景(N E→)
集石 2区43全景(N W→)
遺物集中 2区40全景(W→)
遺物集中 2区40全景(E→)
埋藏 2区51全景(S E→)
埋藏 4区228遺物出土状態(N W→)
埋藏 4区228遺物出土状態(E→)
埋藏 4区228掘方(N→)
- P L 12 埋藏 5区464遺物出土状態
埋藏 5区464掘方(N→)
埋藏 5区563遺物出土状態(S→)
埋藏 5区563掘方(N→)
土坑 2区74断面(S W→)
土坑 2区95全景(W→)
土坑 2区112全景(S E→)
土坑 2区112 遺物出土状態(W→)
- P L 13 土坑 4区184全景(S→)
土坑 4区184断面(S→)
土坑 4区186全景(N→)
土坑 4区186断面(S→)
土坑 4区222全景(N→)
土坑 4区242全景(E→)
土坑 4区252全景(N→)
土坑 4区262全景(N→)
- P L 14 土坑 4区263全景(W→)
土坑 4区302断面(S→)
- 土坑 4区303断面(S→)
土坑 5区559全景(N→)
土坑 5区559断面(S→)
土坑 5区575全景(S→)
土坑 5区575断面(S→)
縄文時代埋藏 4区228作業状況
- P L 15 住居 4区167全景(S→)
住居 4区167断面(S→)
住居 4区167跡(S→)
住居 4区167遺物出土状態(S→)
住居 4区167掘方(S→)
- P L 16 住居 4区215全景(N→)
住居 4区215断面(N→)
住居 4区215断面(W→)
住居 4区215床面状態(E→)
住居 4区215掘方(W→)
- P L 17 竈 4区180全景(W→)
竈 4区180検出状況(E→)
土坑 4区211全景(N→)
土坑 4区211遺物出土状態(N→)
土坑 4区211遺物出土状態近景(N→)
土坑 4区307遺物出土状態(N→)
土坑 4区307断面(S→)
弥生時代 4区遺構調査状況
- P L 18 住居 4区161全景(W→)
住居 4区161掘方(W→)
住居 4区161断面(W→)
住居 4区161掘方断面(S→)
住居 5区457炭化材出土状態(S→)
住居 5区457床面状態(S→)
住居 5区457断面(S→)
住居 5区457断面(E→)
- P L 19 住居 5区457炭化材出土状態近景(S→)
住居 5区457貯蔵穴(W→)
住居 5区457貯蔵穴断面(S→)
住居 5区457遺物出土状態
住居 5区457掘方(S→)
住居 4区226全景(W→)
住居 4区226断面(S→)
住居 4区226掘方(W→)
- P L 20 古墳 4区105全景(S→)
古墳 4区105全景(N→)
古墳 4区105断面(S→)
古墳 4区105周堀遺物出土状態(W→)
古墳 4区105周堀遺物出土状態(W→)
- P L 21 土坑 4区115全景(S→)
土坑 6区E02全景(S→)
溝 4区107全景(W→)
溝 4区113全景(W→)
溝 4区104・5区04全景(垂直)
溝 5区04全景(S→)
溝 4区104近景(S→)
溝 5区04断面(W→)
- P L 22 畝 4区111全景(S→)
畝 4区130・畝 4区131全景(垂直)
畝 6区W01全景(W→)
畝 6区E01全景(N→)
畝 6区E01全景(E→)

- P L 23 居宅 4区・5区 全景(垂直)
- P L 24 居宅区画溝 4区03全景(W→)
居宅区画溝 4区03全景(SW→)
居宅区画溝 4区03断面(W→)
居宅内部廊 5区172全景(W→)
居宅 5区172柱穴P 8断面(S→)
居宅内部廊 5区172全景(W→)
- P L 25 居宅独立柱建物 5区169全景(S→)
居宅独立柱建物 5区169全景(S→)
居宅独立柱建物 5区169掘方全景(S→)
居宅独立柱建物 5区169柱穴P 8断面(S→)
居宅独立柱建物 5区169柱穴P 9断面(S→)
- P L 26 居宅独立柱建物 5区211全景(S→)
居宅独立柱建物 5区211全景(S→)
居宅独立柱建物 5区211掘方全景(S→)
居宅独立柱建物 5区211柱穴P 1断面(S→)
居宅独立柱建物 5区400全景(S→)
- P L 27 居宅独立柱建物 5区377全景(S→)
居宅独立柱建物 5区377全景(S→)
居宅独立柱建物 5区377柱穴P 3断面(S→)
居宅独立柱建物 5区377柱穴P 6断面(S→)
居宅独立柱建物 5区377柱穴P 9断面(E→)
- P L 28 居宅独立柱建物 5区387全景(S→)
居宅独立柱建物 5区387全景(S→)
居宅独立柱建物 5区387掘方全景(S→)
居宅独立柱建物 5区387柱穴P 7断面(N→)
居宅独立柱建物 5区387柱穴P 12断面(S→)
- P L 29 居宅独立柱建物 5区168全景(W→)
居宅独立柱建物 5区168掘方全景(W→)
居宅独立柱建物 5区168柱穴P 1断面(S→)
居宅独立柱建物 5区168柱穴P 6(N→)
居宅独立柱建物 5区168柱穴P 6断面(S→)
- P L 30 居宅独立柱建物 5区166全景(S→)
居宅独立柱建物 5区166全景(S→)
居宅独立柱建物 5区166掘方全景(S→)
居宅独立柱建物 5区166柱穴P 2断面(S→)
居宅独立柱建物 5区166柱穴P 9断面(S→)
- P L 31 居宅独立柱建物 5区171全景(S→)
居宅独立柱建物 5区171全景(S→)
居宅独立柱建物 5区171柱穴P 1断面(S→)
居宅独立柱建物 5区171柱穴P 9(S→)
居宅独立柱建物 5区171柱穴P 9断面(S→)
- P L 32 居宅独立柱建物 5区170全景(W→)
居宅独立柱建物 5区170柱穴P 1(W→)
居宅独立柱建物 5区170柱穴P 2断面(W→)
居宅独立柱建物 5区170柱穴P 3(S→)
居宅独立柱建物 5区170柱穴P 3断面(N→)
- P L 33 居宅井戸 5区180全景(N→)
居宅井戸 5区180全景(W→)
居宅井戸 5区180横出状態(S→)
居宅井戸 5区180と排水溝 5区164(S→)
居宅井戸 5区180内部(N→)
居宅井戸 5区180掘方全景(N→)
居宅井戸 5区181全景(N→)
居宅井戸 5区181掘方全景(N→)
- P L 34 住居 4区160全景(W→)
住居 4区160断面(S→)
住居 5区49全景(W→)
住居 5区49断面(W→)
住居 5区49貯蔵穴(W→)
住居 5区49カマド(W→)
- 住居 5区49カマド断面(W→)
住居 5区49掘方(W→)
P L 35 住居 5区51全景(W→)
住居 5区51床面状態(W→)
住居 5区51断面(S→)
住居 5区51カマド(W→)
住居 5区51カマド断面(S→)
住居 5区51カマド前土坑(W→)
住居 5区51掘方(W→)
住居 5区51床下土坑(W→)
- P L 36 住居 5区52全景(W→)
住居 5区52貯蔵穴(W→)
住居 5区52カマド(W→)
住居 5区52掘方(W→)
住居 5区53全景(W→)
住居 5区53カマド(W→)
住居 5区53カマド断面(S→)
住居 5区53掘方(W→)
- P L 37 住居 5区58全景(W→)
住居 5区58断面(W→)
住居 5区58カマド(W→)
住居 5区58掘方(W→)
住居 5区58掘方(W→)
住居 5区58掘方(W→)
住居 5区58掘方(W→)
- P L 38 住居 5区260・261全景(W→)
住居 5区260断面(W→)
住居 5区260遺物出土状態(W→)
住居 5区260カマド(W→)
住居 5区260カマド断面(S→)
住居 5区260カマド掘方(S→)
住居 5区261カマド(W→)
住居 5区260・261掘方、住居 5区418全景(W→)
- P L 39 独立柱建物 5区167全景(S→)
独立柱建物 5区167柱穴P 2断面(S→)
独立柱建物 5区167柱穴P 5断面(S→)
独立柱建物 5区167柱穴P 7断面(S→)
井戸 4区219全景(E→)
井戸 4区219断面(S→)
井戸 4区219遺物出土状態(N→)
井戸 4区224全景(N→)
- P L 40 土坑 4区145全景(N→)
土坑 4区145断面(S→)
土坑 4区150全景(S→)
土坑 4区150断面(S→)
土坑 4区152全景(W→)
土坑 4区152断面(S→)
土坑 4区159全景(E→)
土坑 4区159断面(E→)
- P L 41 土坑 5区54全景(E→)
土坑 5区54断面(E→)
土坑 5区65全景(E→)
土坑 5区70全景(N→)
土坑 5区70断面(S→)
土坑 5区71全景(N→)
土坑 5区74全景(W→)
土坑 5区74断面(E→)
- P L 42 土坑 5区114断面(W→)
土坑 5区202断面(N→)
土坑 5区271断面(S→)

- 土坑 5 区441全景(S→)
土坑 5 区442全景(N→)
土坑 5 区443断面(N→)
土坑 5 区445断面(S→)
土坑 5 区446断面(S→)
- P L 43 溝 5 区48全景(S→)
溝 5 区48遺物出土狀態(S→)
溝 5 区48遺物出土狀態
溝 5 区48遺物出土狀態
溝 5 区438全景(N→)
溝 6 区05・06・08全景(E→)
溝 6 区05断面(E→)
- P L 44 縄文時代
散石住居 2 区36出土遺物
掘立柱建物 2 区72出土遺物
配石 2 区23出土遺物
- P L 45 遺物集中 2 区40出土遺物
埋藏 2 区51出土遺物
埋藏 4 区228出土遺物
埋藏 5 区464出土遺物
埋藏 5 区563出土遺物
土坑 2 区112出土遺物
土坑 4 区186出土遺物
- P L 46 土坑 4 区222出土遺物
土坑 4 区231出土遺物
土坑 4 区251出土遺物
土坑 4 区264出土遺物
土坑 5 区559出土遺物
土坑 5 区486出土遺物
土坑 5 区519出土遺物
2 区遺構外出土遺物(1)
P L 47 2 区遺構外出土遺物(2)
P L 48 2 区遺構外出土遺物(3)
P L 49 2 区遺構外出土遺物(4)
4 区遺構外出土遺物(1)
P L 50 4 区遺構外出土遺物(2)
P L 51 4 区遺構外出土遺物(3)
5 区遺構外出土遺物(1)
P L 52 5 区遺構外出土遺物(2)
P L 53 5 区遺構外出土遺物(3)
P L 54 5 区遺構外出土遺物(4)
6 区遺構外出土遺物
- P L 55 弥生時代
住居 4 区167出土遺物
住居 4 区215出土遺物
竪穴 4 区180出土遺物
土坑 4 区307出土遺物
土坑 4 区211出土遺物
4 区遺構外出土遺物
5 区遺構外出土遺物
- P L 56 古墳時代
住居 5 区457出土遺物
住居 4 区226出土遺物
古墳 4 区105出土遺物
島 4 区111出土遺物
島 6 区 E 01出土遺物
4 区遺構外出土遺物(1)
- P L 57 4 区遺構外出土遺物(2)
5 区遺構外出土遺物
- P L 57 奈良・平安時代
居宅区南溝 4 区03出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区169出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区377出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区168出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区171出土遺物
居宅掘立柱建物 5 区170出土遺物
居宅溝 5 区164出土遺物
- P L 58 居宅井戸 5 区181出土遺物
居宅井戸 5 区180出土遺物
居宅跡聚 5 区60出土遺物(1)
P L 59 居宅跡聚 5 区60出土遺物(2)
P L 60 居宅跡聚 5 区60出土遺物(3)
P L 61 居宅跡聚 5 区60出土遺物(4)
P L 62 居宅跡聚 5 区60出土遺物(5)
居宅跡聚 5 区436出土遺物
- P L 63 住居 5 区49出土遺物
住居 5 区51出土遺物
住居 5 区52出土遺物
住居 5 区53出土遺物
住居 5 区58出土遺物
住居 5 区61出土遺物
- P L 64 住居 5 区63出土遺物
住居 5 区260出土遺物
住居 5 区418出土遺物
井戸 4 区219出土遺物
土坑 4 区132出土遺物
土坑 5 区54出土遺物
土坑 5 区65出土遺物
土坑 5 区74出土遺物
土坑 5 区134出土遺物
土坑 5 区155出土遺物
- P L 65 土坑 5 区161出土遺物
土坑 5 区246出土遺物
土坑 5 区311出土遺物
土坑 5 区342出土遺物
土坑 5 区344出土遺物
土坑 5 区369出土遺物
土坑 5 区445出土遺物
溝 4 区114出土遺物
溝 5 区48出土遺物(1)
- P L 66 溝 5 区48出土遺物(2)
溝 5 区232出土遺物
溝 5 区421出土遺物
溝 5 区437出土遺物
溝 5 区438出土遺物
溝 5 区444出土遺物
- P L 67 4 区遺構外出土遺物
5 区遺構外出土遺物(1)
P L 68 5 区遺構外出土遺物(2)
P L 69 5 区遺構外出土遺物(3)
6 区遺構外出土遺物
- P L 70 樹種同定(1)
P L 71 樹種同定(2)



1 圖 遺跡位置圖(1/200,000)

I 調査の経過

1. 調査に至る経緯

(主)地方道高崎渋川線は高崎市から群馬郡群馬町、前橋市、北群馬郡吉岡町を通り渋川市を結ぶ県中央部における南北方向の基幹的県道である。近年の交通量の増加はこの地域でも例外ではなく主要道との交差点を中心に慢性的な渋滞を発生させる結果を招いているため新たにバイパスを建設する計画が持ち上がった。バイパスは第1期工事分として高崎市間屋町の国道17号大八木町交差点から前橋市青梨子町の現高崎渋川線金古上宿交差点までの8km間について建設を実施することになった。

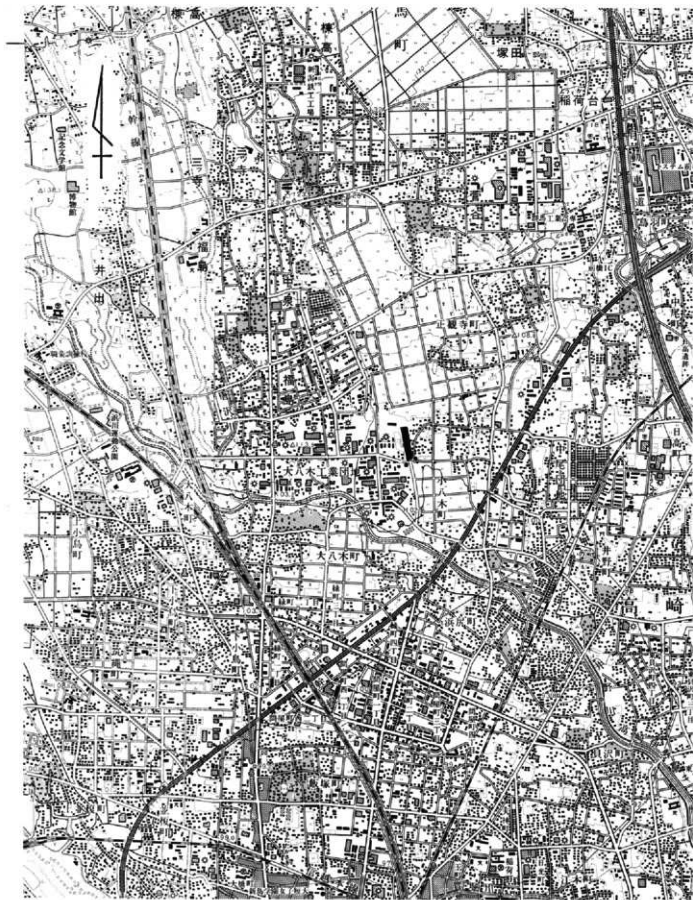
道路建設に先立ち県教育委員会文化財保護課が埋蔵文化財の有無について協議を行ったところ高崎市浜尻町、小八木町、正観寺町、群馬町菅谷・棟高・引間・冷水・西国分・金古、前橋市青梨子町で埋蔵文化財の調査を行う必要が認められたため当初は群馬町教育委員会で発掘調査を実施した。その後平成6年以降は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で発掘調査を実施することになった。

埋蔵文化財の調査は昭和63年度群馬郡群馬町棟高西三免社遺跡より実施され平成12年度に群馬町菅谷石塚遺跡が行われ高崎市浜尻町地区を除いて終了した。今まで行われた(主)地方道高崎渋川線改築(改良)工事に伴う埋蔵文化財の調査は下記のとおりである。

1表 調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	調査主体	調査期間(年度)	報告書
小八木井野川遺跡	高崎市小八木町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成10～11年度	2001
小八木志志貝戸遺跡	高崎市小八木町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	次項目参照	1999 2001 2002
正観寺西原遺跡	高崎市正観寺町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成9～10年度	1999 2001
菅谷石塚遺跡	群馬町菅谷	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成12年度	2003
西三免社遺跡	群馬町棟高	群馬町教育委員会	昭和63年度	1990
小池遺跡	群馬町引間	群馬町教育委員会	平成2年度	1992
諏訪西遺跡	群馬町引間	群馬町教育委員会	平成5年度	1995
冷水村東遺跡	群馬町冷水	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成6年度	1998
西国分新田遺跡	群馬町西国分	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成6年度	1998
金古十三町遺跡	群馬町金古 前橋市青梨子町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成7～9年度	1998
青梨子上屋敷遺跡	群馬町金古 前橋市青梨子町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成12年度	2002

※菅谷石塚遺跡、青梨子上屋敷遺跡の報告書刊行年は2002年度に整理作業を行う予定のあることから不確定の部分がある。



2 图 道跡調査区位置图 (S=1/25,000)

2. 調査の経過

小八木志志貝戸遺跡は、高崎市の北東部群馬町境に近い小八木町に位置する。発掘調査は、道路建設用地のセンター杭NO.49～75までの幅20m前後で全長700m、面積15,000㎡ほどが対象であった。調査対象が道路予定地であることから南北方向に線状で細長いため路線を横断する形で存在する現道で調査区を設定して行った。なお、6区は現道で調査区が3分割されるが調査面積が1,282㎡と狭いことから一括して設定したが現道ごとに6区C、6区E、6区Wとした。調査は1997年(平成9年)6月11日～1999年(平成11年)12月22日までの間で実施した。調査は、平成9年度当初に調査対象範囲であった道路センター60～95までの間で調査可能であった北端の菅谷石塚遺跡1区、正観寺西原遺跡から行い平成9年6月より小八木志志貝戸遺跡1区より行った。各区の調査期間は下記の表のとおりである。0区は1997年度と1999年度と長期の間隔があいているのは一部で用地買収が遅れたことによる。1998年11月から1999年3月までの間は北関東自動車道建設を優先するため県道に伴う発掘調査を一時中止して北関東自動車道建設に伴う発掘調査を行ったことによる。

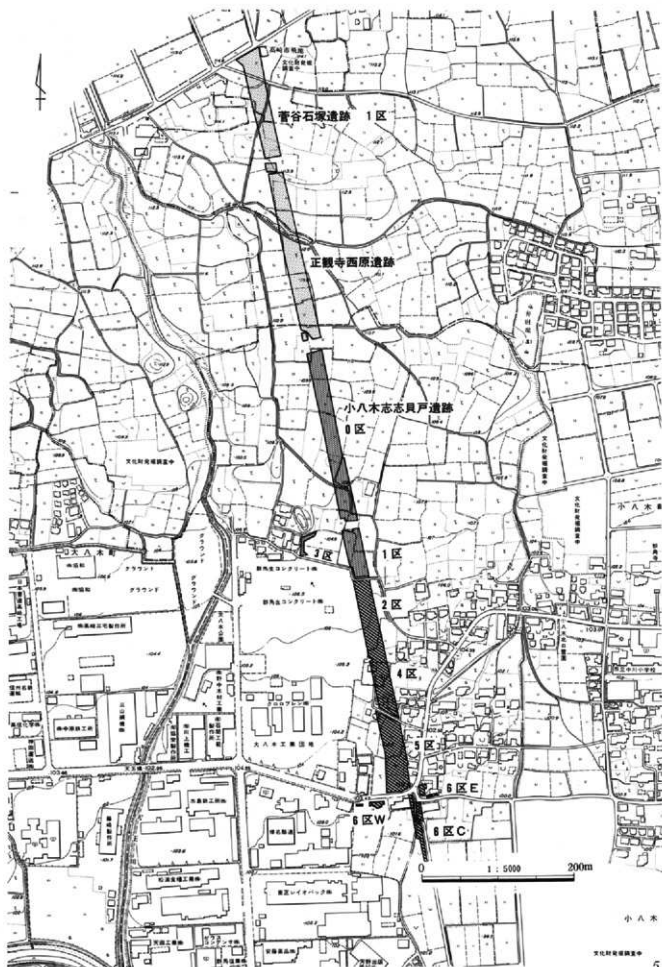
本報告書の主対象である4区、5区、6区E・Wは1999年4月より小八木井野川遺跡と平行して調査を行い同年12月末にて終了した。

整理作業は、1998年度(平成10年度)より実施した。1998年度は「小八木志志貝戸遺跡遺跡群」として菅谷石塚遺跡1区、正観寺西原遺跡、小八木志志貝戸遺跡0区～3区の弥生時代について整理を実施した。1999年度(平成11年度)は1998年度の整理した範囲の古墳時代以降と小八木志志貝戸遺跡6区中世について整理を実施した。2000年度は小八木志志貝戸遺跡4区・5区の中世、小八木井野川遺跡について整理を実施した。それぞれの整理については当該年度または次年度に報告書を刊行した。

調査区別調査期間

年度 月	1997年度												1998年度												1999年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
0区																																				
1区																																				
2区																																				
3区																																				
4区1面																																				
4区2面																																				
4区3面																																				
5区1面																																				
5区2面																																				
5区3面																																				
6区C																																				
6区W																																				
6区E																																				

1面 中世以降、2面 古代(古墳時代後期～奈良・平安時代)、3面 古墳時代中期以前



3 図 小八木志貝戸遺跡調査区図

小八木

文化財保護課

II 調査の方法

1. 調査の方法

発掘調査は、中世遺構を検出可能である第1面の基本土層IV層上面まで重機(大型掘削機)で基本土層I、II層の掘削を行った。遺跡地は住宅地や工場用地として利用されていたためVI層やVII層まで削平されている箇所や攪乱されている箇所が数カ所見られた。そのような箇所については基本土層が確認できる地点までの掘削を行った。その後IV層上面を精査し遺構の検出を行う。中世遺構はII層、II層を含むIV層以下の土で埋没している遺構であることから該当する遺構をまず検出した。検出した遺構については遺構配置図を作成し遺構の新旧関係を確認した。

遺構番号については調査時は遺構種類を考慮しないで区毎に01から掘削順に付与を行った。本報告書では使用の便宜を考慮して遺構NO.だけでなく遺構種を通番の前に記した。なお、目次に遺構毎の本文・挿図・図版検索のための一覧表を掲載した。

竪穴住居や土坑などは2分割ないしは4分割、溝などは1～3カ所の埋没状態を観察する地点を設定後、遺構内部の掘削を行った。なお、遺跡地の隣接地域は住宅・工業団地であるが周辺は以前から水田地帯で調査区東側では現在でも水田耕作が行われており6月後半以降は地下水位が上昇し遺構掘削に支障を生じるため調査区の標高高位である北側および西側について湧水対策溝を設置して湧水対策、排水処理を行った。

出土した遺物についてはその遺構に伴うと考えられる程度の大きさが残存する物については出土状態の記録を残すため原位置に留めておいた。その他の遺物については一括して取り上げた。また、遺構に所属しない遺物については可能な限り調査区の最小単位である層位、グリッド単位で取り上げた。

調査区の設定は原則的に測量会社に委託したが、必要に応じて調査担当者が設置した。各遺構図は、土坑、土坑墓などは五輪塔や人骨が出土しているも

のについては1/10で溝などの大型遺構は1/20または1/40平面・断面図を作成した。全体図は遺構全体を区割りして1/40で作成した。記録写真は35ミリ、6×7版フィルムを利用して撮影した。土層断面は35ミリ白黒、リバーサルを遺物出土状態・掘り上がり後の状態は35ミリ白黒、リバーサルと6×7白黒を基本とした。また、4区と5区についてはアドバランによる上空からの全体を撮影した。

第2面はVI層上面で遺構を検出することが可能である。また、VI層の上位にはV層Hr-F Aが部分的に存在しておりV層が残存している箇所ではV層上面までを重機で掘削し、遺構検出のための精査を行った。この面での遺構の埋没土はIV層かIV層とその下層の土壌で埋没している。5区では10棟の掘立柱建物を検出したが掘立柱建物の柱穴では柱穴をさらに精査し柱痕の検出に努めた。記録の方法については第1面と同様である。

この面で検出した掘立柱建物群と区画溝、井戸は全体で豪族居宅的な施設を構成しておりこの地域でも貴重な文化財であることから広く地域住民に認知してもらう目的で見学会を実施した。

第3面はVIII層上面で遺構を検出することが可能である。この面では竪穴住居、数石住居などが検出された。記録の方法は第1面、第2面と同様である。

第3面の調査が終了した後その下層について文化層が存在するか、否かについて試掘坑を設定して掘り下げを行った。試掘坑は調査区の10%以上を原則とし、10m四方ごとを単位として設定した。掘削はVIII層上面まで行いその面で精査を行い遺構の有無、遺物の有無を行った。その結果、遺構・遺物とも皆無であったことから試掘坑の一部をさらに掘削して下層の土層堆積状態について確認を行った。

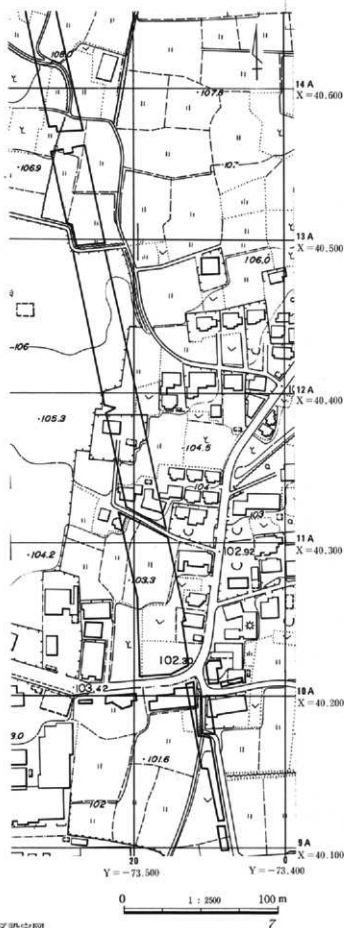
出土した遺物、および写真・記録図などは調査終了後洗浄・注記、整理を行うよう努めたが同事業に伴う発掘調査を優先したため2000年度後半になって終了した。

2. 調査区の設定

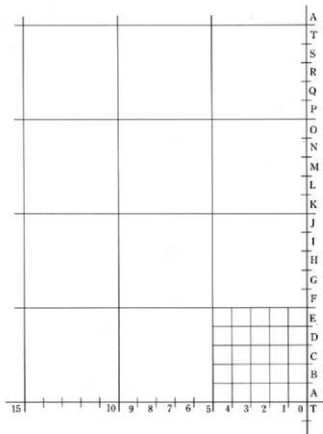
調査区の設定にあたっては周辺や隣接地の調査と遺構を照合しやすいように国家座標を基準に設定した。遺跡が存在する群馬県は国家座標第IX系にあたることから調査区の設定にあたっては調査区グリッドを国家座標値に換算しやすいように遺跡調査範囲の東南を基点に設定することにした。

基点は国家座標値 $X=39.300$ 、 $Y=-73.400$ に設定した。各グリッドは5m四方を1単位とした。グリッドは北方向へはアルファベットを用い、西方向へは算数字を1から無限大まで用いた。また、北方向のアルファベットはAからTまでで100のため100m北に移動したところでまたAに戻ることにし100mごとにアルファベットの前に算数字を付けて各グリッドの認知を明確にした。

なお、調査区の区割りには現存する道路および路線の買収状況を考慮して設定したが、小八木志志貝戸遺跡では調査が北側から開始したため他の高崎渋川バイパスの発掘調査と異なり北から南へ調査区割りを設定する結果となっている。



4図 調査区設定図



3. 基本的な土層

遺跡地内での基本的な層序は微高地、低地において堆積状態で多少の差がみられる。しかし、基本的にはほぼ同様な状態である。その違いは微高地ではわずかに堆積していなかったりほとんど攪拌され上位の層位に混入してしまっているテフラ層が低地ではある程度の堆積で残存している点である。

層序は上位よりⅠ層、Ⅱ層とし、発掘調査では基本的にⅧ層までを対象として実施している。

各層位については次のとおりである。

Ⅰ層は現在の耕作土で浅間B軽石(以後As-Bと略す)が含まれているため比較的サラサラした感触がある。

Ⅱ層はAs-Bが降下後の耕作によって多量に働き込まれている。

Ⅲ層は1108年(天仁元年)に浅間山が噴火した時の噴出物であるAs-Bの堆積層である。低地などでは軽石上位に灰褐色の火山灰が残存している地点が見られる。微高地では後世の耕作等によりⅡ層化している。

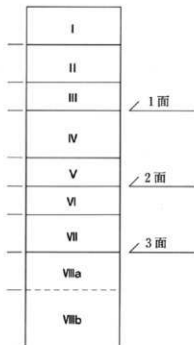
Ⅳ層は6世紀初頭に榛名二ツ岳が噴火した時の噴出物である榛名二ツ岳火山灰(以後Hr-F Aと略す)が働き込まれているため灰色を帯びた土壌である。また内部には直径5ミリ前後の白色軽石が若干含まれている。この白色軽石は6世紀前半代に榛名二ツ岳が噴火した時の噴出物である榛名二ツ岳軽石(以後Hr-F Pと略す)である。

V層はHr-F Aの堆積層であるが微高地ではほとんど後の耕作でⅣ層に働き込まれているため残存していない。

Ⅵ層は4世紀初頭に浅間山が噴火したときの噴出物である浅間C軽石(以後As-Cと略す)を多く含む黒色土である。この層に含まれるAs-Cは低地など耕作などで攪拌されていない地点では多く堆積したままの状態を確認される。

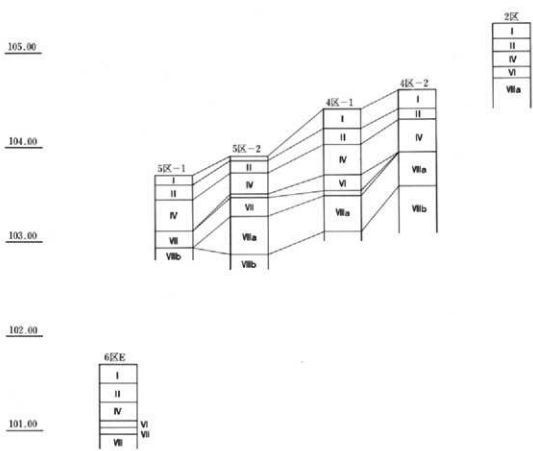
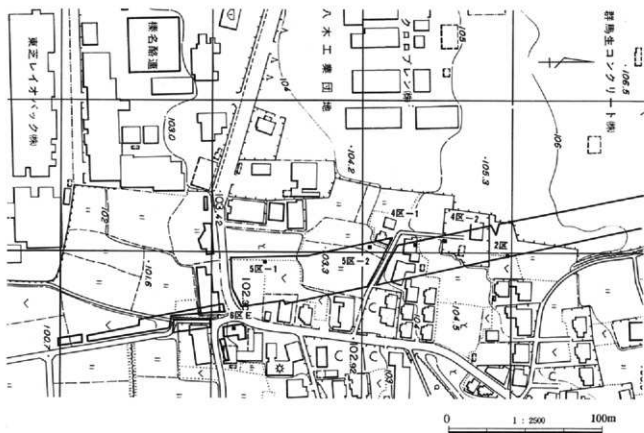
Ⅶ層はやや粘土質の黒色土である。内部には含有物はほとんど含まれていない。また、下位は上位に

比べて色調が淡い地点が多い。Ⅷ層は2区・4区の微高地では上部にローム層が存在する。5区・6区洪水堆積土である総社砂層である。



5図 基本土層概略図





6 図 調査区土層柱状図

III 遺跡地の環境

1. 地理的環境

遺跡地は、群馬県の中央部でも南に位置する高崎市に所在し、高崎市の中でも前橋市や群馬郡群馬町に近い北東部の小八木町に所在する。遺跡地は関東平野の西北端部、赤城山、妙義山と上毛三山の一つである榛名山の東南麓の末端、井野川の支流天王川の右岸で井野川と合流する地点の北側に位置する。標高は100～110mである。

榛名山東南麓は、その地形を見ると扇状地が発達していることが解る。この扇状地は相馬ヶ原扇状地と呼ばれている。この相馬ヶ原扇状地は火山山麓に形成された裾野扇状地で形成に関わった河川は榛名火山体に源流を発する白川と午王頭川である。相馬ヶ原扇状地の範囲は明確ではないが次のような範囲が示されている。

扇頂は標高600m付近の白川と午王頭川で挟まれた榛東村上野原の山麓付近である。

扇端は標高110m等高線。この付近は高崎市日高遺跡で見られるような微高地をはじめとする自然堤防状微高地が張り出しておりこの微高地を連ねた標高110m付近である。

扇側は南限が白川上流部から井野川のラインで井野川の右岸は白川扇状地である。北限は午王頭川から駒寄川のラインである。駒寄川の東側は前橋台地である。相馬ヶ原扇状地の形成は比較的短時間でほぼ終了し板鼻黄色軽石降下時(1.3～1.4万年前)にはすでに大部分が離水していたとされている。扇状地内には多くの河川により浸食され扇状地面と河床面では4～5mの比高差をもつ。そうした河川の一つに小八木志志貝戸遺跡西側を流れる井野川がある。井野川の支流である天王川も河川の規模のわりには比高差がある。遺跡地東側は染谷川まで浸食の進んだ河川が存在しないが小八木志志貝戸遺跡の北側に位置する菅谷石塚遺跡の調査により洪水により埋没した河川が複数検出されている。こうした埋没河

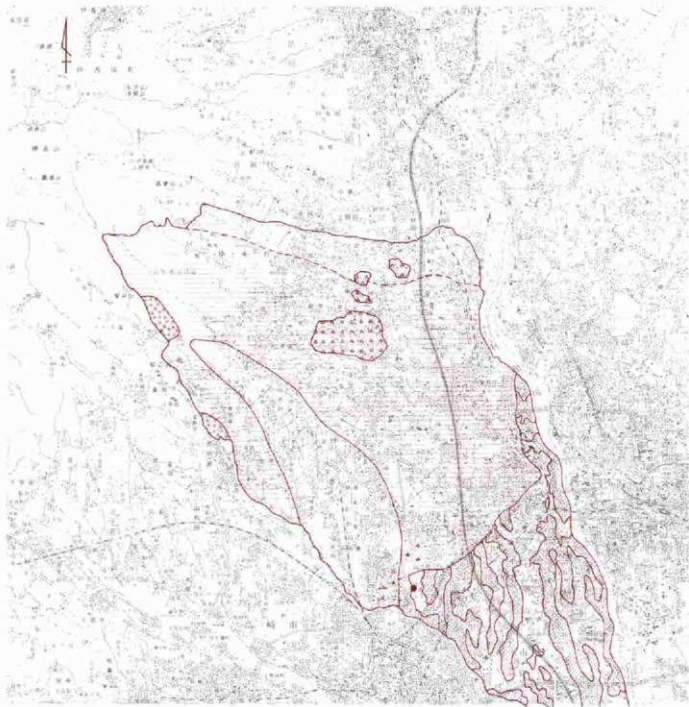
川は榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)降下時期のものや平安時代と推定されるものがあることから本来は扇状地内で見られるような浸食の進んだ河川が複数存在していたと推定される。


相馬ヶ原扇状地の形成後に扇状地から前橋台地にかけて存在していた谷を洪水堆積物が埋戻し始めている。この洪水堆積物は概ね灰色砂層で「総社砂層」と呼ばれているものである。この砂層は板鼻黄色軽石と浅間C軽石との間で確認され、砂層の上位では縄文時代後期の称名寺式土器が出土している。こうしたことからこの砂層の形成は縄文早期頃から始まり前期から中期には部分的に自然堤防が形成されるようになり、縄文前期から後期までその形成が続いたとされている。

総社砂層の上位は基本土層で見られるように4世紀代の浅間C軽石(As-C)、6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)、6世紀前半代の榛名二ツ岳軽石(Hr-F P)、1108年(天仁元年)の浅間B軽石(As-B)などが見られる。遺跡地は微高地に存在するため火山堆積物は後の耕作など(古墳時代から現代まで)で攪拌され純層は確認されなかった。周囲に低地部分では浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)、浅間B軽石(As-B)の純層が確認されている。こうした低地では水田開発が行われていることからこうした水田跡が火山堆積物で覆われた状態で検出されている。

参考文献

- 早田 勉「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県史編さん委員会 1990
沢口 宏「第1章 地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』群馬町誌編纂委員会 1995



-  陣馬泥流丘
-  相馬ヶ原古期扇状地面
-  相馬ヶ原新期扇状地面
-  ニッ岳第二軽石流堆積物
-  自然堤防および微高地
-  後背低地

0 1:100000 5km

7 図 遺跡周辺地形様相図

2. 歴史的環境

本報告書は、縄文時代～平安時代までの遺構・遺物を掲載の対象としていることから本項での取り扱う対象も同時代とする。なお、中世以降については「小八木志志貝戸遺跡群 中世編」を参照していただきたい。

小八木志志貝戸遺跡周辺は、群馬県の中心都市である高崎市と前橋市の間に位置することから近年盛んに開発が行われ、開発に伴う発掘調査も多く行われている。こうした発掘調査の成果は多くの報告書によって公表され、高崎市や群馬町では発掘調査の成果をもとに市史、町誌が編集・刊行され地域史の解明を行っている。本項ではこれらの資料をもとに周辺の遺跡について時代ごとに記載する。

縄文時代 遺跡地周辺地域では前項の地理的環境で記載したように縄文時代前期以前は度重なる洪水により居住するには不向きな環境であったため遺構・遺物の検出・出土は確認されていない。この地域の縄文時代の遺跡は、他の時代に比べると数少ない。そしてなかでもっとも古い時期の遺跡は西浦北Ⅱ遺跡で検出された前期の竪穴住居が1軒、上野国分僧寺・尼寺中間地域で検出された前期諸磯C期の埋壘がある。中期になると自然堤防による微高地が発達し遺構・遺物が検出・出土する遺跡がやや多くなる。遺構がみついている遺跡は、西浦北遺跡から柄鏡式住居、権現原遺跡から住居、大八木箱田池遺跡から住居、上野国分僧寺・尼寺中間地域から住居などがある。後期ではまた減少する傾向がみられ福島遺跡や西浦南遺跡で土器片が出土しているだけである。こうした中において小八木志志貝戸遺跡の資料は重要なものである。

弥生時代 遺跡地周辺は水田耕作に適した小谷地が存在していることから集落遺跡が急激に増加している。集落の増加は弥生時代でも後期後半からで中期の集落は東の染谷川流域に位置する西三社免遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、新保遺跡などだけでまだ少ない。また、後期前半の集落は熊野堂遺跡、

浜尻遺跡、新保遺跡などで見ついているだけで後期後半と同様である。この様相は後期後半では一変している。小八木志志貝戸遺跡でも調査区北側の0区から2区にかけて集落、墓城などを検出した。東側に位置する正観寺遺跡群は環濠集落や方形周溝墓が検出され、南側に位置する小八木Ⅰ遺跡でも集落を検出している。遺跡地西側の井野川左岸に位置する井出村東遺跡、西浦北遺跡、西浦南遺跡、熊野堂遺跡、雨壺遺跡などで多くの住居が検出されている。これらの集落遺跡では数軒単位のみならずがみられる。こうした傾向は天王川の西側の諸口遺跡でもみることができることから、この地域では後期後半には広範囲に小規模な集落が多く存在していたようである。

古墳時代 集落は弥生時代以上に増加の傾向が見られる。特に5世紀から6世紀にかけての集落の増加には顕著なものがみられる。こうした遺跡には中林遺跡、井出村東遺跡、三ッ寺Ⅱ遺跡がある。また、弥生時代から継続する熊野堂遺跡などでもこの時期に住居件数が飛躍的に増加している。こうした背景には三ッ寺Ⅰ遺跡の豪族居館に代表される豪族層の存在がある。そして2000年には新たに北谷遺跡においても三ッ寺Ⅰ遺跡と同様の堀をもち堀内側を高く盛り土した豪族居館がみついている。この地域はこうした居館の豪族層に支配され農地拡大のために大規模な開発が行われた地域であると考えられる。この豪族層を経済的に支えた水田や畠は周辺地域でみついている。水田は古墳時代初頭の浅間山C軽石(As-C)、6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰(Hr-F A)、榛名二ツ岳軽石(Hr-F P)などで埋没したものが御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡、大八木屋敷遺跡、熊野堂遺跡、小八木遺跡、菅谷石塚遺跡など多くの遺跡からみついている。このほか祭祀遺構には正観寺遺跡で巨石を利用した盤座祭祀跡や井野川遺跡では河川流域内から石製模造品などがまとまって出土しており河川に対する祭祀場の可能性が指摘されている。しかし、三ッ寺Ⅰ遺跡や北谷遺跡でみられる繁栄も榛名山二ツ岳の二度の噴火やこれに伴う土

石流による生産地の埋没によって経済的基盤を失いその後は同様な繁栄はみられない。

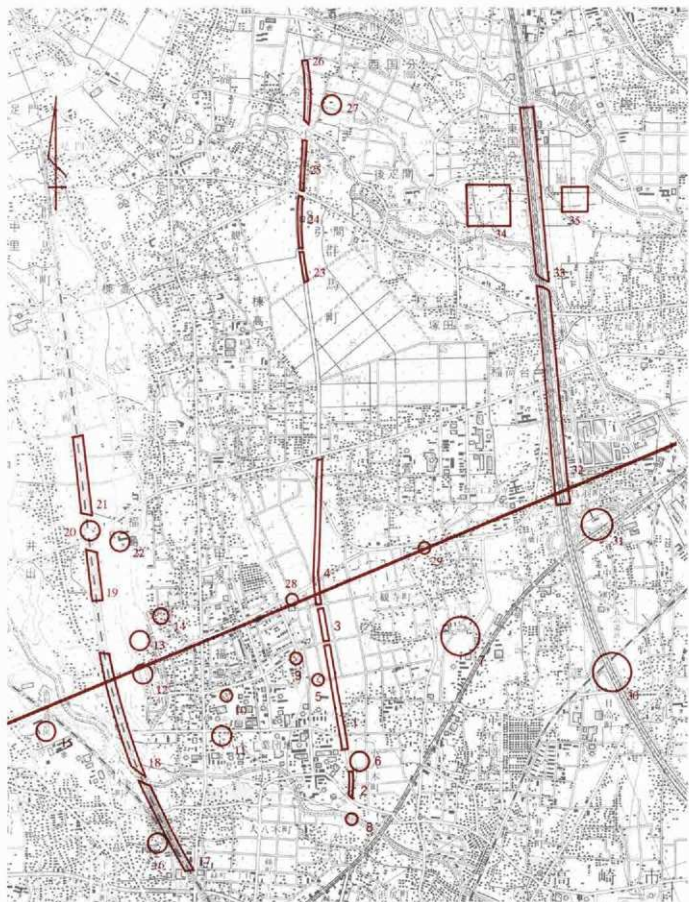
遺跡地周辺の古墳は現在ほとんど開発によって削平されているが石塚古墳、権現塚古墳、オトウカ山古墳、三本山古墳、トミツカ山古墳などが存在した菅谷古墳群がある。この菅谷古墳群では正観寺遺跡群の発掘調査でも墳丘がすでに削平されている円墳が調査されている。1935年に刊行された「群馬県古墳総覧」では旧中川村所在の古墳は現浜尻町の天王山古墳と小八木町のトミツカ山古墳が掲載されているだけであるが1957(昭和32年)に刊行された中川村誌では12基の古墳が確認されており実際はこの数以上に存在していたと想定される。このうち三本山古墳と権現塚古墳は発掘調査が行われ直刀、刀子、鉄鏃、銅鉤などが出土している。こうした様相から菅谷古墳群は大部分が後期、終末期の円墳を中心とした古墳群と考えられる。天王川右岸では諸口古墳群がある。諸口古墳群は現在までに円墳3基が確認され発掘調査が行われている。この3基の古墳は1号、3号が埴輪を有し6世紀代と考えられている。また、埴輪箱が1基検出されており、使用されている埴輪は5世紀中葉のものである。

飛鳥・奈良・平安時代 遺跡地は現在の町名が小八木であることなどから律令制による評里制では上毛野国車評八木(郷名の漢字は和名類聚抄による)里に相当すると推定されている。奈良時代には八木郷は推定上野国府や上野国分寺などの古代の中核施設が存在して地域の西に隣接して位置する。古代八木郷は地名や地形から推定すると旧中川村の範囲とその周囲に郷域の範囲を設定することができる。

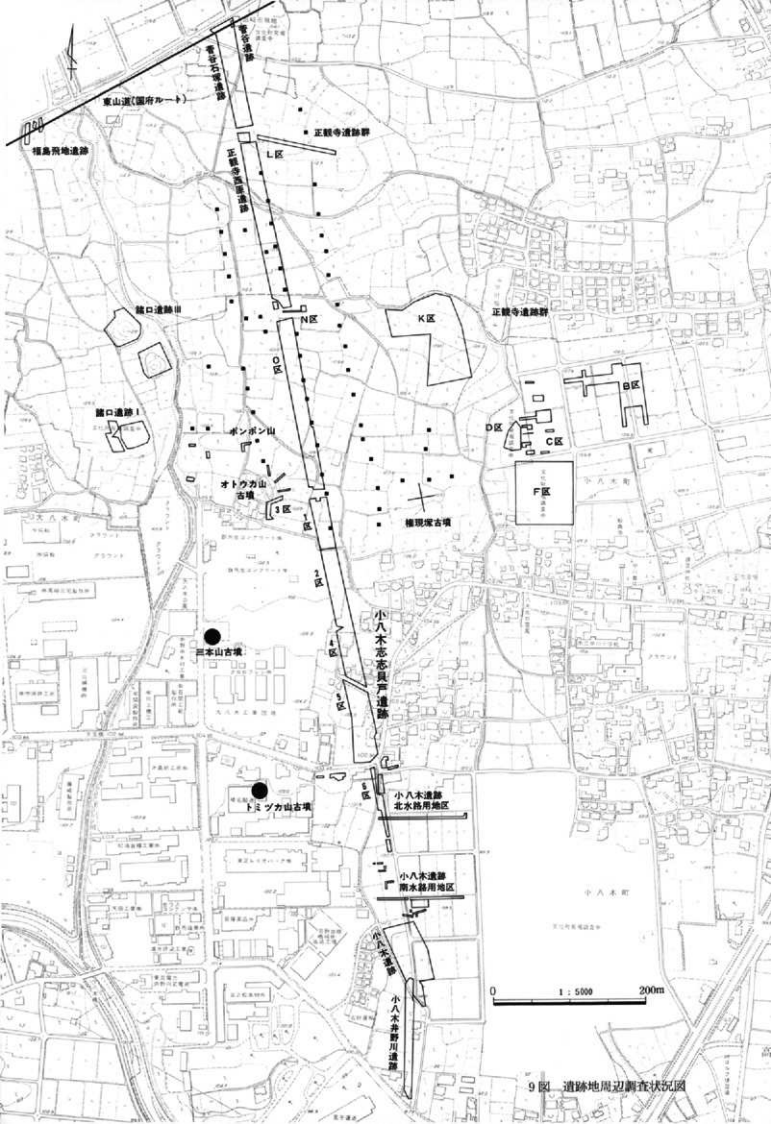
遺跡地近隣では正観寺遺跡群や小八木遺跡などでこの時代の集落が検出されているが竪穴住居が中心で農村的様相を示している。これに対して遺跡地の西、井野川の両岸に位置する大八木屋敷遺跡、融通寺遺跡、熊野堂遺跡では律令制を象徴するような遺構・遺物が検出・出土している。大八木屋敷遺跡では八脚門をもつ櫓列と溝で区画された内部に掘立柱建物群が存在する施設がみつき「上野国交代実録

帳」に見られる「八木院」と想定されている。大八木屋敷遺跡の東側に隣接する融通寺遺跡では300軒近い竪穴住居が検出され大規模な集落遺跡である。融通寺遺跡ではその他に瓦、瓦塔、銅鏡、緑釉陶器唾壺が出土しており寺院が存在した可能性が指摘されている。熊野堂遺跡では200軒以上の竪穴住居と金銅製の裝飾金具が出土している。こうした三遺跡は井野川を挟んではいるが至近距離にあり古代八木郷の中心的存在を示している。

また、遺跡地の北側では東山道と想定される古道がみつまっている。この古道は両側に側溝を持ち心々間距離が6m前後の道路遺構である。この道路遺構は同様な規模のものが守ノ内遺跡、御布呂遺跡、熊野堂1遺跡、西浦南遺跡、福島飛地遺跡、高貝戸遺跡、正観寺菅谷遺跡でみつまっており、これらの遺構を地図上に落とすとほぼ一直線上に列ぶことから同一の道路遺構と考えられる。上野での東山道は金坂清則氏によって提唱されたルート(国府ルート)とこれらの遺跡で発見された遺構とが一致することや推定国府の南側を通ることなどの条件からこのルートが東山道であると想定されていた。しかし、高貝戸遺跡では道路側溝と重複して側溝より古い段階の住居が9世紀後半代であることから律令制当初からの東山道としては疑問視されていた。近年の発掘調査の成果では高崎市情報団地遺跡や玉村町砂町遺跡、境町牛堀遺跡、矢ノ原遺跡、十三宝塚遺跡で7世紀から8世紀にかけて心々間距離12m前後の直線的な道路跡が発見されている。こうしたことから坂爪久純氏によって小八木志良戸遺跡北側で見つまっている東山道に先行するものと想定されている(牛堀・矢ノ原ルート)。また、牛堀・矢ノ原ルートは十三宝塚遺跡で重複する住居との関係から8世紀末には廃絶されたと考えられている。こうした状況から国府ルートが開設されるまでには半世紀近い間隔があることから新田町下新田遺跡で見つまっている道路跡のような第3のルートが存在する可能性が考えられている。



- 1 小八木志貝戸 2 小八木井野川 3 正観寺西原 4 菅谷石塚 5 オトウカ山古墳 6 小八木 7 正観寺遺跡群 8 井野川 9 溝口
 10 大八木箱田池 11 雨庭 12 西浦南 13 西浦北 14 権現原 15 芦田貝戸 16 大八木屋敷 17 織通寺 18 鶴野堂 19 井出村東 20 三ッ寺1
 21 三ッ寺2 22 中林 23 西三杜免 24 小池 25 諏訪西 26 冷水村東 27 北谷 28 福島農地 29 高貝戸 30 日高 31 中尾 32 鳥羽
 33 上野園分僧寺・尼寺中間地域 34 上野園分僧寺 35 上野園分尼寺



9 図 遺跡地周辺調査状況図

参考文献

[全 載]

- 高崎市史編さん委員会「新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ」高崎市 2000
中川村誌編纂委員会「中川村誌」1957
群馬町誌編纂委員会「群馬町誌 資料編 原始古代中世」群馬町誌刊行委員会 1999
群馬町誌編纂委員会「群馬町誌 通史編上 原始古代中世・近世」群馬町誌刊行委員会 2001
[個々の道跡]
「小八木志志貝戸遺跡群1 小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡 弥生時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
「小八木志志貝戸遺跡群2 小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡 古墳時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
「小八木志志貝戸遺跡群3 小八木志志貝戸遺跡・小八木井野川遺跡 中世編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
「菅谷遺跡」群馬町教育委員会 1980
「小八木遺跡調査報告書(1)」高崎市教育委員会 1979
「小八木遺跡(Ⅱ)」高崎市教育委員会 1980
「正観寺遺跡群(Ⅰ)」高崎市教育委員会 1979
「正観寺遺跡群(Ⅱ)」高崎市教育委員会 1980
「正観寺遺跡群(Ⅲ)」高崎市教育委員会 1981
「正観寺遺跡群(Ⅳ)」高崎市教育委員会 1982
「高崎市井野川遺跡」群馬県教育委員会 1970
「龍口古墳」群馬町教育委員会 1984
「龍口田遺跡」群馬町教育委員会 1985
「大八木箱田地遺跡」高崎市教育委員会 1983
「大八木箱田地遺跡Ⅱ」高崎市教育委員会 1984
「熊野堂遺跡第Ⅲ地区・南堂遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
「西浦南遺跡」群馬町教育委員会 1988
「西浦北遺跡」群馬町教育委員会1989
「矢島遺跡・御布呂遺跡」高崎市教育委員会1979
「芦田貝戸遺跡」高崎市教育委員会 1980
「大八木原敷遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995
「融透寺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
「熊野堂遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
「熊野堂遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
「井出村東遺跡」群馬町教育委員会 1983
「三ヶ寺Ⅰ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981
「三ヶ寺Ⅱ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
「小林遺跡」群馬町教育委員会 1983
「西三免辻遺跡」群馬町教育委員会 1990
「源訪西遺跡」群馬町教育委員会 1995
「小池遺跡」群馬町教育委員会 1992
「冷水村東遺跡・西田分析田遺跡・金子十三町遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998
「日高遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982
「中尾遺跡 遺構編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
「中尾遺跡 遺物編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
「鳥羽遺跡」(1)～(6)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992
「上野国分僧寺・尼寺中間地域」(1)～(8)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992
「史跡 上野国分寺跡」群馬県教育委員会 1989
「上野国分尼寺跡・上野国分尼寺中間地域」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
田辺 芳昭「北谷遺跡 群馬町大字冷水・大字引間」平成13年度調査遺跡発表会要旨(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
[東山道関係]
金坂清則「上野風俗とその付近の東山道、および群馬、佐位駅家について」『歴史地理学紀要』16 歴史地理学会 1974
金坂清則「上野国」『古代日本の交通路Ⅱ 東山道』大明堂 1987
坂爪久純・小宮俊久「上野国の古代交通路」『古代交通研究』創刊号 1992
坂爪久純「上野国の古代道跡」『古代文化』第47巻第4号1995
「確定東山道一群馬町中泉・福島・菅谷地区を中心とする遺構確認調査」群馬町教育委員会 1987

IV 遺構・遺物

1. 概要

小八木志志貝戸遺跡は、すでに「小八木志志貝戸遺跡群1～3」で報告されているように弥生時代から中世に至る複合遺跡である。今回の報告は1～3で報告された地区の南に位置する4区、5区、6区の縄文時代から奈良・平安時代と2区の縄文時代についてである。

発掘調査は第1面が平安時代末1108年以降の中世・近世を中心とした遺構、第2面は古墳時代後期～平安時代後半、6世紀前半～11世紀代の遺構、第3面は古墳時代中期以前の遺構と層位ごとに調査をおこなった。報告書掲載にあたっては時代ごとの掲載にしたため古墳時代のように層位がまたがるものもある。

縄文時代は、遺構として敷石住居、掘立柱建物、円形柱列、土坑、配石遺構などを検出した。遺構の分布は2区の南半を中心に見られる。4区、5区の調査区では縄文時代から古墳時代中期に相当する遺構を3面目の調査面としてとらえ土坑、小ピット群が多く検出したが明確に縄文時代の遺構と確認できたものは4区では袋状土坑、埋壘を各1基、5区で敷石住居の一部と想定される遺構を1基と埋壘を2基検出しただけである。しかし、遺物は4区、5区のVI層、VII層から多量に出土している。出土した遺物のうち土器は縄文時代中期後半から後期前半にかけてである。これらの縄文土器はすべてが破片でそれも比較的小片が多い、さらに摩滅したものが多くみられる。こうしたことから遺構のまとまりがみられる2区南半に存在する集落で使用されていた土器類が集落の南側に広がる谷地に廃棄されたものと想定される。

弥生時代は、すでに「小八木志志貝戸遺跡群1」で報告されているように1区、2区を中心に住居、土器棺墓、溝などが検出されている。4区以南では遺構は希薄になるが4区では住居2軒、土器棺墓1

基を検出した。しかし、環壕と想定された濠KS01-07についてはその延長が検出されなかったことから環壕としての想定は今後再検討の必要性が生じている。

古墳時代については4区で住居2軒、古墳1基、畠、4区、5区で溝で区画された範囲、5区で住居1軒、6区で畠などを検出した。住居は前期2軒、中期1軒、古墳は方墳の可能性が見られるが墳丘がすでに削平されており明確ではない。石室などの埋葬施設については掘方もなく不明であった。畠はこの古墳の下層でHr-FPを復旧した畠と古墳の南側でサクの痕跡だけが残るものを検出した。なお、この区画溝の内部からは住居、建物などの施設は確認されなかった。

奈良・平安時代の遺構については2区までの調査区では希薄な地域の様相を見せていたが4区、5区において溝などで区画された内部に掘立柱建物群や井戸などが存在する居宅とその前後の時期に存在していた住居を検出した。居宅内部の掘立柱建物は比較的大型の建物でその配置は平行または直交する位置に建てられている。また、その内の2棟は庇付きの建物である。また、掘立柱建物の柱穴は方形の掘方をもち柱痕も径20～30cm前後と一般の集落とされている遺跡で検出される掘立柱建物の柱痕より太い。井戸は初期の段階は素掘であったようであるが次の段階では石敷のものへと変化している。そして井戸が存在する付近から南にかけては低地へ移行するがこの場所にはこの居宅で食前具に使用されていた多量の土器類が使用されており居宅の廃絶とともに廃棄されたものである。

奈良平安時代の遺構には居宅の他、住居、掘立柱建物、溝などがある。住居は居宅構築前の7世紀末～8世紀第1四半期と9世紀第3四半期～10世紀前半代までの時期のものであるがともに6軒、7軒と軒数は少なく5区調査区の中程の微高地から谷地へ移行する地点にまとまりがみられる。

2. 縄文時代の遺構・遺物

(1) 敷石住居

敷石住居 2区36

2区調査区南、11T・12A-19・20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は近世溝2区02、中世墓坑2区30、39と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は住居内に敷設されていた際は僅かにその残骸が見られる程度で大部分が後の時代の耕作等で取り除かれた状態である。

形態は主体部が隅円方形に近いが隅付近の東側は直線的である。柄部も端部が丸みをもつ隅円長方形の柄鏡形を呈する。規模は長軸7.54m、短軸5.12m、柄部全長2.22m、幅1.80mを測る。壁は不明瞭であるが壁高は確認面から10~15cmと浅い。床面積は26.6㎡である。主軸方位はN-9°-Wを指す。

敷石は残存状態で記したように大部分が抜き取られた状態であるが残存している際はほとんどが緑泥片岩などが占めている。

内部施設は炉と大小のピットを検出した。ピットは総数38本におよびそのうち36本は主体部に残り2本が柄部位置する。主体部のピットのうち23本が壁際に位置している。壁際のピットのうちP1、P5、P6、P17、P22などが規模位置関係から柱穴と想定される。また、P12、P13は主体部と柄部を連結する箇所の柱穴である。

炉は主体部のほぼ中央に位置している。炉は南北に長い楕円形を呈し南西部に小ピットを配置している。規模は径104×90cm、深度32cm、小ピット径30×25cm深度22cmである。炉の西側と北側に細長い礫を配置しておりこれらの礫は被熱した状態であった。炉火床面は厚さ3cmほど焼土化した状態であった。

埋壔はP14とP33の間で検出された2の深鉢である。埋壔は上半部が欠落した状態であった。また、柄部端部のP38は埋壔を抜き取った痕跡と見られる。

埋没状態は後世の耕作、掘削などが床面までおよび敷石自体も抜き取ってしまった状態などで明確で

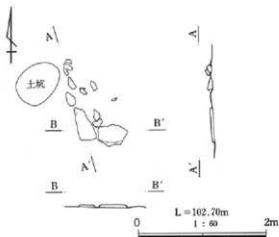
はないがVII層に近い黒褐色土で埋没しており自然埋没と推定される。

遺物は中期加曾利E式期から後期堀之内式期までの土器片と磨石、多孔石などが出土している。

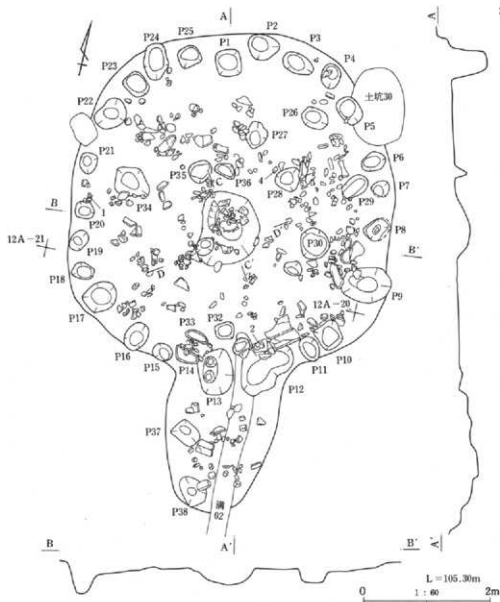
本遺構の時期は埋壔や炉・柱穴などから出土している土器から後期称名寺式期に比定される。なお、敷石住居2区36から出土した他時期の土器については遺構外出土物の項で掲載している。

敷石住居 5区439

5区調査区中央付近、10M-16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は奈良時代住居5区260、奈良時代住居5区261、奈良時代住居5区418と重複する。これらの遺構との新旧関係は本住居のほうが古い。残存状態は重複する住居によって大部分を欠き、住居内部の床面に敷いたと思われる緑泥片岩を6点検出だけで詳細は不明である。出土遺物には黒曜石剥片が1点だけで土器・石器の出土は見られなかった。



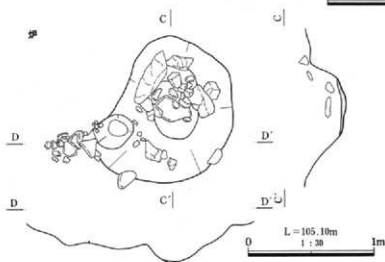
10図 敷石住居 5区439遺構図



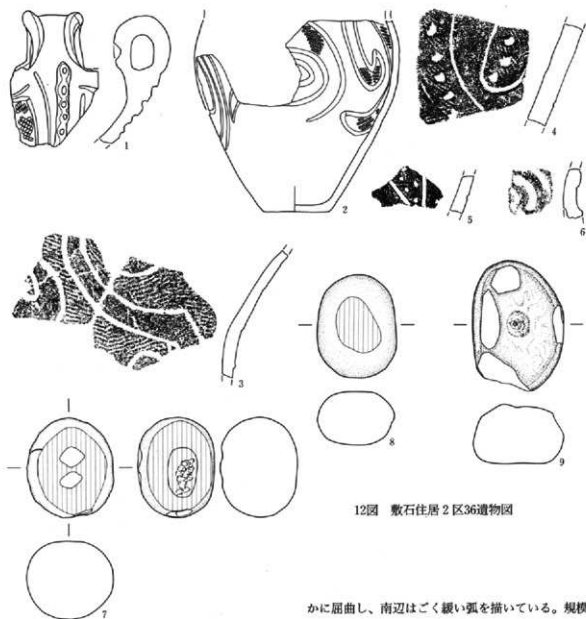
2表 散石住居2区36柱穴計測表

NO.	長径	短径	深径
1	43	40	32
2	48	42	18
3	53	30	11
4	40	32	46
5	47	28	51
6	37	30	23
7	28	28	30
8	38	28	20
9	82	56	62
10	40	40	33
11	38	28	29
12	92	63	59
13	68	53	39
14	35	30	34
15	28	26	32
16	46	35	47
17	53	47	62
18	35	25	26
19	32	25	37
20	28	25	39
21	30	28	30
22	53	42	36
23	39	34	9
24	68	42	3
25	38	34	10
26	45	34	38
27	44	35	27
28	42	37	48
29	47	28	25
30	50	46	25
31	32	24	33
32	32	28	37
33	37	25	27
34	53	52	23
35	35	30	21
36	34	24	22
37	42	31	47
38	45	35	39

单位 cm



11图 散石住居2区36遺構图



12図 敷石住居2区36遺物図

(2) 掘立柱建物

掘立柱建物2区72

2区調査区南西部、11T~12B-20~23グリッド存在については確認されなかった。

埴時代住居19と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態はP5が現代の水路で東半分を欠く他は比較的良好である。

形態は南辺が北辺より0.8mほど長い長方形に近い矩形を呈す。北辺は直線ではなくP2とP5で僅

かに屈曲し、南辺はごく緩い弧を描いている。規模は桁行7間11.12m、梁行2間4.16m、各辺の長さは北辺10.80m、東辺4.24m、南辺11.60m、西辺4.72mを測る。面積は49.5㎡である。主軸方位はN-61'-Eを指す。

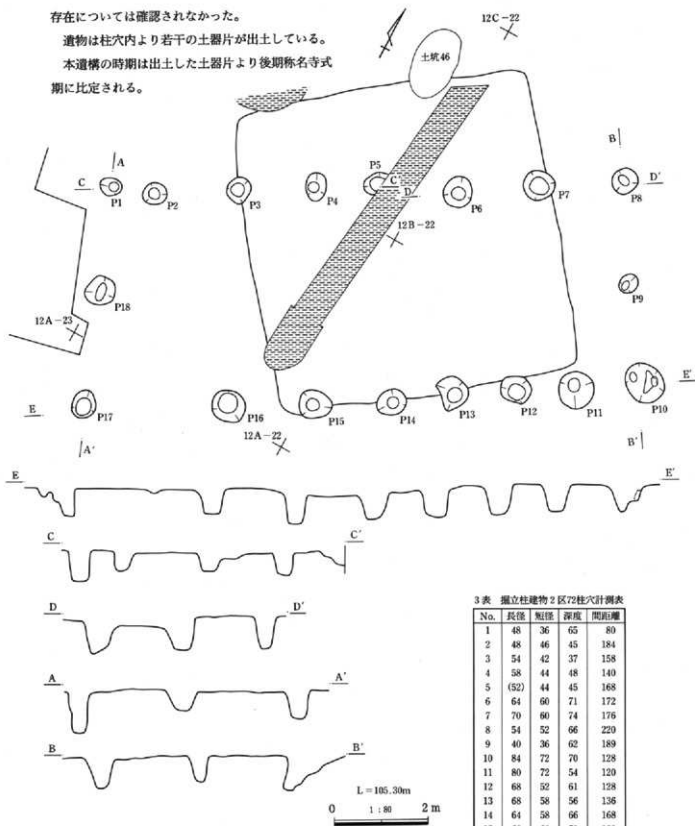
柱穴は円形、楕円形を呈す。規模は最小のP9が径40×36cm、最大がP10の径84×72cmであるが概ね50~60cmほどである。深度は37~74cmで平均58cmである。柱穴間距離はP1-2間の0.80mがもっとも短く、P16-17間の2.64mがもっとも長い。平均は1.71mである。柱底は確認されていない。柱穴内の土層はVII層が主体である。

内部は住居が大部分を占めているため内部施設の

存在については確認されなかった。

遺物は柱穴内より若干の土器片が出土している。

本遺構の時期は出土した土器片より後期称名寺式
期に比定される。

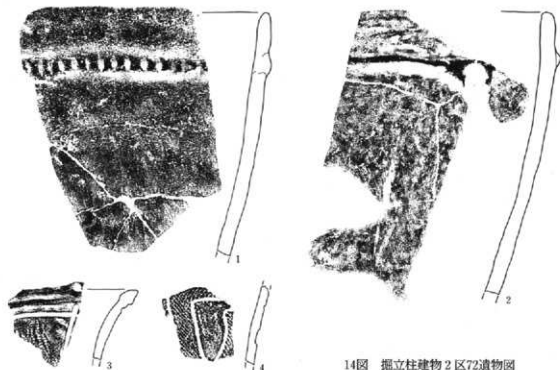


3表 掘立柱建物2区72柱穴計測表

No.	長さ	短径	深度	間距離
1	48	36	65	80
2	48	46	45	184
3	54	42	37	158
4	58	44	48	140
5	(52)	44	45	168
6	64	60	71	172
7	70	60	74	176
8	54	52	66	220
9	40	36	62	189
10	84	72	70	128
11	80	72	54	120
12	68	52	61	128
13	68	58	56	136
14	64	58	66	168
15	68	60	71	180
16	76	68	52	264
17	60	52	61	248
18	64	60	40	224

単位 cm

13図 掘立柱建物2区72遺構図



14図 掘立柱建物 2区72遺物図

掘立柱建物 2区90

2区調査区中程、12D～E-19～21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世墓坑10・29・33・38、古墳時代住居21、弥生時代住居59、縄文時代土坑74と重複する。新旧関係は縄文時代土坑74との関係が不明確である他は本遺構の方が古い。残存状態は後世の遺構との重複が激しくP7が存在すると想定される部分に中世墓坑29が存在するため残存していないが、他の柱穴は重複する遺構より深く掘削されており比較的良好である。

形態は西辺が僅かに屈曲しているがほぼ長方形を呈する。規模は桁行3間6.38m、梁行2間3.74m、各辺の長さは北辺6.05m、東辺3.74m、南辺6.22m、西辺3.82mを測る。面積は23.6㎡である。主軸方位はN-38°-Eを指す。

柱穴は円形、楕円形を呈す。規模は最小のP2が径44×44cm、最大がP4の径76×70cmで径40cm代3本、径50cm代1本、径60cm代3本、径70cm代2本と規則性はみられない。深度は28～74cmで平均48cmである。柱穴間距離はP4-5間の1.10mがもっとも短く、P5-6間の2.64mがもっとも長い。これは

梁行の中間に位置する柱穴が東辺、西辺とも北寄りに位置していることによる。また、桁行方向の北辺、南辺の柱穴間距離は1.83mから2.13mで梁行方向に比べて大きな差はみられない。なお、柱痕は確認されていない。柱穴内の土層はVII層が主体である。

内部は住居が大部分を占めているため内部施設の存在については確認されなかった。

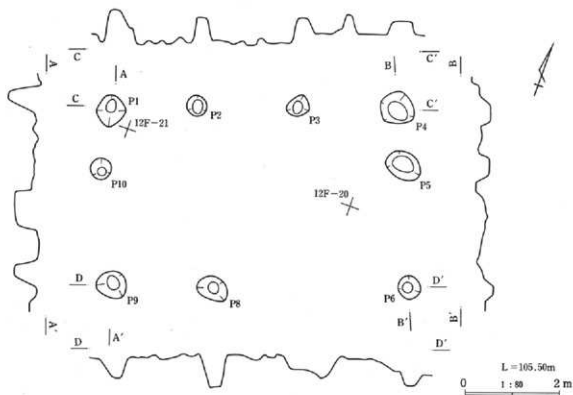
遺物は微細な土器片が僅かに出土しただけであった。

本遺構の時期は明確ではない。

4表 掘立柱建物 2区90柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	間距離
1	68	62	74	184
2	44	44	56	213
3	48	44	52	213
4	76	70	30	115
5	78	58	28	258
6	50	46	30	～P8
7	-	-	-	410
8	68	50	62	216
9	64	56	50	235
10	48	46	47	142

単位 cm



15図 掘立柱建物 2区90遺構図

(3) 柱 列

円形柱列 2区5Z

2区調査区東南部、11S～12A-18～19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は近世土坑110、中世墓坑109、平安時代住居09、古墳時代住居111と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は比較的良好であるが調査区外に半分以上が存在するため全貌不明である。

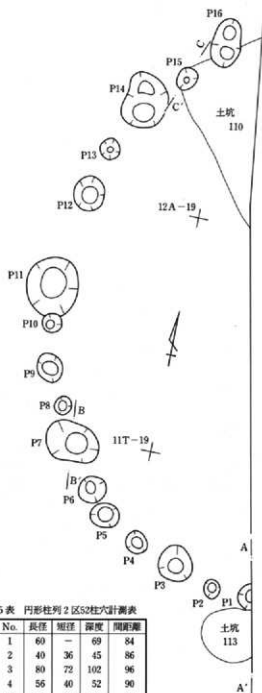
形態は若干の歪みがみられるがほぼ円形を呈する。規模は径6.20～6.40mと想定される。面積は調査区内で3.83㎡、全体は推定120.7～128.6㎡である。

柱穴は調査区内の南半の柱穴P1から柱穴P11までは64～96cm、平均86cmと比較的細かい配置であるが北半ではやや間隔を開けた配置である。特に柱穴P11と柱穴P12の間は198cmと南半の2区間に相当する間隔である。柱穴規模では柱穴P3、P7、P11、P14とやや規模の大きい柱穴を3.3～4.0mの間隔で配置し、その間を規模の小さい柱穴を配置して

いる。形態は柱穴P7、P14、P16が楕円形の他はほぼ円形を呈す。各柱穴の規模は大きい柱穴が径72～124cmで深度85～110cm、小さい方が径32～104cm、深度32～82cmを測る。柱穴深度は柱穴P8、P10、P13が30cm代の他は50cm以上の深さを有している。柱痕は柱穴P1、P7の断面観察では径20～30cmほどの木柱が立てられていたと考えられる。こうした柱自体の径を考慮すると南半は僅かな隙間しかない状態であったと推察される。

内部の施設については調査区内では検出されなかった。

遺物は出土していない。

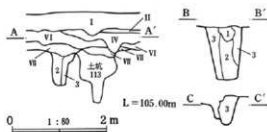


5表 円形柱列2区52柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	間距離
1	60	—	69	84
2	40	36	45	86
3	80	72	102	96
4	56	40	52	90
5	60	52	82	64
6	60	52	60	92
7	112	68	110	84
8	40	32	39	84
9	64	56	70	88
10	44	32	32	88
11	124	104	85	198
12	76	64	65	102
13	48	42	34	96
14	120	100	91	110
15	42	36	52	104
16	104	64	58	80+ α

単位 cm

16図 円形柱列2区52遺構図



円形柱列2区52 土層注記

- 1 暗褐色粘質土 ローム層移土。粒子細。しまり強い。微少のローム粒を含む。
- 2 黒褐色粘質土 粒子粗。しまり弱い。微少ローム粒を含む。
- 3 褐色シルト質土 粒子粗。しまり弱い。微少のローム粒を多く含む。

(4) 配石

配石2区23-1~4

2区調査区南端、11R・S-18~20グリッドにかけて径30cm前後の礫が多量に出土した。発掘調査時は全体を同一の遺構として考えたが遺構図を整理していく段階で4カ所のまとまりが想定されるため西側のまとまりから新たな遺構NO.を付けるのではなく枝番号を付けることにした。

配石2区23-1

11R-20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより礫の西半を欠く状態と想定される。

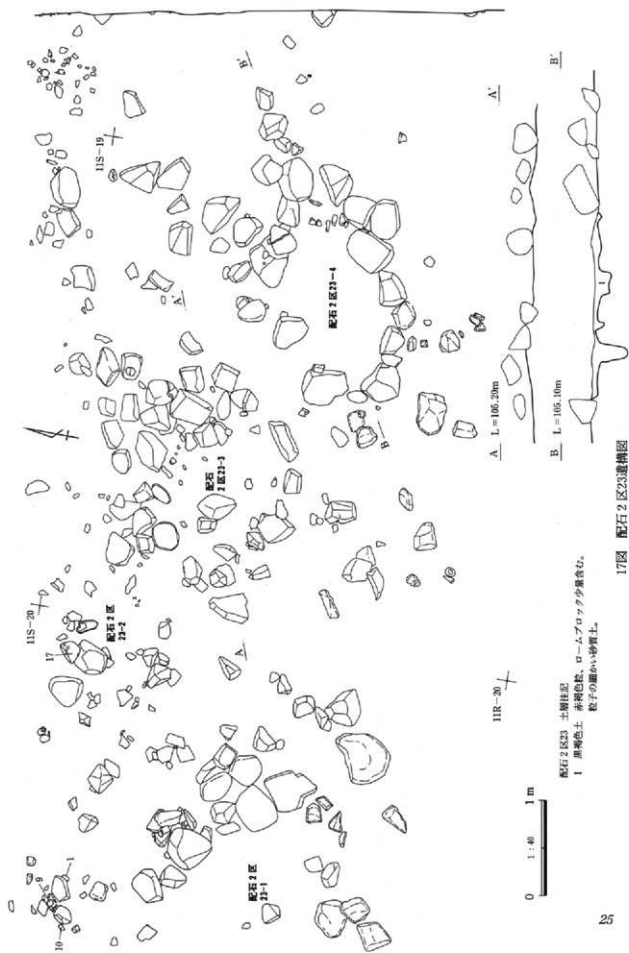
形態は本来楕円形を呈していたと想定される。規模は径東西2.0m、南北2.0m+ α である。配置された礫は径40~50cm代のものが多くみられる。礫の石材はすべて粗粒輝石安山岩である。

配石2区23-2

11R-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより若干の礫を欠くが比較的良好である。

形態は楕円形を呈する。規模は長径2.3m、短径2.0mを測る。礫の配置は北東側に複数列になるように配置され南西側は1列の配置である。配置された礫は-1と同様に40~50cm代が主体でこれらに5~20cm代の礫を多少含む。礫の石材は1点緑色片岩がみられる他はすべて粗粒輝石安山岩である。

配石2区23-3



17図 配石 2区 23 遺構図

11R-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより若干の礫を欠く状態である。

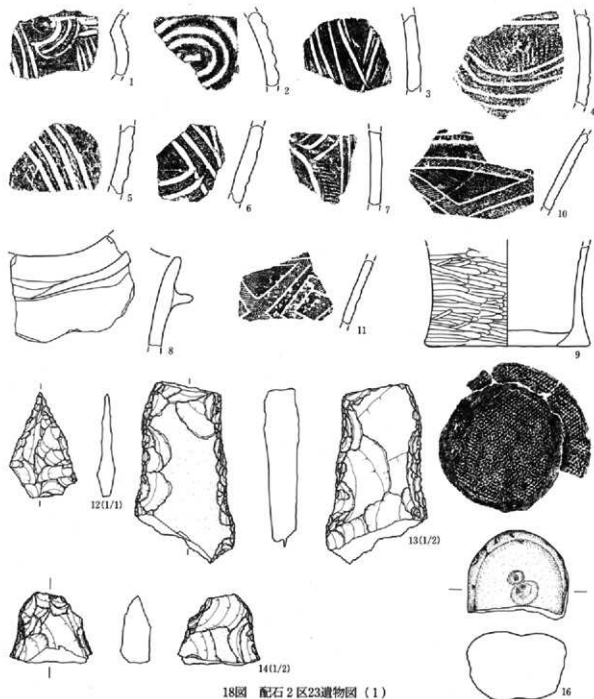
形態は楕円形を呈する。規模は長径2.9m、短径2.0mを測る。礫の配置は-2と同様に北東側に複数列になるように配置され南西側は1列の配置である。配置された礫は-1と同様に40~50cm代が主体でこれらに5~20cm代の礫を多少含む。礫の石材は

すべて粗粒輝石安山岩である。

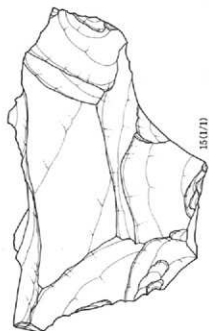
配石 2区23-4

11R・S-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は後世の耕作などにより多くの礫を欠くため全貌は不明確である。

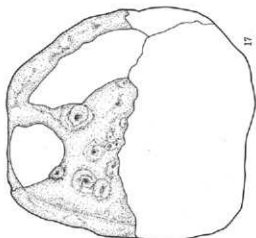
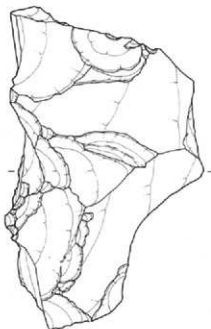
形態は円形を呈すると想定される。規模は径1.5mを測る。礫の配置は他の配石と異なり礫を1列に配



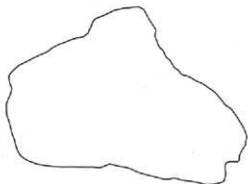
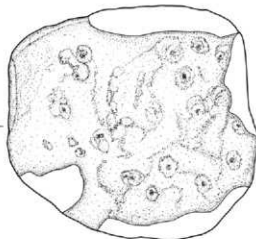
18図 配石 2区23遺物園(1)



15 (1/1)



17



19図 配石2区23遺物図(2)

置しただけの状態である。配置された礫は他の配石と同様に40~50cm代が主体でこれらに5~20cm代の礫を多少含む。礫の石材はすべて粗粒輝石安山岩である。

遺物は後期堀之内1~2式期の土器片と打製石斧、多孔石などが出土している。

本遺構の時期は出土した土器から後期堀之内式期に比定される。

(5) 集石

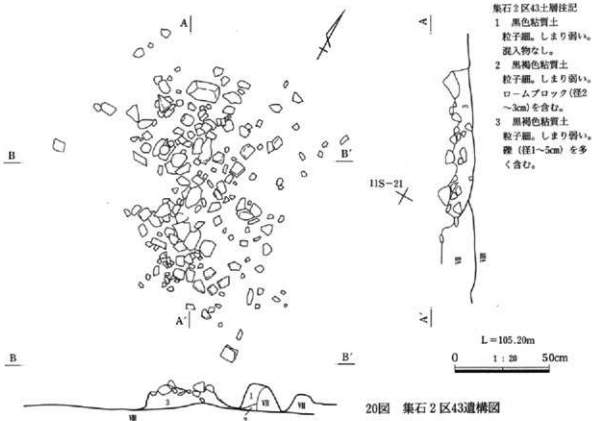
集石 2区43

2区調査区南端、11R・S-21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は本遺構の土層断面によるとVII層から掘り込まれているようであるが遺構確認をV層上面で行ったため土坑状の掘り込みを検出することはできなかったため、全貌詳細については不明である。

形態、規模は不明であるが小礫の出土した範囲から2.0×1.0m程の楕円形を呈していたようである。礫は径10~30cm程の垂角礫を掘り込みの上面に配置されたようである。

掘り込み内部の土層はVII層に近い黒褐色土である。内部からは上面と同様な礫が多少出土しているが土器類は出土していない。

本遺構の時期は明確ではない。



(6) 遺物集中

遺物集中 2区48

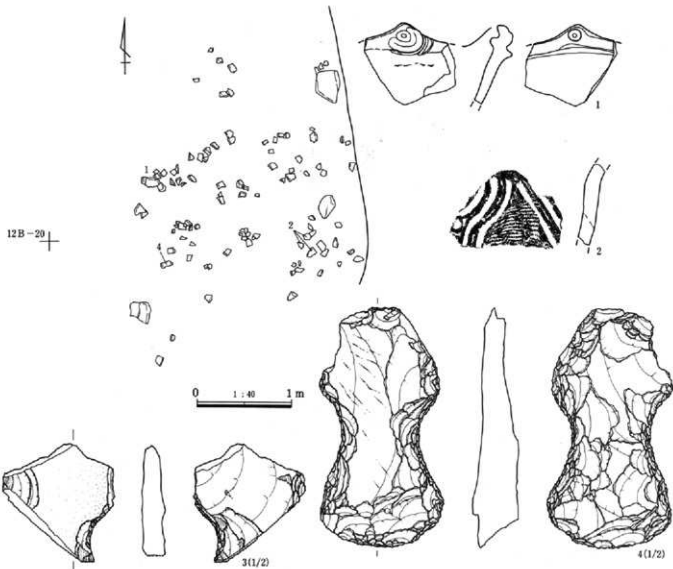
2区調査区東南部、12A・B-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世墓坑31、古墳時代住居50と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東側を攪乱によって欠く。

形態は掘り込みなどは確認されずに土器、石器、礫が散乱した状態で遺物などが検出されている。規

模は南北1.5m、東西1.2mの範囲である。

出土した遺物は後期前半の称名寺期~堀之内期までの土器片と打製石斧などがあるが土器片はすべて小片で接合するものもみられなかった。こうした状況から本遺構は廃棄的な性格が強い。

本遺構の時期は後期に比定される。

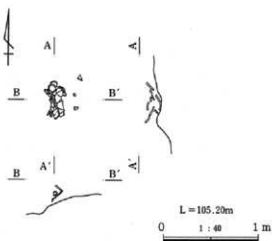


21図 遺物集中2区40遺構図・遺物図

(7) 埋 葬

埋 葬 2 区 51

2区調査区南西部、11T-21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳住居18と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は僅かの窠みと土器の出土だけで掘り込みなどは明確ではなかった。こうした残存状態であることから形態・規模については不明である。出土した土器は後期称名寺期のもので口縁部を北に向けて傾倒した状態で出土した。出土した土器は全体の1/6程度でしかなかった。



22図 埋葬2区51遺構図



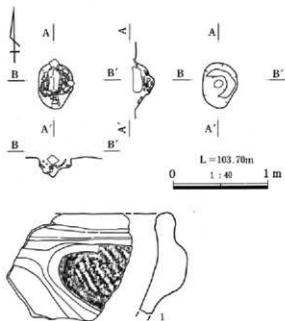
23図 埋葬2区51遺物図

埋葬4区228

4区南西部、11G-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

掘方の形態は楕円形を呈す。規模は長径48cm、短径36cm、深度22cmを測る。掘方は一度底面を平坦に掘削して中央部に土器の座りをよくするように円錐状に掘削している。

内部には中期加曾利E式期の深鉢が埋設され、その上位に長さ28cm、幅12cm、厚さ10cmほどの長細い礫を置いている。土器は掘方内部に細片化した状態で出土しており、掘方内部から出土した土器片は同一個体の破片と見られるが接合するものは見られなかった。



24図 埋葬4区228遺構図・遺物図

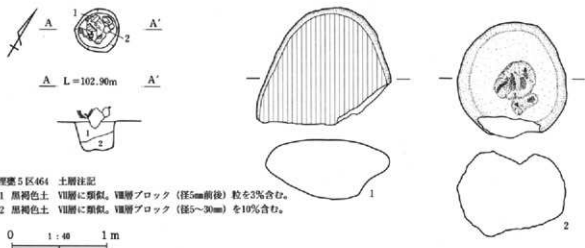
埋葬5区464

5区調査区中程の東側、10M-14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は土器の上部を後世の掘削などによって欠落している。

掘方の形態はほぼ円形を呈す。規模は径48cm、深度32cmを測る。土器は掘方底面より30cm程上位に置かれた礫の横に据えられている。

掘方は土坑状を呈し、VII層に近い黒褐色土で埋設、埋め戻されている。

出土した土器は胴部下部の破片が主体で中期加曾利E式期のものである。



埋壙 5区464 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック（径5mm前後）粒を3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック（径5~30mm）を10%含む。

25図 埋壙 5区464遺構図・遺物図

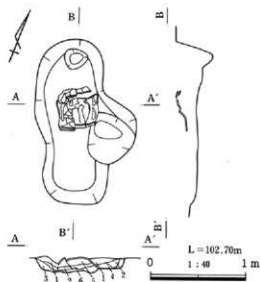
埋壙 5区563

5区調査区中程の西より、10N-18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は西側の中程で円形の土坑と重複するが埋没土は埋壙掘方埋没土と土坑埋没土の間では明確な重複関係は確認されなかった。残存状態は土器の3/4以上は欠落した状態であったが掘方などは比較的良好な状態であった。

掘方の形態はやや細長い楕円形を呈す。掘方の中程東側に径50cm深度20cm、北端に径25cm、深度15cmの落ち込みが存在するが、本埋壙に伴うものか否かは不明である。規模は長径1.36m、短径0.68m、深度0.24mを測る。土器は掘方中央部に外面を上位に向けて傾倒した状態で出土している。

埋没土はVII層、VIII層がブロックに堆積しており人為的に埋め戻されたことが観察される。

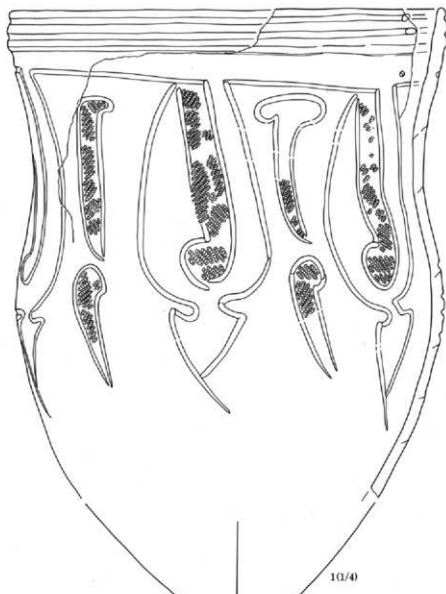
出土した土器は後期称名寺式期中葉の深鉢で口縁部沈線内に貫孔補修孔、口縁部下に未貫孔補修孔が見られる。胴部上半は沈線による区画内にR L充填施文、下半はナデ整形が施されている。



埋壙 5区563 土層注記

- 1 灰黄褐色土 VII層主体。VII層ブロックを30%含む。
- 2 灰黄褐色土 VII層主体。VII層ブロックを10%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。
- 4 によい黄褐色土 VII層ブロックとVIII層ブロックの混合土。(6:4)
- 5 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック（径5mm前後）を10%含む。
- 6 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック（径5mm前後）を5%含む。

26図 埋壙 5区563遺構図



27図 埋葬5区563遺物図

(8) 土 坑

2区調査区では重層的な調査が行えず、縄文時代から中世まで1面で遺構確認を行ったため縄文時代の遺構は出土遺物を伴うものに限定されたため土坑は7基しか確認されなかった。4区・5区調査区第3面からは約200基の土坑を検出した。第3面は縄文時代～古墳時代中期までの時期の遺構を検出していることから約200基の土坑全てが縄文時代に属するものではない。特に第3面で調査した土坑からの出土遺物は僅かで遺物から時期を確定できる土坑は少ない。こうした中で遺物を出土し時期を確定できた

土坑や埋没土がⅦ層を主体であるなど縄文時代の様相が観察できる土坑を中心に掲載した。

また、土坑の性格も貯蔵、墓坑など性格を明らかにできたものは貯蔵用と考えられる2区112だけで他の土坑については明確ではない。

土坑2区112

2区調査区中程の東より、12F・G-19・20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳時代住居2区61・69と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は比較的良好である。

形態は平面がやや歪んだ楕円形、断面が袋状を呈している。規模は長軸1.12m、短軸1.00m、深度0.70m、断面最大径1.34mを測る。

土坑内部は中位に最大径をもつが埋没土はⅦ層に近似した黒褐色土で埋没している。

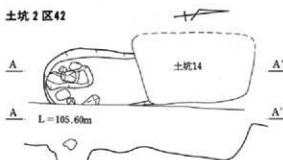
遺物は中期加曾利E期や後期堀之内期の土器が底面付近から若干出土している。

本土坑の時期は土器出土量の主体を占める堀之内式期と想定される。

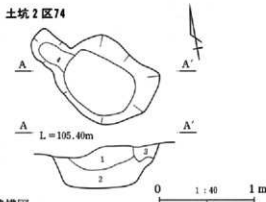
6表 縄文時代土坑一覧

区	遺構NO.	位置	重複関係		形態	規模(単位cm)			備要
			新	旧		長径	短径	深度	
2	42	I2C-22	中世墓坑14		不整形	(102)	(60)	28	
	74	I2D-20	弥生時代住居59		不整形	140	82	44	
	83	I2E-20	中世墓坑10		不整形	230	104	50	
	84	I2E-21	中世墓坑27		楕円形	232	152	48	
	95	I2F-21	古墳時代住居13・67		不整形	(282)	(90)	78	
	112	I2F-20	古墳時代住居61・69		楕円形	(112)	(100)	70	貯蔵用土坑、断面袋状
	113	11S-18		縄文時代円形柱列52	不整形	(108)	116	102	
	184	11Q-19			ほぼ円形	106	91	51	
	186	11Q-19			楕円形	97	77	36	
	222	11N-20			不整形	(143)	144	70	
4	223	11O-19		土坑246	楕円形	48	40	66	
	231	11D-16			楕円形	73	38	15	
	242	11O-18			ほぼ円形	67	65	47	
	251	11I-19			楕円形	93	76	48	
	252	11H-19			楕円形	78	70	15	
	253	11D-17	中世溝02、奈良溝03		不整形	(183)	109	15	
	262	11N-19			楕円形	62	55	85	
	263	11O-19			楕円形	57	55	58	
	264	11N-20			不整形	(47)	(40)	24	
	302	11K-21			楕円形	69	61	75	
	303	11Q-21			楕円形	88	66	67	
	314	11Q-21	弥生時代住居226		楕円形	58	46	63	
	315	11Q-21	弥生時代住居226		ほぼ円形	50	45	30	
	316	11P-21	弥生時代住居226		円形	40	36	49	
	317	11P-21	弥生時代住居226		円形	40	37	48	
	318	11P-21	溝277		楕円形	61	52	33	
	319	11O-21			ほぼ円形	59	54	66	
	320	11P-21			楕円形	47	35	71	
	321	11O-18			楕円形	56	48	33	
	322	11N-18			楕円形	(41)	50	15	
5	486	10T-19			ほぼ円形	64	62	27	
	519	11B-20			ほぼ円形	110	36	30	
	559	10M-13			楕円形	113	58	45	
	575	11C-20			楕円形	52	40	44	

土坑2区42

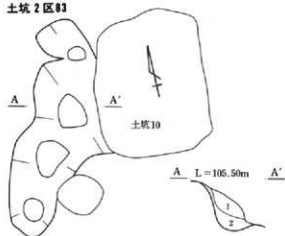


土坑2区74

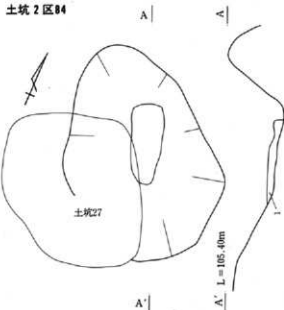


28図 土坑2区42・74遺構図

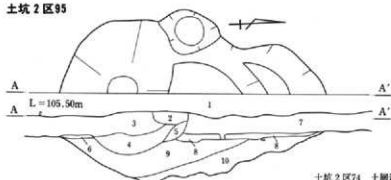
土坑 2 区 83



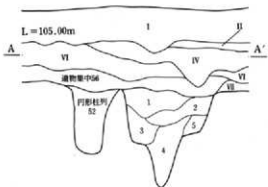
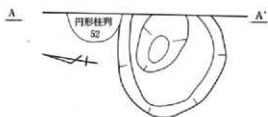
土坑 2 区 84



土坑 2 区 95



土坑 2 区 113



土坑 2 区 74 土層注記

- 1 暗褐色粘質土 As-C軽石(径2~3m)を微量含む。
- 2 暗褐色粘質土 1に類似。ロームブロック(径5~100mm)を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを50%含む。

土坑 2 区 83

- 1 褐色粘質土 粒子細。しまりやや弱い。ローム粒を微量含む。
- 2 褐色粘質土 粒子細。しまり弱い。ローム粒を若干含む。

土坑 2 区 84 土層注記

- 1 黒褐色粘質土 粒子細。しまり強い。ローム粒を僅か含む。
- 2 区 95 土層注記
- 1 黒褐色粘質土 As-C軽石(径1~3m)と砂礫(径5~10mm)を含む。
- 2 暗褐色粘質土 ロームブロック(径1~3cm)とAs-C軽石(径1~2m)を含む。

土坑 2 区 83

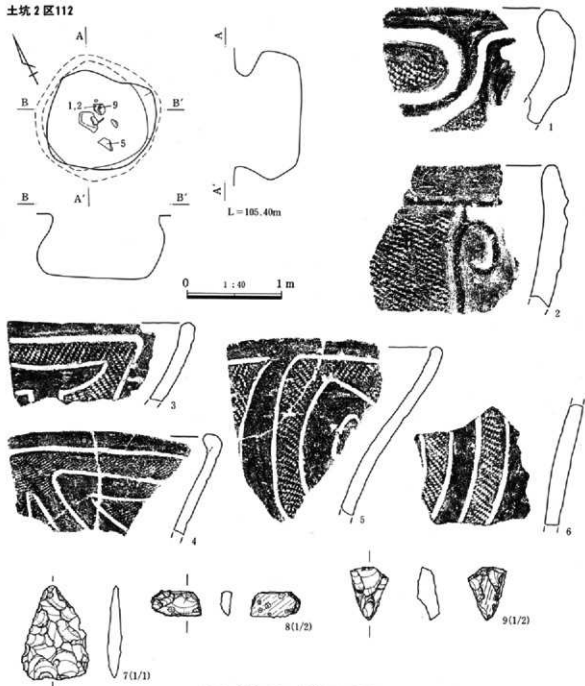
- 3 黒褐色粘質土 As-C軽石(径1~5m)を全体に含む。炭化粒(径1~2cm)も含む。
- 4 黒褐色粘質土 3にローム粒(径1~2cm)を含む。
- 5 黒色粘質土 As-C軽石(径1~3m)を含む。
- 6 黒褐色粘質土 ローム粒(径2~3cm)を含む。
- 7 黒色粘質土 僅かに少量のローム粒を含むのみ。
- 8 暗褐色粘質土 硬い。ローム粒(径1~5cm)を多く含む。
- 9 黒色粘質土 含有物なし。
- 10 暗褐色粘質土 ローム粒(径1~3cm)を含む。

土坑 2 区 113 土層注記

- 1 暗オリーブ褐色土 シルト質。ロームブロック(径5~10cm)を含む。
- 2 黒褐色土 粘質土。ロームブロック(径5~30mm)を含む。
- 3 黒褐色土 シルト質。ローム粒子。
- 4 褐色土 シルト質。ローム粒子。
- 5 暗灰黄色土 粘質土。ローム粒子。炭化物を若干含む。

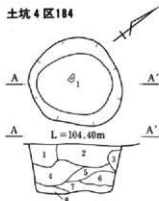
29図 土坑 2 区 83・84・95・113 遺構図

土坑 2 区 112



30图 土坑 2 区 112 遺構図・遺物図

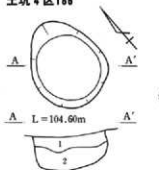
土坑 4区184



土坑 4区184 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層移層主体。VII層ブロック(径30~50mm)を20%含む。
- 2 暗灰黄色土 VII層移層主体。VII層を10%含む。
- 3 にぶい黄色土 VII層に類似。やや暗い色調。
- 4 暗灰黄色土 2に類似。VII層ブロック(径20~50mm)を30%含む。
- 5 黄褐色土 2・4に類似。VII層ブロック(径20~50mm)を20%含む。
- 6 にぶい黄色土 3に類似。白色軽石粒(径5mm前後)を5%含む。
- 7 黄褐色土 5に類似。白色軽石粒(径5mm前後)を5%含む。
- 8 黒褐色土 VII層に類似。

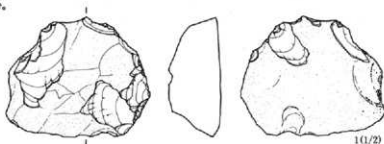
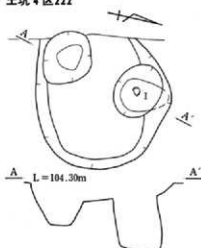
土坑 4区186



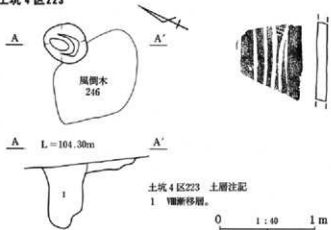
土坑 4区186 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。VII層粒を5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VII層粒を10%含む。

土坑 4区222



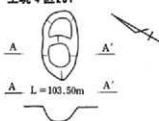
土坑 4区223



土坑 4区223 土層注記

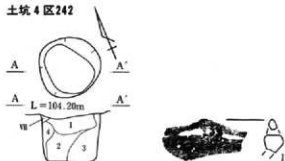
- 1 VII層移層。

土坑 4区231



31図 土坑 4区184・186・222・223・231遺構図・遺物図

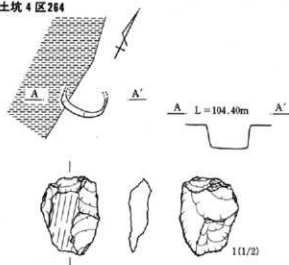
土坑 4 区 242



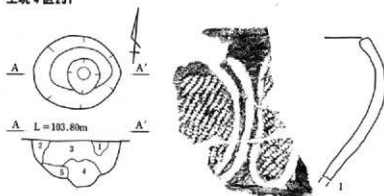
土坑 4 区 242 土層注記

- 1 暗オリーブ褐色土 VII層移層に類似。VII層が混入。
- 2 黒褐色土 VII層主体。VII層移層混入。VII層ブロック(径10~30mm)を20%含む。
- 3 黒褐色土 VII層ブロック30%・VII層ブロック70%含む。
- 4 明黄褐色土 VII層の崩落。

土坑 4 区 264



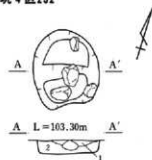
土坑 4 区 251



土坑 4 区 251 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)を微量含む。
- 3 褐色土 シルト質。白色軽石(径2mm)・褐色粒を微量含む。
- 4 暗褐色土 シルト質。黄褐色粒(径4mm)を1%弱含む。白色軽石(径2mm)・炭化粒(径2mm)を微量含む。
- 5 暗褐色土 シルト質。VII層が塊状に10%混入。黄褐色粒(径20mm)を含む。

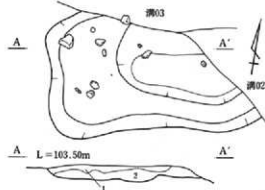
土坑 4 区 252



土坑 4 区 252 土層注記

- 1 暗オリーブ褐色土 VII層移層に類似。VII層混入か。
- 2 黄褐色土 VII層移層に類似。VII層混入。

土坑 4 区 253



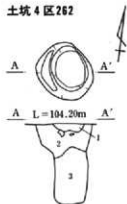
土坑 4 区 253 土層注記

- 1 暗褐色土 シルト質。しまり強い。白色軽石(径1mm)・VII層粒(径2mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。しまり強い。I・VII層の混合層。白色軽石(径2mm)・VII層粒(径4mm)を微量含む。

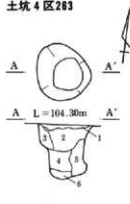


32図 土坑 4 区 242・251・252・253・264 遺物図

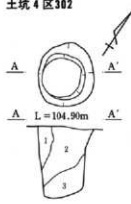
土坑 4 区262



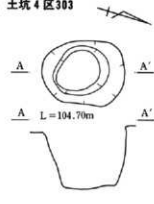
土坑 4 区283



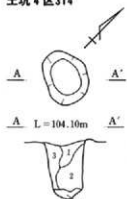
土坑 4 区302



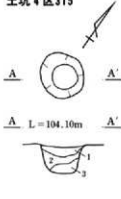
土坑 4 区303



土坑 4 区314



土坑 4 区315



土坑 4 区262 土層注記

- 1 オリーブ褐色土 V層移行。V層ブロックを5%含む。
- 2 暗灰褐色土 V層移行。V層ブロックを10%含む。
- 3 暗灰褐色土 V層移行。V層ブロックを5%含む。

土坑 4 区263 土層注記

- 1 黒褐色土 V層に類似。
- 2 オリーブ褐色土 V層移行に類似。V層ブロック(径10mm)を10%含む。
- 3 オリーブ褐色土 2に類似。V層ブロック(径10~50mm)を30%含む。
- 4 暗オリーブ褐色土 V層移行に類似。V層小ブロック(径10mm以下)を5%含む。
- 5 暗オリーブ褐色土 4に類似。V層ブロック(径10~30mm)を30%含む。
- 6 暗オリーブ褐色土 4に類似。V層ブロック(径10~20mm)を10%含む。

土坑 4 区302 土層注記

- 1 オリーブ褐色土 軽石(径2mm)を微量含む。
- 2 オリーブ褐色土 1層よりやや明るい。軽石(径2mm以下)を1%含む。
- 3 暗オリーブ褐色土 V層ブロック(径15mm程度)を1%含む。

土坑 4 区314 土層注記

- 1 ぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)を1%弱含む。V層粒(径1~2mm)・炭化物(径3mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)・V層粒(径1~2mm)を微量含む。V層ブロック(径20mm程度)を3%含む。
- 3 暗褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)・V層粒(径1~2mm)を微量含む。V層ブロック(径20~40mm)20%含む。
- 4 黒褐色土 粘質土。V層ブロック(径2~20mm)を20%含む。

土坑 4 区315 土層注記

- 1 ぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)1%・V層粒(径1~2mm)1%弱を含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)微量。V層粒(径1~2mm)1%弱を含む。V層が楕状に10%混入。
- 3 黒褐色土 黒褐色粘質土とV層の混合土。(4:1)

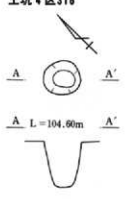
土坑 4 区317 土層注記

- 1 ぶい黄褐色土 シルト質。V層粒1%弱含む。V層が楕状に3%混入。
- 2 ぶい黄褐色土 シルト質。V層ブロック(径5~20mm)を5%含む。
- 3 黒褐色土 シルト質。V層ブロック(径5~20mm)を20%含む。

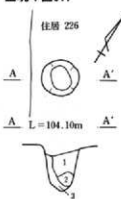
土坑 4 区318 土層注記

- 1 ぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1~3mm)1%とV層粒(径1~2mm)を含む。
- 3 ぶい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm)微量・V層粒(径1~2mm)微量含む。

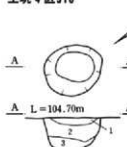
土坑 4 区316



土坑 4 区317



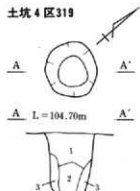
土坑 4 区318



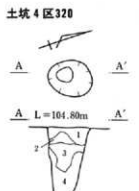
0 1:40 1m

33図 土坑 4 区262・263・302・303・314・315・316・317・318遺構図

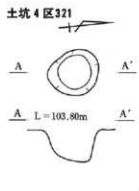
土坑 4 区319



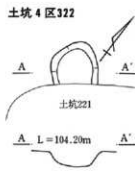
土坑 4 区320



土坑 4 区321



土坑 4 区322



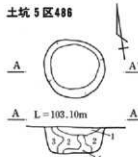
土坑 4 区319 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。白色軽石(径1~2mm)微量・Ⅷ層粒(径1~3mm)1%・炭化粒(径2mm)微量含む。
- 2 におい黄褐色土 粘質土。白色軽石(径1mm)微量・Ⅷ層粒(径1~3mm)1%・炭化粒(径2mm)微量含む。
- 3 黒褐色土 シルト質。Ⅷ層粒(径1~3mm)1%弱・炭化粒(径1mm)極微量含む。

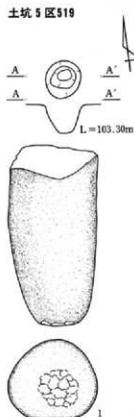
土坑 4 区320 土層注記

- 1 におい黄褐色土 シルト質。白色軽石(径1~3mm)1%弱・Ⅷ層ブロック(径5~20mm)1%・炭化物(径5mm)微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。白色軽石(径1~3mm)1%弱・Ⅷ層ブロック粒(径2~5mm)1%含む。
- 3 褐色土 シルト質。白色軽石(径1mm未満)極微量・Ⅷ層ブロック粒(径1~5mm)1%弱含む。
- 4 におい褐色土 シルト質。Ⅷ層ブロック粒(径1~3mm)を3%含む。

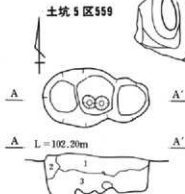
土坑 5 区486



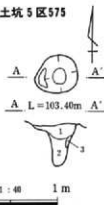
土坑 5 区519



土坑 5 区559



土坑 5 区575



土坑 5 区486 土層注記

- 1 黒褐色土 Ⅷ層に類似。Ⅷ層ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 Ⅷ層に類似。白色粒20%・Ⅷ層ブロック5%含む。
- 3 暗オリーブ褐色土 Ⅷ層に類似。Ⅷ層ブロックを30~50%含む。
- 4 黄褐色土 Ⅷ層のブロック。

土坑 5 区559 土層注記

- 1 暗褐色土 Ⅷ層相当の土。As-Cを5~10%含む。
- 2 褐色土 1にシルト質土が混入。As-Cを2~3%含む。
- 3 暗褐色土 1にシルトブロック(径2~5cm)を1~3%含む。

土坑 5 区575 土層注記

- 1 におい黄褐色土 As-Y P(径1~3mm)を5%含む。
- 2 褐色土 As-Y Pを1%含む。
- 3 褐色土 As-Y Pを3%含む。

34図 土坑 4 区319・320・321・322・5 区486・519・559・575 遺構図・遺物図

(9) 溝

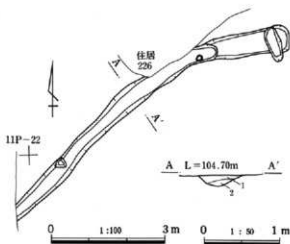
溝4区277

4区調査区北西部、11P-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳時代古墳105、弥生時代住居226と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東側を古墳105の周堀、西側が調査区外に存在するため不明瞭な点が多い。

形状は僅かに弧状を呈す。規模は全長8.86m、幅は0.42~0.60mで平均0.50m、深度5~10cmを測る。

埋没土は僅かにⅧ層ブロックをⅦ層に近い黒褐色土で埋没している。

遺物は土器が微細片が出土している程度である。



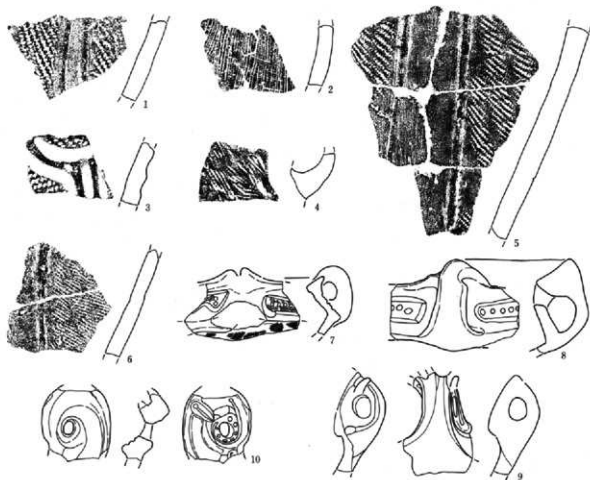
溝4区277 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。Ⅶ層に類似。
- 2 黒褐色土 シルト質。Ⅶ層にⅧ層ブロック(径5cm)を1%含む。

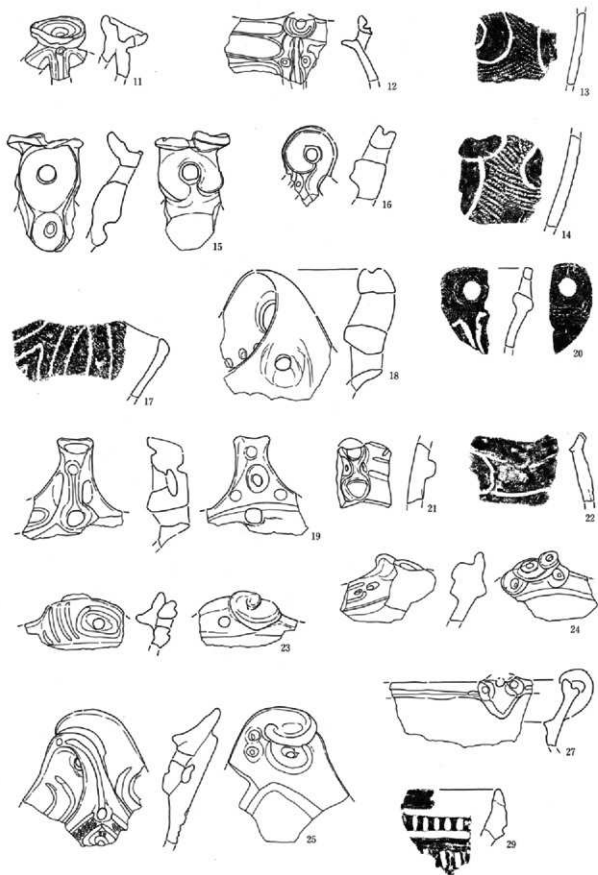
35図 溝4区277遺構図

(10) 遺構外出土遺物

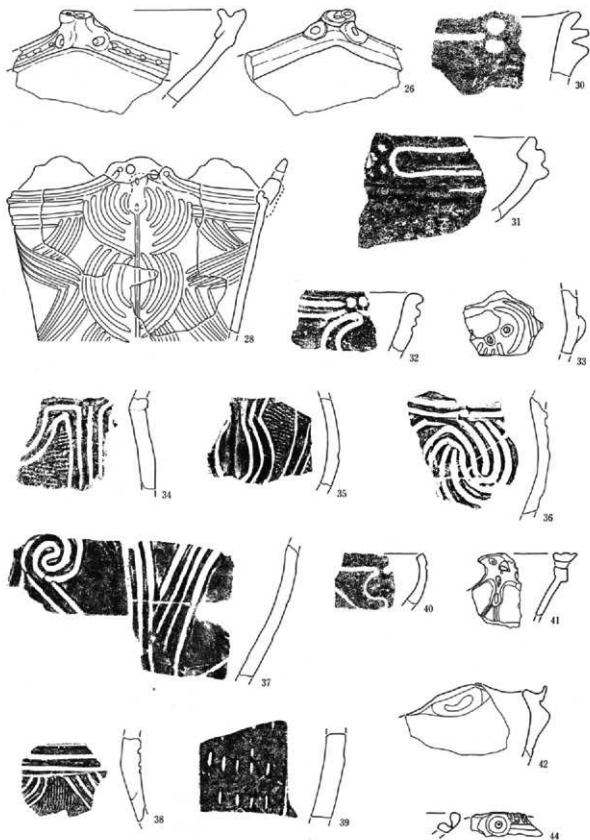
2区遺構外出土遺物



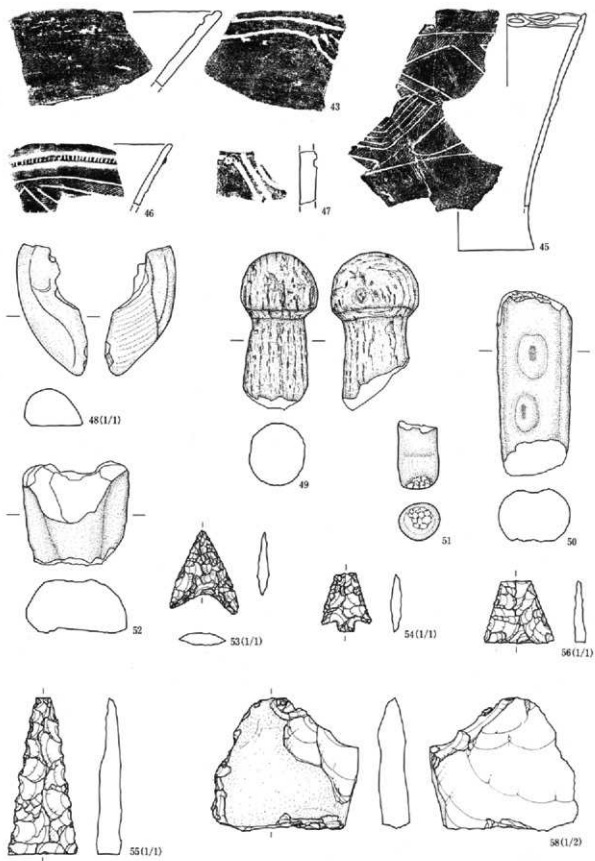
36図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(1)



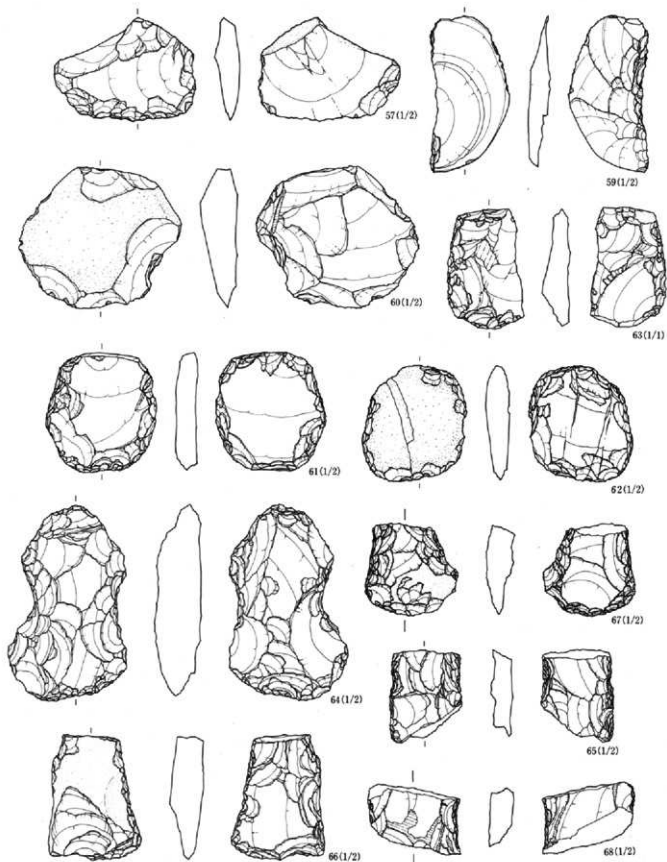
37図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(2)



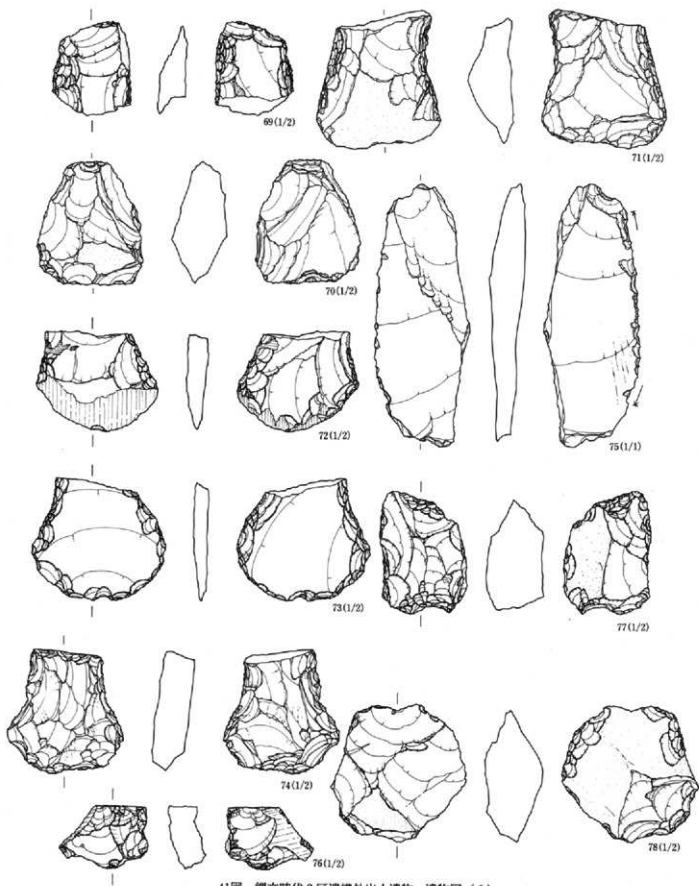
38图 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(3)



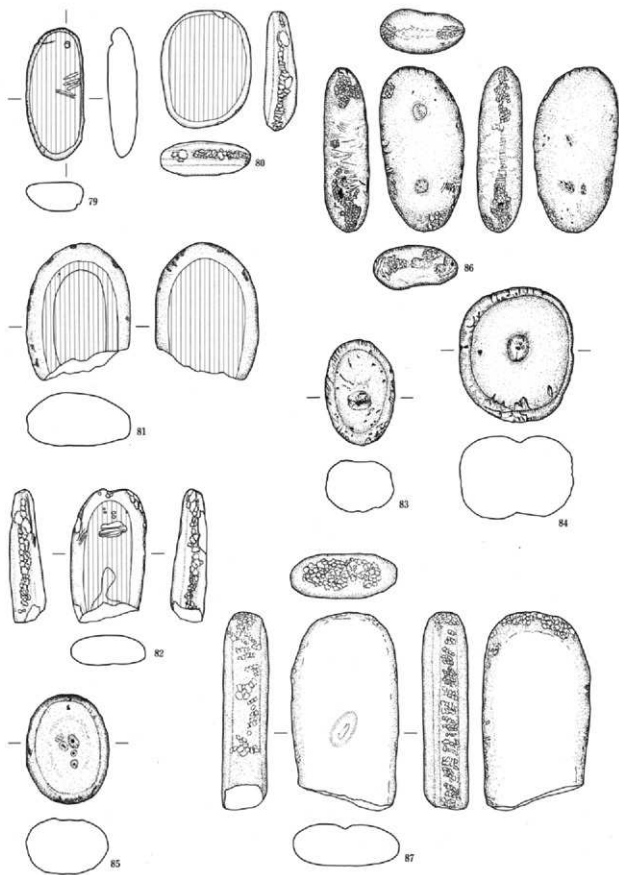
39図 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(4)



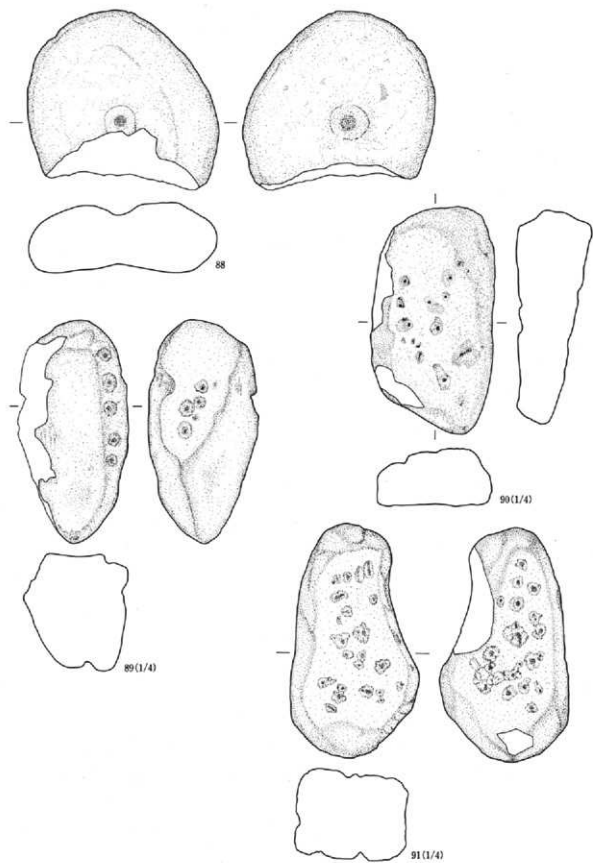
40圖 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(5)



41图 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(6)

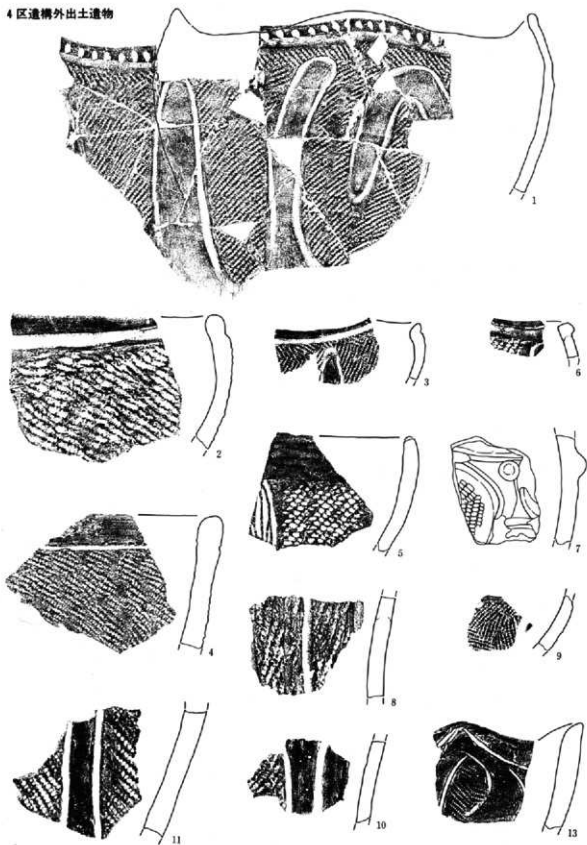


42图 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(7)

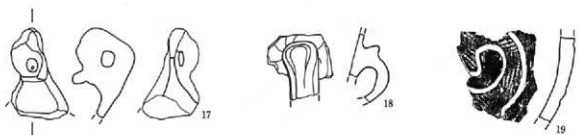
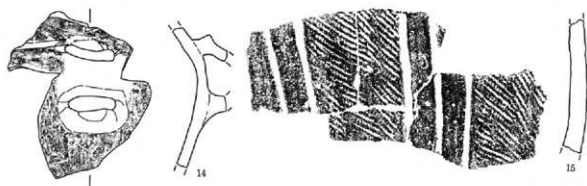
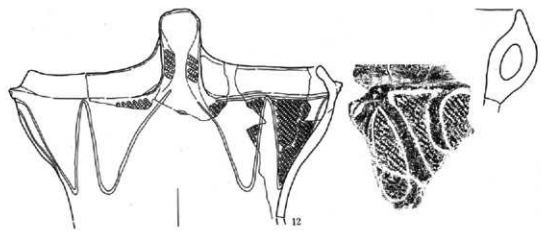


43圖 縄文時代2区遺構外出土遺物 遺物図(8)

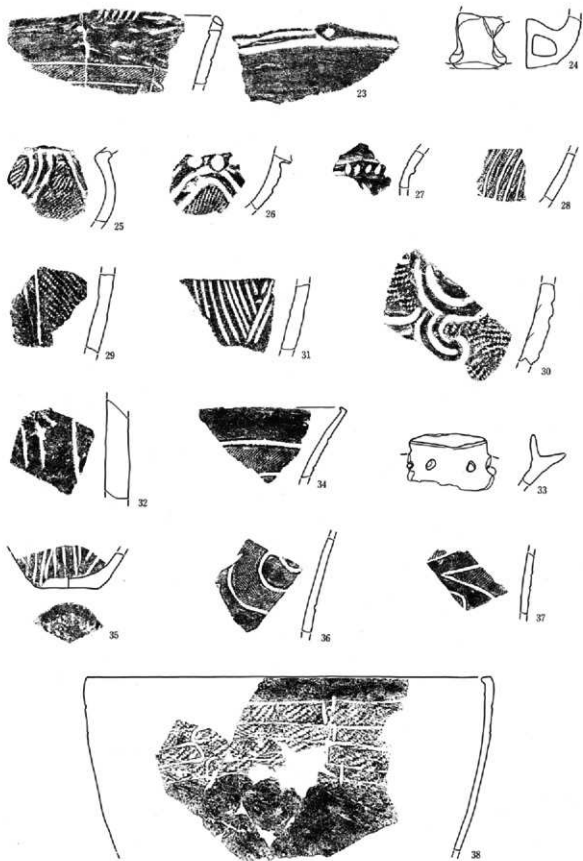
4区遺構外出土遺物



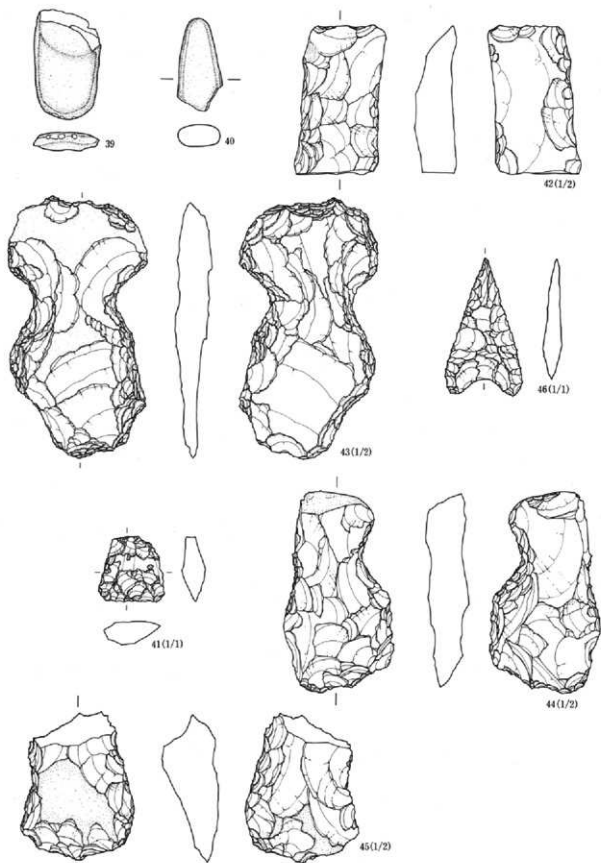
44図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(1)



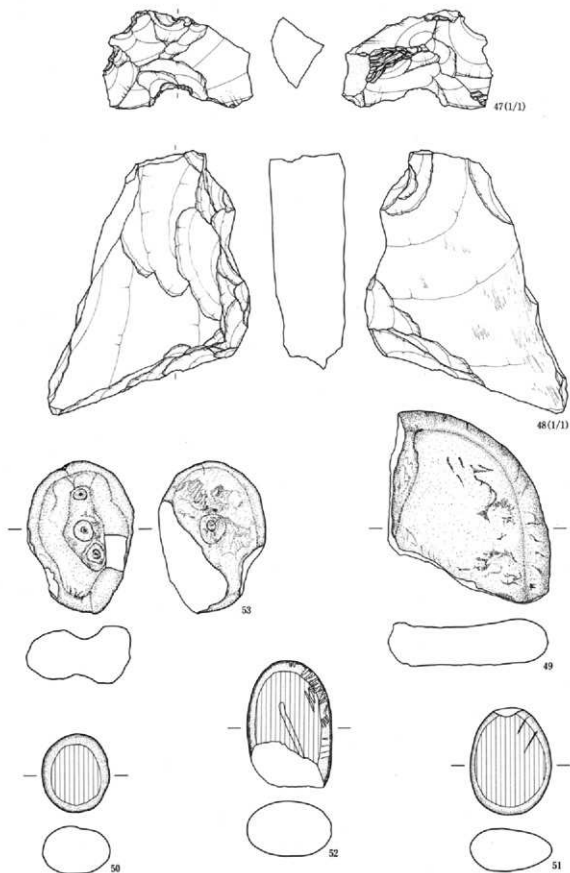
45図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(2)



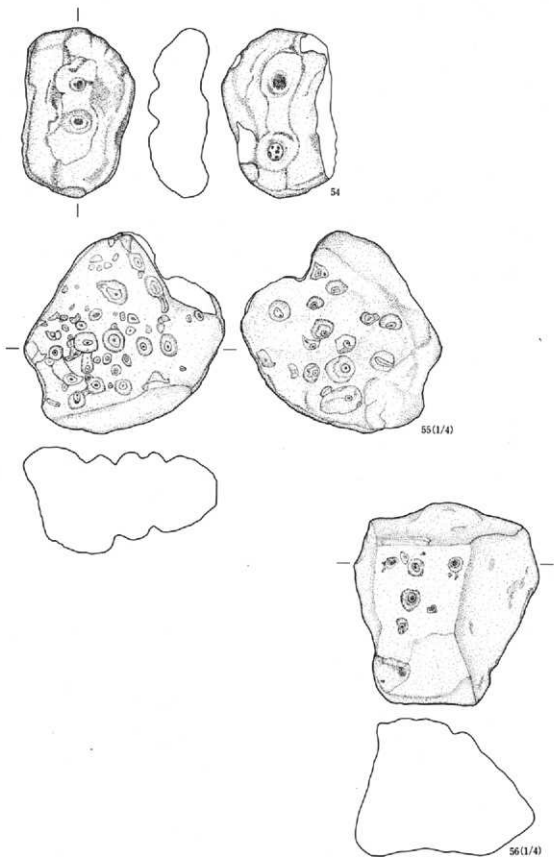
46图 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(3)



47図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(4)

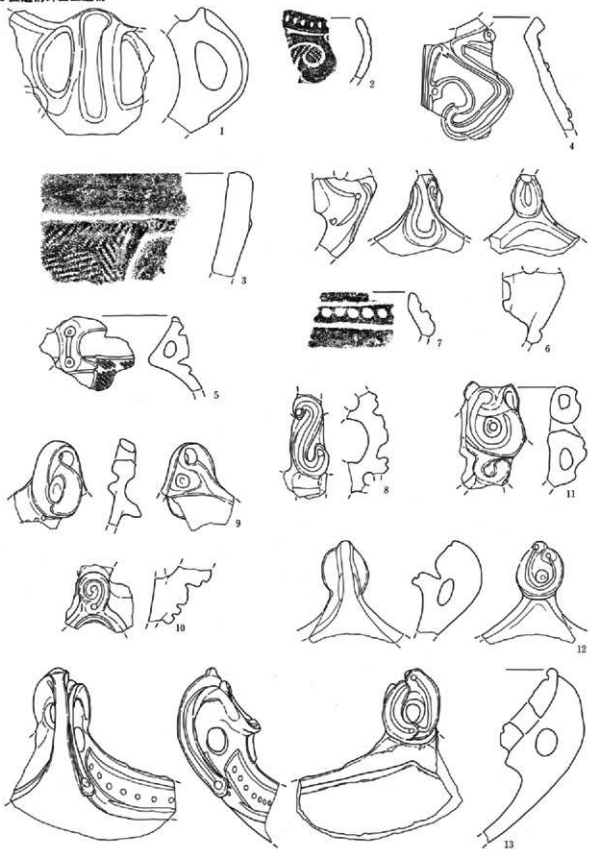


48図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(5)



49図 縄文時代4区遺構外出土遺物 遺物図(6)

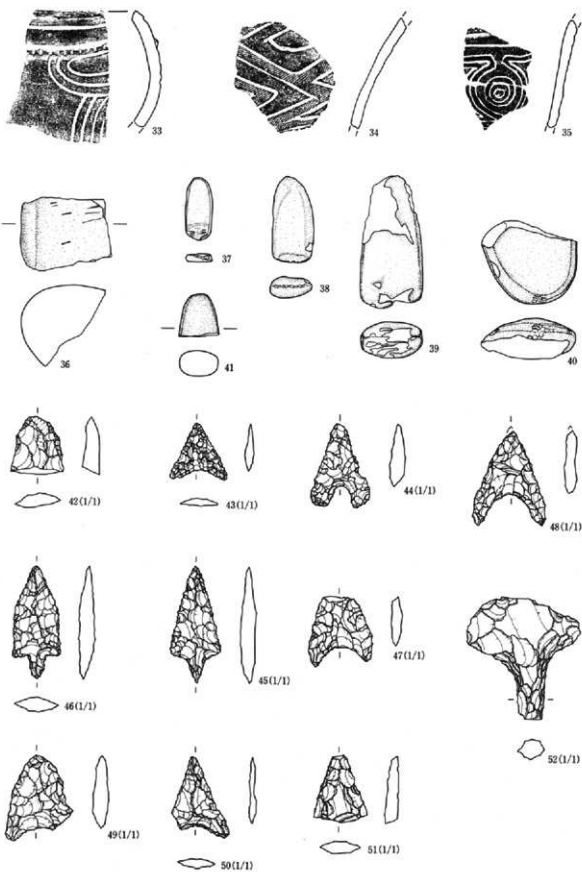
5区遺構外出土遺物



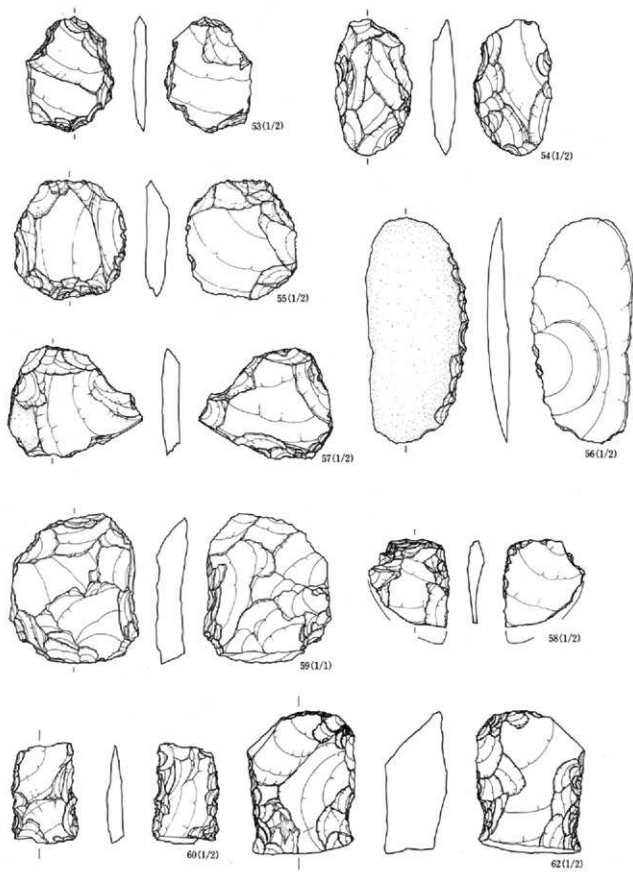
50图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(1)



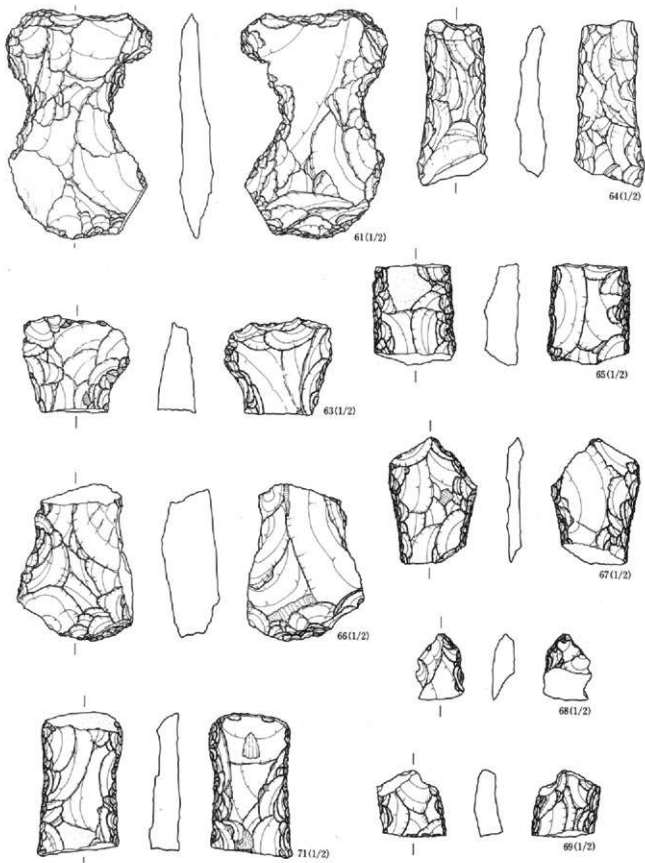
51图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(2)



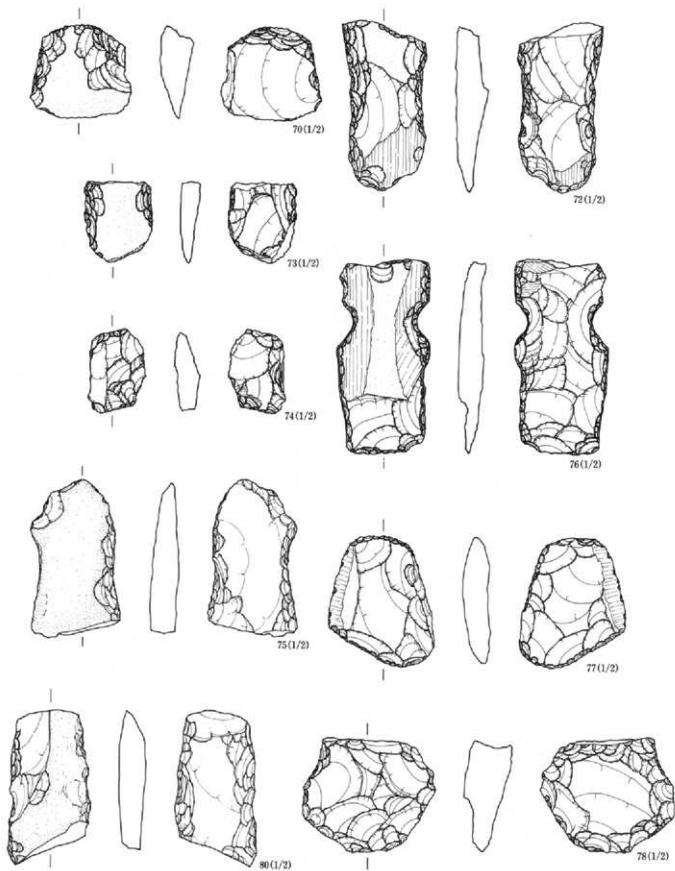
52图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(3)



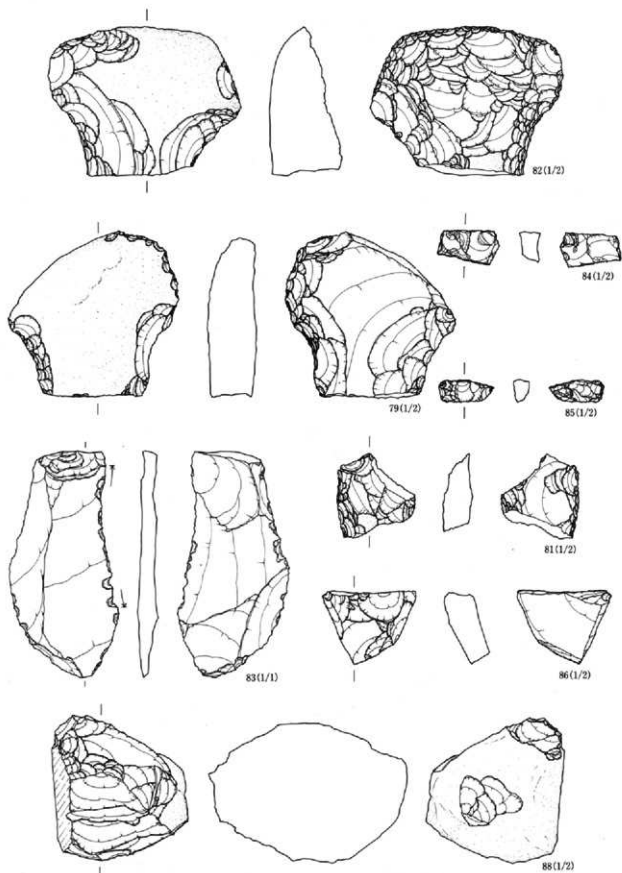
53图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(4)



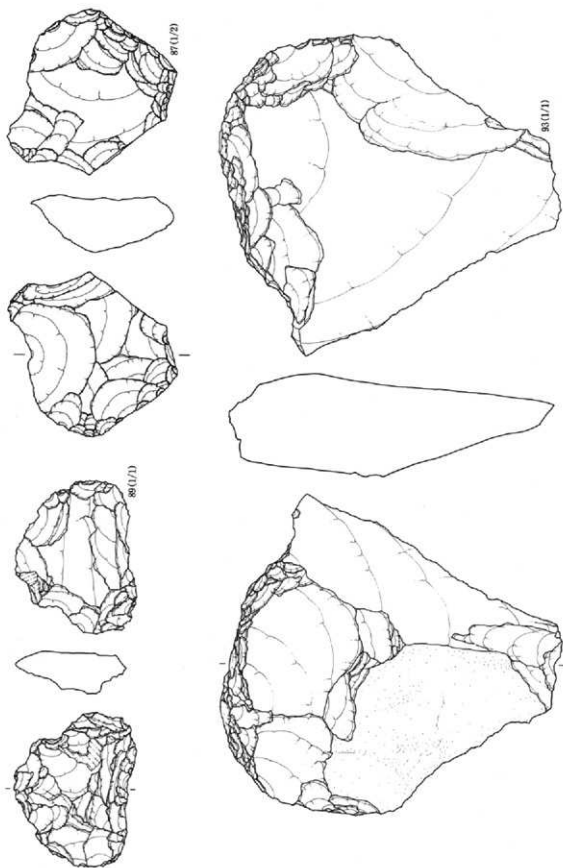
54図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(5)



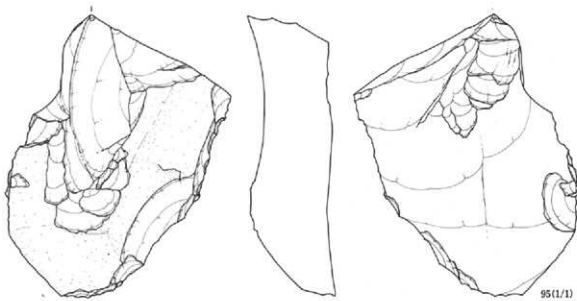
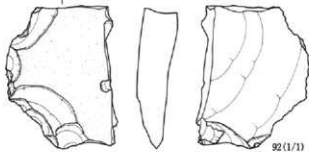
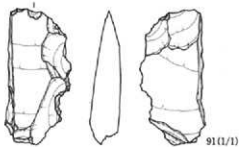
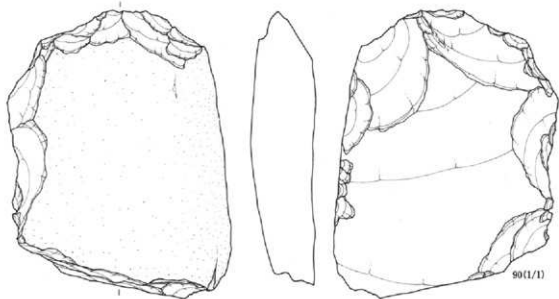
55図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(6)



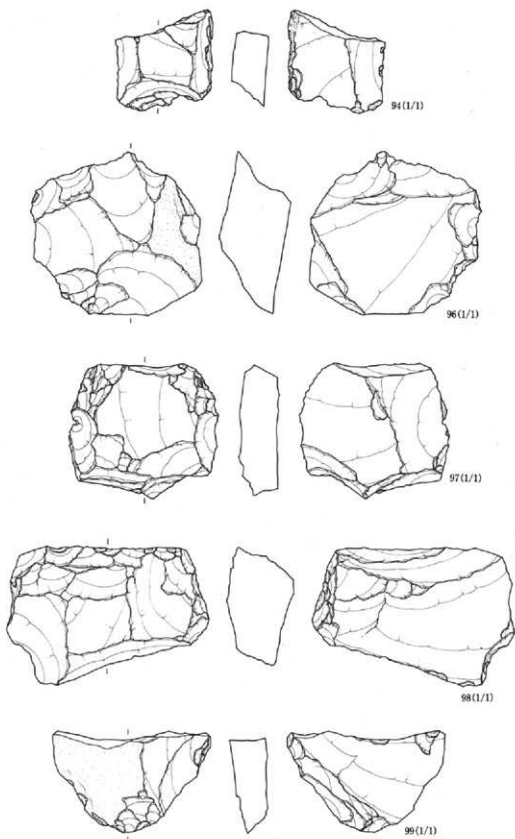
56图 鬲文时代5区遺構外出土遺物 遺物図(7)



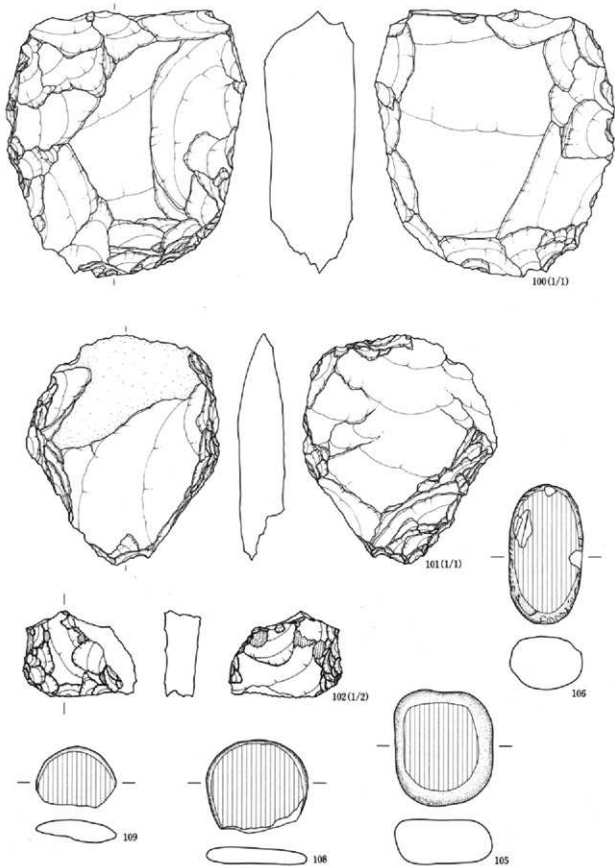
57圖 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(8)



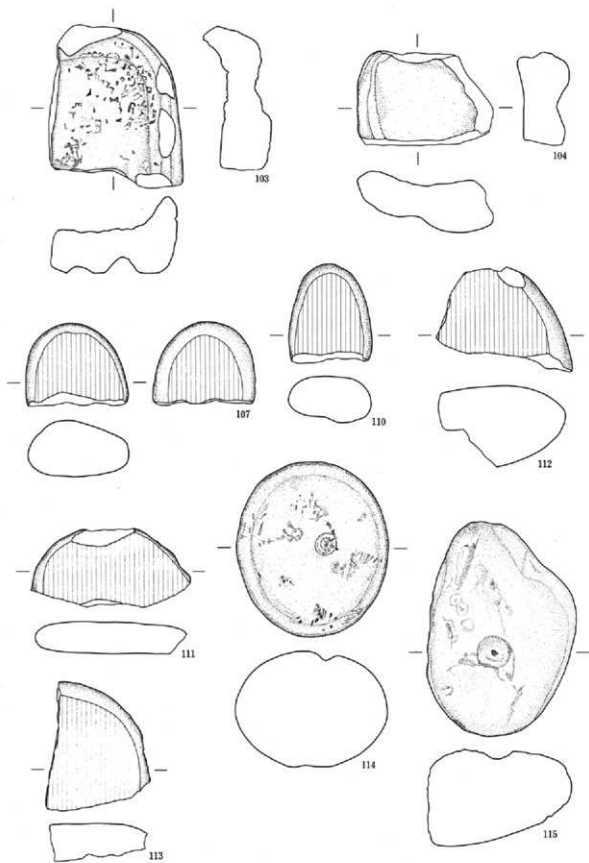
58図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(9)



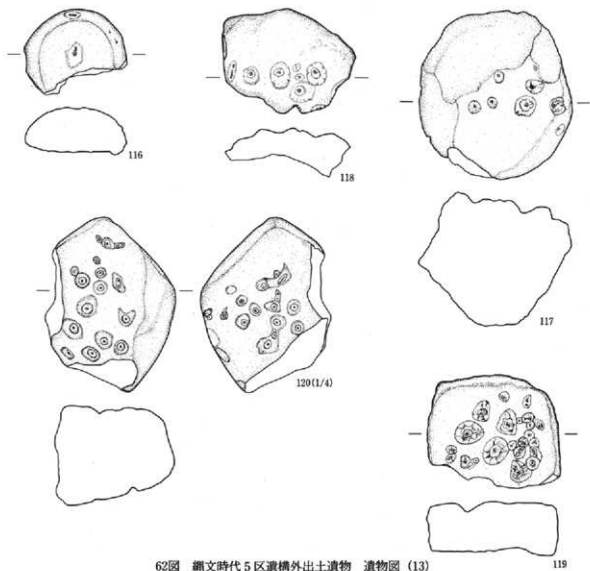
59図 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(10)



60图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(11)

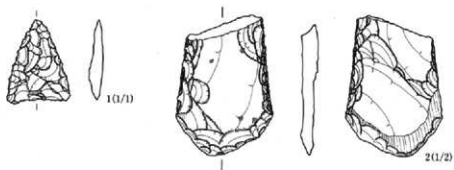


61图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図(12)



62图 縄文時代5区遺構外出土遺物 遺物図 (13)

6区遺構外出土遺物



63图 縄文時代6区遺構外出土遺物 遺物図

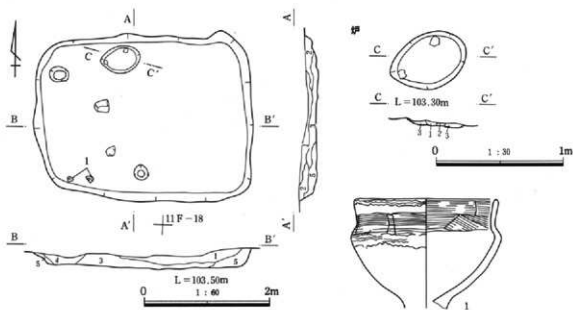
3. 弥生時代の遺構・遺物

(1) 住居

住居 4区167

4区調査区南部、11F-17・18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は本住居の西辺で中世の土坑と接する他は確認されなかった。残存状態は上部にあたるVI層までを現代の掘削で削平されているが比較的良好である。

形態は東辺が西辺より25cm長く、各辺の中程がやや張る隅円長方形を呈す。規模は長軸3.47m、短軸2.57m、各辺の長さは北3.00m、東2.40m、南2.96m、西2.15mを測る。面積は7.2m²である。主軸方位はN-84°-Eを指す。



住居 4区167 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック(径5~20mm)を20%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック(径5~20mm)を40%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック(径10mm前後)10%・炭化物2~3%含む。
- 4 黒色土 VII層に類似。VII層ブロック(径5~10mm)を10%含む。
- 5 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック(径5~20mm)を30%含む。

住居 4区167 炉 土層注記

- 1 黒色土 黒色灰主体。VII層ブロック(径5~10mm)を5%含む。
- 2 明黄褐色土 VII層ブロック主体。1のブロックを1%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。VII層小ブロック(径5mm前後)を10%と1のブロックを1%含む。

内部施設は北西角と南辺中程で径20cmの小ピットを検出したが柱穴、貯蔵穴、周溝などは確認されなかった。床面はVII層をそのまま踏み固めている。

炉は北辺際に位置する。形態は楕円形で規模は径63×53cm、深度3cmである。燃焼面は多少焼土化している程度である。

掘方は確認されなかった。

埋没状態は断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

遺物は壺、甕の小破片が若干出土している程度で図化可能な遺物も1の台付甕だけである。なお、1は住居南西隅の床面からの出土である。

本住居の時期は出土遺物から弥生時代後期樽期に比定される。

64図 住居 4区167遺構図・遺物図

住居 4 区 215

4区調査区中程の西より、11H・I-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は南辺中程で土坑214と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は北西角を現代の攪乱によって欠くが比較的良好である。

形態は西南角にやや丸みをもつがほぼ長方形を呈す。規模は長軸3.87m、短軸3.16m、各辺の長さは北3.80m、東2.97m、南3.60m、西2.30mを測る。壁高は北辺14~21cm、東辺17~22cm、南辺16~18cm、西辺14~17cmで平均18cmである。面積は10.4m²である。主軸方位はN-53°-Eを指す。

内部施設は周溝を南辺の一部で検出したが柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。周溝は南辺壁際の西半と中程に存在した。規模は幅15~18cm、深度2~3cmである。この他北辺よりで径45cm、深度10cmほどの掘り込みに2の壺を据えた土坑を検出した。

床面は全面ではないが貼床が施され全面を踏み固めて硬化面している。炉は確認されなかった。

掘方は住居構築時に掘削した痕跡と思われる小ピット状の掘り込みを多数検出したが床下土坑のような施設は検出されなかった。

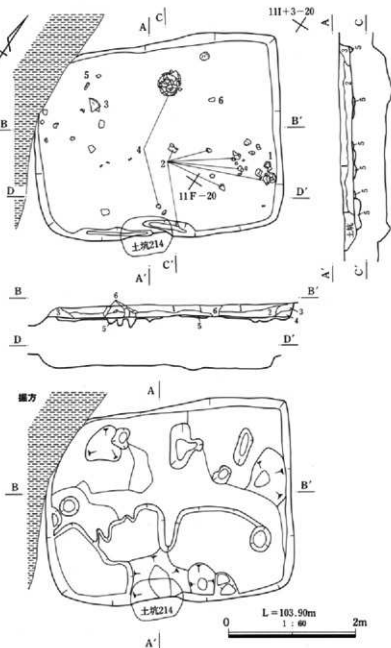
埋没状態は壁際で周囲から流れ込んだ三角堆積が中程はⅦ層に近似した黒色土により水平堆積が観察できることから自然埋没であると想定される。

遺物の出土は壺、壺、高坏などを中心に量的には少量であるが住居床面全体に散乱した状態であるが東南部に若干まとまりが見られる。ここからは1の台付壺、2の壺が出土しているが1は床面、2は床上10~17cmから出土している。4の壺は北側の貯蔵穴からの出土である。

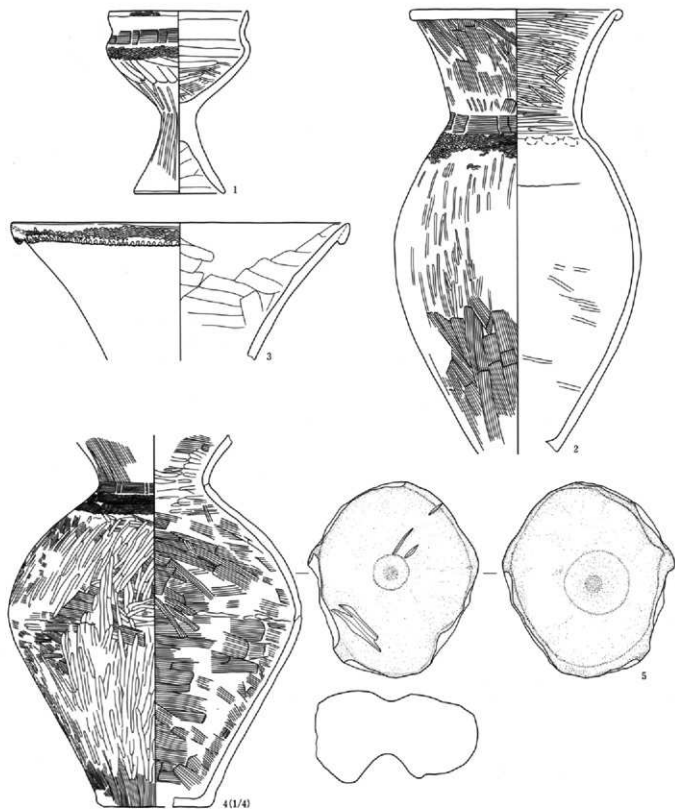
本住居の時期は出土遺物から弥生時代後期樽期に比定される。

住居 4 区 215 土層注記

- 1 黒褐色土 黒色土はⅦ層に近似か、Ⅶ層較10%と白色軽石較5%含む。
- 2 黒褐色土 黒色土はⅦ層に近似か、Ⅶ層較10%と白色軽石較を3%含む。
- 3 暗オリーブ褐色土 黒色土はⅦ層に近似か、Ⅶ層ブロック(径5~20mm)を30%含む。
- 4 黒色土 黒色土はⅦ層に類似、Ⅶ層ブロック(径10~30mm)を5%含む。
- 5 オリーブ褐色土 Ⅶ層似層にⅦ層混入、Ⅶ層ブロック(径2~10mm)を5%含む。
- 6 黒褐色土 Ⅶ層ブロック



65図 住居 4 区 215遺構図



66图 住居4区215遺物圖

(2) 壺 棺

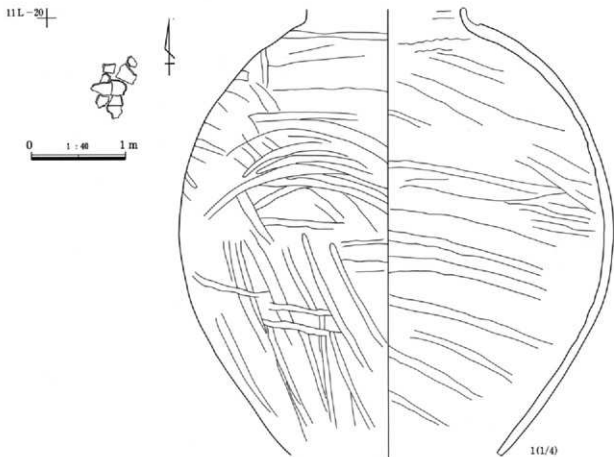
壺棺 4区100

4区調査区中程、11L-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世火葬跡4区28、中世墓坑4区103と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は重複する中世遺構の掘削時に土器の一部を壊されている。こうした土器の一部が中世墓坑内部より出土している。

遺構は3面の確認面では掘り込みなどの痕跡は確

認されなかった。土器の出土だけであるが周囲には「小八木志志貝戸遺跡群1」に掲載されているような壺棺多くが存在することから本遺構も壺棺と同定した。

出土した壺は口縁部を頸部から打ち欠かれている。底部は中世遺構の掘削時に欠落したと想定される。頸部を塞いでいたと想定される土器については壺棺埋納後の耕作などで欠落してしまったようである。また、壺の下位の土層からは骨片などの他の遺物は出土しなかった。



67図 壺棺 4区180遺構図・遺物図

(3) 土 坑

土坑 4区211

4区調査区の南より、11H-18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は土坑4区191と重複するが、重複する191が人工的な掘り込みなのか自然による落ち込みなのかは明確ではない。新旧関係についても不明確ではあるが本遺構の方が新しいと想定される。

形態は楕円形を呈し、規模は長径0.74m、短径0.58m、深度0.16mを測る。埋没土は上位にVI層が確認されたが大部分はVII層によって埋没している。土坑南端からは1の壺が出土している。

土坑 4 区 306

4 区調査区中程、11K-18グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は小ピットと風倒木と重複する。新旧関係は本遺構の方が風倒木より新しく小ピットより古い。

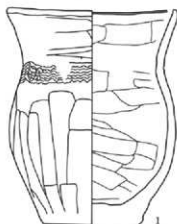
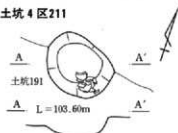
形態は楕円形を呈し、規模は長径0.72m、短径0.40m、深度0.22mを測る。埋没土は僅かにAs-Cを含むVII層で埋没していることから自然埋没と想定される。遺物は茶銅片が出土している。

土坑 4 区 307

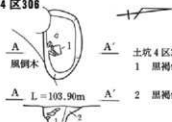
4 区調査区の東より、11J-17グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は細い溝状遺構と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。

形態は南辺がやや弧を描くが逆台形に近い矩形を呈す。規模は長軸1.02m、短径0.90m、深度0.18mを測る。埋没土はVII層とVIII層の混合した状態を観察できることから人為的な埋戻しが行われたと想定される。遺物は確認面付近から壺と甕の底部が出土している。

土坑 4 区 211



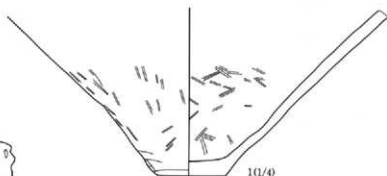
土坑 4 区 306



土坑 4 区 306 土層注記
1 黒褐色土 VII層に類似。As-Cを1%含む。VII層に類似。VIII層移層混入。



土坑 4 区 307



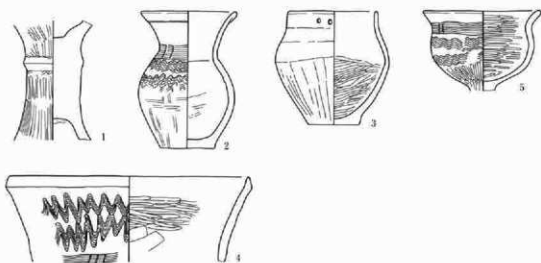
土坑 4 区 307 土層注記
1 黒褐色土 VIIとVIII層移層の混合土 (5:5)。
2 暗オリーブ色土 1に類似。1よりVIII層移層の割合が多い (3:7)。
3 オリーブ褐色土 VIII層移層主体。VII層混入。(2割)

0 1:40 1 m

68図 土坑 4 区 211・306・307 遺構図・遺物図

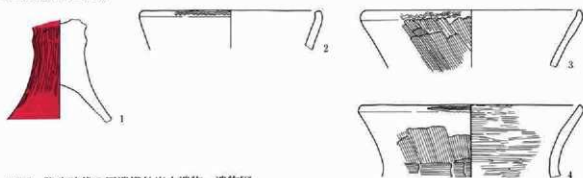
(4) 遺構外出土遺物

4区遺構外出土遺物



69図 弥生時代4区遺構外出土遺物 遺物図

5区遺構外出土遺物



70図 弥生時代5区遺構外出土遺物 遺物図

4. 古墳時代の遺構・遺物

(1) 住居

住居 4区161

4区調査区南の東端、11E・F-15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は住居4区160と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は上部を現代の覆乱や古代住居4区160によって削平されているためよい状態ではない。また、住居東半は調査区外に位置するため全貌は不明である。

形態は方形、または長方形を呈する。規模は長軸3.0m+α、短軸2.74m、西辺の長さは3.12mを測る。

壁高は削平されていない土層観察断面北側で25cmが観察できた。主軸方位はN-65°-Eを指す。

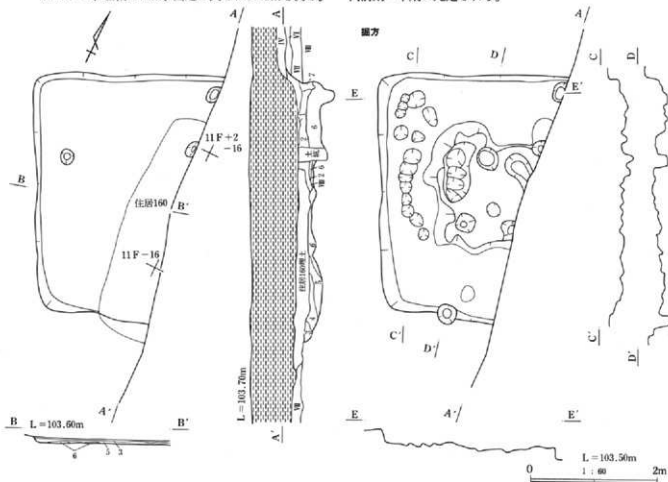
内部施設は確認されなかった。床面貼床が施され踏み固めら硬化面が施されている。

掘方は周辺部が中央部より10~20cmほど掘り下げられ、掘削時の小さな凹凸がそのまま残されている。

埋没状態は上部を削平されているため明確ではないが断面北側の観察から自然埋没と想定される。

遺物は土師器甕、杯などの小片が若干出土しているが図化可能なものはなかった。

本住居の時期は出土遺物、埋没土などから古墳時代前期~中期に比定される。



住居 4区161 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層・VI層の混合土、VII層ブロックを10%とAs-Cを2%含む。
- 2 黒褐色土 VII層主体、VIII層ブロック(径10~20mm)を10%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体、VIII層ブロック(径3~5mm)5%・As-C? 1%含む。

- 4 黒褐色土 VII層主体、VIII層ブロック(径10~40mm)20%・As-C 3%含む。
- 5 黒褐色土 VII層主体、VIII層ブロック(径10~50mm)30%・As-C 3%含む。
- 6 黒色土 VII層ブロックとVIII層ブロックの混合土。(5:5)
- 7 黒褐色土 3に類似。3よりVIII層ブロックが細かく、やや多い。

71図 住居4区161遺構図

住居 5 区 457

5 区調査区の北西角隅、11C・D-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は 3 面では確認されなかった。残存状態は比較的良好であるが住居の 4 分の 3 が調査区外に位置するため詳細は不明である。

形態は調査範囲から隅円方形ないしは長方形を呈すると想定される。規模は長軸・短軸とも 3.50m 以上である。壁高は確認面から 5cm 前後を測る。主軸方位は N-67°-E を指す。

内部施設は貯蔵穴を南辺際で検出した。形態は円形で規模は径 59×56cm、深度 38cm を測る。内部からは土師器小形碗 1、2 や土師器壺片などが出土している。床面は 5~10cm ほど黒色土で貼床を施している。

炉は貯蔵穴北側から浅い落ち込みが 2 カ所検出されておりこのうちのどちらかであると想定されるが

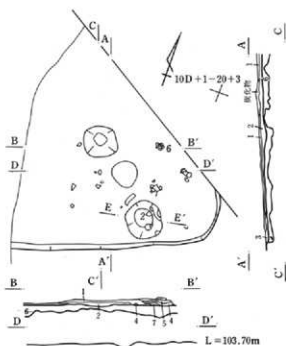
明確ではない。

住居の掘方は径 20~30cm の浅い凹凸が連続しており掘り起こしたままの粗い状態である。

埋没土状態は確認面から床面までが浅いため不明瞭であるが床面と建築部材の間には VII 層に近い黒色土が堆積しており、住居焼失後周囲の土層が流入したものと考えられる。

本住居は床面よりやや上位で建築部材と想定される炭化材が多量に出土していたり床面の一部が焼土化していることから焼失家屋である。出土した建築部材と想定される炭化材は樹種同定の結果ではすべてクスギ節である。(詳細は V 章を参照)

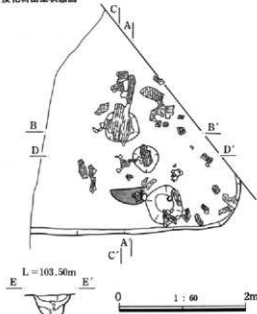
遺物出土状態は 1、2 の土師器小形碗が貯蔵穴、他は東南角付近の床面より 10cm 程度上位から 3 の土師器小形壺、4~7 の土師器壺、壺が出土している。本住居の時期は古墳時代前期に比定される。



住居 5 区 457 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。As-C? を 2~3% 含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VII層の小ブロック (径 5~10mm) を 10% 含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。VII層の小ブロック (径 5~10mm) を 2~3% 含む。
- 4 黒褐色土 I に類似。
- 5 黒褐色土 I に類似。I より As-C がやや多い。
- 6 黒色土 VII層と VIII層の混合土。
- 7 VII層ブロック。

炭化材出土状態図

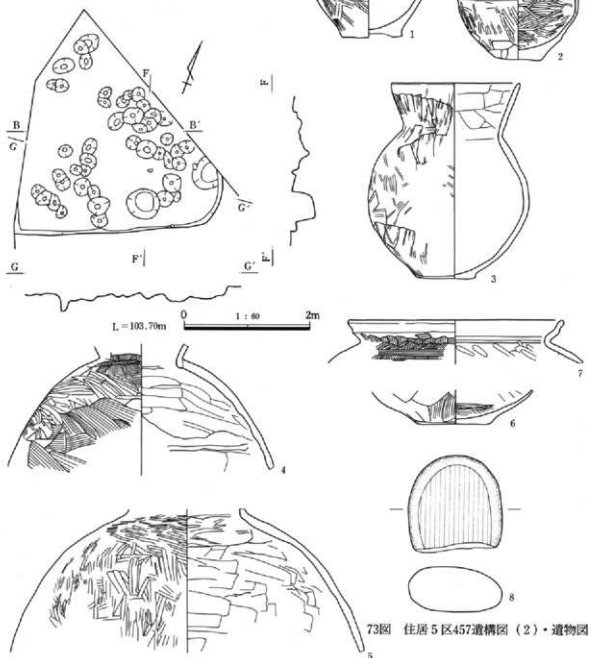


住居 5 区 457 貯蔵穴 土層注記

- 1 褐色土 砂質土。As-C (径 1~5mm) 5%・ローム粒 (径 3mm~1cm) 1% 含む。
- 2 暗褐色土 As-C (径 1~5mm) を 10% 含む。下層部は、やや粘質性をもつ。
- 3 黒褐色土 As-C (径 1~3mm) を 2% 含む。焼土粒を部分的に 2% 含む。下層部にロームブロック (径 5mm~1cm) を 20% 含む。

72図 住居 5 区 457 遺構図 (1)

圖方



73図 住居5区457遺構図(2)・遺物図

住居4区226

4区調査区北、11P・Q-20・21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は弥生時代土坑4区225と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。残存状態は床面の一部を重複する土坑4区225によって欠くが他は良好な状態である。

形態はやや歪みはみられるがほぼ方形を呈す。規模は長軸4.62m、短軸4.59m、各辺の長さは北4.30m、東4.27m、南4.50m、西4.55mを測る。壁高は12

~31cmで平均21cmである。床面積は19.2㎡である。

主軸方位はN-60°-Eを指す。

内部施設は周溝を検出したが柱穴、貯蔵穴などは確認されなかった。周溝は北辺の中程3分の1を除く箇所と西辺から南辺の西4分の3に存在する。北辺の東側は壁際から10~25cmほど離れている。規模は幅10~30cm、深度2~6cmである。床面は周囲より中央部が5cmほど高くなるように貼床が施され、全面踏み固められ硬化面化している。

炉は中央北寄りに位置する。規模は径42×34cm、深度4cmである。炉底面は僅かに焼土粒が確認できる程度でほとんど使用されていないようである。

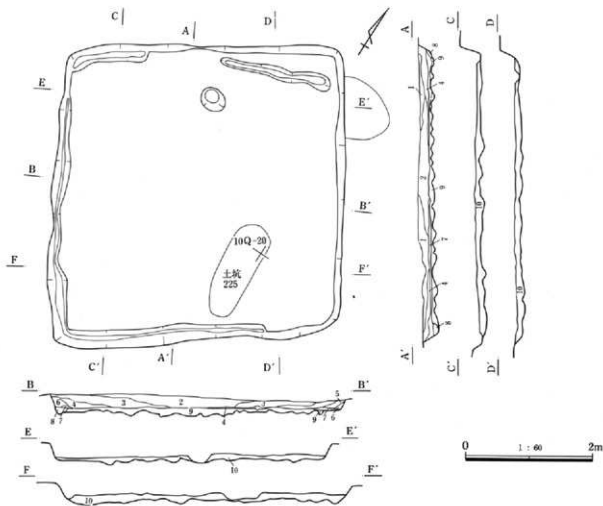
掘方は細かい凹凸が確認できたが床下土坑などの施設は確認されなかった。

埋没状態はVI層主体の土砂がレンズ状に堆積した

様子が観察できることから自然埋没である。

遺物は図示した土師器杯、高坏の各1点のほか土師器甕、杯の小片が微量出土している程度である。

本住居の時期は出土遺物などから古墳時代中期6世紀中葉に比定される。



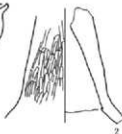
住居4区226 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層類似。粘性やや有り、しまりやや弱い。白色軽石(径3mm)2%・Ⅷ層ブロック(径20mm以下)1%割合含む。
- 2 黒褐色土 粘性やや有り、しまりやや弱い。白色軽石(径2mm)1%割合・Ⅷ層ブロック(径50~20mm)2%含む。
- 3 黒褐色土 VI層類似。粘性やや有り、しまり弱い。白色軽石(径4mm)2%・Ⅷ層ブロック(径4mm以下)微量含む。
- 4 褐色土 シルトと砂質土の混合層。白色軽石(径2mm)1%未満・Ⅷ層ブロック(径3mm)1%含む。
- 5 黒褐色土 4に近似。白色軽石(径2mm)1%・Ⅷ層粒(径2mm)微量含む。
- 6 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。Ⅷ層ブロック(径3mm以下)を微量含む。
- 7 黒褐色土 シルトとⅧ層ブロックの混合層。しまりやや強い。Ⅷ層ブロック(径15mm以下)を30%含む。
- 8 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。Ⅷ層粒(径2mm)を微量含む。
- 9 におい黄褐色土 シルト質。Ⅶ・Ⅷ層の混合土。白色軽石(径1~4mm)1%・Ⅷ層粒ブロック(径3~30mm)20%含む。
- 10 におい黄褐色土 VI層、Ⅷ層、Ⅷ層ブロックの混合土。

74図 住居4区226遺構図



75図 住居4区226遺物図



(2) 古墳

古墳4区105

4区調査区中央よりやや北、11M~P-17~20グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世溝4区01、中世墓坑群、溝4区108などと重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態では墳丘は削平されており周堀だけの状態である。

形態は周堀東側で丸みが見られ円墳と想定されるが、北側や西側では比較的直線的要素が見られることから方墳の可能性も窺える。規模は墳丘部分が南北11.3m、東西10.7mを測る。周堀を含む規模は南北16.0m、東西17.6mを測る。周堀外周での面積は約255㎡、墳丘部分の面積は106㎡である。周堀は南側を除く東から北、西側に巡る。規模は幅が3.85~5.00m、深度0.5mほどである。

石室など主体部は掘方を含めて確認されなかったが前庭にあたと想定される箇所では礎のまわりが検出された。この箇所では掘り込みなどは確認でき

ないことから羨道入口の閉塞に使用されていた礎が墳丘削平時に一部残存した物と考えられる。

出土遺物は周堀内より古代から中世にかけての土器、陶器類が多く出土したが、本遺構に伴う遺物は土師器杯、高環、須恵器壺、石製模造品などが僅かに出土した程度であった。

本古墳の時期は出土した遺物から7世紀前半代に比定される。

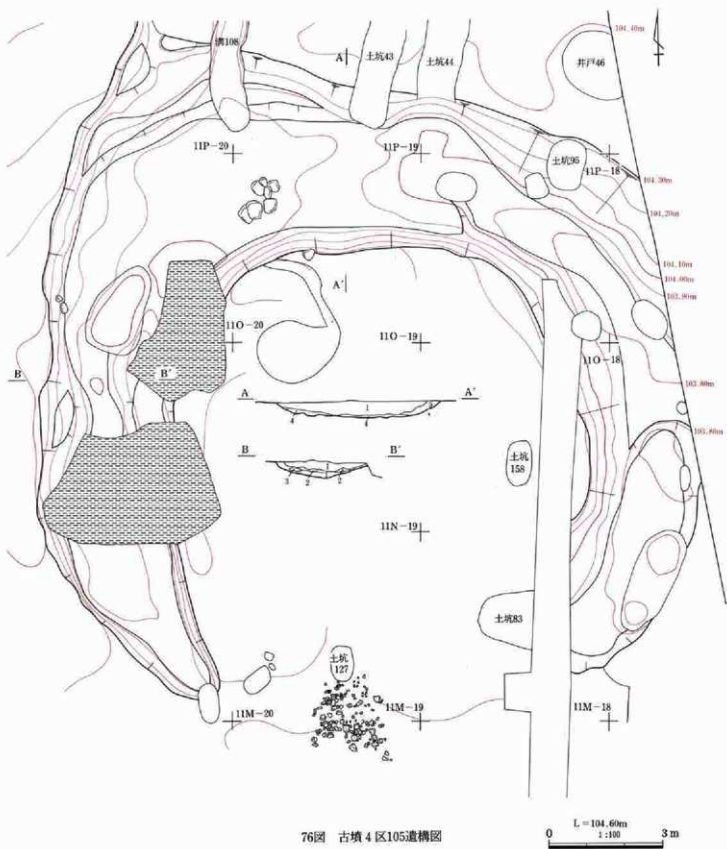
(3) 土坑

4~6区調査区第1面、第2面では数多くの土坑を検出した。これらの土坑のうち出土遺物や重複する遺構などから古墳時代に属すると断定できる土坑は11基だけであった。特に5区調査区では古墳時代の遺構は住居1軒、溝1条を検出したが他の古墳時代に属する遺構は全く検出されなかった。土坑は4区調査区から10基、6区調査区から1基を検出した。遺物は各土坑とも土師器を僅かに出土しているが遺化可能な個体はみられなかった。

個々の土坑の性格についても残存状態や遺物の出土状態から究明できるものはなかった。

7表 古墳時代土坑一覧

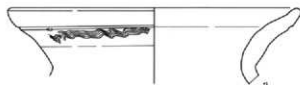
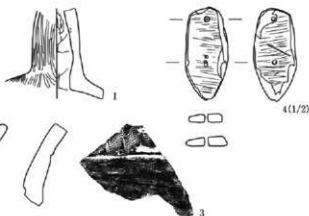
区	遺構NO.	位置	重複関係		形態	規模(単位cm)			備要
			新	旧		長さ	幅	深度	
4	109	11Q-19			不整形	218	(84)	34	
4	110	11P-18	古墳時代溝113(?)		不整形	(68)	44	16	
4	115	11K-19		古墳時代溝115	楕円形	92	56	10	
4	119	11L-18	中世土坑55		楕円形	92	80	40	
4	120	11L-18			不整形	(42)	54	12	
4	124	11J-17			楕円形	288	116	36	
4	125	11J-16			不整形	142	60	30	
4	128	11H-17		古墳時代墓130	楕円形	186	100	36	
4	249	11G-17			不整形	332	262	28	
5	419	10M-16			靴形	44	38	15	
5	466	11A-20			円形	98	86	32	
6	W03	9T-21		古墳時代墓W01	楕円形	75	46	5	
6	W04	9T-20		古墳時代墓W01	靴形	80	40	5	
6	E02	10D-9		古墳時代墓E01	楕円形	68	64	22	



76图 古坟4区105遺構図

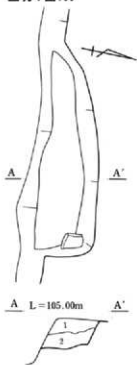
古墳 4区105 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層と同様。
- 2 灰黄褐色土 IV層主体、Ⅷ層ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 IV層主体、Ⅷ層ブロックを10%含む。
- 4 淡黄色土 Ⅷ層主体、IV・VI・Ⅷ層ブロックを30%含む。
- 5 黒褐色土 VI層主体、IV層ブロックを20%含む。

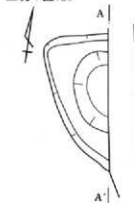


77図 古墳 4区105遺物図

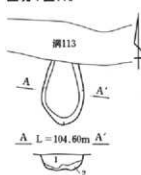
土坑 4区109



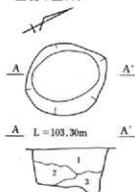
土坑 4区125



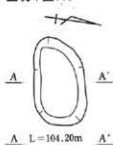
土坑 4区110



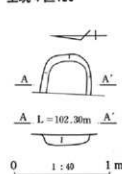
土坑 4区119



土坑 4区115



土坑 4区120



土坑 4区109 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。As-Cを5%含む。
- 2 黒褐色土 IV・VI層の混合土。As-Cを2%含む。

土坑 4区110 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層主体、VI層ブロック20%・Ⅷ層ブロック5%含む。

- 2 明黄褐色土 Ⅷ層主体、Ⅷ層ブロックを20%含む。

土坑 4区115 土層注記

- 1 暗褐色土 IV層に類似、VI層ブロックを5%含む。

土坑 4区119 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層主体、VI層ブロック20%・Ⅷ層ブロック5%含む。

- 2 灰黄褐色土 IV層主体、Ⅷ層ブロックを5%含む。

- 3 暗褐色土 IV層主体、Ⅷ層ブロックを10%含む。

土坑 4区120 土層注記

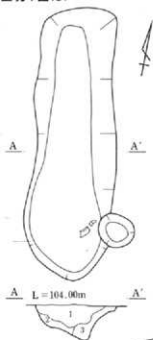
- 1 灰黄褐色土 IV層主体、VI層ブロックを20%含む。

土坑 4区125 土層注記

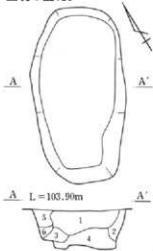
- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。
- 2 黒褐色土 IV層に類似、VI層ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 VI層主体、IV層ブロック30%・Ⅷ層ブロック20%含む。

78図 土坑 4区109・110・115・119・120・125遺構図

土坑 4 区124



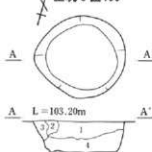
土坑 4 区128



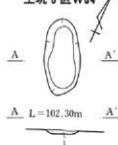
土坑 5 区419



土坑 5 区466



土坑 6 区W04



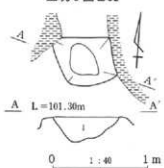
土坑 4 区249



土坑 6 区W03



土坑 6 区E02



土坑 4 区124 土層注記

- 1 灰褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 IV層主体。VI層ブロックを20%含む。
- 3 黒褐色土 VI層主体。IV層混入。

土坑 4 区128 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。
- 2 灰褐色土 II層に近似。
- 3 黒褐色土 IV層に類似。As-Cを5%含む。
- 4 褐色土 IV層に近似。VII層ブロックを20%含む。
- 5 VI層の崩落。
- 6 VII層の崩落。

土坑 4 区249 土層注記

- 1 暗褐色土 シルト質。しまり強い。白色軽石(径1mm)・VII層粒(径2mm)を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質。I層とII層の混合土。
- 3 暗褐色土 シルト質。しまり強い。白色軽石(径1mm)微量・VII層ブロック(径10mm)2%含む。

土坑 5 区466 土層注記

- 1 灰褐色土 VII層主体。やや粘性。As-Cを少量と黄色ロームブロック(径10mm以下)を5%含む。
- 2 淡黄色土 VII層ブロック、VII層粘質ブロック(径5mm以下)を含む。

- 3 黒褐色土 VII層主体。黒褐粘質土、VII層ブロック(径3mm以下)を5%含む
- 4 におい・黄褐色土 粘性有り。VII・VIII層混合土(5:5)。

土坑 6 区E02 土層注記

- 1 灰褐色土 粒子粗い。砂質土60%・黒褐粘質土30%・As-B10%含む。

土坑 6 区W03 土層注記

- 1 におい・黄褐色土 IV層に近似。やや粘質土。As-Cを1%含む。

土坑 6 区W04 土層注記

- 1 灰褐色土 IV層に類似。

79回 土坑 4 区124・128・249・5 区419・466・6 区W03・W04・E02遺構図

(4) 溝

古墳時代と想定できる溝は4～6区調査区で10条検出した。このうち4区104と5区04は調査区が異なるだけで同一の溝と考えられることから総計で9条である。これらの溝は5区04以外すべて4区北半に位置している。5区04については区画施設としての要素がみられることから遺構の様相について個別に記述した。その他の溝は他遺構や現代の攪乱によって欠落する部分も多くみられるがその性格などに究明できるものはなかった。また、遺物についてもその出土状況は古墳時代の土坑と同様に土師器小片を僅かに出土しているが図化可能なものは存在していない。

溝5区04(4区104)

4区調査区南部、5区北半、10M-13から西北方向に走行し10T-19で北西方向に向きを変え11E-15グリッドまで位置する。他遺構との重複関係は4区で中世溝4区02、居宅区画溝4区03、5区で中世館堀5区03、居宅掘立柱建物5区166、169、377、住居5区58、61、溝5区48や土坑など多くの遺構と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は重複する多くの遺構によって欠く部分があるが比較的良好である。

規模は確認面での幅45～110cm、底面の幅27～77cm、深度6～20cm、全長78m、北西方向の走行47m、北東方向の走行31mを測る。走行は前記のように10T-19グリッドでほぼ直角に向きを変える。底面はほぼ平坦で地形に沿った傾きが見られる。断面の観察では底部に砂粒の堆積は観察できないことから、水の流れた様子は確認されず空窠状の状態であった。

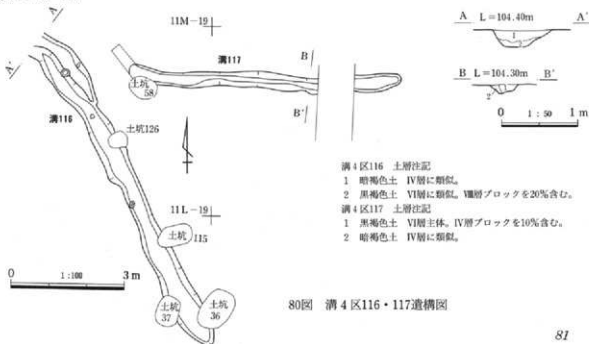
埋設土はIV層に類似した暗褐色土で埋没している。断面観察では自然埋没と想定され土塁などの施設の有無については判断できなかった。

遺物は土師器、須恵器など160点が出土しているがその大部分が本遺構より新しい時期の土器類で本遺構に伴うと想定される遺物は図化した1の土師器壺底部片と高坏脚部小片が出土しているだけであった。

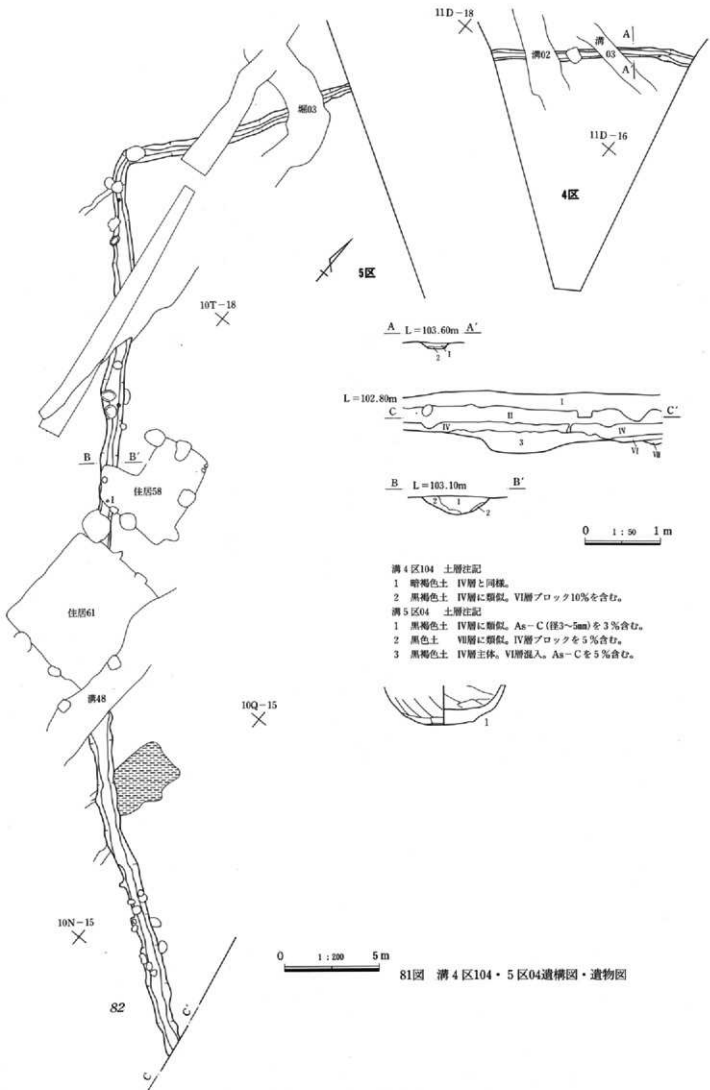
本溝の時期は僅かに出土した本遺構に伴う土器と重複する遺構から古墳時代後期7世紀代に比定される。

なお、溝は前記のように10T-19グリッドで直角に走行を変えることから方形を呈する区画溝的な要素が窺えるが内部からはこの区画に伴うような施設、溝と同一時期と想定される遺構は検出されなかった。

溝4区116・117



80図 溝4区116・117遺構図



溝4区104 土層注記

- 1 暗褐色土 IV層と同様。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロック10%を含む。

溝5区04 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-C(径3~5mm)を3%含む。
- 2 黒色土 VII層に類似。IV層ブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土 IV層主体。VI層混入。As-Cを5%含む。

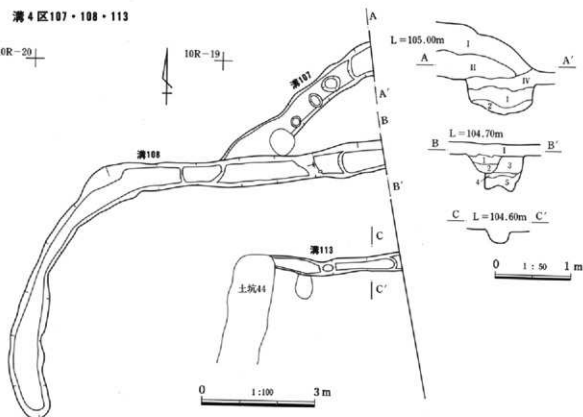


81図 溝4区104・5区04遺構図・遺物図

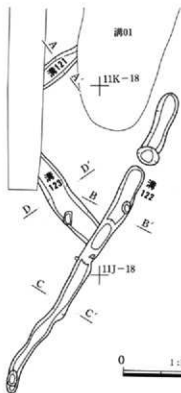
溝4区107・108・113

10R-20

10R-19



溝4区121・122・123



A L=104.00m A'

B L=104.00m B'

C L=104.00m C'

D L=104.00m D'

0 1:50 1m

溝4区107 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。下位にVII層ブロックを5%含む。
- 2 明黄褐色土 VII層主体。VII層ブロックを10~20%含む。

溝4区108 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層と同様。
- 2 黒褐色土 VI層と同様。
- 3 灰黄褐色土 IV層に近似。VI層ブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土 VI層に類似。As-Cを1%含む。
- 5 褐色土 VII層ブロックを10~20%含む。

溝4区123 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層と同様。As-Cを10%含む。

82図 溝4区107・108・113・121・122・123遺構図

(5) 畠

畠4区111

位置は4区調査区北、11M-O-18~20グリッド、古墳4区105周堤の内側である。他遺構との重複は古墳4区105と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は本遺構が古墳4区105の墳丘下に位置したことから残存したと考えられる。

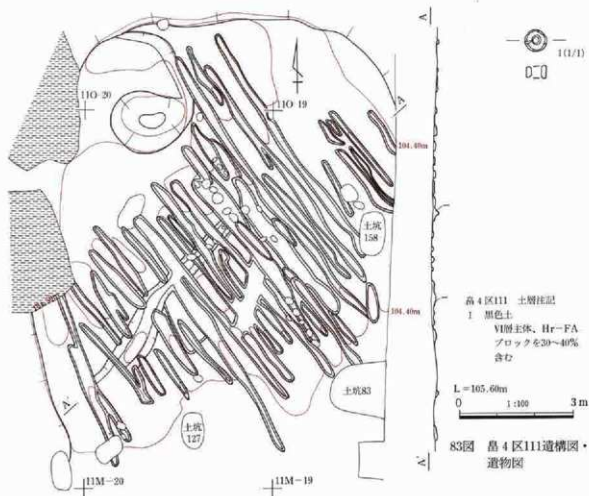
畠が位置する地形は東南にかけて緩い傾斜地である。形態、規模は全体が残存していないため不明である。耕作土はVI層のAs-Cを含む黒色土である。

ウネ・サクのうちウネは上半が削平されており不明である。サクは4区他の畠と比較しても深度が5~10cmと比較的良好な状態である。サクの中には重複した状態の箇所が数カ所確認できることから複数年におよぶ耕作が行われていたことが推定される。サクの走行は傾斜に直交する方向に掘られている。

埋設土は大部分がHr-FPである。しかし、全面がHr-FPで覆われておらず、部分的にVI層の黒色土ブロックが確認されることから畠を復旧するためHr-FPを降下前の畠サクに入れた災害復旧を行った畠跡と想定される。この地域は榛名二ツ岳噴火の際10cm前後の火山灰(Hr-FP)で覆われたことが低地や谷地等のHr-FPの堆積状態から判明しているが、台地上では降灰後の復旧や耕作などによってVI層と攪拌され灰褐色のIV層となっている。畠4区111ではHr-FP降灰後復旧があまり行われぬ段階で古墳墳丘が造築されたため畠サクにHr-FPが残存したと想定される。

遺物は白玉が1点出土しているが本遺構に伴うか否かは明確ではない。

本遺構の時期は6世紀初頭のHr-FA降下後比較的早い時期に比定される。



畠4区130

位置は4区調査区中程の東より、11G~I-16~18グリッドである。他遺構との重複関係は中世墓坑、土坑4区128、畠4区131と重複する。新旧関係は本遺構の方が中世墓坑、土坑4区128より古く、畠4区131よりあたらしい。残存状態は遺構が調査区東へも広がり南側を攪乱によってⅦ層まで掘削されているため全貌は不明である。

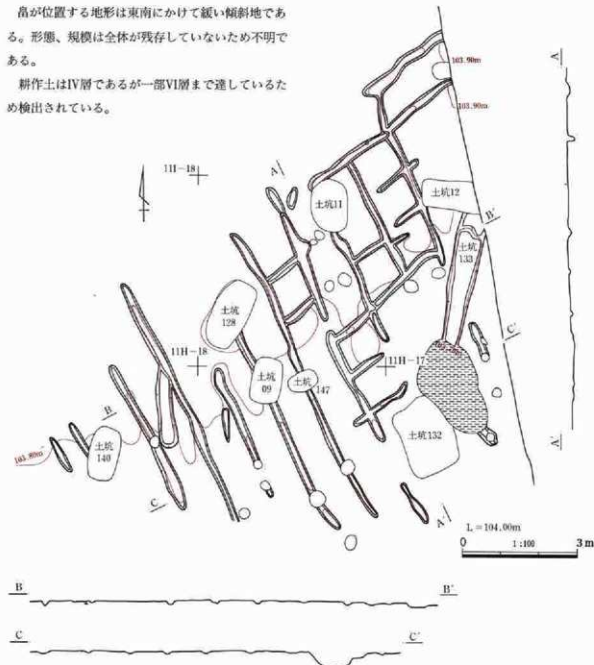
畠が位置する地形は東南にかけて緩い傾斜地である。形態、規模は全体が残存していないため不明である。

耕作土はⅣ層であるが一部Ⅵ層まで達しているため検出されている。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に沿った状態で掘られている。規模はほぼ幅1m間隔で確認される。規模は幅20cm前後、深度5cm程度である。

埋没土はⅣ層である。

遺物の出土はみられなかった。畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から7世紀代に比定される。



84図 畠4区130・131遺構図

畠 4 区 131

位置は 4 区調査区中程の東より、11G～I-16～18グリッドである。他遺構との重複関係は中世墓坑、畠 4 区 130 と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は遺構が調査区東へも広がり南側を攪乱によって VII 層まで掘削されているため全貌は不明である。

畠が位置する地形は東南にかけて緩い傾斜地である。形態、規模は全体が残存していないため不明である。

耕作土は IV 層であるが一部 VI 層まで達しているため検出されている。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に直交する状態で掘られている。規模は 130 と同様にほぼ幅 1 m 間隔で確認される。規模は幅 20 cm 前後、深度 5 cm 程度である。

埋没土は IV 層である。

遺物の出土はみられなかった。畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から 7 世紀代に比定される。

畠 6 区 W01

位置は 6 区調査区 W 地点の南、9 S-20・21 グリッドにある。他遺構との重複関係は見られない。残存状態は畠の大部分が調査区外に広がり、上部は攪乱によって削平されているため確認面も VII 層中位であり不明な点が多い。地形は調査区の上部が現代の攪乱が激しいため、確認面は基本土層が残存している層位である VII 層中まで掘削を行ったところ東へ向けて緩い傾斜が見られるが本来は南へのより緩い傾斜と想定される。

形態、規模は全体が残存していないため不明である。

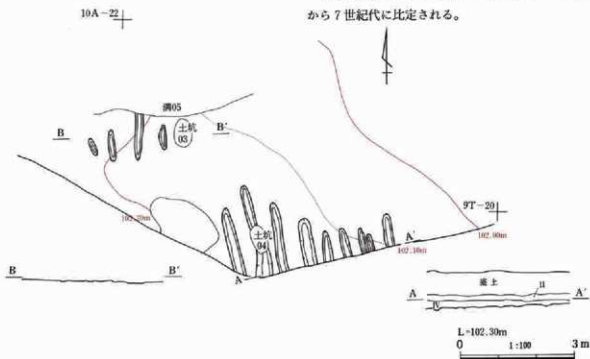
耕作土は埋没土が IV 層であることから VI 層であると想定される。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に直交する状態で掘られている。規模はほぼ幅 20 cm 前後、深度 3～5 cm 程度である。

埋没土は IV 層である。

遺物は土師器壺底部片が出土しているが出土した土師器壺は 5 世紀代に比定され畠の埋没土が 6 世紀以降であることから後の混入と考えられる。

畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から 7 世紀代に比定される。



85図 畠 6 区 W01 遺構図

畠 6 区 E01

位置は6区調査区E-2地点、10B・E-8・9グリッドである。他遺構との重複関係は土坑6E-02と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は畠の南部は調査区外に広がり、表土からVI層上面まで攪乱によって削平されているが畠6区W01より良好な状態である。

地形は南へ向けて緩い傾斜である。また、東南部分は6区1地点の様相から比較的急激な傾斜で谷地へ移行するようである。

形態は細長い矩形に区画されていると想定される。規模は東西幅6m、南北長16m+αである。

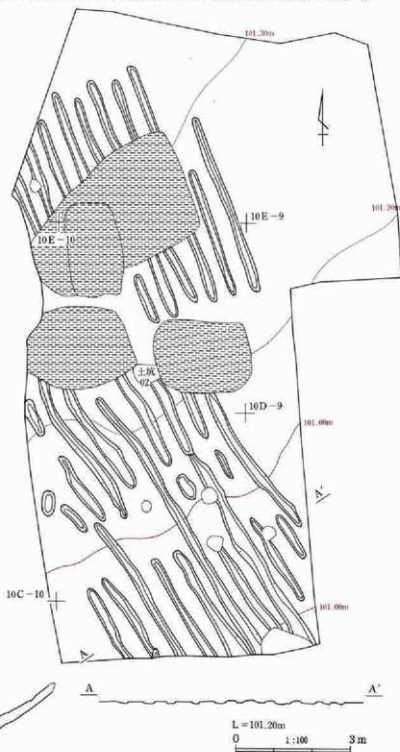
耕作土はIV層を主としているがVI層でのサクの状態からIV層下位でV・VI層も踏み込んでいるようである。

ウネ・サクのうちウネについては不明である。サクはほぼ傾斜に沿った走行で掘られている。規模はほぼ幅20cm前後、深度15~20cm程度である。

埋没土はIV層である。

遺物の出土はみられなかった。

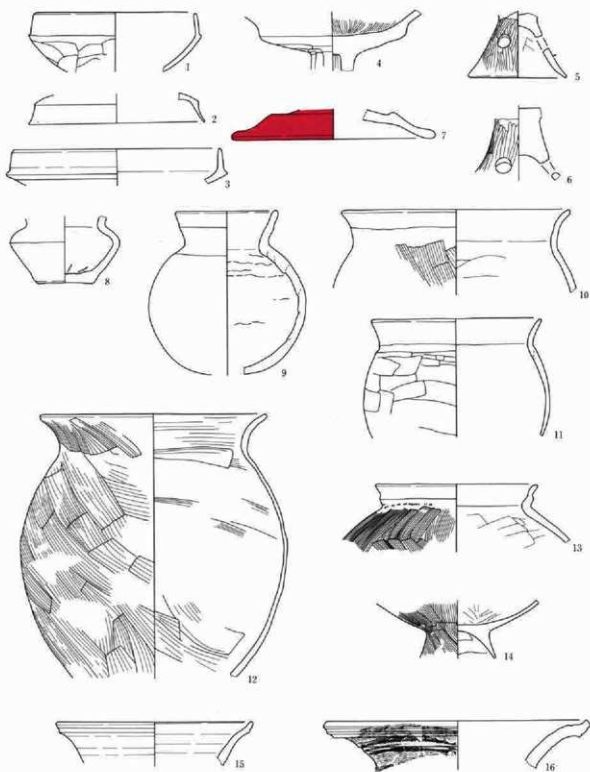
畠の時期は埋没土の状態やサクの掘り込みの状態から7世紀代に比定される。



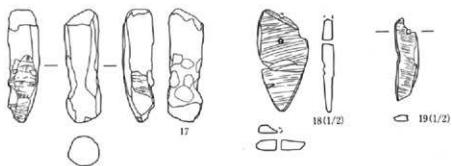
86図 畠6区E01遺構図・遺物図

(6) 遺構外出土遺物

4区遺構外出土遺物

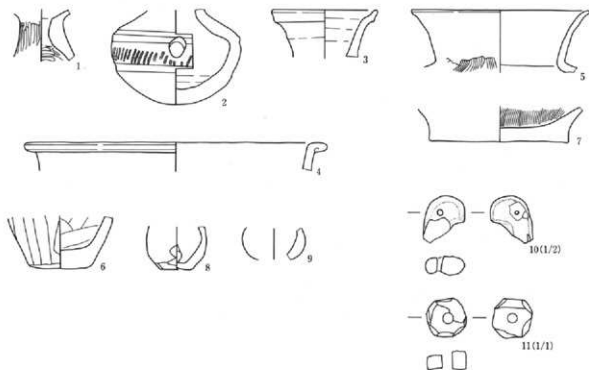


87図 古墳時代4区遺構外出土遺物 遺物図(1)



88図 古墳時代4区遺構外出土遺物 遺物図(2)

5区遺構外出土遺物



89図 古墳時代5区遺構外出土遺物 遺物図

5. 奈良・平安時代の遺構・遺物

(1) 居宅

4区調査区南端から5区調査区にかけて掘立柱建物群や、井戸を溝で区画した居宅と想定される施設を検出した。この居宅施設は北辺を溝4区03で区画され、内部に3時期に変遷される掘立柱建物群で構成されている。掘立柱建物は5区166など9棟以上の掘立柱建物群が存在しており、さらにその南の低地に移行する箇所では井戸が設けられている。この居宅の存在した時期は、掘立柱建物群と重複関係にある竪穴住居の居宅より古い段階のものの中で、もっとも新しい段階が8世紀第1四半期であることや区画溝、掘立柱建物柱穴、井戸など各遺構出土物の年代観から8世紀第2四半期から第3四半期の奈良時代中葉に比定できる。

居宅施設を外部と区画する施設は北辺に溝が掘られている。居宅南、東、西側を区画する施設については調査区外や現道路下に想定されることから検出されなかった。また、5区南側は谷地地形であることから自然地形を利用している可能性が考えられる。西辺、東辺の区画については、東は南側に存在する谷地が広がることから南と同様な自然地形を利用している可能性がある。西は微高地が広がることから北辺と同様な溝が掘られていたと想定される。

区画内部の建物は調査区内では掘立柱建物だけで構成されている。掘立柱建物は掘立柱建物5区166、377、169、211の間で柱穴に重複関係が認められる。その重複関係から掘立柱建物5区169→377→166、211→166の新旧関係が確認されることから3時期に渡る建て替えが行われたことが解る。そして建物の配置や規模などから同時期に存在していたと想定される掘立柱建物が存在する。それらの掘立柱建物は前述の重複関係によって変遷が明らかな掘立柱建物と平行な位置に建てられたり、建物の側柱列を揃えて設置されるなどその配置に規則性が認められる。

居宅内の掘立柱建物群の変遷についてその建物の様相を見てみると以下の通りである。

1期建物群と想定される掘立柱建物には掘立柱建物5区169、211、400がある。掘立柱建物5区400は調査した範囲が僅かであるため詳細は不明であるが、建物全体を調査した掘立柱建物5区166と211の柱穴とほぼ同規模であることや断面の状況から居宅に伴う掘立柱建物の一部であると断定した。建物配置は掘立柱建物5区166と211が主軸方位が直交する関係に位置し、西側の側柱列を揃えて建てられている。また、掘立柱建物5区400については東側の側柱だけの検出であるが211の東側側柱列と揃っていることから211とは桁行きが揃った平行関係の位置に配置が行われていると想定される。

1期の掘立柱建物群では2期、3期の掘立柱建物5区377、166のような正殿の建物の存在は確認されていない。

こうした掘立柱建物5区169、211、400の様相や配置から1期ではほぼ同一の規模による建物によって構成され、井戸5区181の位置関係などから田型の配置が取られていたと想定される。

2期建物群と想定される掘立柱建物には5区377、387、168がある。掘立柱建物5区168は建物の東半が調査区外にのびるため詳細は不明であるが、掘立柱建物5区377、387と梁行がほぼ同規模であることから377と同規模であると想定される。建物配置は掘立柱建物5区377と387が東西の側柱が揃った平行関係、そして掘立柱建物377と168は南北の側柱が揃った平行関係に配置されている。

2期では掘立柱建物5区377が南面に庇をもち東柱が確認されることから床をもつ高床の建物と想定される。そしてこの建物は庇、床の存在から2期の正殿的な建物であったと想定される。

2期の建物配置は正殿の前方に併行して前殿が設けられ官衙の様相も見られるが東側に位置する掘立柱建物5区168は桁行が正殿と同一であり官衙施設で見られる配置とは異なっている。

3期建物群と想定される掘立柱建物には5区166、171がある。掘立柱建物5区166は南面に庇をもち、建物規模も2期の正殿377より大規模になっている。

そして正殿の前方には平行する位置関係に掘立柱建物5区171が存在する。171の規模は166の身舎部分とはほぼ同規模である。建物配置は掘立柱建物5区166と171は東西の側柱が揃った平行関係に配置されている。

居宅内には前記のように3期に渡る建物群が存在するが、こうした中で北側に扉をもつ掘立柱建物5区170が存在する。この建物は側柱列の方向や柱穴の規模など居宅内の2期～3期の掘立柱建物と同一でこの居宅の建物の一部であると想定される。しかし、1期～3期の建物群のどれとも側柱列が他の掘立柱建物と揃っていないためどの時期に属するのかわからないが、柱穴の規模からすると2期、3期に属するものと想定される。

各期の建物は1期から3期にかけて規模が大きくなっている。1期では正殿と想定される建物は断定できないが1期掘立柱建物169と3期掘立柱建物166の間では約2.5倍の差が認められる。また、建物自体の構造も1期建物は庇や床をもたない比較的貧相な建物の可能性があるが2期の正殿と想定される掘立柱建物5区377は東柱の存在から高床で南面に庇を設けており大きな変化が見られる。3期の正殿と想定される掘立柱建物5区166も庇を有し、さらに桁行方向へ拡大されるなど建物自体も官衙風の建物に変化している。さらに2期以後は正殿の南側に前殿を配置するなど建物配置にも官衙風の要素を取り入れている。ただし建物の配置を見ると調査範囲の制約があるものの2期建物である掘立柱建物5区168、時期が不明な建物ではあるが掘立柱建物5区170の位置関係から「口」の字的配置が見られる。また、官衙に存在する脇殿的な建物が存在しないなど官衙での建物配置とは異なる配置をしている。

建物の他には居宅に属すると想定される井戸が谷地へ移行する箇所が存在する。井戸は重複関係が認められ井戸181→180への新旧関係が解ることから2期に渡って掘り直されている。そして古い段階の井戸5区181は掘方の形態が円形で井戸枠等の痕跡が確認されないことから素掘であった可能性が高い。

これに対して新しい段階の井戸5区180は掘方も方形を呈し内部には井戸枠を設置し周囲を石敷にするなど整備された施設になっている。こうした変化は建物の1期から2期への変化に伴って掘り直されたと推定される。

また、この井戸の上部では多量の食膳具を主体とする土器が出土している。これらの土器の出土状態は井戸の周辺5～10mの範囲に散乱した状態であることから、居宅が廃棄された時に居宅で使用されていた食膳具をはじめとする土器類も一緒に廃棄されたと考えられる。

出土遺物は土師器、須恵器の杯・碗を中心とした食膳具が主体に長頸壺、平瓶、甕など多量の土器群が出土している。食膳具の割合は土師器、須恵器ともほぼ同様な比率である。須恵器杯は蓋の出土量から比較的有蓋杯の比率が高いが杯は有台のものが少なく無台杯に蓋が伴っているようである。しかし、こうした食膳具の割合には高坏、長頸壺など付随する食膳具の比率が小さい。



90圖 居宅遺構全体圖



91圖 居宅遺構変遷圖 1期

0 1:200 5m

2期

区画 溝03

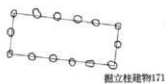
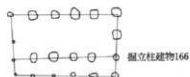


井戸180

溝164

3期

区画 溝03



井戸180

溝164

0 1:200 5m

92図 居宅遺構変遷図 2期

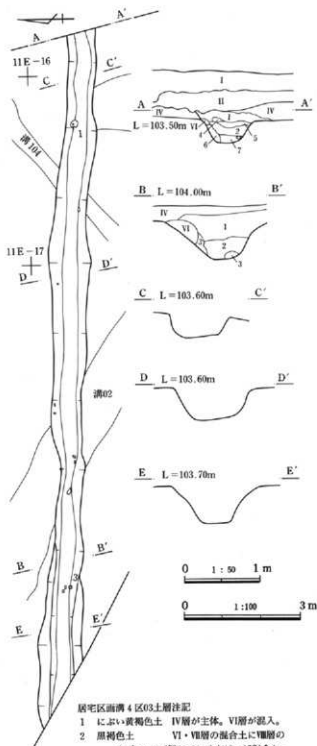
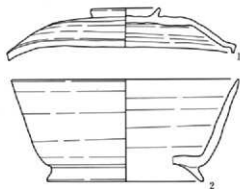
93図 居宅遺構変遷図 3期

居宅区画溝4区03

4区調査区南、11D-16~19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世溝4区02、古墳時代溝4区104と重複している。新旧関係は溝104より本遺構のほうが新しく、中世溝4区02より古い。残存状態は重複する中世溝や攪乱で一部を欠くが比較的良好である。

規模は確認面での幅60~115cm、底面での幅15~40cm、深度30~50cmで調査区内での全長は約19mを測る。走行はほぼ東西方向に直線に掘られている。底面はほぼ平坦で東から西へ僅かに傾斜している。また、底面の状態は水が流れた様子は確認されていないことから空堀状の状態であった。断面の形状は逆台形を呈し、掘った土砂は施設内側、すなわち溝の南側に土累状に盛られこの居宅廃絶によりその土砂が溝内部に流れ込んだ様子が土層断面で観察できる。

遺物は土師器杯、須恵器杯、椀などが僅かに出土しているが、中位で図化した1の須恵器杯蓋、2の椀などが出土している。



居宅区画溝4区03土層注記

- 1 におい黄褐色土 IV層が主体。VI層が混入。
- 2 黒褐色土 VI・VII層の混合土にVIII層の小ブロック(径5~20mm)を10~15%含む。
- 3 明黄褐色土 VIII層がブロック状に崩落土。
- 4 におい黄褐色土 Iに類似。
- 5 黒褐色土 IV層とVIII層の混合土。
- 6 褐色土色 VIII層とVIII層の崩落土。
- 7 黒色土 VIII層とVIII層のブロックから成る。

94図 居宅区画溝4区03遺構図・遺物図

居宅内部区画 5区172

5区調査区中程、10P-14~17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、奈良時代住居5区61と重複する。新旧関係は溝5区48より本遺構の方が古く住居5区61より新しい。残存状態は東側が調査区外に延びるため全貌は不明であるが調査区内では比較的良好な状態である。

形態はほぼ直線的であるが柱穴P3、P4で僅かに屈折する。規模は調査区内で全長16.2mを測る。方位はほぼ東西方で居宅内の掘立柱建物と平行する位置関係になる。なお、居宅内の配置としては掘立柱建物5区170を正殿建物である掘立柱建物5区377や166から隔すような設置である。

柱穴の掘方は形態が方形に近いものから不整形のものまであり統一がなされていない。規模も最大径36cm最小径10cmと差が激しい。柱底は柱穴P4、6、9で確認され13から16cmと柱穴規模のような差は見られない。

遺物はほとんど出土していないが僅かに須恵器蓋、杯が出土している。図化可能な遺物は1の須恵器蓋だけであった。



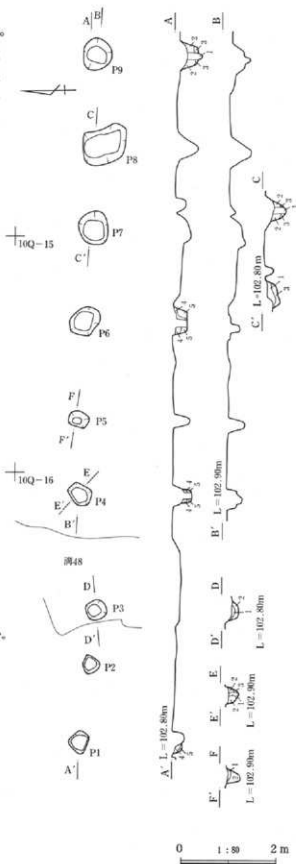
居宅内部区画 5区172 土層注記

- 1 褐色土 粘質土主体。As-Cを少量含む。砂質土を30%含む。
- 2 黒褐色土 V層に類似。V層30%混入。
- 3 黒褐色土 黒褐粘質土。しまり強い。砂質土を5%含む。
- 4 黒褐色土 V層に類似。VI層混入。
- 5 黒褐色土 黒褐粘質土。白色シルトブロック(径2cm以下)を30%含む。

8表 居宅内部区画 5区172柱穴計測表

No.	長さ	短径	深度	柱底径	間距離
1	43	42	28		172
2	36	34	31		117
3	44	43	28		240
4	54	44	41	13	162
5	44	27	34		207
6	78	58	32	16	192
7	72	64	36		174
8	100	74	48		196
9	66	64	48	15	118+*

単位 cm



95図 居宅区画 5区172遺構図・遺物図

1 期建物群

掘立柱建物 5 区 169

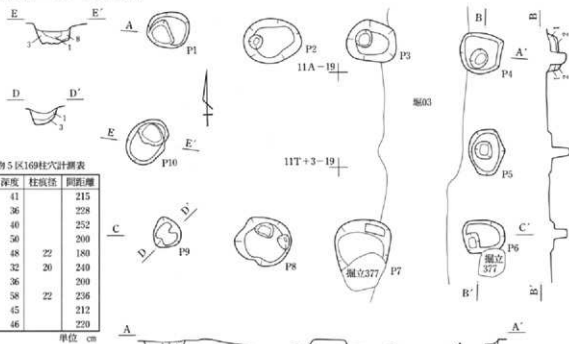
5 区調査区北、西よりの10T・11A-18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世館堀、居宅 2 期掘立柱建物 5 区377、古墳時代溝 5 区04と重複する。新旧関係は本遺構の方が居宅掘立柱建物 5 区377より古く、溝 5 区04より新しい。残存状態は居宅掘立柱建物 5 区377の柱穴により柱穴 P 7 の一部と柱穴 P 6 の縁辺を欠くが比較的良好である。

形態は東辺が西辺より 0.5mほど短いやや歪んだ矩形を呈する。規模は梁行 2 間 3.80~4.32m、桁行 3 間 6.76~6.95mを測る。面積は 27.8㎡である。主軸方位は N-180°-E を指す。

柱穴は P 4、P 6 が比較的正方形に近い他は角は見られるが丸みをもった形態である。規模は柱穴 P 9 が径 60cm だと小規模であるが他は 100cm 前後と比較的規模が大きい。柱底は痕跡が残存している柱穴 P 5、6、8 での確認面、断面によると径 20cm ほどである。

本建物は西側柱列が居宅掘立柱建物 5 区 211 西側柱列と一直線になるように揃えている。

遺物は土師器杯、甕を中心に約 100 点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴 P 8 から出土した 2 の須恵器杯と柱穴 P 10 から出土した土師器高環の 2 点だけであった。



9表 居宅掘立柱建物 5 区169柱穴計測表

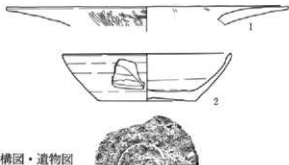
No.	長径	短径	深径	柱底径	間距離
1	90	75	41		215
2	124	96	36		228
3	106	86	40		252
4	90	86	50		200
5	100	76	48	22	180
6	90	72	32	20	240
7	(110)	118	36		200
8	122	103	38	22	236
9	65	62	45		212
10	102	80	46		220

単位 cm

L=103.40m
0 1:50 2m

居宅掘立柱建物 5 区169 土層注記

- 黒褐色土 IV層に類似、VI層のブロックを10%含む。
- 灰黄褐色土 VII層主体。VIII層ブロックを20%含む。
- 灰黄褐色土 VII層主体。VIII層ブロックを30~50%含む。
- 黒褐色土 IV層に類似、VIII層ブロック10%含む。
- にぶい黄色土 VIII層ブロック主体。IV・VI・VII層ブロックを20%含む。
- 黒褐色土 VII層とIV層の混土?。As-Cを1%含む。
- 黒褐色土 VII層に類似、VIII層ブロックを5%含む。
- 暗褐色土 IV層に類似、VIII層ブロックを5%含む。



96図 居宅掘立柱建物 5 区169遺構図・遺物図

掘立柱建物 5区211

5区調査区北の西より、10Q・R-18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中世館廻、平安時代住居5区49、土坑5区215と重複する。新旧関係は本遺構の方が住居5区49より古く、土坑5区215より新しい。残存状態は中世館廻により柱穴P3の中位から上位と柱穴P4全体を欠くが他の柱穴は比較的良好である。

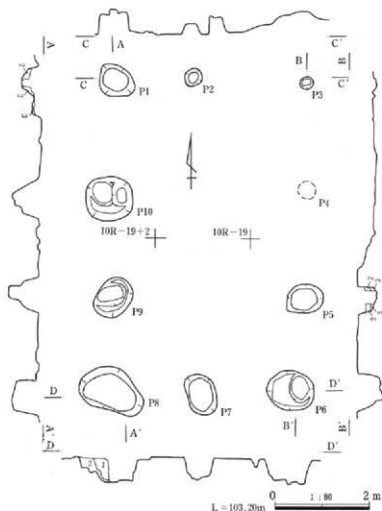
形態は対になる辺長も同一で各角もほぼ直角である長方形を呈する。規模は梁行2間4.04m、桁行3間6.50～6.58mを測る。面積は26.1㎡ほどである。

主軸方位はN-90°-Eを指す。

柱穴は柱穴P10が方形に近い他は丸みをもった形態を呈す。規模は柱穴P2が径40cmと小規模であるが他は径80～100cmと比較的大規模である。

本建物は前述のように居宅掘立柱建物5区169と西側柱列が揃い、東側柱列が居宅掘立柱建物5区400の東側柱列と一直線になるように揃えられているようである。

遺物は土師器杯、甕などが30点ほど出土しているが図化可能なものはなかった。



10表 居宅掘立柱建物5区211柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱径径	間距離
1	86	70	54		160
2	40	38	25		244
3	30	28			~P5
4	-	-	-		450
5	80	65	48		200
6	100	85	56		224
7	88	60	46		180
8	134	90	62		206
9	90	72	65		206
10	100	96	60		246

単位 cm

居宅掘立柱建物5区211 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体、IV層混入。VIII層ブロック(径10～50mm)を10%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似、IV層混入。
- 3 黒褐色土 2に類似、VIII層ブロック(径5～20mm)を10%含む。

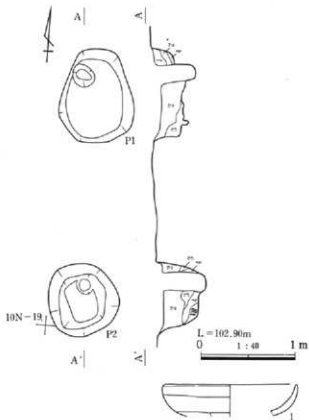
97図 居宅掘立柱建物5区211遺構図

掘立柱建物 5区400

5区調査区中程の西端、10N-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は見られない。残存状態は調査区範囲内では柱穴P1、2しか存在しないため詳細は不明である。

柱穴は東側柱列の東北角柱穴とその南側柱穴の2本と推定される。柱穴P1は楕円、柱穴P2は方形を呈し、規模は径100×80cm、深度45cmと径78cm、深度54cmである。柱痕は柱穴P1、2で確認でき径はともに18cmである。

遺物は土師器杯、甕などが30点ほど出土しているが図化可能な遺物は柱穴P2から出土した1の土師器杯だけであった。



居宅掘立柱建物 5区400 土層注記

- 1 黒褐色土 IVに類似。VIが混入。As-Cを3%含む。
- 2 黒褐色土 VIに近似。IVが混入。As-Cを5%含む。
- 3 黒褐色土 VIに近似。IVが混入。As-Cを5%とⅧブロックを5%含む。
- 4 黒褐色土 Ⅷに類似。Ⅷブロック(径5-20mm)を10%含む。

98図 居宅掘立柱建物 5区400遺構図・遺物図

2期建物群

掘立柱建物 5区377

調査した範囲の2期建物群では正殿をなす建物と考えられる。位置は5区調査区北よりの中央、10S・T-17・18グリッドである。他遺構との重複関係は中世館堀5区03、居宅3期立建柱建物5区166と重複している。新旧関係は本遺構の方が居宅掘立柱建物5区167より新しい。残存状態は庇西端柱穴が中世館堀5区03によって残存していない他は比較的良好な状態である。

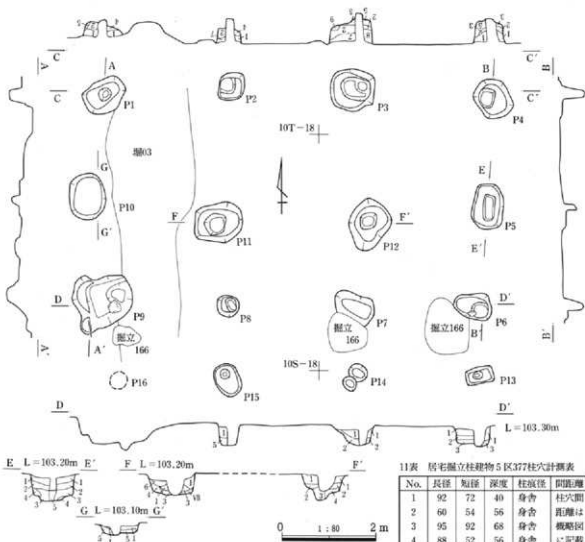
形態は南側柱列、庇柱列以外は中程が直線的ではなく脹らみをもつ矩形を呈する。規模は全体が梁行5.88m、桁行7.60~8.16mを測る。身舎部分は梁行2間4.36~4.50m、桁行3間7.74~8.16m、庇は1間で幅1.42m~1.60mを測る。面積は身舎部分36.8㎡、庇を含めた全体で48.3㎡である。主軸方位はN-181°-Eを指す。

身舎柱穴はやや脹らみをもつ長方形または方形を呈す。規模は柱穴P8が径50cm前後と小規模であるが他は1.00m前後と比較的大きい掘方である。柱

痕は痕跡が残存している柱穴での確認面、断面によると径20~40cmほどである。庇柱穴は残存する3本は長方形、円形、楕円形と形態は不統一である。規模は径50cmと身舎柱穴に比べると小規模である。

本建物は居宅掘立柱建物5区387と桁行方向が平行し、居宅掘立柱建物5区468と梁行方向が平行する位置関係にある。

遺物は土師器杯、甕を中心に90点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P6、8、9などから出土した土師器杯の4点だけであった。



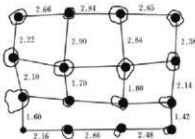
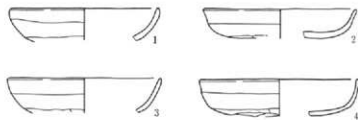
居宅掘立柱建物5区377 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。As-C (径3~5cm) を3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層主体。VI層を20%含む。
- 3 黒褐色土 VII層主体。VIII層ブロック (径10~30cm) を10%含む。
- 4 黒褐色土 3と同じ。VIII層ブロック (径10~30cm) を20~30%含む。
- 5 黒褐色土 3と同じ。VIII層ブロック (径10~30cm) を50%含む。
- 6 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。VIII層ブロック (径5~30cm) を10%含む。
- 7 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。As-C 3%・VIII層ブロック (径10~30cm) 30%含む。
- 8 におい黄褐色土 IV層・VI層・VII層・VIII層の混合土。VIII層ブロック50%・VIII層ブロック (径1~3cm) 10%含む。
- 9 灰黄色土 VII層主体。VIII層ブロックを5%含む。

11表 居宅掘立柱建物5区377柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱径径	位置理
1	92	72	40	身舎	柱穴間
2	60	54	56	身舎	瓦葺は
3	95	92	68	身舎	概略図
4	88	52	56	身舎	に記載
5	94	58	57	身舎	
6	84	56	64	身舎	
7	90	60	44	身舎	
8	52	48	48	身舎	
9	132	90	70	身舎	
10	100	76	24	身舎	
11	104	86	52	床束柱	
12	108	72	58	床束柱	
13	60	32	20	庇	
14	40	40	28	庇	
15	75	52	16	庇	
16	-	-	-	庇	

単位 cm



99図 居宅掘立柱建物5区377遺構図・遺物図

掘立柱建物 5区387

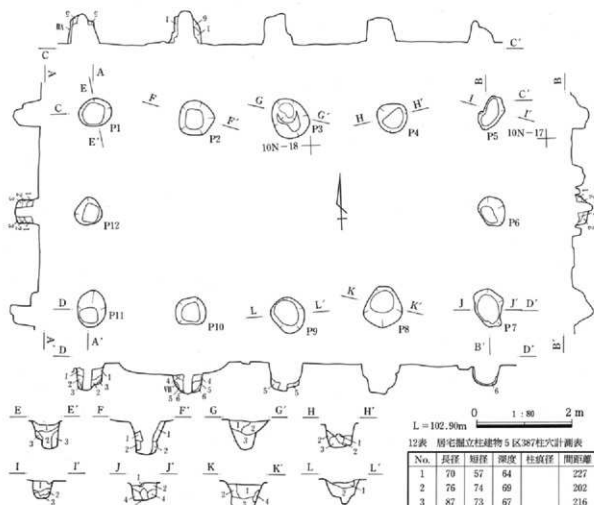
2期建物群正殿掘立柱建物5区377の前殿に相当する建物と考えられる。5区調査区中程の西より10M・N-17・18グリッドに位置する。掘立柱建物5区377の南に20mの間隔を空けて平行して建てられている。他遺構との重複関係は土坑5区55などと重複している。新旧関係は本遺構の方が土坑5区55より古い。残存状態は柱穴P10の上半が土坑5区55によって削平されている他は比較的良好な状態である。

形態は西辺が東辺に比べて35cmほど長いがほぼ長

方形を呈している。規模は梁行2間8.45~8.48m、桁行4間3.90~4.24mを測る。面積は34.2㎡である。主軸方位はN-180°-Eを指す。

柱穴は掘立柱建物5区377と同様に円形、楕円形、方形、不整形を呈し全体としては統一されていない。規模は径60~90cm、平均75cmで掘立柱建物5区377の柱穴に比較するとやや小規模である。柱痕は柱穴P10、P11、P12で確認でき径20cmほどである。

遺物は土師器杯、甕を中心に110点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P5、6、8などから出土した須恵器杯蓋2点と杯身の1点だけであった。



居宅掘立柱建物5区387 土層柱記

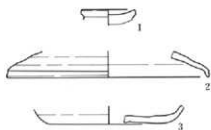
- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層30%混入。As-Cを5~10%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層30~50%混入。As-Cを3%含む。
- 3 黒色土 VII層の前落土。
- 4 黒褐色土 VI層に類似。IV層40%混入。VII層ブロック10%・As-C5%含む。
- 5 黒色土 VII層主体。VI層20%・VII層ブロック30%含む。
- 6 黒色土 VII層に類似。

100図 居宅掘立柱建物5区387遺構図

12表 居宅掘立柱建物5区387柱穴計画表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	70	57	64		227
2	76	74	69		202
3	87	73	67		216
4	63	61	52		200
5	82	42	48		203
6	75	55	47		187
7	82	64	50		224
8	90	78	63		200
9	75	64	70		204
10	65	60	72	20	220
11	76	64	58	20	212
12	60	60	53	20	212

単位 cm



101図 居宅掘立柱建物5区377 遺物図

掘立柱建物5区168

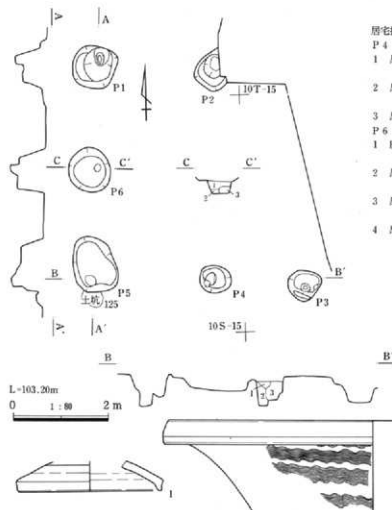
2期建物群正殿掘立柱建物5区377の東側、5区調査区北よりの東側10S・T-14・15グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は平安時代住居5区63と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は建物東半が調査区外に存在するが調査した範囲では良好である。

形態は長方形を呈すると想定される。規模は梁行

2間4.66m、桁行は2m+α、3間か4間で8m前後と推定される。面積は全貌が不明のため測定できないが調査部分で24㎡ほどであることから掘立柱建物5区377身舎部分や387と同様に35㎡前後と想定される。主軸方位はN-182°-Eを指す。

柱穴は隅に円みをもつ方形、長方形を呈す。規模は径60~120cm、深度28~68cmを測る。柱痕は柱穴P5、P6で確認でき径は24cm、18cmほどである。

本建物は居宅掘立柱建物5区377の身舎部分南北側柱列とほぼ一直線になるように揃えられている。遺物は土師器杯、甕を中心に95点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P2、P5などから出土した須恵器杯蓋と甕口縁部片の各1点だけであった。



102図 居宅掘立柱建物5区168 遺構図・遺物図

居宅掘立柱建物5区168 土層記

P4

- 1 黒褐色土 シルト質。砂質気味。しまりやや弱い。軽石を1%含む。
- 2 黒褐色土 シルト質。しまり弱い。軽石・焼土微量含む。
- 3 黒褐色土 1に類似。軽石微量。VI層混合土。

P6

- 1 灰黄褐色土 シルト質。しまり強い。白色シルトブロック15%・白色軽石1%含む。シルト質。しまりやや弱い。軽石を微量5%含む。
- 2 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。軽石・焼土を微量含む。
- 3 黒褐色土 3と白色シルトブロックの混合土。

13表 居宅掘立柱建物5区168柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱底径	間距離
1	94	90	62	~P2	250
2	80+α	78	28		
3	68	66	56	~P4	204
4	66	58	30	~P5	250
5	120	92	62	~P6	236
6	98	88	68	~P1	230

単位 cm

3期建物群

掘立柱建物 5区166

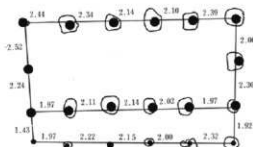
調査した範囲の3期建物群では正殿をなす建物と考えられる。位置は5区調査区北よりの中央、10Q～S-16～18グリッドである。他遺構との重複関係は中世館廻5区03、居宅1期建物群掘立柱建物5区211、2期建物群掘立柱建物5区377、奈良時代住居5区58、古墳時代溝5区04と重複している。新旧関係は本遺構の方が居宅1期建物群掘立柱建物5区211、2期建物群掘立柱建物5区377、住居5区58、溝5区04より新しい。残存状態は西側柱列、庇西端柱が中世館廻5区03、と県教委試掘坑によって上部を欠き底面だけが残存する状態であるが他の柱穴は比較的良好な残存状態である。

形態は身舎が東側より西側が40cmほど幅広い矩形であるが庇幅を東側が西側より50cmほど開くことで全体を長方形に近い形態に調整している。規模は庇を含めた建物全体の大きさが梁行6.24～6.32m、桁行10.84～11.40m、身舎は梁行2間4.36～4.74m、桁行5間10.84～11.40m、庇は1間で幅1.43～1.92mを測る。面積は身舎部分51.0㎡、庇を含めた全体で70.3㎡である。主軸方向はN-178°-Eを指す。

身舎柱穴は柱穴P1、P13、P14が後世の遺構によって形態が不明なものと柱穴P8以外は方形または長方形を呈する。

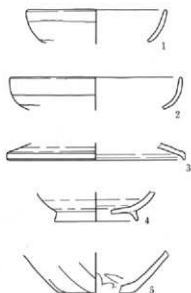
柱穴は、柱穴一覧表のように0.8～1.00mと比較的大きい掘方である。柱痕は痕跡の残っている柱穴での確認面、断面によると25cmほどであることが観察された。庇柱穴は身舎柱穴に比べるとやや小規模で形態も楕円形に近い。

遺物は土師器杯、甕を中心に80点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P2、P3、P7、P8、P13などから出土した土師器杯の2点と甕1点、須恵器杯蓋1点、碗1点だけであった。ただし4の須恵器碗は本遺構に伴う時期のものではなく後の混入と考えられる。

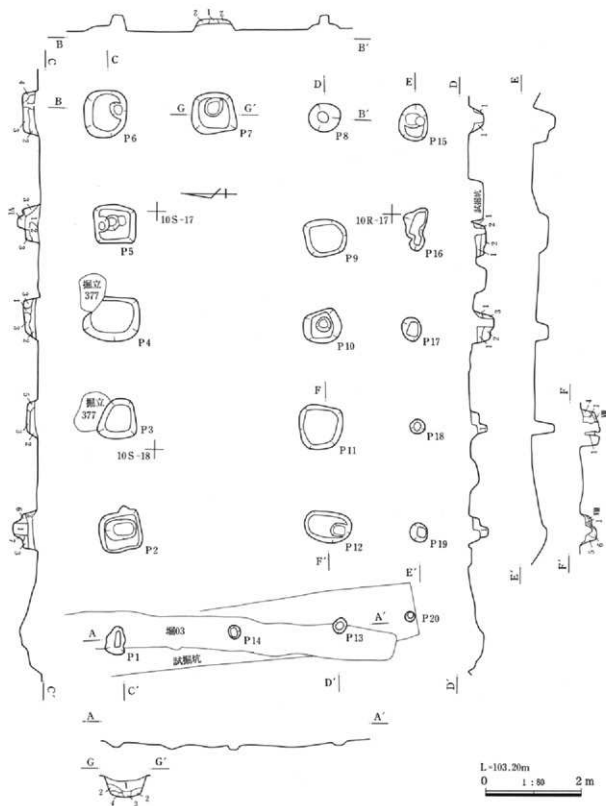


14表 居宅掘立柱建物5区166柱穴計測表

No.	位置	形 態	長径	短径	深度	柱径径	間距離
1	身舎	—	—	—	—	—	柱穴間 距離は 概略図 に記載
2	身舎	方形	88	83	60	—	
3	身舎	方形	84	84	33	—	
4	身舎	方形	120	96	35	—	
5	身舎	方形	89	84	57	30	
6	身舎	ほぼ方形	100	90	53	32	
7	身舎	方形	96	89	53	—	
8	身舎	円形	68	60	32	32	
9	身舎	ほぼ方形	92	80	33	33	
10	身舎	方形	80	74	40	—	
11	身舎	方形	96	92	32	—	
12	身舎	楕円形	100	67	41	28	
13	身舎	—	—	—	—	—	
14	身舎	—	—	—	—	—	
15	庇	楕円形	80	62	52	30	
16	庇	不整形	88	30	30	28	
17	庇	楕円形	49	42	45	30	
18	庇	円形	32	32	44	—	
19	庇	円形	40	40	30	28	
20	庇	—	—	—	—	—	



103図 居宅掘立柱建物5区166 遺物図



居宅独立柱建物 5区166 土層注記

1 黒褐色土 VI層に類似。IV層混入。As-Cを3%含む。

2 黒褐色土 VI層主体。Ⅷ層ブロック(径10~30mm)を20%含む。

3 黒褐色土 1に類似。1より暗い色調。

4 黒褐色土 IV層に類似。VI層混入。As-Cを5%含む。

5 黒褐色土 Ⅷ層主体。Ⅷ層移層混入。

6 黒褐色土 Ⅷ層に類似。VI層を若干混入。

7 黒色土 Ⅷ層に類似。As-Cを2~3%含む。

104図 居宅独立柱建物 5区166 遺構図

掘立柱建物 5区171

3期建物群主殿である掘立柱建物5区166の前殿に相当する建物と考えられる。掘立柱建物5区166の南10mに平行する位置関係である。グリッドは10N・O-16~18である。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、平安時代住居5区53、古代土坑5区231、396と重複している。

新旧関係は本遺構の方が平安時代溝5区48より古く、奈良時代住居5区53、土坑5区231、土坑5区396より新しい。残存状態は後世の深い遺構との重複関係がないため比較的良好である。

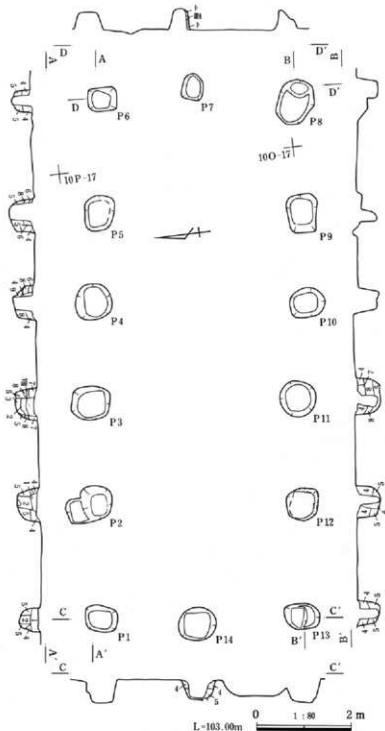
規模は梁行2間1.26~4.46m、桁行5間11.18~11.26を測る。面積は49.1㎡である。主軸方位はN-185°-Eを指す。形態は比較的歪みのない長方形を呈す。柱穴は掘立柱建物5区166に比べるとやや小規模な掘方である。規模は0.6から0.8mほどである。形態は方形に近い角がやや丸みをもつ。柱痕は掘立柱建物5区166と同様に25cmほどである。

遺物は土師器杯、甕を中心に90点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P5、P10などから出土した須恵器杯の1点と磁石2点だけであった。

15表 居宅掘立柱建物5区171柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱板径	間距離
1	70	64	48	30	250
2	76	68	46		218
3	82	72	45		218
4	78	78	49	30	192
5	76	64	56		240
6	60	50	42	32	202
7	56	46	45		224
8	100	78	46	32	270
9	82	66	49		182
10	76	63	54		216
11	67	66	56	28	208
12	68	68	54	28	250
13	77	56	50	28	228
14	83	75	40	28	218

単位 cm



居宅掘立柱建物5区171 土層注記

- 黒褐色土 IV層に類似。VI層・VII層ブロックを20%含む。
- 黒褐色土 IV層に類似。VII層ブロックを10%含む。
- 黒褐色土 2に類似。VII層ブロックを含む。
- 黒褐色土 IV層に近似。VI層混入。As-C3%・VII層ブロック(径10~20mm)5%含む。
- 灰黄褐色土 VII層漸移層主体。VII層ブロック(径10~30mm)を20%含む。
- 黒褐色土 VII層主体。IV層・VI層ブロックを30~50%含む。
- 黒褐色土 1に類似。VII層ブロック(径30~50mm)を50%含む。
- 黒褐色土 VII層に類似。IV層ブロック30%・VI層ブロック20%含む。
- 黒色土 VII層に類似。VII層ブロック(径10~30mm)を20%含む。

105図 居宅掘立柱建物5区171 遺構図



106図 居宅掘立柱建物5区171 遺物図

時期を明確にできない掘立柱建物

居宅掘立柱建物5区170

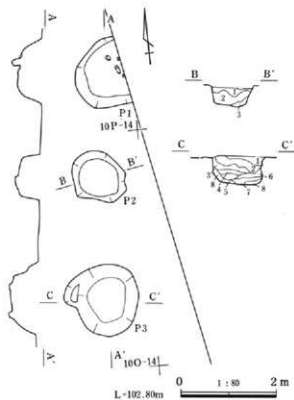
5区調査区中程の東端、10O・P-13・14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は複乱、小土坑などと柱穴端部で重複が確認できる程度であった。残存状態は西梁行だけで他の大部分は調査区外に存在する。

形態は長方形を呈すると想定される。規模は梁行2間、4.070mを測る他は不明である。主軸方位はN-182°-Eを指す。

柱穴は楕円形に近い形態で規模は柱穴P1が径147×140+αcm、深度65cm、柱穴P2が径124×110cm、深度52cm、柱穴P3が径160×154cm深度62cmを測る。柱痕は各柱穴底部で確認され柱穴P1が18cm、柱穴P2が28cm、柱穴P3が20cmである。柱間距離は柱穴P1～P2が2.54m、柱穴P2～P3が2.16mを測る。

遺物は土師器杯、甕を中心に160点ほど出土しているが、図化可能な遺物は柱穴P2、3から出土した土師器杯、須臾器杯蓋、杯身、甕など他の掘立柱建物より比較的多くの遺物が出土していた。

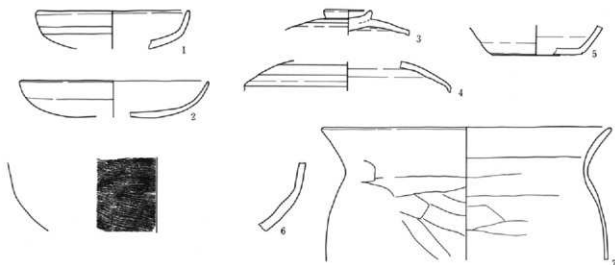
本掘立柱建物は側柱の方向や柱穴の規模、出土遺物から居宅に付随する建物であると断定されるが、側柱列は1期から3期の建物群と一致する建物が見られないため時期を明確にできなかった。ただし、柱穴が大規模であることから2期または3期の建物群と併存した可能性が高い建物である。



居宅掘立柱建物5区170 土層注記

- P2
- 1 黒褐色土 粘質土。砂質土をまだらに含む。
 - 2 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック(径3cm以下)を20%含む。
 - 3 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック(径5mm以下)10%含む。
- P3
- 1 灰褐色土 シルト質。白色シルトブロック(径30mm)7%・焼土3%・炭化物微量・白色輝石1%含む。
 - 2 灰褐色土 1に同じ。白色シルトブロック微量。
 - 3 黒褐色土 シルト質。焼土炭化物(径3mm)微量・白色輝石微量含む。
 - 4 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック(径40mm)10%・焼土・炭化物(径2mm)微量含む。
 - 5 黒褐色土 粘質土。砂質土を若干含む。焼土・炭化物微量含む。
 - 6 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック30%・焼土・炭化物微量含む。
 - 7 黒褐色土 粘質土。焼土・炭化物2%含む。
 - 8 黒褐色土 粘質土。白色シルトブロック30%含む。

107図 居宅掘立柱建物5区170 遺構図



108図 居宅掘立柱建物5区170 遺物図

居宅に付随する施設等

居宅内部には掘立柱建物群の他、井戸5区180、181の2基、井戸に付随する排水溝と想定される溝5区164が検出されている。この他に施設ではないが居宅廃絶後の食器類を中心とする土器類を廃棄した遺構である廃棄5区60、436が検出されている。廃棄5区60は井戸5区180、181の存在する上部に重複するように存在している。こうした施設は両側の谷地に移行する部分に位置している。

井戸は居宅の概要で記述したように並列して存在しており、井戸5区180に付随する敷石が井戸181の一部に及ぶことから新旧関係は明らかである。

居宅井戸5区181

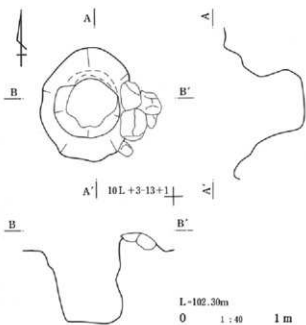
5区調査区中程東より、10M-13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅井戸5区180と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は比較的良好である。

形態は確認面が南北にやや長い楕円形であるが底面は方形に近い。断面形態は下位で湧水によるアグリが見られるがほぼ円筒状を呈す。規模は長径120cm、短径100cm、深度86cmを測る。

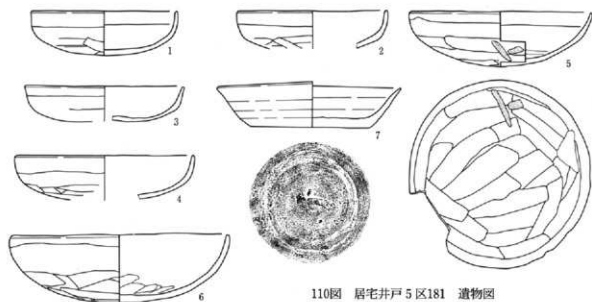
埋没土は調査時の湧水のため観察することができなかった。

遺物は土師器杯、甕など600点と須恵器杯、甕など90点と多くの遺物が出土している。出土した遺物の

中には居宅で使用している中で破損したりしたため井戸を掘り返すときに廃棄されたものも含まれるよううで比較的残存状態の良好なものもみられた。



109図 居宅井戸5区181 遺構図



110图 居宅井戸5区181 遺物図



111图 居宅井戸5区180 遺構図

後期居宅井戸 5区180

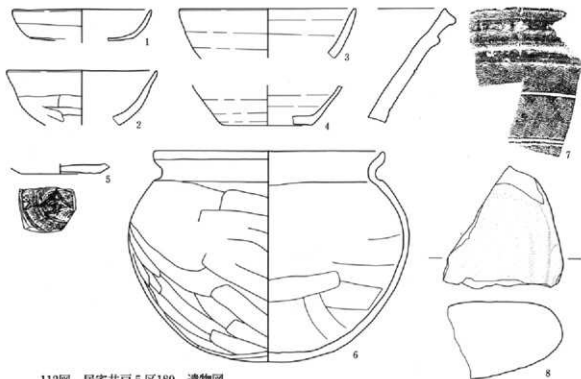
5区調査区中程東より、10L-13・14グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅井戸5区181と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。本井戸は井戸本体の周囲に礫がしかれている。残存状態は石敷部分の礫の大部分が取り除かれていたりしているため詳細が不明な点がある。

井戸本体は形態が確認面で方形、底面は円形を呈す。規模は確認面で一辺が170～180cm、底面は径50cm、深度は石敷上面から88cmほどである。石敷部分は形態が方形に近い形態と想定され、その範囲は礫の残存部分や地形から井戸本体の南北と東側に設け

られていたと想定される。規模は南北3.2m、東西3.6mほどである。石敷に使用されている礫は径10～30cm代の円礫、角礫の両方が使用されている。礫は井戸周囲だけでなく井戸本体の上半にも覆まれているようであるが内部の礫は大部分が崩落などで欠いている。

埋没土は調査時の湧水のため観察することができなかった。

遺物は土師器杯、壺など110点と須恵器杯、壺など20点と若干の材が出土している。出土材の樹種はウツギ属、モミ属、クリ、アカガシ亜属などであった。



112図 居宅井戸5区180 遺物図

溝5区164

5区調査区中程東よりの居宅井戸5区180・181の南、10J-12、10J～L-13グリッドに位置する。他遺構との重複関係は溝5区438と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。残存状態は中程を現代の掘削によって欠き、東側が調査区外に延びるため全貌は不明である。

形状は10J-13グリッドで走行をほぼ直角に変えている。規模は確認面で幅50～90cm、底面幅20～30

cm、深度22cmである。

埋没土はIV層を主体に僅かにVI層を含む土砂によって埋没している。

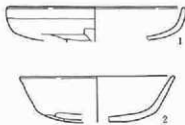
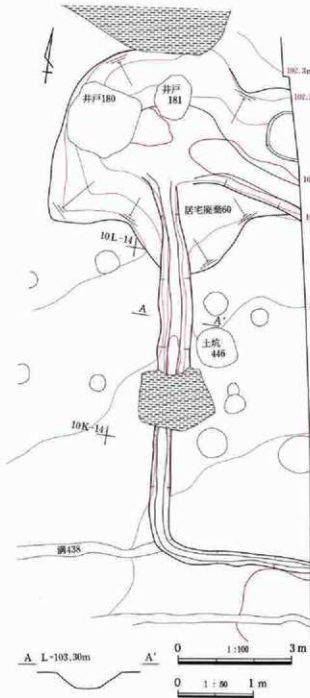
遺物は図化した土師器杯の他に須恵器杯などが若干出土しているが北側で検出した居宅廃棄5区60からの流れ込みの可能性もある。

なお、本溝は居宅井戸との位置関係や地形、溝底面の傾斜から居宅井戸での排水を流すための排水溝としての役割をもつ溝と考えられる。

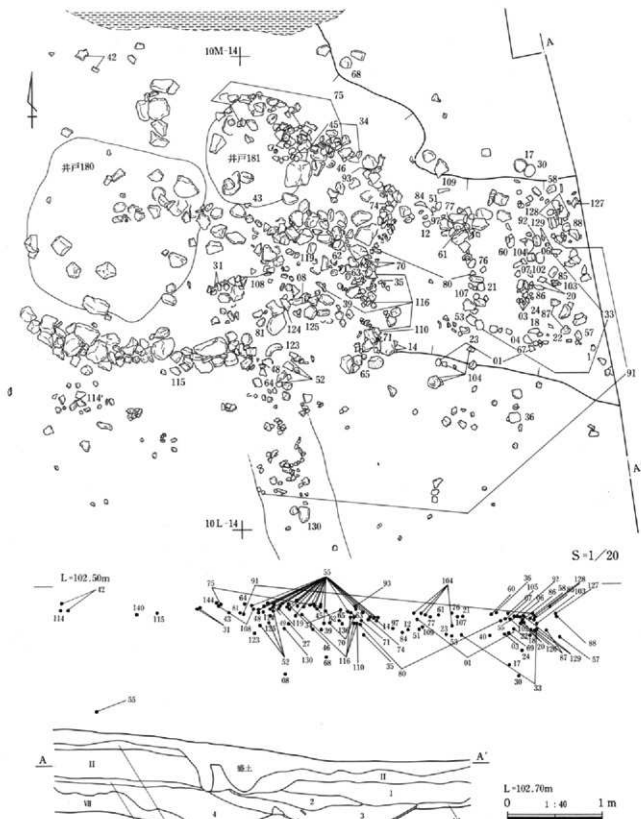
居宅廃絶後の土器類廃棄遺構

廃棄 5 区 60

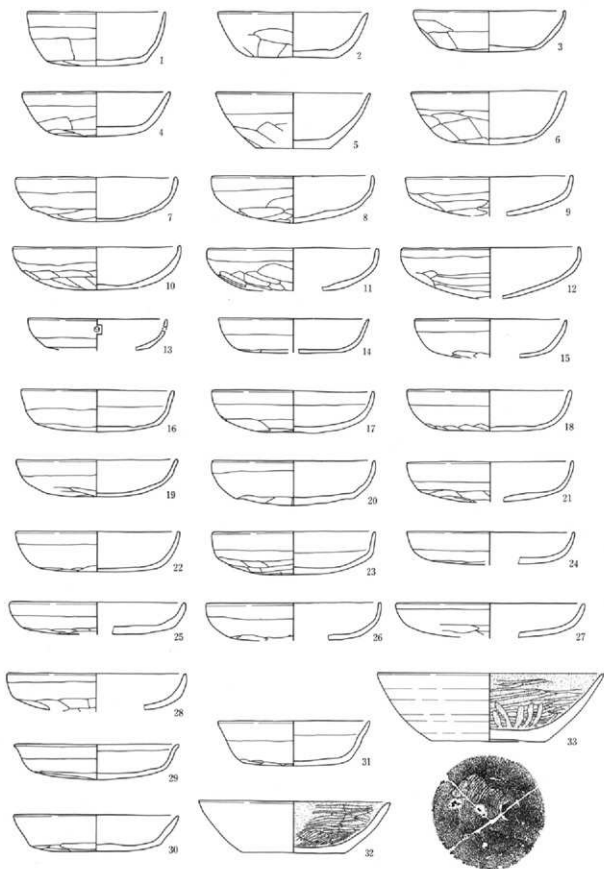
5 区調査区中程の東端、10L-13グリッドに位置する。遺構は明確な掘り込みではなく隣接する居宅井戸 5 区 180・181が存在する窪みに居宅で使用していた食器類を中心とする土器群や居宅井戸 5 区 180の周辺部にしかれた礫群を廃棄した遺構である。遺構の範囲は出土状況から調査区外に広がると想定される。規模は南北2.0m、東西3.5m以上である。土器群はIV層中の標高109.90~102.40mの間に居宅井戸 5 区 180の周辺部にしかれた礫群と重なるような状態で出土している。こうした出土状況から居宅使用時に窪みを利用した廃棄を行ったものではなく居宅が使用されなくなった段階で土器群などが廃棄されたと考えられる。出土した土器の残存状態は完形に近い比較的良好なものから108の須恵器平瓶のように細かな破片で出土したもので幅広い状態であった。出土土器量は全体で7,412点でそのうち須恵器1,620点(22%)、土師器5,792点(78%)、黒色土器2点であった。須恵器のうち杯・椀類が1,151点(全体の20%、須恵器の71%)を占め、残り杯蓋153点(2%、9%)、壺151点(2%、9%)、壺・瓶類(2%、10%)である。土師器では杯が5,102点(全体の69%、土師器の88%)を占めている。こうした状況からも食器類の割合が全体の89%と高い割合を占めている。



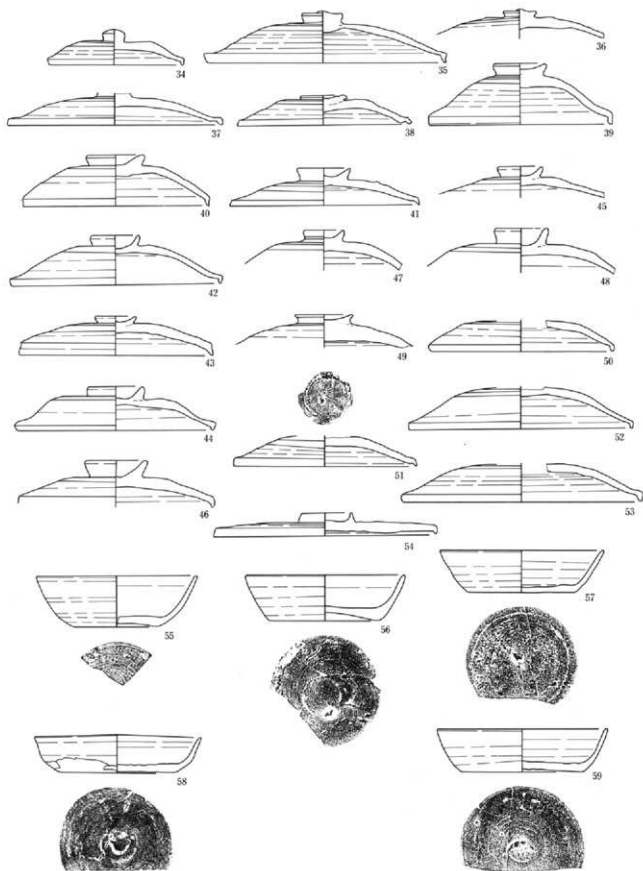
113図 居宅溝 5 区 164 遺構図・遺物図



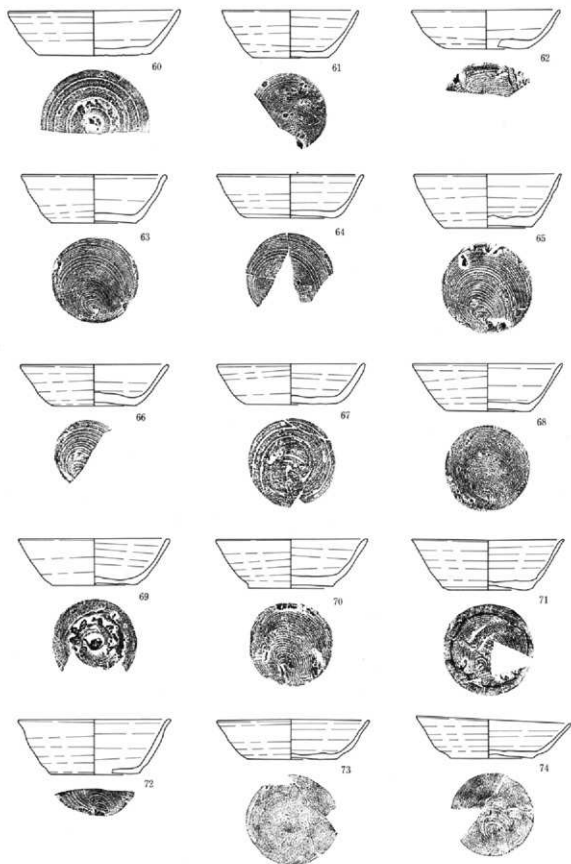
114図 居宅廃棄5区60 遺構図



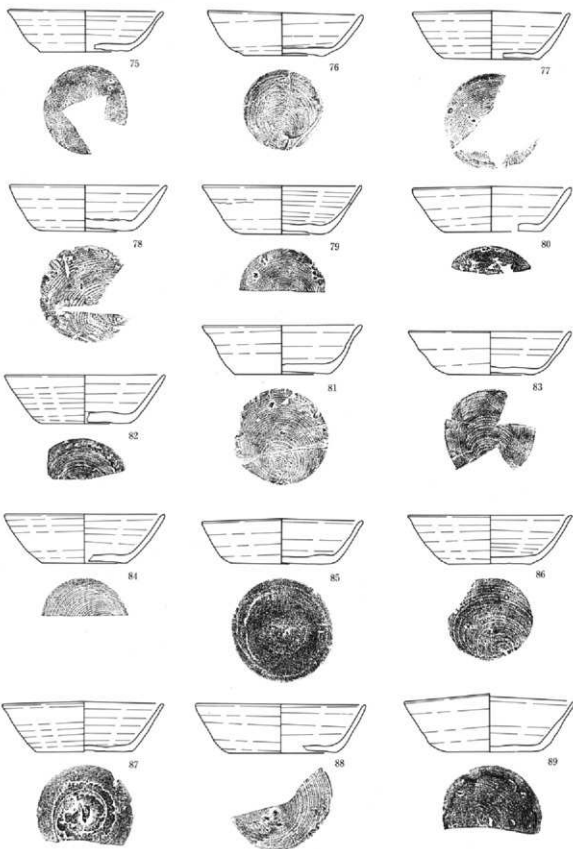
115図 居宅廃棄5区60 遺物図(1)



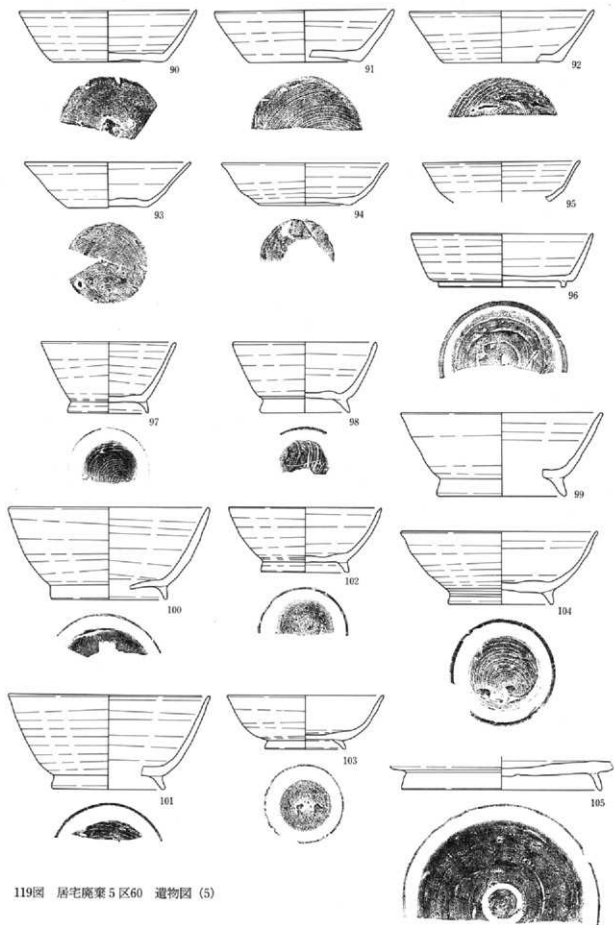
116图 居宅座落5区60 遗物图(2)



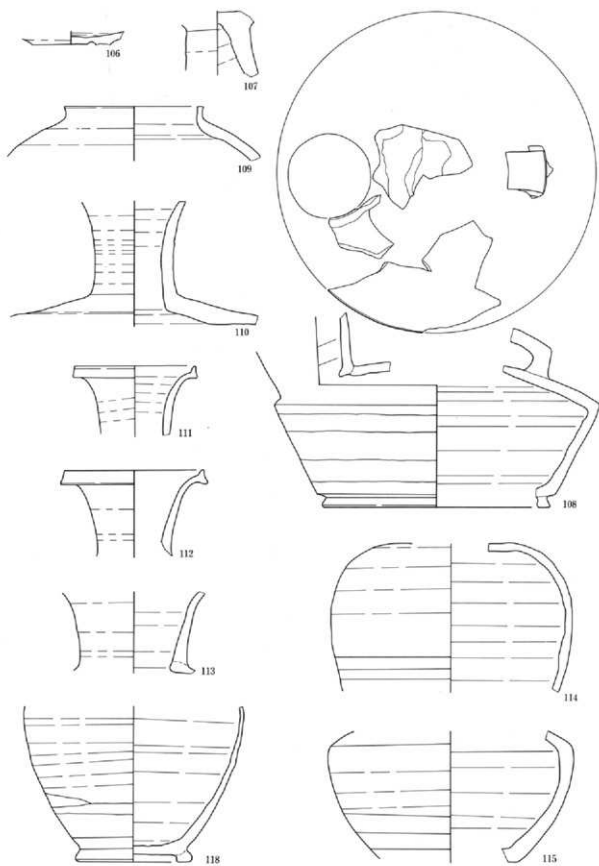
117图 居宅廃棄5区60 遺物図(3)



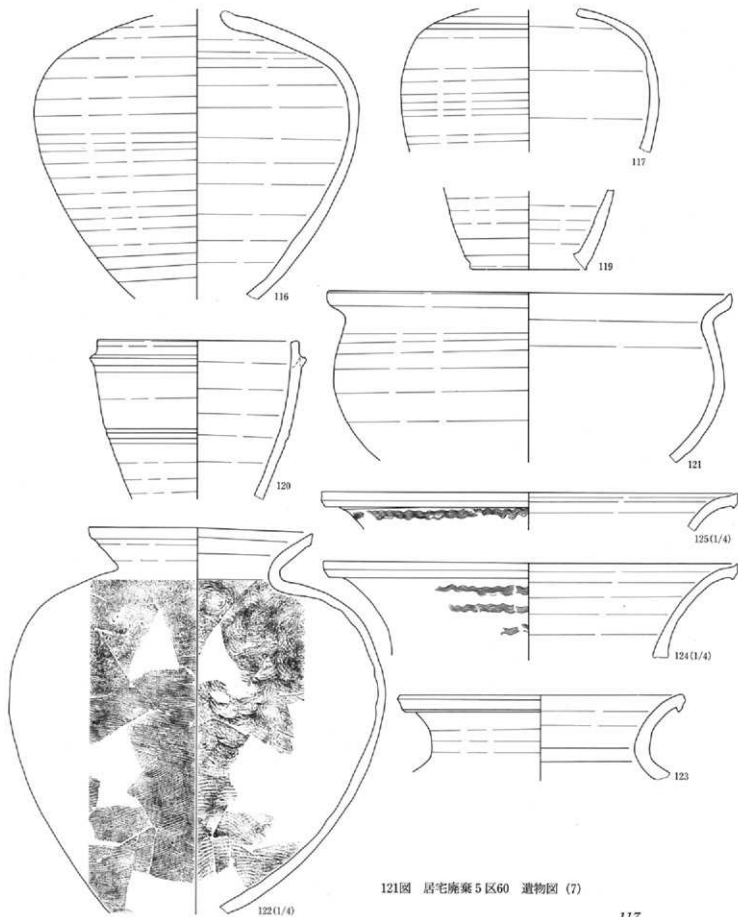
118图 居宅庵楽5区60 遺物图(4)



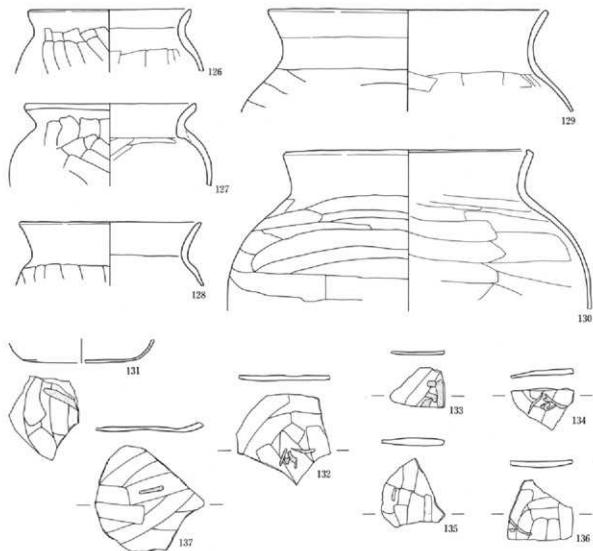
119图 居宅廃棄5区60 遺物図(5)



120图 居宅廃棄5区60 遺物图(6)



121图 居宅廃棄5区60 遺物图 (7)



122図 居宅廃棄5区60 遺物図(8)

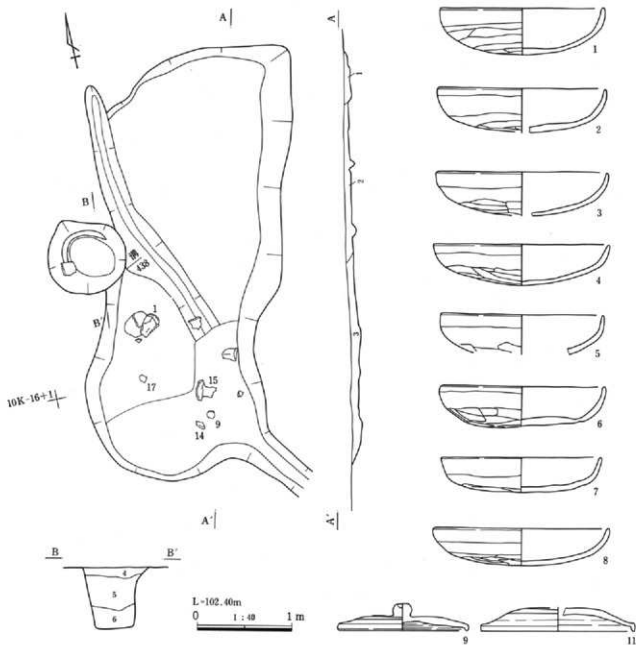
廃棄5区436

5区調査区南半、10K-15グリッドの微高地から谷地へ移行する所に位置する。他遺構との重複関係は溝438と重複する。新旧関係は明確ではないが遺構東南部で溝438の形態が確認できない状態であることから本遺構の方が新しい可能性がある。残存状態は比較的良好である。

形態は南北に長い歪んだ長方形を呈し、西辺中程に円形の土坑状のやや深い落ち込みを付随する。規模は長軸4.60m、短軸2.54m、深度0.1m前後、付随する土坑状の落ち込みは径0.8m、深度0.68mを測る。底面は平坦でなく凹凸がみられる。

埋没土は北半がIV層主体、南半がVI層主体の土砂によるが堆積状態は落ち込みが浅いため不明確ではあるが自然堆積と想定される。

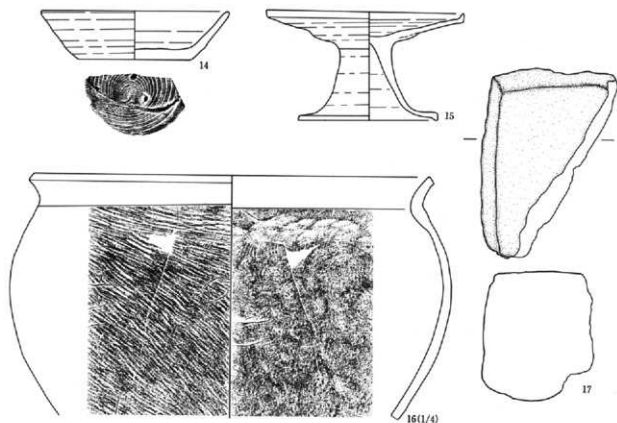
遺物は須恵器20点、土師器150点であるが杯類などの食膳具が多い。遺物量そのものは少ないが居宅廃棄5区60と同様な様相がみられる。



居宅廃棄 5区436 土層注記

- 1 黒褐色土 焼土化?カマドの焼土廃棄。
- 2 黒褐色土 カマドの粘土をブロック状に50%含む。カマド材の廃棄。
- 3 黒褐色土 VI層類似。焼土ブロックを10%含む。
- 4 灰黄褐色土 IV層主体。VII層ブロック(径10~30mm)を5%含む。
- 5 黒褐色土 VII層に類似。VI層を30%含む。
- 6 黒色土 VII層に類似。

123図 居宅廃棄 5区436 遺構図・遺物図 (1)



124図 居宅廃棄5区436 遺物図(2)

(2) 住居

住居4区160

4区調査区南の東端、11E・F-16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は古墳時代住居4区161と重複する。新旧関係は本遺構の方が新しい。残存状態は上部を現代の擾乱によって削平されているためよい状態ではない。また、住居5分の4は調査区外に位置するため全貌は不明である。

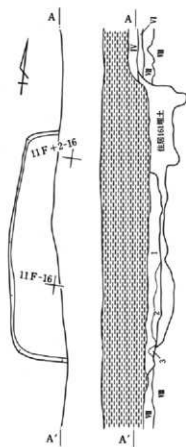
形態は方形または長方形を呈する。規模は長軸3.60m、短軸0.8m+ α 、西辺の長さは3.34mを測る。壁高は12~16cmである。主軸方位はN-92°-Eを指す。

内部施設は確認されなかった。床面は下層の住居埋没土、Ⅶ層を踏み固めている。

L=103.70m
0 1:60 2m

住居4区160 土層注記

- 1 暗褐色土 IV層に類似。Ⅶ層が混入。As-Cを5%含む。
- 2 灰黄褐色土 Ⅶ層主体。Ⅶ層ロームブロック(径10~30mm)20%とAs-Cを3%含む。
- 3 黒褐色土 Ⅶ層とⅧ層の混合土。(5:5)



125図 住居4区160 遺構図

埋没状態はIV層とVI層が混入した暗褐色土で埋没しているのが観察できることから自然埋没と想定される。

遺物は土師器甕、杯などの小片が若干出土しているが図化できる個体が存在しなかった。

本住居の時期は出土遺物、埋没土などから7世紀以降に比定される。

住居 5 区49

5区調査区の北より西隅、10R・S-19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は南西角で土坑5区50と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。残存状態は確認面から床面までが浅いためあまり良好ではない。

形態は各角がやや丸みをもつ長方形を呈す。規模は長軸2.78m、短軸2.05m、各辺の長さは北2.09m、東2.73m、南1.96m、西2.63mを測る。壁高は4~7cmと浅い。床面積は4.8m²である。主軸方位はN-96°-Eを指す。

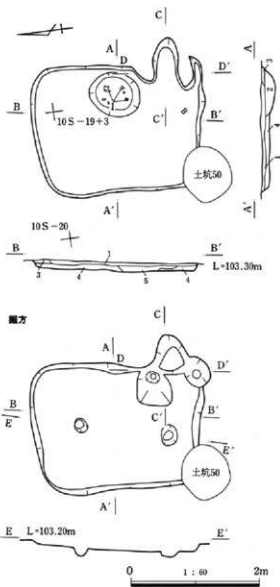
内部施設は柱穴、貯蔵穴、周溝などは確認されなかったが、住居中央より東よりに径80×68cm、深度15cmの楕円形をした土坑を検出した。床面は周囲の土層よりやや堅い程度で明確に踏み固めている様子は窺えない。

カマドは東辺の南よりに構築されている。残存状態は燃焼部に焼土、灰が残存し袖の痕跡が解る程度でしかない。規模は全長95cm、幅100cm、焚口幅31cmを測る。煙道は不明である。カマドの掘方は両袖の下部に土坑状の落ち込みが見られた。

住居掘方は床面より5~8cmほど掘り込まれているが底面はほぼ平坦である。埋没状態は確認面から床面までが浅いため土層観察断面での堆積状態が不明瞭であるがIV層に近似した黒褐色土で埋没していることから自然埋没であると想定される。

遺物は土師器甕が80点、須恵器杯、甕が30点ほど出土しているが小片だけで図化可能なものは僅かに1点であった。図化した遺物は貯蔵穴内からの出土であった。

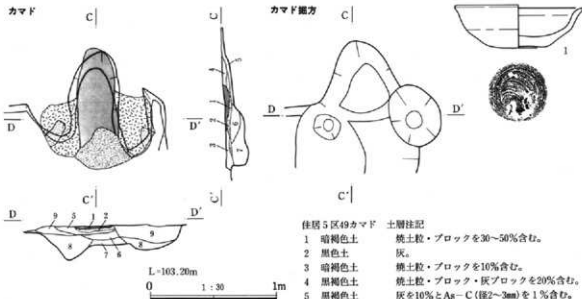
本住居の年代は出土遺物である1の須恵器杯から10世紀中葉に比定される。



住居 5 区49 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に近似。VI層が混入。As-C(径2~4m)を5%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。As-Cは殆ど見られない。
- 3 黒褐色土 IV層に類似。As-C(径1m前後)を1%含む。
- 4 黒褐色土 しまり強い。As-Cは殆ど含まない。
- 5 黒褐色土 ロームブロック(径5cm)、As-C(径1cm以下)を1%含む。

126図 住居 5 区49 遺構図 (1)



127図 住居5区49 カマド遺構図(2)・遺物図

住居5区49カマド 土層注記

- | | | |
|---|---------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 焼土粒・ブロックを30~50%含む。 |
| 2 | 黒色土 | 灰。 |
| 3 | 暗褐色土 | 焼土粒・ブロックを10%含む。 |
| 4 | 黒褐色土 | 焼土粒・ブロック・灰ブロックを20%含む。 |
| 5 | 黒褐色土 | 灰を10%とAs-C(径2~3mm)を1%含む。 |
| 6 | 黒褐色土 | 焼土粒・灰を10%含む。 |
| 7 | 黒褐色土 | VI層に類似。 |
| 8 | にぶい黄褐色土 | 焼土粒3%・黒色灰50%含む。 |
| 9 | 暗褐色土 | 焼土粒10%・黒色灰30%含む。 |

住居5区51

5区調査区の中程西より、10P・Q-18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代住居5区52と重複する。新旧関係は本住居の方が新しい。残存状態は確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。

形態はほぼ長方形を呈する。規模は長軸3.84m、短軸2.90m、各辺の長さは北3.76m、東2.56m、南3.46m、西2.68mを測る。壁高は7~12cmと浅い。床面積は9.6㎡である。主軸方位はN-96°-Eを指す。

内部施設は柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。床面は中央部が地山をそのまま踏み固めて周辺部は黒色土を固めた貼床であった。

カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は燃焼部底面と両袖基部が解る程度しかなかった。規模は全長160cm、幅199cm、焚口幅48cmを測る。焚口前部に径72cm、深度24cmで円形の土坑状の落ち込みを検出したが内部には10%程度焼土粒、小ブロックを含む程度で灰・焼土等の廃棄に使用されたものではない。カマド掘方は燃焼部、右袖は一体の掘込みであったが、左袖は小土坑状の掘込

みが見られた。

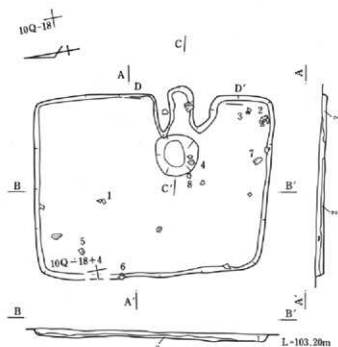
住居掘方は北東角、北西角を深度15cmほどの土坑状の掘込みが確認されただけである。埋没状態は土層観察断面ではほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が250点、須恵器杯を中心に57点ほどが東南角付近、カマド前部、北西部に散乱した状態で出土している。図化可能なものは8点であった。図化した遺物のうち5が床直、他の遺物は床面から5~10cmほど上位の埋没土内からの出土であった。

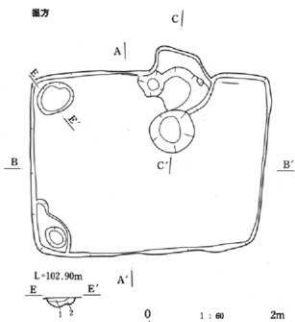
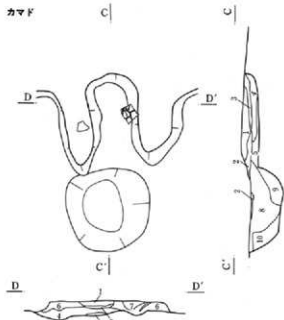
本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから9世紀第3四半期前半に比定される。

住居5区51 土層注記

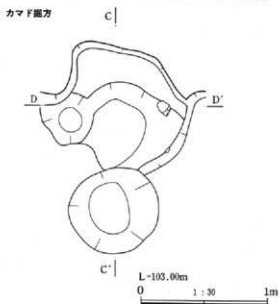
- | | | |
|---|-------|--------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | IV層主体でVI層混入。As-C(径3~5mm)を5%含む。 |
| 2 | 灰黄褐色土 | IV層に近い。As-C(径1~4mm)を3%含む。 |
- 住居5区51床下土坑 土層注記
- | | | |
|---|------|--------------------|
| 1 | 黒褐色土 | VI層に類似。As-Cを5%含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | VII層に類似。As-Cを1%含む。 |



カマド

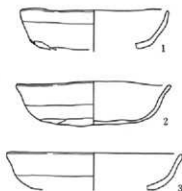


カマド

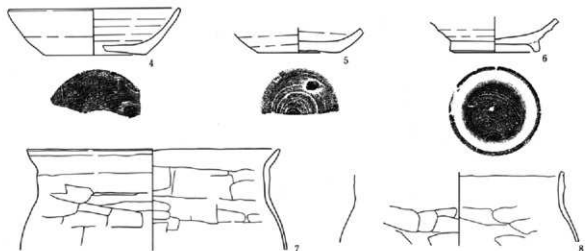


住居5区51カマド 土層法記

- 1 黒褐色土 炭化物、焼土粒ブロックを1~2%と、As-Cを3%含む。
- 2 黒褐色土 灰主体、焼土を10%含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒、ブロックを20%と炭化物を10%含む。
- 4 黒褐色土 VI層に近似。焼土粒を3%含む。
- 5 黒褐色土 VII層に近似。焼土粒を1%含む。
- 6 暗褐色土 焼土小ブロック・炭化物を10%含む。
- 7 淡黄色土 凝灰岩?左袖補強材。
- 8 暗褐色土 焼土粒10%・As-C(径2~3mm)2~3%含む。
- 9 暗褐色土 8に類似。VIIIブロック(径20~30mm)を10%含む。
- 10 黒褐色土 VI層に類似。焼土粒5%、As-C(径2~3mm)2~3%含む。



128図 住居5区51 遺構図・遺物図(1)



129図 住居5区51 遺物図(2)

住居5区52

5区調査区の中程西より、10P・Q-18・19グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代住居5区51、土坑5区74と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。残存状態は北東部1/6、南東角を重複する遺構によって欠き、確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。

形態はほぼ長方形を呈する。規模は長軸4.57m、短軸3.90m、各辺の長さは南3.80m、西4.27mを測る。壁高は12~16cmと浅い。床面積は16.0㎡である。主軸方位はN-101°-Eを指す。

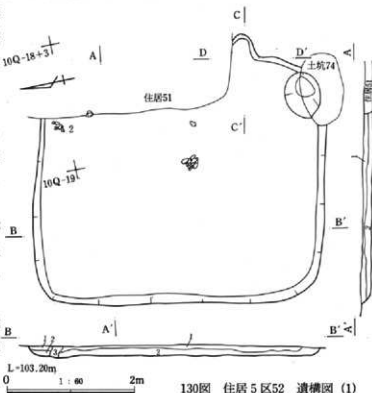
内部施設は柱穴、周溝等は確認されなかったが、貯蔵穴は南東角で確認された。貯蔵穴は楕円形で径62×58cm、深度53cmである。床面は西半分がIV層である灰褐色土を入れて固めた貼床であった。

カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は重複する住居5区51によって西半分を欠き、わずかに10Q-18+31燃焼部底面が解る程度でしかなかった。規模は全長45cm、幅50cm+αを測る。

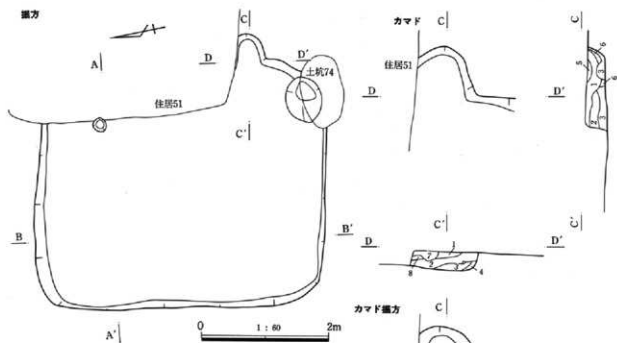
住居掘方は西半分だけを掘込んでいるが底面はほぼ平坦である。埋没状態は土層観察断面ではほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が114点、須恵器杯を中心に28点ほどが散乱した状態で出土している。図化可能なものは4点であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから9世紀第2四半期前半に比定される。



130図 住居5区52 遺構図(1)



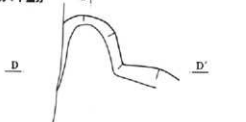
住居5区52 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層主体でVI層が混入。As-C(径1~3mm)を3%含む。
- 2 灰黄褐色土 IV層に近似。As-C(径1~3mm)を3%含む。
- 3 灰黄褐色土 やや粘質土。ブロック状の堆積。

住居5区52カマド土層注記

- 1 黒褐色土 焼土ブロック(径5mm前後)を20%含む。
- 2 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-C(径1~3mm)を2%含む。
- 3 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-Cを1%含む。
- 4 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-Cは殆ど含まれていない。
- 5 黒褐色土 1に類似。焼土を5%含む。
- 6 黒褐色土 3に類似。焼土を5%含む。
- 7 黒褐色土 焼土粒を10%含む。
- 8 にぶい黄色土 I層のブロック・焼土を10%含む。

カマド掘方



131図 住居5区52 遺構図(2) 遺物図

住居5区53

5区調査区の中央よりやや北より、10N・O-16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は溝5区48、居宅掘立柱建物5区171、内部区画柵と重複する。新旧関係は本住居の方が古い。残存状態は東辺部分を重複する遺構溝5区48によって欠き、確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。形態はほぼ長方形を呈する。規模は長軸5.86m

+α、短軸5.62m、各辺の長さ北6.30m、南5.70m +α、西5.45mを測る。壁高は8~16cmと浅い。床面積は32.7㎡と想定される。主軸方位はN-95°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかったが、掘方調査時において柱穴と周溝を検出した。柱穴は4本がほぼ2.5mの方形になる位置に設置されており掘方形態は長方形に近い。規模

は柱穴P1が径56×47cm、深度40cm、柱穴P2が径47×45cm、深度28cm、柱穴P3が径60×42cm、深度20cm、柱穴P4が径58×48cm、深度41cmである。周溝は北辺と南辺の西よりで検出した。幅は10~40cm、深度10cmほどである。床面はVI層、VII層の黒色土による貼床である。

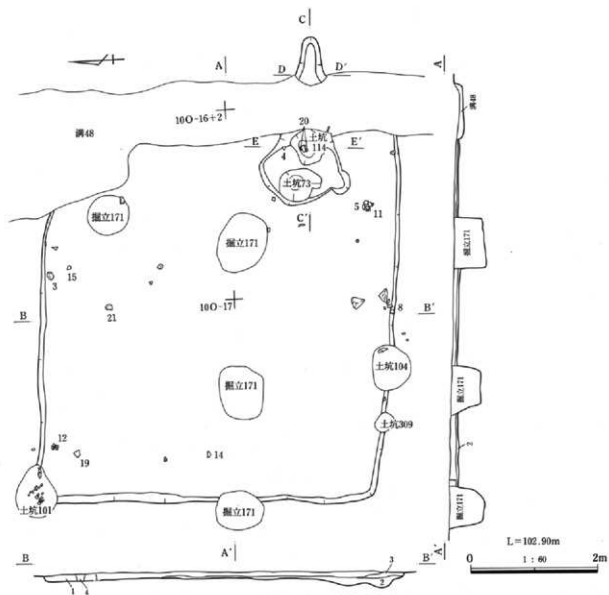
カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。残存状態は煙道部の一部と燃烧部掘方が解る程度しかなかった。規模は全長267cm、幅145cmを測る。掘方は全体的に大きく土坑状に掘込み、長軸方向に径50cmほどの小さい掘込みが見られる。

住居掘方は周辺部を中央部より5~10cmほど深く

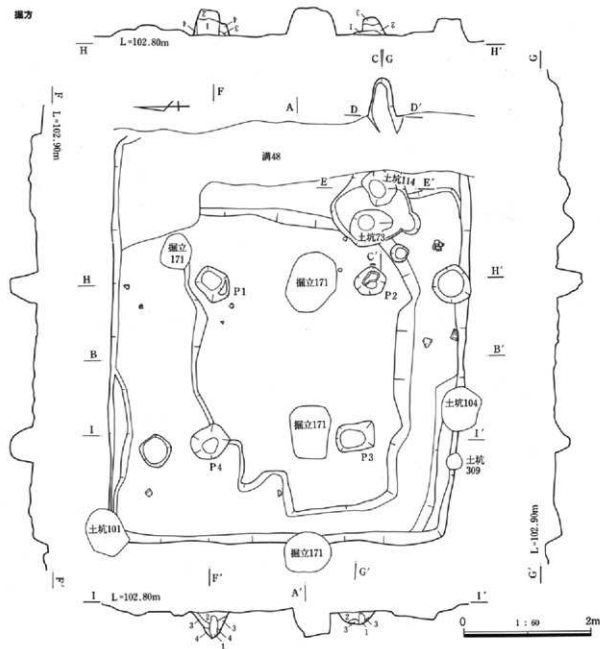
掘込んでいる。埋没状態は土層観察断面ではほぼ水平な堆積が観察されたことから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・壺が810点、須恵器杯を中心に80点ほどがカマド周辺と北東部にややまとまった状態で出土している。図化可能なものは磁石1点を含めて21点であった。図化した遺物のうち3、5、8、11、21が床直、20がカマド、15、16が床下からの出土であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第1四半期前半に比定される。



132図 住居5区53 遺構図(1)



住居5区53 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-C (径2~3mm) を2%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。As-C (径2~3mm) を1%含む。
- 3 黒褐色土 1に類似。1よりAs-C少ない。
- 4 黒褐色土 VI層と同様。

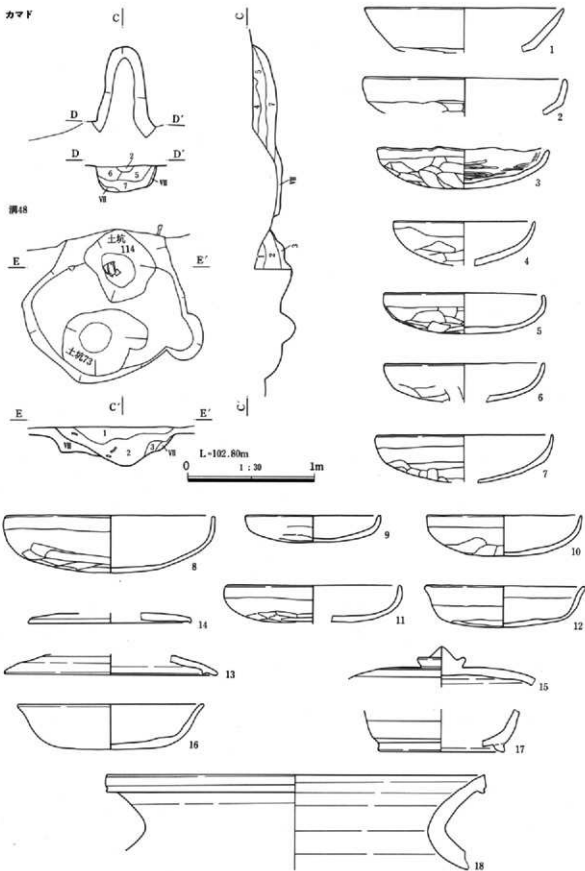
住居5区53柱穴 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。白色軽石 (径2mm) を2%含む。
- 2 黒褐色土 粘質土。
- 3 黒褐色土 シルト質。白色軽石 (径1mm) を微量含む。
- 4 黒褐色土 3に類似。

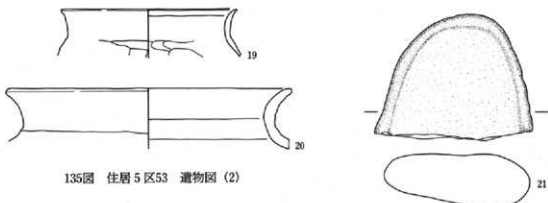
住居5区53カマド 土層注記

- 1 暗褐色土 As-Cを3%と焼土粒を3%含む。
- 2 暗褐色土 As-Cを5%と焼土粒を30%含む。
- 3 黒褐色土 As-Cを2%と炭化物粒を1%含む。
- 4 黒褐色土 As-Cを1%と焼土粒を20%含む。
- 5 黒褐色土 VII層に類似。焼土粒を5%含む。
- 6 黒褐色土 焼土粒を10%含む。
- 7 黒色土 焼土粒を5%含む。

133図 住居5区53 遺構図(2)



134図 住居5区53 遺構図(3)・遺物図(1)



135図 住居5区53 遺物図(2)

住居5区58

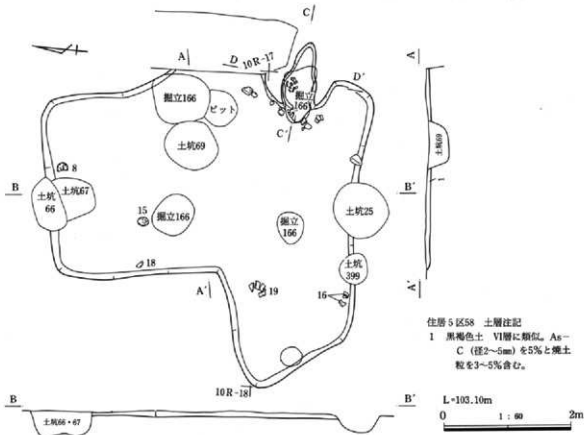
5区調査区の中央より北より、10Q・R-17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅掘立柱建物5区166、土坑、古墳時代溝5区04と重複する。新旧関係は本住居の方が居宅掘立柱建物5区166、土坑より古く、溝5区04より新しい。残存状態は一部を重複する遺構によって欠き、確認面から床面まで浅いためあまり良好な状態ではない。

形態は南西部に矩形の張り出しをもつ鐘形を呈す

る。規模は長軸5.30m、短軸5.20m、各辺の長さ北2.75m、東5.10m、南3.90m、西2.44m、張り出し部分の北1.85m、同西1.60mを測る。壁高は5~20cmほどである。床面積は16.7㎡である。主軸方位はN-82°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。床面は地山をそのまま踏み固めている。

カマドは東辺中央よりやや南よりに構築されている。



住居5区58 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~5mm)を5%と燧土粒を3~5%含む。

L-103.10m
0 1 : 60 2m

136図 住居5区58 遺構図(1)

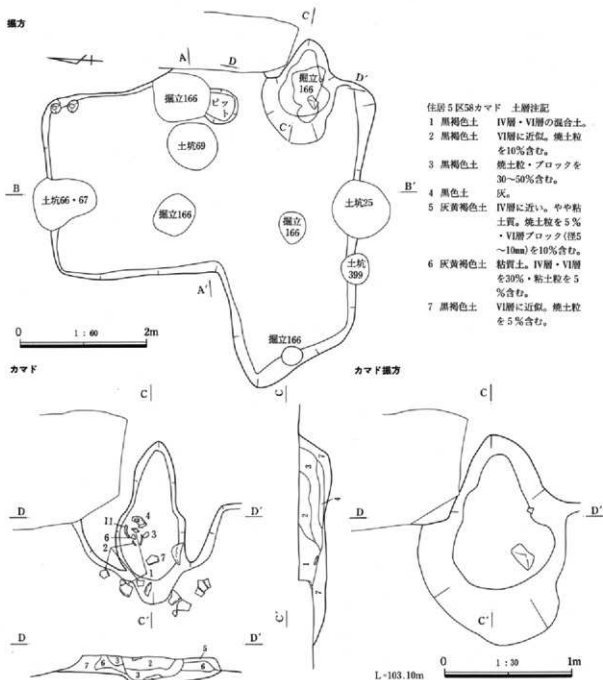
る。残存状態は袖の下部、燃焼部、煙道部の一部が残存している程度であるが本遺跡の中では比較的良好な状態であった。規模は全長128cm、幅122cmを測る。袖は灰褐色粘質土を使用して構築されている。掘方は全体的に大きく土坑状に掘込みを呈している。

埋没状態は土層観察断面では1層の堆積しか確認できなかったが自然埋没と考えられる。

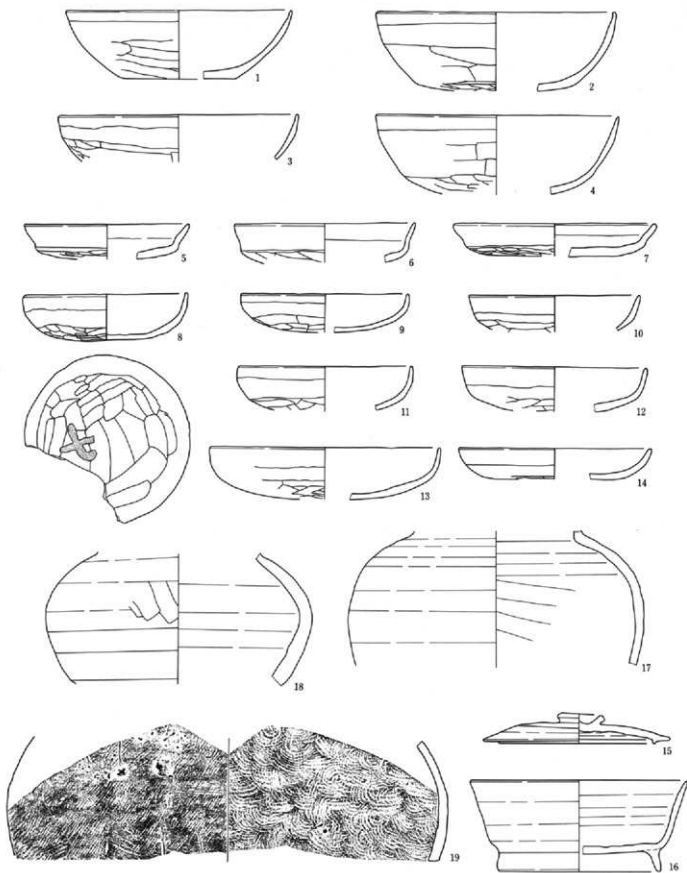
出土物は土師器杯・壺、須恵器杯を中心に150点

ほどの出土であるが図化可能なものは19点と比較的多い。図化した遺物のうち7、8、15、16、18、19が床直、1～7、11がカマドからの出土であった。また、8の土師器杯底部には「七」が墨書されている。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第1四半期に比定される。



137図 住居5区58 遺構図(2)



138图 住居5区58 遺物図

住居 5区61

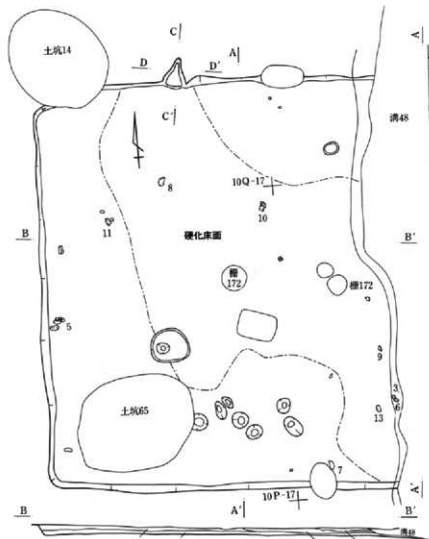
5区調査区の中程、10P・Q-16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅内部区画欄5区172、平安時代溝5区48、土坑5区65と重複する。新旧関係は本遺構の方が古い。残存状態は東辺部分を溝5区48によって欠き、確認面から床面までが浅いためあまり良好ではない。

形態は比較的明瞭な角をもつ方形か。規模は長軸6.48m、短軸6.44m+α、各辺の長さは西5.94m、北6.44mを測る。壁高は5~12cmと浅い。床面積は39.4㎡である。主軸方位はN-1°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかったが、掘方調査時において柱穴を検出した。柱穴は4本でほぼ3.0mの方形になる位置に設置

されており掘方形態は長方形、楕円形である。規模は柱穴P1が径130×74cm、深度54cm、柱穴P2が径76×70cm、深度50cm、柱穴P3が径106×76cm、深度64cm、柱穴P4が径90×68cm、深度58cmである。床面はVI層、VII層の黒色土による貼床でカマド前部から東南部分にかけて踏み固められている。

カマドは北辺の中央部よりやや西よりに構築されている。残存状態は壁外に位置する煙道の一部が残存する程度で燃焼部や袖などは残存していない。規模は全長96cm、幅70cmを測る。住居内部ではカマドの痕跡などは掘方を含めて全く検出されないことから北辺に位置するカマドは初期のもので溝5区48によって欠く東辺に造り替えられた可能性も想定され



住居 5区61 土層記

- 1 黒褐色土
VI層に類似。焼土粒1%・VII層ブロック(径3~10mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土
VI層に類似。IV層層入。VII層ブロック(径5~30mm)を20%含む。
- 3 黒褐色土
2に類似。2よりVII層ブロックがやや多い。
- 4 黒褐色土
2に類似。2よりVII層ブロックが30%多い。
- 5 黒色土
VII層と同様。VII層の崩落か。
- 6 灰黄褐色土
VII層50%・VIII層移層・VII層50%を含む。
- 7 黒褐色土
IV層に類似。焼土粒を2~3%含む。
- 8 黒褐色土
VI層に類似。焼土粒1%とVII層ブロック(径5mm前後)3%含む。
- 9 近い黄褐色土
VII層ブロック主体。VI層・VII層を20%含む。
- 10 灰黄褐色土
VII層とVIII層がブロック状(7:3)に混合。
- 11 近い黄褐色土
VII層をブロック状に80%・VIII層を20%含む。

L-103.00m

0 1:60 2m

139図 住居 5区61 遺構図(1)

る。

掘方はほぼ平坦で北辺際に幅25~35cm、深度2cmほどの周溝状の落ち込みを検出した。

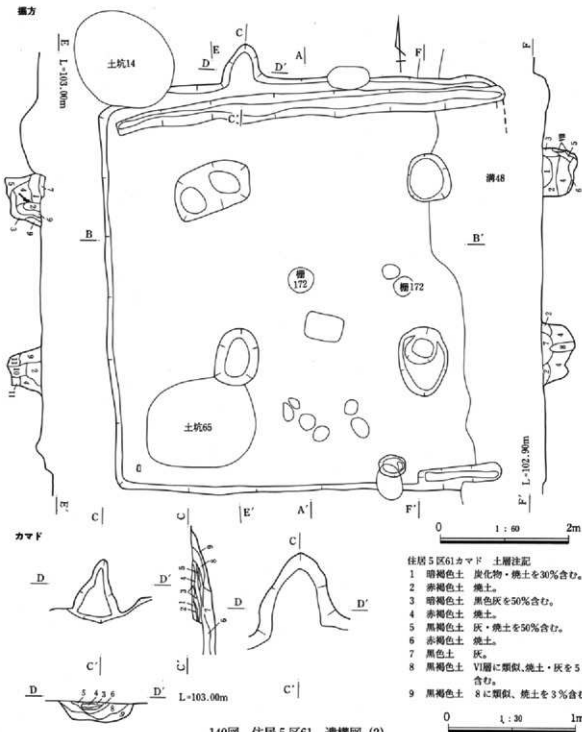
埋没状態はほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が310点、須恵器杯を中心に28

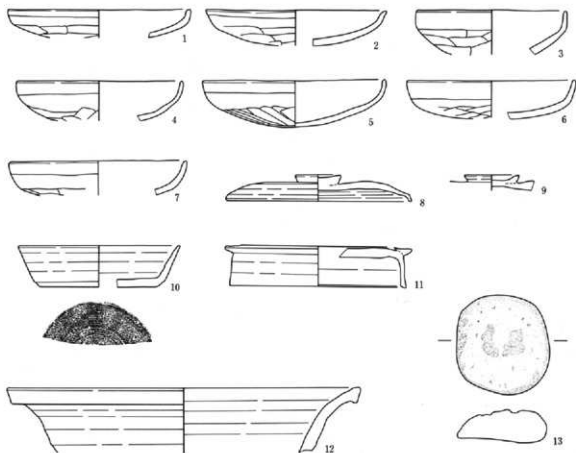
点ほどが住居全体に散乱した状態で出土している。

図化可能なものは竈1点を含めて13点であった。図化した遺物のうち3、5、6、9、11、13が床直、4、7、8が床下からの出土であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第2四半期前半に比定される。



140図 住居5区61 遺構図(2)



141図 住居5区61 遺物図

住居5区63

5区調査区の北東端、10S・T-14・15グリッドに位置する。他遺構との重複関係は居宅掘立柱建物5区168、土坑(遺構NO.無)と重複する。新旧関係は本遺構の方が居宅掘立柱建物5区168より新しく、土坑より古い。残存状態は確認面から床面までが浅いためあまり良好な状態ではない。また、住居の大部分が調査区外に存在するため詳細は不明である。

形態は南辺にやや湾曲が見られることからやや歪みをもった矩形と推定される。規模は西辺 $3\text{m}+\alpha$ 、南辺 $2\text{m}+\alpha$ 、壁高は $3\sim 10\text{cm}$ と浅い。主軸方位は $N-98^\circ-E$ を指すと想定される。

内部施設は調査した範囲では柱穴、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。床面はVI層、VII層の黒色土

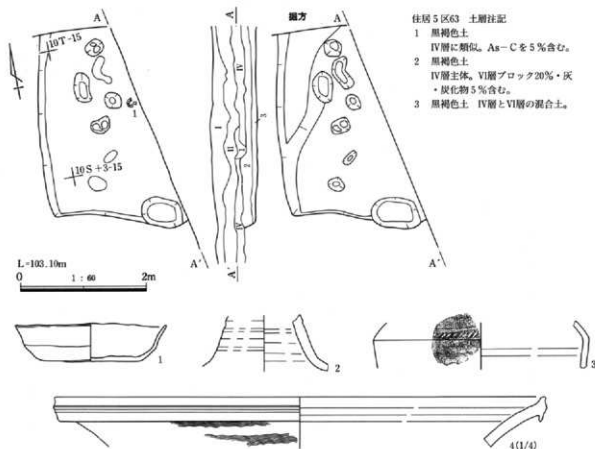
による $5\sim 10\text{cm}$ ほど貼床されている。

掘方は多少の凹凸が見られるが床下土坑などの施設は確認されなかった。

埋没状態は1層のみの堆積であるがほぼ水平な堆積が観察できることから自然埋没と考えられる。

遺物は土師器杯・甕が60点、須恵器杯・甕が6点ほど出土しているだけであった。図化可能なものは4点であった。図化した遺物のうち1が床直からの出土であった。2の高坏、3の長頸壺は居宅に伴う時期の遺物であることから本住居廃棄後の混入と考えられる。

本住居の年代は数少ない出土遺物や重複する遺構などから9世紀第中葉に比定される。



- 住居 5 区 63 土層表記
- 1 黒褐色土
IV層に類似。As-Cを5%含む。
 - 2 黒褐色土
IV層主体。VI層ブロック20%・灰・炭化物5%含む。
 - 3 黒褐色土 IV層とVI層の混合土。

142図 住居 5 区 63 遺構図・遺物図

住居 5 区 260

5 区調査区の中程、10L・M-15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝 5 区 48、土坑 5 区 287、奈良時代住居 5 区 261、5 区 418 と重複する。新旧関係は本遺構の方が溝 5 区 48、土坑 5 区 287 より古く、住居 5 区 261、5 区 418 より新しい。残存状態は確認面から床面までが浅く特に南辺側は谷地へ移行する傾斜地のため住居範囲も不明確な部分もあり良好な状態ではない。

形態は東西方向にやや長いがほぼ方形を呈す。規模は長軸4.89m、短軸4.72m、各辺の長さは北4.76m、東4.12m、南4.72m、西4.24mを測る。壁高は0~11cmと浅い。床面積は20.8m²である。主軸方位はN-90°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴を1本検出したが、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。柱穴は住居東南部に位置し、形態は円形で規模は径42×38cm、深度21

cmである。床面は西南部で黒色土による貼床が確認された。

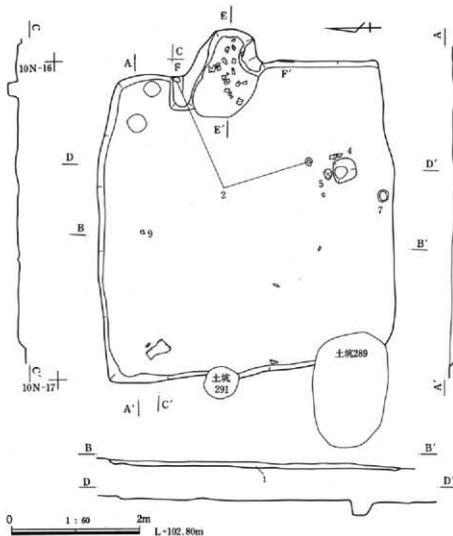
カマドは東辺の中程よりやや北よりに構築されている。残存状態は天井部、右袖の前部を欠くが他は比較的良好である。規模は全長138cm、幅134cm、焚口幅55cmである。掘方は全体を大きな土坑状に掘削したものである。

掘方は下位に住居 5 区 418 が存在するため明確ではないがほぼ平坦である。

埋没状態は1層のみの堆積であるが自然埋没と考えられる。

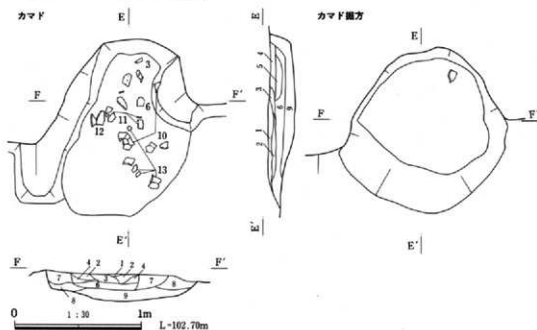
遺物は土師器杯・甕、須恵器杯を中心に310点ほど出土しているが図化可能なものは13点であった。図化した遺物のうち2、7、9が床直、3、6、10~13がカマド、4が床下からの出土であった。

本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから8世紀第1四半期後半に比定される。

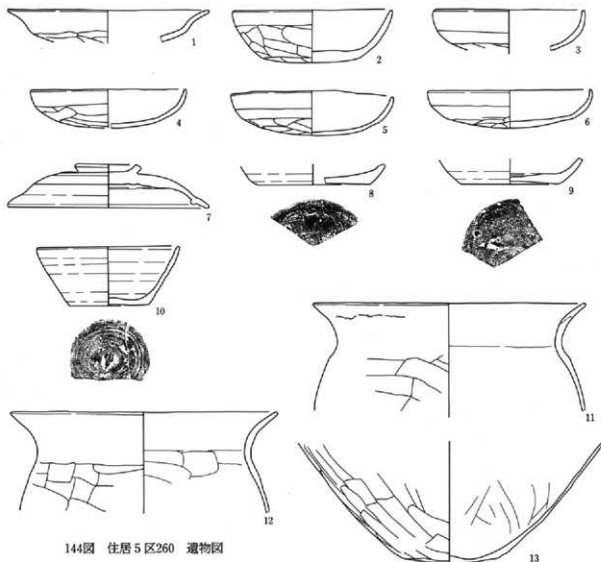


住居5区260 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層を20%含む。
- 2 黒色土 VII層と同様。
- 住居5区260カマド土層注記
- 1 灰褐色土 灰層。焼土粒10%・C粒石(径2mm)微量含む。
- 2 灰褐色土 灰とシルト混合土。炭化粒(径2~10mm程度)7%・焼土粒(径2~5mm)3%含む。
- 3 暗褐色土 焼土ブロック主体。シルト15%・炭化物10%含む。
- 4 黒褐色土 シルト質。炭化物(径2~5mm)2%・焼土粒(径1~4mm)3%・As-C(径2mm程度)3%含む。
- 5 黒褐色土 炭・焼土・灰を30~50%含む。
- 6 黒色土 炭・焼土・灰黄褐色粘土ブロック。
- 7 によい黄褐色土 VII層下をカマド袖に使用するためブロック状に切り取ったもの。
- 8 灰黄褐色土 焼土ブロックを30%と炭化物を5%含む。
- 9 黒褐色土 IV層・VI層の混土。焼土粒5%・炭化物3%含む。



143図 住居5区260 遺構図



144図 住居5区260 遺物図

住居5区261

5区調査区の中程、10M・N-15・16グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、奈良時代住居5区260、5区418、土坑5区287と重複する。新旧関係は本遺構の方が溝5区48、住居5区260、土坑5区287より古く、住居5区418より新しい。残存状態は重複する住居5区260によって南半の2分の1を欠き、確認面から床面までが浅いため良好な状態ではない。

形態は南北方向に長い長方形を呈す。規模は長軸6.54m、短軸4.79m、各辺の長さは北4.70m、東6.40mを測る。壁高は5～17cmと浅い。床面積は29.1㎡である。主軸方位はN-93°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴を2本検出したが、貯蔵

穴、周溝等は確認されなかった。柱穴はカマド前の両側で住居東南部に位置する。形態はともに円形で規模は柱穴P1が径40×40cm、深度24cm、柱穴P2が径52×52cm、深度20cmである。床面は地山をそのまま踏み固めている。

カマドは東辺の中程よりやや南よりに構築されている。残存状態は天井部、両袖とも欠く。規模は全長72cm、幅74cmである。掘方は全体を大きな土坑状に掘削したものである。

埋没状態は1層のみの堆積であるが自然埋没と考えられる。

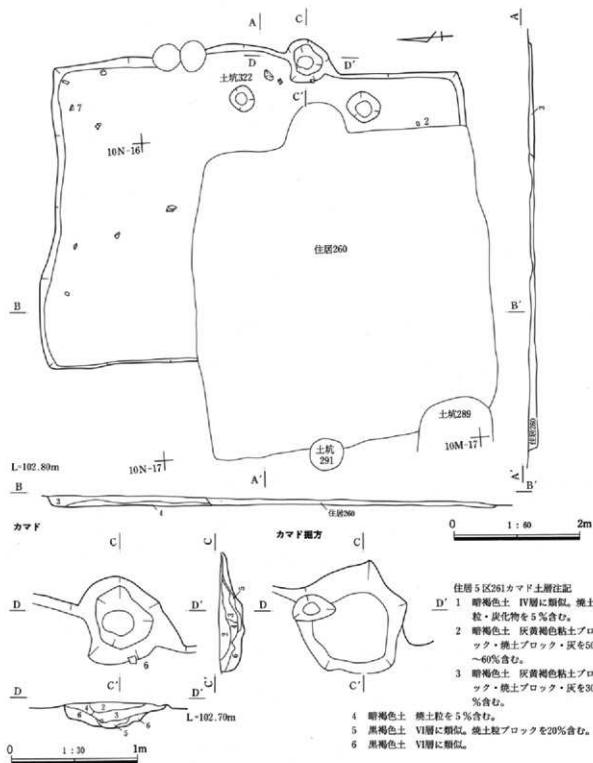
遺物は土師器杯・甕、須恵器杯を中心に280点ほど出土しているが図化可能なものは7点であった。図化した遺物のうち7が床直、6がカマド、2が床下

からの出土であった。

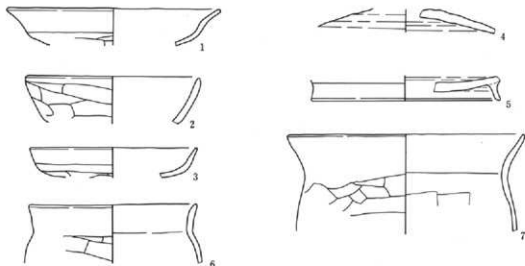
本住居の年代は出土遺物、重複する遺構などから
8世紀第1四半期に比定される。

住居5区261 土層注記

- 3 黒褐色土 IV層に類似。1より、やや暗い色調。
4 黒褐色土 2に類似。VI層ブロックを30%含む。



145図 住居5区261 遺構図



146図 住居5区261 遺物図

住居5区418

5区調査区の中程、10M・N-16・17グリッドに位置する。他遺構との重複関係は平安時代溝5区48、奈良時代住居5区261、5区418、土坑5区287と重複する。新旧関係は本遺構の方が重複する他の遺構より古い。残存状態は重複する住居5区261によって北東部の2分の1を欠き、確認面から床面までが浅いため良好な状態ではない。

形態は東西方向に長い長方形を呈す。規模は長軸4.72m、短軸4.15m、各辺の長さは北3.60m、東4.60m、南3.90m、西4.60mを測る。壁高は15cmと浅い。床面積は17.5㎡である。主軸方位はN-92°-Eを指す。

内部施設は床面では柱穴を2本検出したが、貯蔵穴、周溝等は確認されなかった。柱穴はカマド前と中央部に位置する。形態はともに円形で規模は柱穴P1が径80×55cm、深度13cm、柱穴P2が径65×65cm、深度12cmである。床面は地山をそのまま踏み固めている。

カマドは東辺の中程よりやや南よりに構築され住居5区260のカマドとほぼ同じ位置である。残存状態はほとんど欠落した状態である。

埋没状態は断面で厚さ5～7cmで3層が水平に堆積していることが観察でき他の住居での水平堆積で

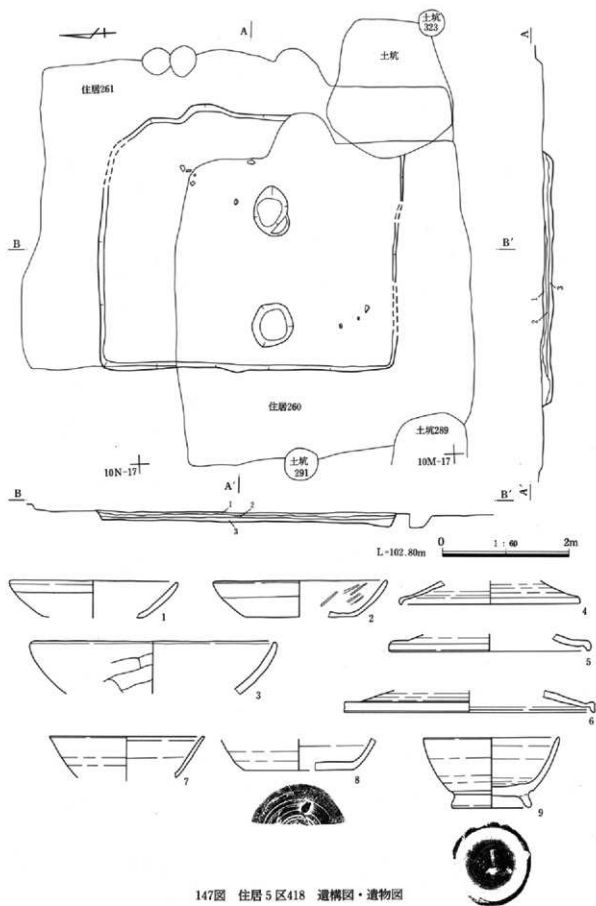
の自然埋没と様相が異なる。こうしたことから重複する住居5区261等を構築する際に人為的に埋め戻した可能性が想定される。

遺物は上位を住居5区260、261によって削平されているため少ないが土師器220点、須恵器20点が出土している。図化した遺物は9点あるが本住居に伴うものは1～3の土師器杯、8、9の須恵器杯、碗の5点と考えられるが上位に存在する2軒の住居も本住居と同様な時期に比定されることからこれらの遺物についても明確ではない。

本住居の時期は出土した遺物や重複する遺構などから7世紀後半代に比定される。

住居5区418 土層記

- 1 黒褐色土 粘質土。焼土粒・炭化物を2～3%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似。(径2～3mm)の白色軽石を3%含む。
- 3 黒褐色土 1に類似。



(3) 掘立柱建物

掘立柱建物 5区167

5区調査区北、10T・11A-17・18グリッドに位置する。他遺構との重複関係は見られない。残存状態は比較的良好である。

形態は西辺が東辺よりやや長いほぼ南北に長い長方形を呈す。規模は梁行2間3.08m、桁行2間3.28～3.52mを測る。面積は10.6㎡である。主軸方位はN-91°-Eを指す。

柱穴は円形、矩形などやや不統一な掘方である。規模も最小径16cm、最大径46cmと差があるが大部分は径30～40cmである。また、深度も12cmから40cmと差が見られる。柱痕は柱穴P5の断面で20cmほどであることが観察された。

遺物の出土は僅かであったが、柱穴P7より図示した須恵器壺口縁部が出土している。

本掘立柱建物の時期は他遺構との関係や埋没土の様相、出土遺物から10世紀代に比定される。



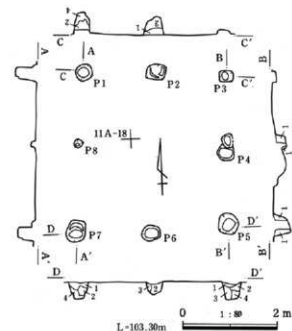
148図 掘立柱建物 5区167 遺構図・遺物図

(4) 井戸

井戸 4区219

4区調査区中程、11M-18グリッドに位置する。他遺構と直接の重複は確認されなかった。

形態は確認面ではほぼ円形を呈し、断面は上位から0.40mの地点でやや細まりその下位は径0.60mほどの筒状を呈す。規模は確認面で径0.76m、底面で径0.52m、深度0.96mを測る。埋没土は内部にブロック状の塊が確認できることから人為的な埋め戻しが行われたと想定される。遺物は土師器の破片が多少と礫が出土しただけであった。なお、本井戸は断面でアグリなど湧水の痕跡がみられないことから掘削途中で断念した可能性が高い。



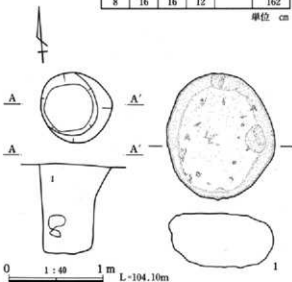
掘立柱建物 5区167 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-Cを1%含む。
- 2 褐色土 As-Cを1%含む。
- 3 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-Cを2～3%含む。
- 4 黒褐色土 VI・VII層の混土。VIII層ブロック(径5～30mm)を20%含む。

16表 掘立柱建物 5区167柱穴計測表

No.	長径	短径	深度	柱痕径	間距離
1	36	32	45		160
2	40	36	40		146
3	30	24	12		142
4	32	22	24		184
5	44	40	40		164
6	40	36	28		164
7	46	44	40		186
8	16	16	12		162

単位 cm



井戸 4区219 土層注記

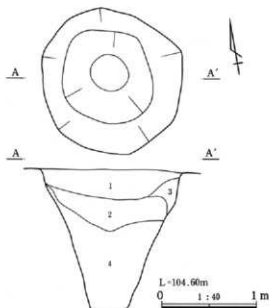
- 1 黒褐色土 VII層に類似。As-Cを3%とVIII層ブロック(径10～30mm)を10%含む。

149図 井戸 4区219 遺構図・遺物図

井戸4区224

4区調査区北側、11N・O-21グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。

形態は確認面ではやや歪んだ円形を呈し、断面は逆円錐に近い台形を呈する。規模は確認面で径1.56m、底面で0.40m、深度1.50mを測る。埋没土は下半に多くのブロック状の塊が観察できることから人為的な埋め戻しが行われたと想定される。遺物は土師器、弥生土器、縄文土器などが基在して出土していた。なお、本井戸は219同様に断面でアグリなど湧水の痕跡がみられないことから掘削途中で断念した可能性が高い。



井戸4区224 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。VII層ブロック(径5~20mm)を5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径10~50mm)30%・As-C.3%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。VIII層を塊状とブロックで50%含む。
- 4 黒色土 VIII層とVIII層がブロックで混入。

(5) 土坑

4区、5区調査区第2面からは多くの土坑を検出した。第2面で検出した土坑は「II 調査の方法」で記載したように古墳時代後期から平安時代後期までの時期に属するものである。このうち遺物などが出土して奈良・平安時代に属する土坑は17表に掲げたものである。

土坑は形態・規模も一応ではなくその差が大きい。遺物はほとんどが出土量も少なく図化可能な遺物も1点または2点でしかない。そうした中では5区65、155、344で比較的まとまった出土がみられた。特に5区344では土師器甕が3個体以上出土しており4区・5区調査区の中での土坑では特異なものであった。また、土坑内から出土した遺物は比較的同一の時期のもので占めているものが多かったが5区55のように時期の異なる遺物が出土している土坑もいくつか存在する。

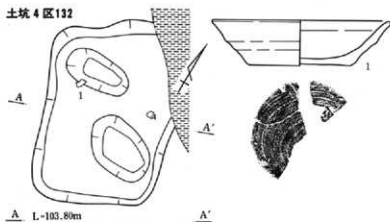
土坑の性格については墓坑、貯蔵、廃棄、下部の土砂掘削などいろいろな目的が想定されるが断定できる遺構はなかった。

150図 井戸4区224 遺構図

17表 奈良・平安時代土坑一覧

区	遺構 NO.	位置	重 複 関 係		形 態	規 模			備 考	
			新	旧		長径	短径	深度		
4	132	11G-16			長方形	198	(138)	10	一部覆土で欠損。	
	134	11H-16			ほぼ円形	36	29	2		
	136	11F-16			不整形	(112)	78	6	南側を覆土で欠損。	
	137	11G-16	土坑145		長方形	80	60	10		
	145	11H-19			円形	76	74	18		
	150	11L-19			楕円形	70	62	12		
	151	11J-18			楕円形	172	86	20		
	152	11I-18			長方形	108	72	10		
	153	11F-19			長方形	82	60	10		
	154	11F-19			長方形	76	48	22		
	159	11D-16		古墳時代溝104	長方形	82	66	26		
	163	11F-19	古代土坑?162		楕円形	124	60	4		
	164	11D-17	中世溝02		円形	(46)	66	20		
	5	50	10R-19	平安時代住居49		円形	88	76	8	
		54	10Q-18		居宅孤立柱建物166	楕円形	212	166	42	
		55	10M-18		居宅孤立柱建物387	楕円形	566	282	26	
56		10O-16	平安時代溝48		楕円形	(78)	68	4		
57		10O-16	古代土坑350		長方形	(90)	50	4		
65		10P-17		奈良住居61	長方形	188	148	40		
70		10R-14			楕円形	84	72	24		
71		10R-14			楕円形	88	72	28		
74		10P-18		奈良時代住居52	楕円形	110	66	46		
105		10N-14		古墳時代溝04	円形	52	(30)	38		
114		10N-16		奈良時代住居53	楕円形	58	38	12		
129		10R-15	古代土坑128		楕円形	160	(70)	8		
134		10Q-15			楕円形	144	84	20		
138		10Q-15			円形	160	92	22		
151		10P-15			方形	32	28	12		
155		10Q-16		平安時代溝48	ほぼ円形	173	155	23		
161		10S-16	平安時代溝48		方形	32	28	12		
200		10R-17	古代土坑201	古代土坑202	楕円形	114	96	40		
202		10R-18	古代土坑200		不整形	(96)	84	32		
217		10Q-19	古代土坑218		長方形	284	54	10		
219		10Q-18			不整形	302	140	16		
246		10N-17			楕円形	66	46	10		
271		10M-18		平安時代土坑55	楕円形	84	68	38		
311		10N-16			楕円形	52	50	10		
319		10N-15			不整形	(70)	(14)	24		
332		10M-14		古代溝	楕円形	84	54	14		
342		10N-18			楕円形	98	58	28		
344		10N-15			円形	68	66	38		
347		10N-15	古代土坑319		不整形	(118)	38	12		
369		10N-17			不整形	134	74	28		
426		10G-15			楕円形	60	50	6		
441		10K-16			楕円形	88	74	66		
442	10L-16			方形	94	86	70			
443	10L-15			円形	98	94	66			
445	10J-13			円形	80	76	42			
446	10K-13			楕円形	114	104	40			

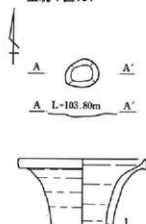
土坑 4 区132



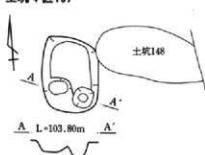
土坑 4 区132 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IIに近似。甎層ブロック(径30~50mm)を30%含む。
2 灰黄褐色土 1と甎層のブロック。

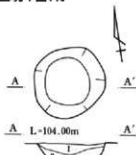
土坑 4 区134



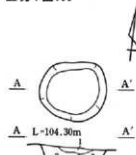
土坑 4 区137



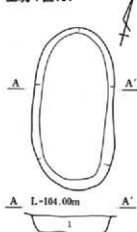
土坑 4 区145



土坑 4 区150



土坑 4 区151



土坑 4 区152



土坑 4 区145 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層がブロック状に混入。炭化材の小片を5%含む。

- 2 黒褐色土 IV層が主体。

土坑 4 区150 土層注記

- 1 上より黄褐色土 IV層に類似。As-C・甎層粒3%含む。

- 2 暗褐色土 IV層に類似。甎層粒3%含む。

- 3 黒褐色土 IV・VI層の混土。甎層ブロック10%含む。

土坑 4 区151 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。

土坑 4 区152 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを10%含む。

- 2 黒褐色土 VI層と同様。

土坑 4 区153 土層注記

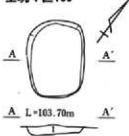
- 1 黒褐色土 As-C混土。黄色ロームブロックを若干と炭化物小ブロック(径3mm以下)を少量含む。

土坑 4 区154 土層注記

- 1 暗褐色土 As-C混土。砂質土主体。黒褐色土をまだらに含む。

- 2 黒褐色土 As-C混土。粘質土。砂質土を若干含む。

土坑 4 区153



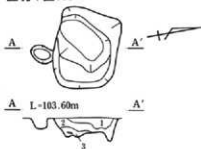
土坑 4 区154



0 1:40 1m

151図 土坑 4 区132・134・137・145・150・151・152・153・154 遺構図

土坑 4 区159



土坑 4 区159 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層が混入。
- 3 黒褐色土 VI層に類似。

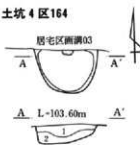
土坑 4 区163 土層注記

- 1 黒褐色土 黒褐粘質土。As-C混土。ローム粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 黄色シルト (VII層)。
- 3 濃い黄褐色土 黒褐粘質土とVII層の混合土 (5:5)。

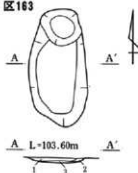
土坑 4 区164 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層が混入。

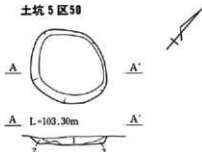
土坑 4 区164



土坑 4 区163



土坑 5 区50



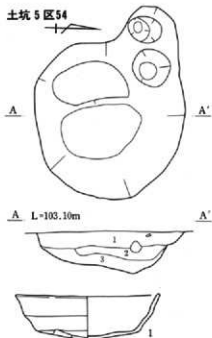
土坑 5 区50 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。As-C (径2~5mm) を3~5%含む。
- 2 黒褐色土 VII層の崩落土。VII層を10%程度混入。

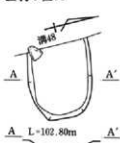
土坑 5 区54 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。VII層が混入。As-Cを5%・焼土粒を1%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~3mm) を2%含む。
- 3 黒色土 VII層に類似。VII層ブロック (径10~30mm) を10%含む。

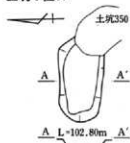
土坑 5 区54



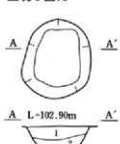
土坑 5 区56



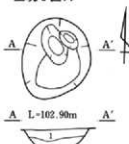
土坑 5 区57



土坑 5 区70



土坑 5 区71

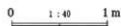


土坑 5 区70 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~4mm) を5%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似するが、As-Cを1~2%含む。

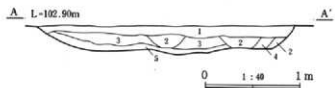
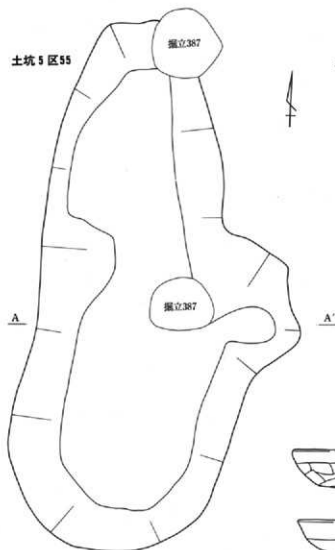
土坑 5 区71 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層に類似。As-C (径2~4mm) を5%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似するが、As-Cは1~2%含む。



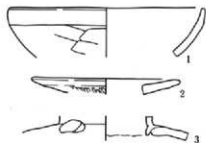
152図 土坑 4 区159・163・164・5 区50・54・56・57・70・71遺構図・遺物図

土坑 5 区 55

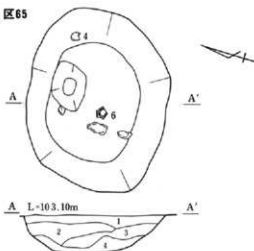


土坑 5 区 55 土層注記

- 1 におい黄褐色土 IV層に類似。VI層をブロック状に30%含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。IV層をブロック状に20~30%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。IV層・VI層ブロック状に20~30%含む。
- 4 黒褐色土 VI層主体。IV層を30%含む。
- 5 黒色土 VII層に類似。IV層・VI層をブロック状に10%含む。

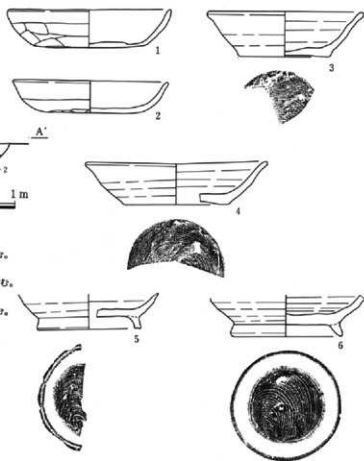


土坑 5 区 65



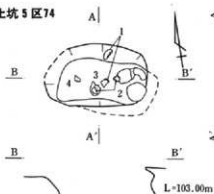
土坑 5 区 65 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。焼土粒を10%含む。
- 2 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。焼土粒・灰を10%含む。
- 3 暗褐色土 IV層・VI層の混合土。焼土粒・灰を20~30%含む。
- 4 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。焼土粒10%、VII層ブロック5~10%含む。

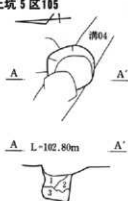


153図 土坑 5 区 55・65 遺構図・遺物図

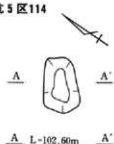
土坑 5 区 74



土坑 5 区 105

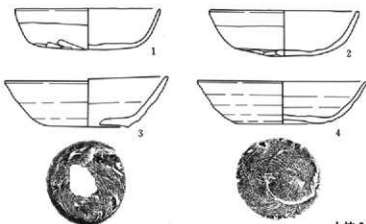


土坑 5 区 114

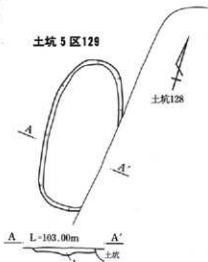


土坑 5 区 74 土層注記

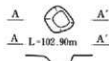
- 1 黒褐色土 IV層に近似。As-C (径2~5mm) と土粒を5%含む。
1の下部は2~5mmの黒色灰が埋積。
- 2 黒褐色土 焼土粒小ブロックを10%とⅦ層ブロックを5~15%含む。
- 3 暗褐色土 2に近似。焼土粒・小ブロック・Ⅶ層ブロックを10~20%含む。



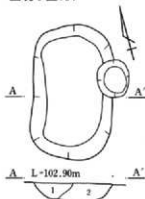
土坑 5 区 129



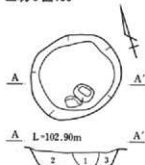
土坑 5 区 151



土坑 5 区 134



土坑 5 区 138



土坑 5 区 105 土層注記

- 1 黒褐色土 シルト質。しまりやや強い。焼土粒2%・炭化物微量含む。
- 2 黒褐色土 シルト質。しまり強い。焼土を微量含む。
- 3 黒褐色土 粘質土。粘性有り、しまり強い。黄色シルトブロックを10%含む。

土坑 5 区 129 土層注記

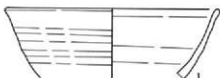
- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。Ⅵ層ブロックを10%含む。

土坑 5 区 134 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。As-Cを2%含む。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。Ⅵ層・Ⅶ層ブロックを30%含む。

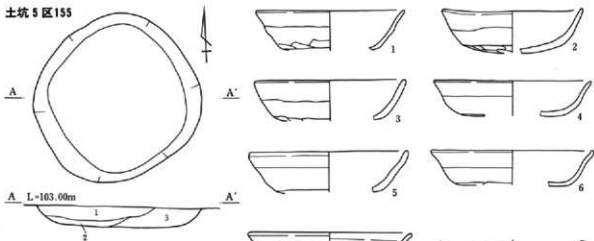
土坑 5 区 138 土層注記

- 1 灰黄褐色土 IV層に類似。Ⅵ層ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 IV層に類似。Ⅵ層・Ⅶ層ブロックを30%含む。
- 3 黒褐色土 Ⅶ層主体。Ⅵ層ブロックを20%を含む。



154図 土坑 5 区 74・105・114・129・134・138・151 遺構図・遺物図

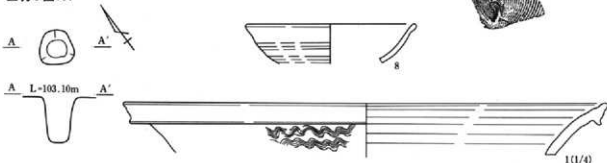
土坑 5 区155



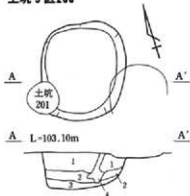
土坑 5 区155 土層注記

- 1 黒褐色土 焼土ブロックを20%含む。
- 2 黒褐色土 1に類似。焼土ブロックを5%含む。
- 3 黒褐色土 VIに類似。焼土粒を3%含む。

土坑 5 区161



土坑 5 区200



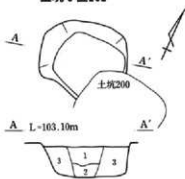
土坑 5 区200 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。VII層ブロックを10%含む。
- 3 浅黄色土 VII層30%・VIII層70%の混合土。
- 4 浅黄色土 VIII層ブロック。

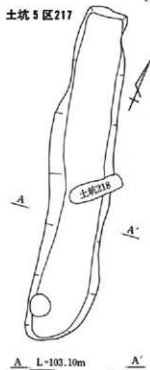
土坑 5 区202 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層・VI層の混合土。As-C5%と焼土粒1%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック30%含む。
- 3 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロック10%含む。

土坑 5 区202



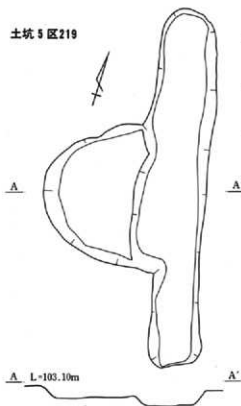
土坑 5 区217



0 1:40 1m

155図 土坑 5 区155・161・200・202・217 遺構図・遺物図

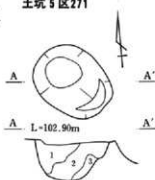
土坑 5 区219



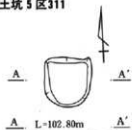
土坑 5 区246



土坑 5 区271



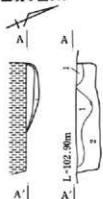
土坑 5 区311



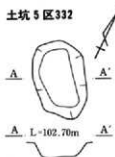
A L=103.10m



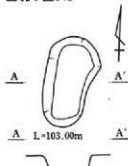
土坑 5 区319



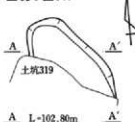
土坑 5 区332



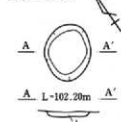
土坑 5 区342



土坑 5 区347



土坑 5 区426



土坑 5 区271 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。VI層ブロックを30%を含む。
- 2 黒褐色土 IV・VI・VII層の混合土。(2:4:4)
- 3 黒色土 VII層に類似。IV・VI層が若干混入。As-Cを2%を含む。

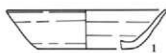
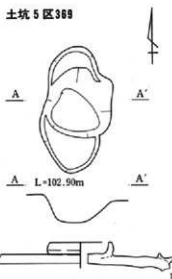
土坑 5 区319 土層注記

- 1 黒褐色土 IV層に類似。
- 2 黒褐色土 VI層に類似。VI・VII層混入。

土坑 5 区426 土層注記

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混土。As-Cを5~7%含む。

土坑 5 区369

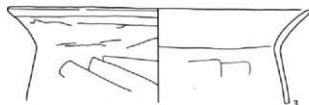
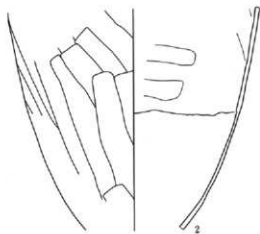
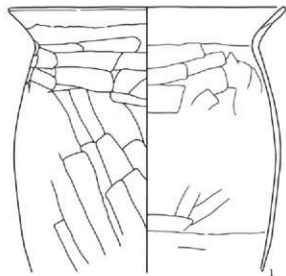
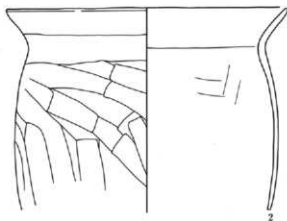


0 1:40 1m

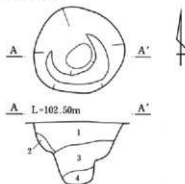
土坑 5 区344



土坑 5 区344 土層注記
 1 黒褐色土 IV層に類似。
 2 黒褐色土 VI層に類似。
 IV層ブロックを20%含む。
 3 黒褐色土 VI・VII層の
 混合土。

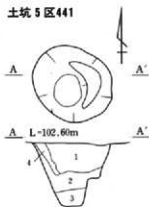


土坑 5 区443

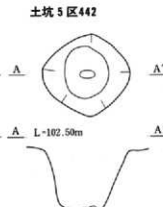


土坑 5 区443 土層注記
 1 黒褐色土 VI層に類似。IV層が30～50%混入。
 2 黒褐色土 VII層に類似。VII層が20～30%混入。
 3 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック(径5～10mm)を10%含む。
 4 黒褐色土 VII層に類似。VII層ブロック(径10～30mm)を50%含む。

土坑 5 区441



土坑 5 区442

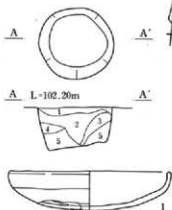


土坑 5 区441 土層注記
 1 黒褐色土 IV層に類似。As-Cを5～10%含む。
 2 黒褐色土 VI層に類似。As-Cを2%含む。
 3 黒褐色土 VII層主体。シルト質。
 4 黒褐色土 VII層主体。VII層ブロック(径5～20mm)を10%含む。

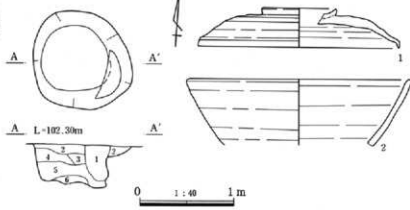


157図 土坑 5 区344・441・442・443 遺構図・遺物図

土坑 5 区445



土坑 5 区446



土坑 5 区445 土層注記

- 1 黒褐色土 VI層主体。IV層ブロックを3%含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロック(径50~80mm)を30%含む。
- 3 黒褐色土 VII層に類似。2に類似。As-Cを3%含む。
- 4 黒褐色土 VII層に類似。VIII層ブロックを含む。
- 5 にぶい黄褐色土 VIII層がブロック状。VII層を2~30%含む。

土坑 5 区446 土層注記

- 1 黒褐色土 VII層に類似。砂質気味。As-C 3%・焼土粒(径2mm)微量含む。
- 2 黒褐色土 VII層に類似。As-Cを3%含む。
- 3 灰黄褐色土 VII層主体。ブロック状。IV層を20%含む。
- 4 黒褐色土 VII層に類似。砂質気味。As-Cを3%含む。
- 5 黒色土 VII層に類似。As-C 1%弱・VIII層ブロック10%含む。
- 6 黒色土 VII層に類似。VIII層ブロックを15%含む。

158図 土坑 5 区445・446 遺構図・遺物図

(6) 溝

4区～6区調査区第2面で溝・溝状遺構を35条検出した。これらの溝のうち出土遺物や重複する遺構などから奈良・平安時代に属すると断定できる溝は23条である。これらの溝のうち居宅の区画溝4区03と排水溝4区164については「居宅」の項で記載した。本項では残りの溝について掲載してある。

溝 5 区48

5区調査区を南北に位置する。グリッドは10M～11A-15・16である。他遺構との重複関係は中世館堀、奈良時代住居5区53、61、260、261、古墳時代溝5区04などと重複する。新旧関係は本遺構の方が中世館堀より古く、他の遺構よりは新しい。残存状態は溝の北端にあたる箇所が調査区外に延びるが状態は比較的良好である。

形態は直線的ではなく幅も振幅が見られ10Oの南と北側では幅に大きな差が見られる。規模は幅1.0～2.1m深度20～30cmで全長は調査区内で45mを測

る。底面は緩い丸みをもち、傾斜は地形と同様に北から南へかけてであるが凹凸が見られる。

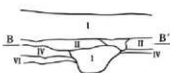
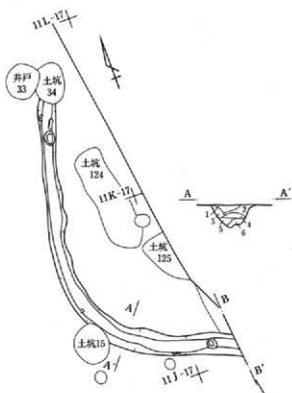
埋没土はIV層に類似したやや灰色を帯びた暗褐色土である。

遺物は土師器杯類約1,000点、甕350点、須恵器杯・碗類260点、甕・壺類50点と多量の土器が出土している。出土した土器は8世紀前半代から9世紀後半代までの幅広い時期に及ぶが9世紀後半代の土器が主体を占めている。

溝5区48は形態や埋没土などの様相から人為的な掘削によるものではなく洪水などによって流された土砂によって削られた結果によると想定される。本溝内から9世紀後半代の土器が多量に出土しており、溝北側の地点には同時期の集落の存在が推察される。

本溝の時期は出土遺物から9世紀後半代以降に比定される。

溝4区114



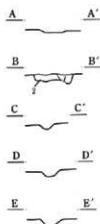
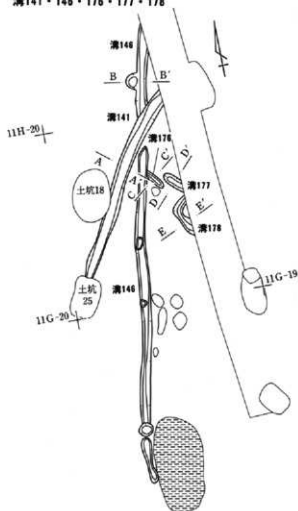
L-104.00m
0 1:50 1m

0 1:100 3m

溝4区114 土層注記

- 1 におい黄褐色土 IV層に近似。
- 2 灰黄褐色土 砂質土。
- 3 におい黄褐色土 IV層に近似。
- 4 灰黄褐色土 砂質土。
- 5 3と4の混合土。
- 6 におい黄褐色土 3と同様。

溝141・146・176・177・178

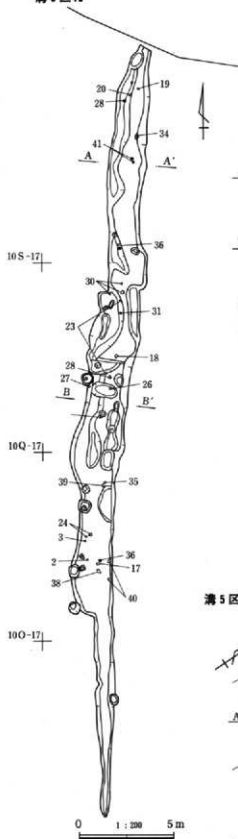


溝4区146 土層注記

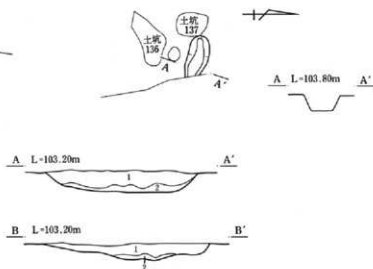
- 1 黒褐色土 A_s-C 凝土粘質土・砂質土まだらに含む。
- 2 黒褐色土 1に類似。

159図 溝4区114・141・146・176・177・178 遺構図・遺物図

溝5区48



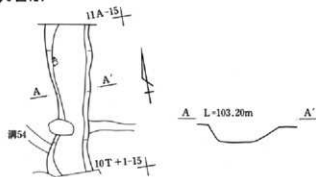
溝4区148



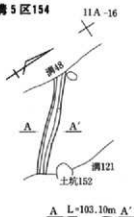
溝5区48

- 1 黒褐色土 IV・VI層の混合土。As-C (径1~3mm) を5%含む。
 2 黒褐色土 VII層主体。IV・VI層をブロック状に5~10%含む。

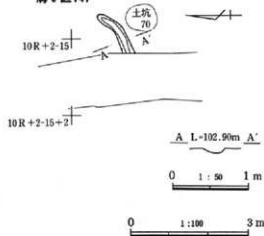
溝5区121



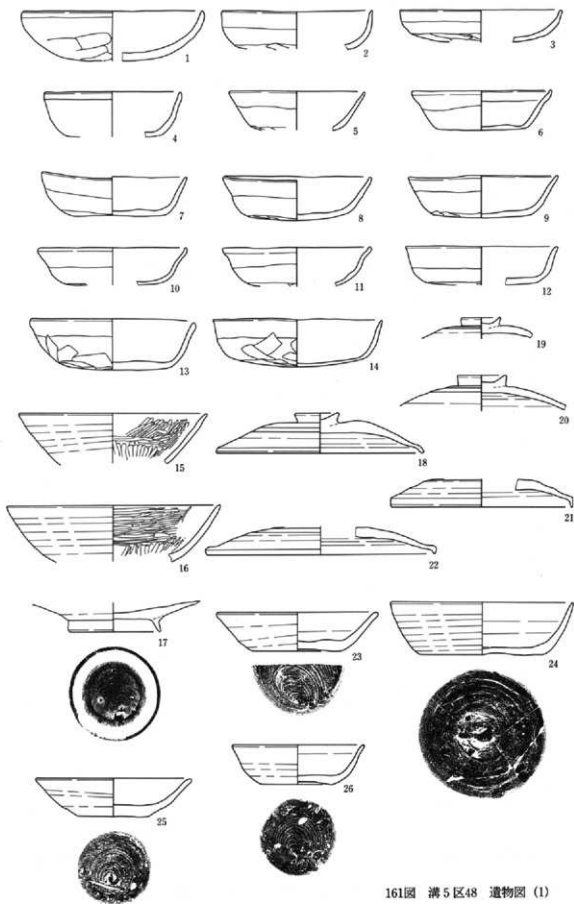
溝5区154



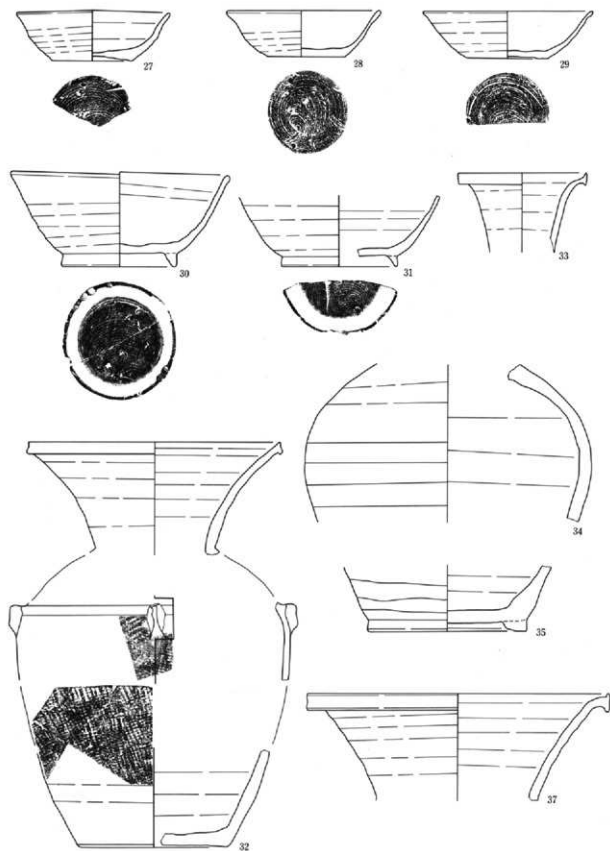
溝5区147



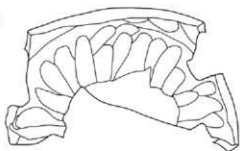
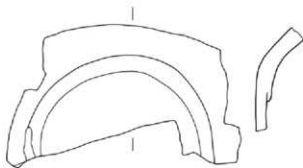
160図 溝4区148・5区48・121・147・154 遺構図



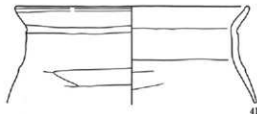
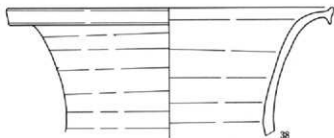
161图 溝5区48 遺物図(1)



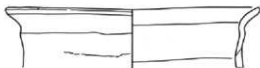
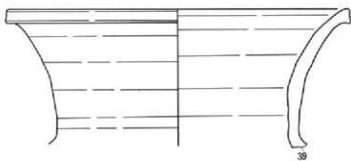
162图 清5区48 遗物图(2)



36



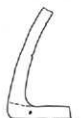
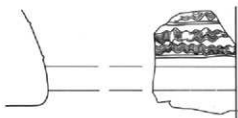
41



42



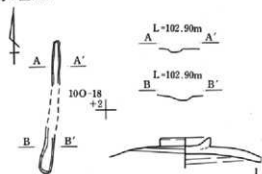
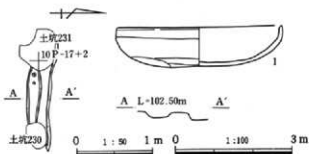
43



40 (1/4)

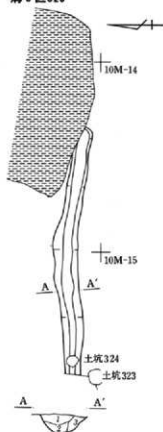
溝5区232

溝5区370



163图 溝5区48 遺物図(3)、溝5区232・370 遺構図・遺物図

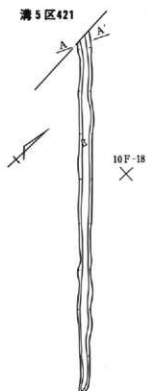
溝 5 区 326



溝 5 区 326 土層注記

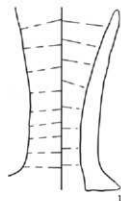
- 1 黒褐色土 IV層主体, As-C 5% 含む。
- 2 黒褐色土 VI層主体, IV層を 20~30% 含む。
- 3 黒褐色土 VII層類似。

溝 5 区 421



溝 5 区 421 土層注記

- 1 褐灰色土 IV層に類似か, As-C を 5% 含む。
- 2 黒褐色土 VI層に類似, VII層が混入, As-C を 1% 含む。

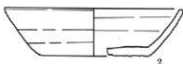


溝 5 区 444



A L=102.50m A'

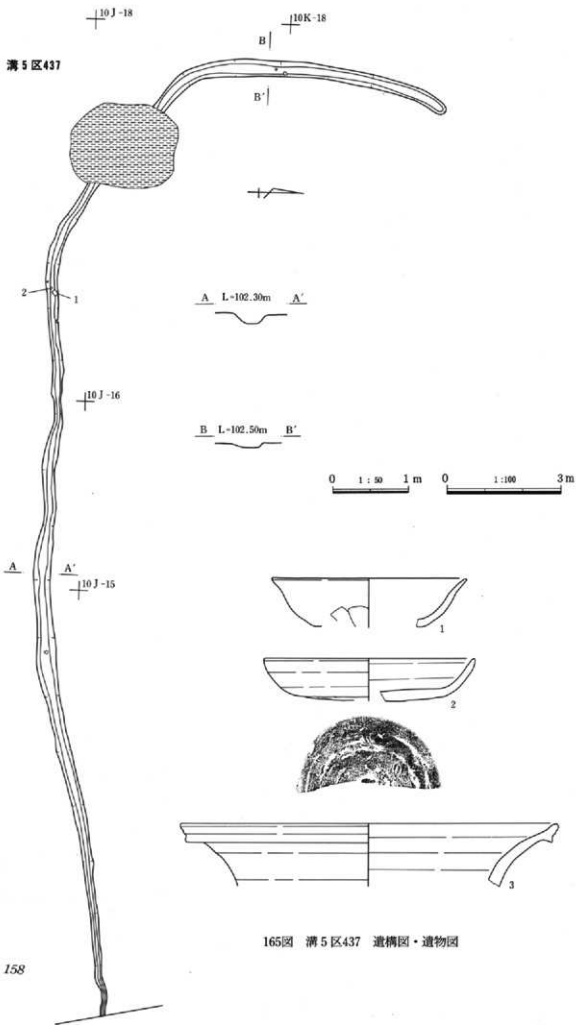
B L=102.50m B'



0 1:50 1m

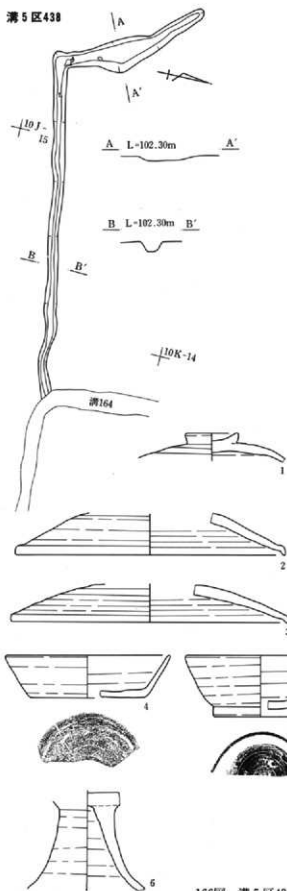
0 1:100 3m

164図 溝 5 区 326・421・444 遺構図・遺物図

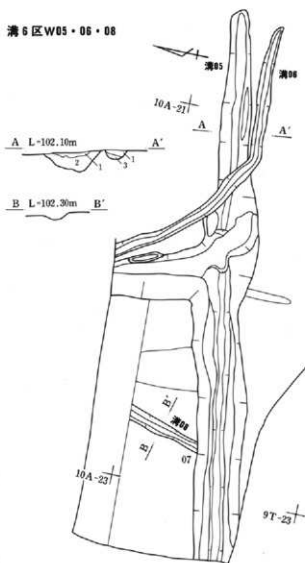


165図 溝5区437 遺構図・遺物図

溝5区438



溝6区W05・06・08



溝6区W05・溝6区W06

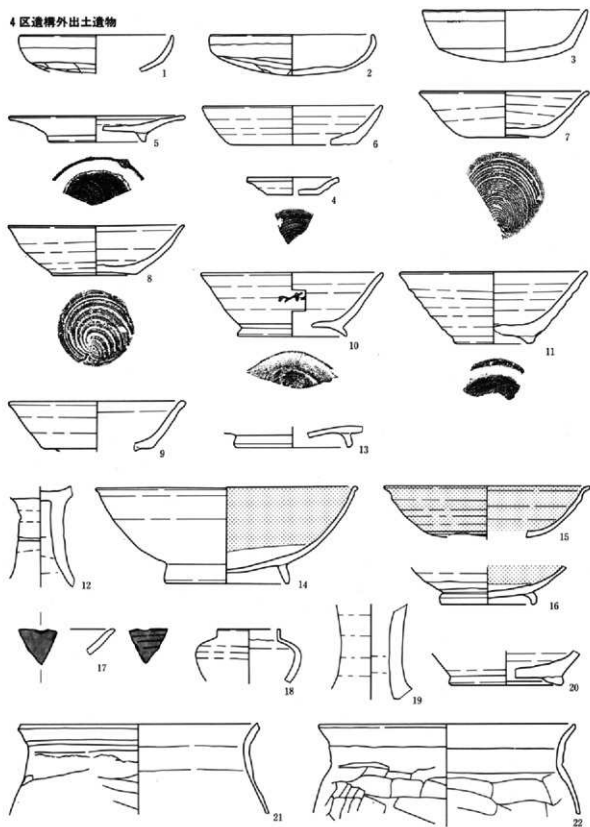
- 1 褐灰色土 粘質土主体。As-B? (砂質土)を40%含む。
- 2 褐灰色土 粘質土主体。As-Cを微量含む。黒褐粘質土ブロックも含む。
- 3 灰褐色土 粘質土主体。2に比べ灰色・橙色強い。



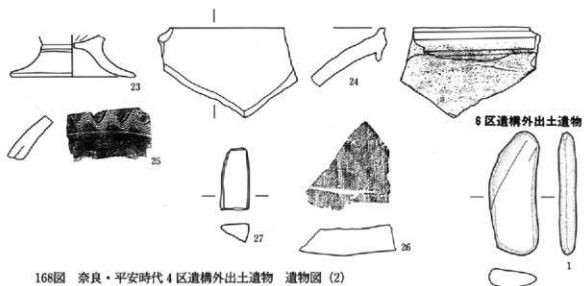
166図 溝5区438・6区溝W05・W06・W08 遺構図・遺物図

(7) 遺構外出土遺物

4区遺構外出土遺物



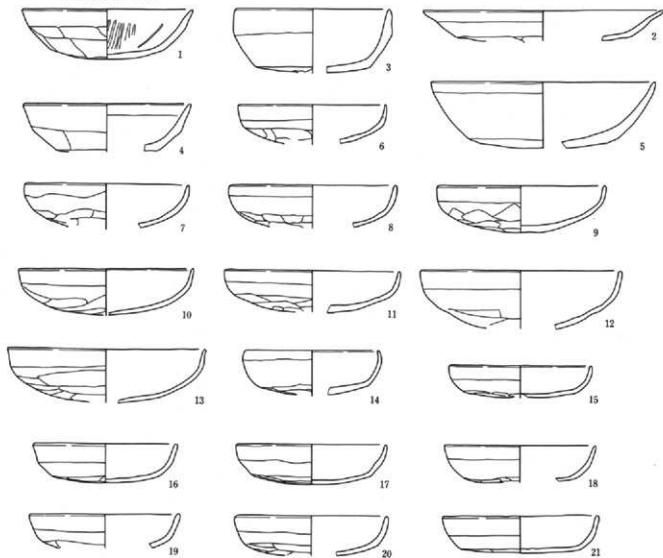
167図 奈良・平安時代4区遺構外出土遺物 遺物図(1)



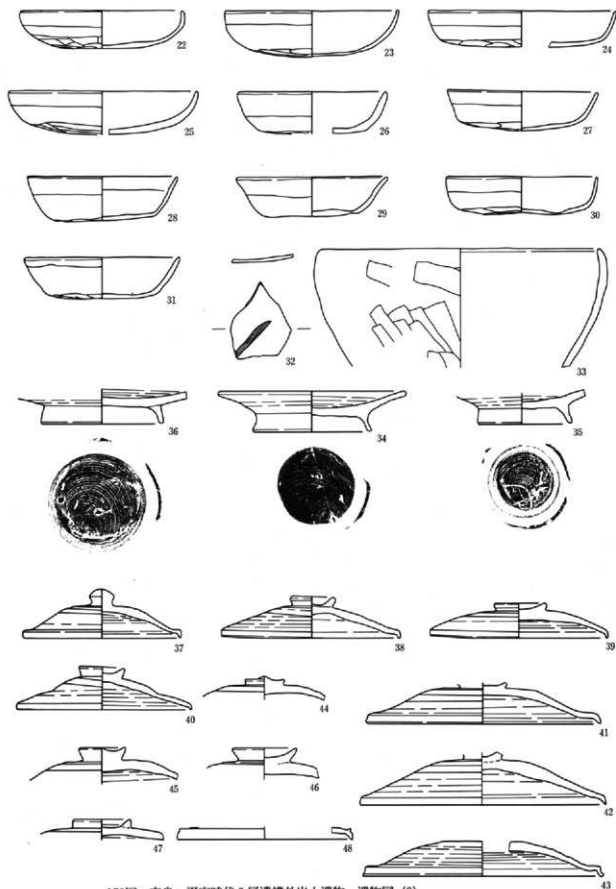
168図 奈良・平安時代4区遺構外出土遺物 遺物図(2)

5区遺構外出土遺物

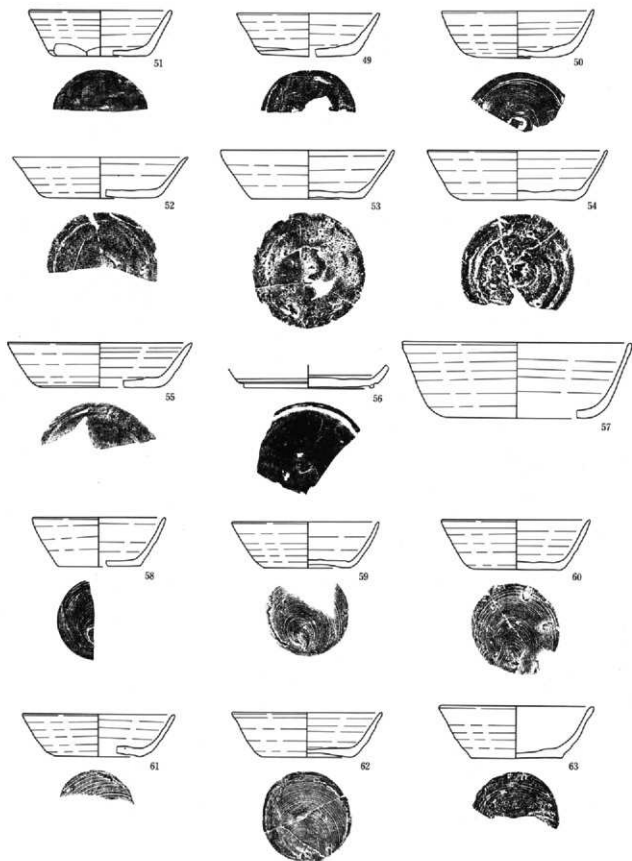
6区遺構外出土遺物 遺物図



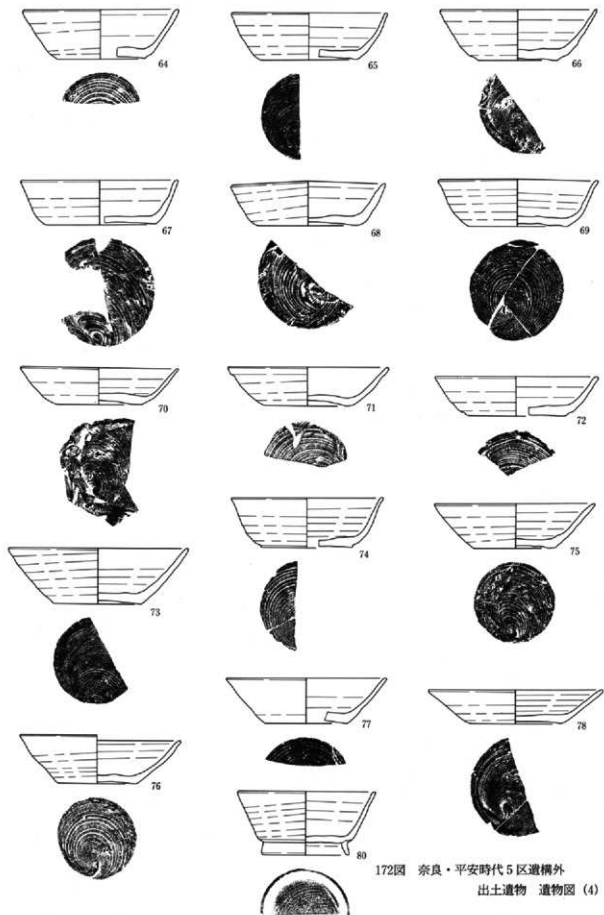
169図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(1)



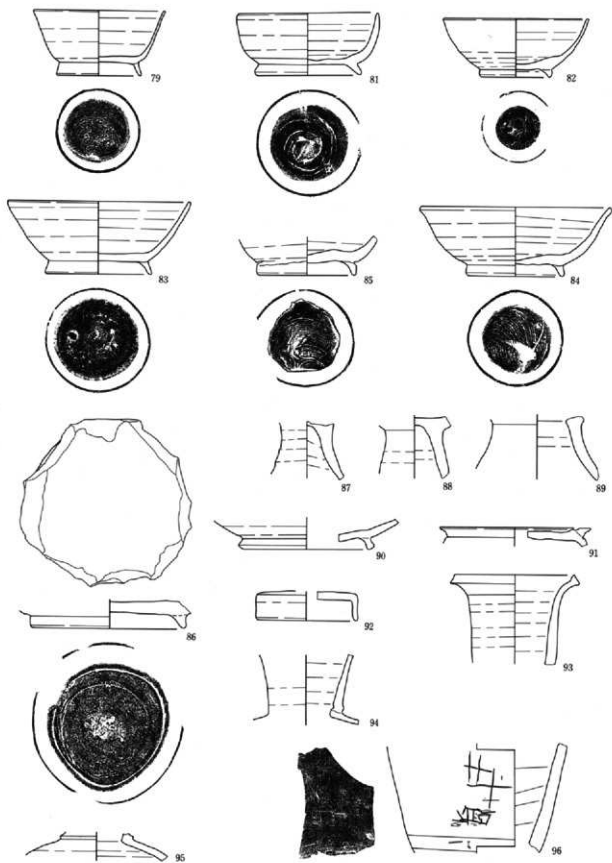
170図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(2)



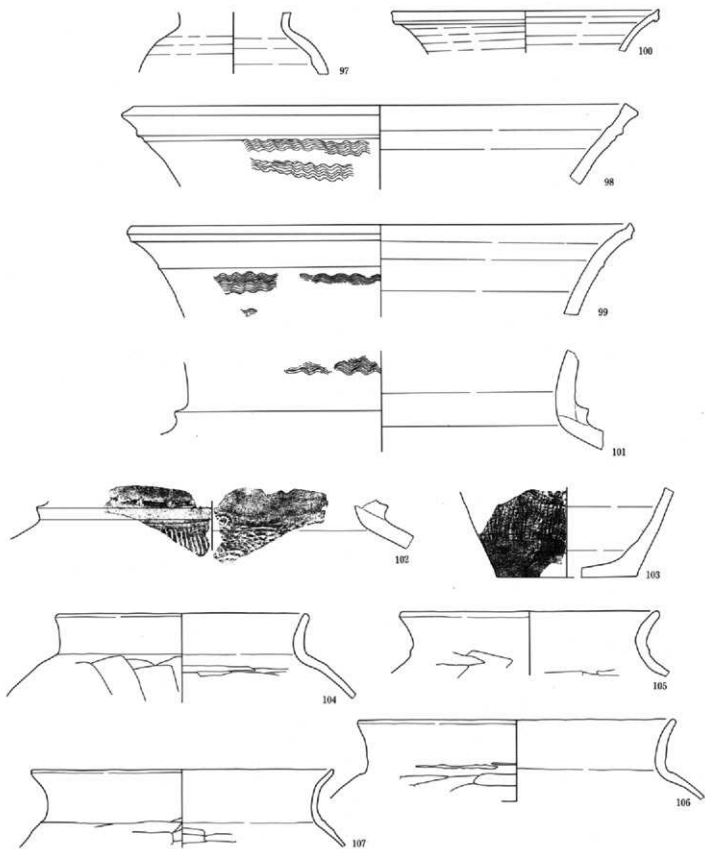
171图 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(3)



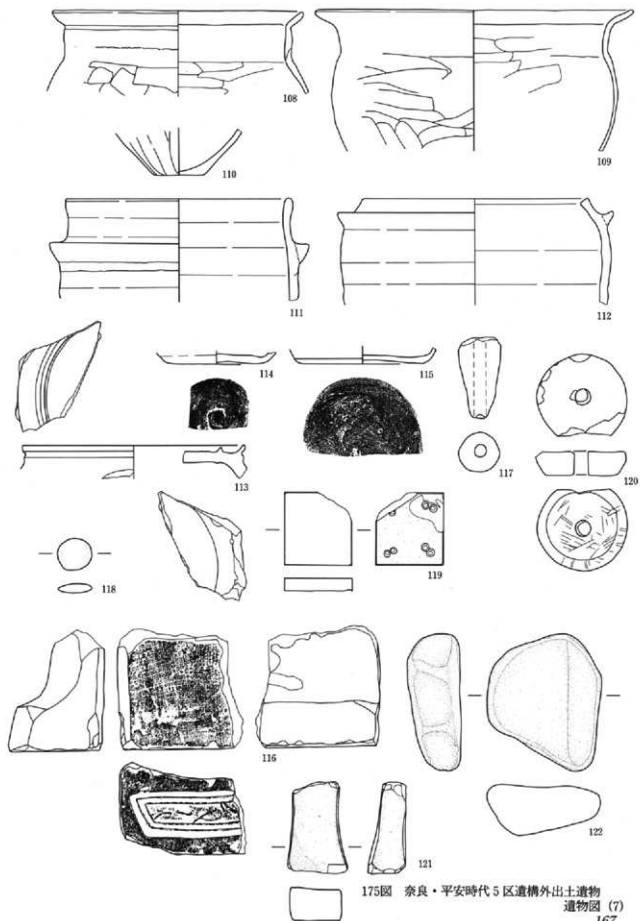
172图 奈良・平安時代5区遺構外
出土遺物 遺物图 (4)



173図 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(5)



174图 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物 遺物図(6)



175图 奈良・平安時代5区遺構外出土遺物
遺物图 (7)
167

V 自然科学分析

1. 小八木志志貝戸遺跡出土木材の樹種同定

植田弥生(パレオ・ラボ)

1999年の小八木志志貝戸遺跡4区～6区、小八木井野川遺跡の発掘調査では73点の生材・炭化材が出土した。これらの材については遺跡地での植生、当時の木材の使用状況などを明らかにできる資料であることからその樹種を同定する必要性があった。そのための樹種同定をパレオ・ラボに委託した。その結果が下記のとおりであるが、委託した時点では報告書の刊行は小八木志志貝戸遺跡4区～6区、小八木井野川遺跡について縄文時代から中世まで一括して掲載する予定であったがその後の諸事情によって「小八木志志貝戸遺跡4区・5区中世編・小八木井野川編」と今回の報告に分冊することになった。そのため「樹種同定」についても2000年度に刊行した「小八木志志貝戸遺跡群3」に小八木志志貝戸遺跡4区・5区の中世遺構出土材と小八木井野川遺跡出土材をそして本報告書で4区・5区の奈良平安時代以前の遺構出土材とに分割して掲載する結果になった。そのため材の資料NO.などで一部欠落が生じている。

1. はじめに

当遺跡は高崎市小八木町に所在し、縄文時代から中世に至る様々な遺構が検出されている。ここでは、5区の古墳時代前期の竪穴住居や奈良時代の掘立柱建物、井戸および廃棄遺構から出土した炭や生材の樹種同定結果を報告する。各遺構に伴い出土した炭や木材の樹種を明らかにすることは、当時の木材利用の状況や生活の中で身近な存在であった樹種を知る一助となるものである。

2. 炭化材樹種同定の方法

炭は先ず横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡でおおよその特徴を捉え、分類群の目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クスギ節・クリは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については(方向の破断面・横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定する。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

生材の組織標本は、片刃の剃刀を用いて材の横断面(木口)・接線断面(板目)・放射断面(柀目)の3方向を薄く剥ぎ取りスライドガラスの上に並べ、ガムクロラルで封入し永久プレパラートを作成した。光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。

3. 結果

18表に同定結果の一覧を示した。また18表では各遺構ごとの検出樹種と点数を示した。今回の調査試料全体からは、針葉樹のモミ属の1分類群、落葉広葉樹のクスギ節・クリ属・ウツギ属の3分類群、常緑広葉樹のアカガシ亜属の1分類群、そしてタケ亜科(タケ類)も検出された。

以下に同定の根拠とした各分類群の材組織の観察結果を記載する。

(1) モミ属 *Abies* マツ科 P L70 1a-1c(試料No23)

仮道管・放射柔細胞からなり樹脂細胞はない針葉樹材。放射柔細胞の壁は厚く放射断面において接線壁に数珠状肥厚が見られ、分野壁孔は小型のスギ型とヒノキ型、1分野に1~4個。放射組織の細胞高は比較的高い。

(9) コナラ属コナラ亜属クスギ節 *Q. subgen. Quercus sect. Cerris* ブナ科 P L70 9a-9c(試料No31)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部は厚壁・円形の小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースがある。放射組織は同性、単列のものと集合状のものがある。

(10) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 P L71 4a-4c(試料No4)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性のみである。

(14) ウツギ *Deutzia crenata* Sieb. et Zucc. ユキノシタ科 P L71 14a-14c(試料No12)

非常に小型の管孔が均一に散在し、径の大きな細胞からなる幅の広い放射組織が特徴的な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棹数が多い階段穿孔。放射組織は異性、1~3細胞幅、細胞高は非常に高い。放射柔細胞は大きいので細胞幅が広く、放射組織の縁には鞘細胞が見られる。

(18) タケ亜科 Gramineae subfam. Bambusoideae イネ科 P L71 18a.(試料No10) 19a(試料No20)

厚みがあり、やや硬質の稈の破片で明瞭な節があり一条の溝がある。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。維管束は向軸側に原生木部、その左右に後生木部の2個の管孔、背軸側に篩部があり、全体としては4から3個の穴の集合に見える。維管束の周りは厚壁の繊維細胞からなる維管束鞘が帽子状にある。稈の外周に位置する維管束鞘は特に厚く発達し、厚壁の繊維細胞だけの塊も島状に密在し、稈を強く支持している様子がわかる。このような形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科であり、稈は固く径は太いことからタケ類と同定される。

4. まとめ

全体的にはクリとクスギ節が圧倒的に多く検出された。クリは、中世の土坑墓・井戸や奈良時代の掘立柱建物柱穴・廃棄・井戸などから検出された。奈良時代と中世の様々な遺構から出土したことから、クリは奈良時代から中世では利用度の高い樹種であったようである。一方、古墳時代前期の住居5区457号から出土した建築材26点はすべてクスギ節であった。前回報告(「小八木志志貝戸遺跡群2 II古墳時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告第272集)した古墳時代初期の竪穴住居(2区80号遺構)から出土した炭化材52試料の樹種は、クスギ節が圧倒的に多くほかにクリ・コナラ節・エノキ属が各1~2点ずつ検出されている。従って当遺跡では、奈良時代から中世の様々な遺構からはクリが多く出土するがクスギ節はあまり検出されないのに対し、古墳時代前記の住居跡からはクスギ節が圧倒的に優占して出土しクリはあまり検出されない傾向が認められた。クリもクスギ節も共に建築材や道具類に利用される樹種であることから、クリとクスギ節は時代により利用頻度が変化した可能性も考えられる。

井戸からは、針葉樹や広葉樹としてタケ類の複数種の樹種が検出され、φ1~3cmの丸木や加工痕がある破片などが多かった。ウツギ属の枝が居宅井戸5区180号と中世井戸5区45号から検出されたが、経験的な見解ではあるが井戸から出土した植物体の中にウメやモモ核と共に丸木のウツギ属が検出される機会が多いように思える。ウツギ属に属するウツギは、古代より忌み植物として民俗的には扱われてきたそうであり、またウツギの花の咲き具合によりその年の豊作を予想するなど、呪いや水・稲作などの関連性が深い植物であるようなので、単に井戸周辺に生育していた枝が井戸内に落ちたものではなさそうである。

18表 小八木志志貝戸遺跡出土材の樹種

試料No	調査地区	遺構番号	遺構名	時代	No	材状態	樹種	備考
18	5区	387	掘立柱建物	奈良時代	P 2	生材 木	クリ	
19	5区	60	廃棄	奈良時代	410 木	生材 木	クリ	
20	5区	60	廃棄	奈良時代	415 杭	生材	タケ亜科	タケ類
21	5区	167	掘立柱建物	平安時代	P 6	炭	クスギ節	
22	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 1	ウツギ属	φ0.8cmほか同径5点あり
23	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 2	モミ属	加工痕?
24	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 3	クリ	加工痕?
25	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 4	クリ	ほか9点あり
26	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 5	モミ属	
27	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 6	モミ属	
28	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 7	モミ属	
29	5区	180	井戸	奈良時代	1	生材 8	アガガシ亜属	
30	5区	457	竪穴住居	古墳時代	1 貯蔵穴	炭	クスギ節	
31	5区	457	竪穴住居	古墳時代	2 貯蔵穴	炭	クスギ節	
32	5区	457	竪穴住居	古墳時代	3 貯蔵穴	炭	クスギ節	
33	5区	457	竪穴住居	古墳時代	13	炭	クスギ節	
34	5区	457	竪穴住居	古墳時代	14	炭	クスギ節	
35	5区	457	竪穴住居	古墳時代	15	炭	クスギ節	
36	5区	457	竪穴住居	古墳時代	16	炭	クスギ節	
37	5区	457	竪穴住居	古墳時代	17	炭	クスギ節	
38	5区	457	竪穴住居	古墳時代	18	炭	クスギ節	
39	5区	457	竪穴住居	古墳時代	19	炭	クスギ節	
40	5区	457	竪穴住居	古墳時代	20	炭	クスギ節	
41	5区	457	竪穴住居	古墳時代	21	炭	クスギ節	
42	5区	457	竪穴住居	古墳時代	22	炭	クスギ節	
43	5区	457	竪穴住居	古墳時代	24	炭	クスギ節	
44	5区	457	竪穴住居	古墳時代	25	炭	クスギ節	
45	5区	457	竪穴住居	古墳時代	26	炭	クスギ節	
46	5区	457	竪穴住居	古墳時代	27	炭	クスギ節	
47	5区	457	竪穴住居	古墳時代	28	炭	クスギ節	
48	5区	457	竪穴住居	古墳時代	29	炭	クスギ節	
49	5区	457	竪穴住居	古墳時代	30	炭	クスギ節	
50	5区	457	竪穴住居	古墳時代	31	炭	クスギ節	
51	5区	457	竪穴住居	古墳時代	32	炭	クスギ節	
52	5区	457	竪穴住居	古墳時代	33	炭	クスギ節	
53	5区	457	竪穴住居	古墳時代	34	炭	クスギ節	
54	5区	457	竪穴住居	古墳時代	39	炭	クスギ節	
55	5区	457	竪穴住居	古墳時代	43 貯蔵穴	炭	クスギ節	

VI・おわりに

小八木志志貝戸遺跡はすでに刊行されている報告書によって弥生時代から中世に至る複合遺跡であることが知られている。特に「小八木志志貝戸遺跡群1」で掲載した1区2区調査区を中心とする弥生時代～古墳時代前期にかけての集落、墓域、溝、人形土器。「小八木志志貝戸遺跡群2」で掲載した須恵器大甕を配した古墳など今まで県内でも類例を見ない遺構・遺物を報告している。

今回の報告でもこの周辺では類例の少ない縄文時代の掘立柱建物、円形柱列、古墳時代の火山灰降下後の復旧畠、奈良時代の竪穴住居群、掘立柱建物群など多くの成果があげられる。

特にいままでの調査で比較的希薄であった奈良時代の遺構群が検出され、これらの遺構群の一つの「居宅」遺構としてまとまることになった。この居宅遺構は調査範囲が道路範囲と限定されているため全域を発掘調査することはできなかったが多くの成果を得ることができた。

居宅は「IV 遺構・遺物 5. 奈良平安時代 (1) 居宅」で記したように溝で区画され内部の建物群は3期にわたる変遷が見られる。建物群はそれぞれの期に2棟～3棟以上の建物で構成されておりそれに付随する施設として井戸が設けられている。

これらの内部施設は居宅構築時より各期を経るにしたがい建物の規模や施設の内容が大きく充実したものに変わっていることが解っている。

群馬県内では多くの奈良・平安時代の遺跡を発掘調査し、その報告書も刊行されている。しかし、発掘調査された遺跡のうち寺院、東山道、生産遺跡を除いた多くの遺跡が竪穴住居を主体とする集落遺跡である。特に県内の発掘調査では官衙と想定される遺構は古代新田郡衙の一部と推定される新田町天良七堂遺跡、古代群馬郡の八木院の可能性が指摘されている高崎市大八木屋敷遺跡、勢多郡衙の館と推定される前橋市上西原遺跡など僅かに3遺跡が調査されているにすぎない。また、小八木志志貝戸遺跡の

ような居宅遺構も前橋市下東西遺跡や今井道上・道下遺跡、新田町ケケ谷戸遺跡など数えるほどしか見つかっていない。見つかっている居宅遺構も今井道上・道下遺跡、境ヶ谷戸遺跡は建物と区画溝の一部でしかない。下東西遺跡は全体の東半だけで正殿と考えられる建物は見つかっていない。こうした中で今回の小八木志志貝戸遺跡の居宅は施設の両側は調査範囲外であったが正殿と想定される建物は見つかり大まかな配置も明らかである。そして立地も古代群馬郡八木郷でその郷域も旧中川村という明確に想定される範囲でその範囲の中では最近の開発によって多くの遺跡が発掘調査され多くの成果が上げられているなど古代における地域の復元が比較的容易な地域である。こうした状況については「III 周辺環境 2. 歴史的環境」に若干記述したが、中でも古代八木郷では今までの正観寺遺跡群、小八木遺跡、熊野堂遺跡、融通寺遺跡、大八木屋敷遺跡などの成果から郷の中心地は井野川よりの熊野堂遺跡や、融通寺遺跡、大八木屋敷遺跡に想定されていた。しかし、今回の小八木志志貝戸遺跡の成果により8世紀前半には八木郷でも東側地域も単なる集落だけでなく富裕層・富豪層なり中心的施設が存在したことが明らかになった。

今回、検出した居宅は建物や井戸の変遷をみると建て替えを重ねる毎に官衙の様相を取り入れており、この居宅の居住者の経済力が大きなものになったことが解る。しかし、こうした巨大化した勢力も8世紀第3四半期には突如として廃棄されてしまう。こうした廃棄されてしまう背景については今のところ明らかにすることはできないが古代八木郷について復元、そして古代上野の様相について考える上で多大な資料を得られたと考える。

本報告書では紙面や整理期間の関係でこうした成果について言及できなかったが機会を改めて記す予定である。

遺 物 觀 察 表

凡例

1. 土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本彩色研究所 監修「標準土色帖」を参照にした。
2. 色調は文字数の関係で「にふい」は「に」に省略してある。
3. 色調の次項目①～④は遺物の計測値である。
土 器
① 口径 ② 底径 ④ 器高
③ 高台径、柄み径、胴部最大径、頸部径
石 器
① 全長 ② 幅 ③ 厚 ④ 重量
単位はcm、gである。
4. 出土位置のローマ数字は基本的な層位を現わす。
5. 出土位置の+は床面、底面からの高さである。

小八木志志貝戸遺跡4遺物観察表

縄文時代

遺物NO. 副産物PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
敷石住居2区56												
1	12	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴、胴体突起、竹管文が施された隆帯と辻彫文、後胴称名寺式胴衝。胴部巻き状辻彫文、辻彫内縄文R.L.
2	12	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	に黄褐色	5.2			粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴衝。胴部巻き状辻彫文、辻彫内縄文R.L.
3	12	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴衝。胴部巻き状辻彫文、辻彫内縄文R.L.
4	12	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	明黄褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴衝。胴部巻き状辻彫文、辻彫内縄文R.L.、竹管文。
5	12	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	明黄褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴衝。胴部巻き状辻彫文、辻彫内縄文R.L.、竹管文。
6	12	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭
7	12	44	石器	磨石	突起		7.8	6.9	6.1	5.0	粗粒輝石安山岩	敲打痕有り
8	12	44	石器	磨石	突起		8.1	6.3	4.2	3.94	赤質玄武岩	画面を使用
9	12	44	石器	凹石	一部欠		9.8	7.4	4.7	5.52	粗粒輝石安山岩	上面に浅い凹が1孔。
掘立柱建物2区72												
1	14	44	縄文土器	漆鉢	口縁部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴、口縁部下に凸帯貼付、凸帯に刺目目。
2	14	44	縄文土器	漆鉢	口縁部片	明赤褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴、口縁部下に凸帯貼付。
3	14	44	縄文土器	漆鉢	口縁部片	明赤褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴、口縁部下に凸帯貼付。
4	14	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	明赤褐色				粗砂粒	良好	後胴称名寺式胴、辻彫文。
配石2区23												
1	18	44	縄文土器	漆鉢	胴・胴部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
2	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
3	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
4	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
5	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	明黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
6	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	明黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
7	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	明赤褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、辻彫文。
8	18	44	縄文土器	漆鉢	口縁部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内1式期、口縁部下に凸帯貼付。
9	18	44	縄文土器	漆鉢	胴・底部に突起	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内2式期、胴部へ少磨き、底部削代裏。
10	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内2式期、辻彫内縄文R.L.
11	18	44	縄文土器	漆鉢	胴部片	明黄褐色				粗砂粒	良好	後胴初頭之内2式期、辻彫内縄文R.L.
12	18	44	石器	皿	一部欠		2.74	1.61	0.52	1.85	珪質頁岩	基部の周縁を欠損。
13	18	44	石器	打製石斧	2/3		9.7	4.8	1.4	1.14	赤質玄武岩	刃部側を欠く。
14	18	44	石器	打製石斧	一部片		3.6	4.3	1.4	27.3	黒色頁岩	基部のみ。
15	19	44	石器	加工車のある副片			4.8	8.3	3.1	1.29	黒色頁岩	
16	18	44	石器	凹石	1/2		6.3	8	5.5	3.86	粗粒輝石安山岩	大小2の凹有り。
17	19	44	石器	多孔石	表面剥離		20	18.1	12.8	5.71	粗粒輝石安山岩	画面を使用。

遺跡NO. 国史NO. PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
運物集中2区40												
1	21	45	縄文土器	漆鉢								
2	21	45	縄文土器	漆鉢	口縁部片	褐色						後期弥生寺式期。内外面へラ磨き。
3	21	45	石器	打製石斧	胴部片	褐色						後期彌生内1式期。沈瀬区画内縄文R.L.
4	21	45	石器	打製石斧	一部片		6.2	5.9	1.4	56		灰色安山岩
埋薬2区51												
1	23	45	縄文土器	漆鉢	口縁~胴	に黄褐色	12.6	6.7	2.4	192		黒色頁岩
埋薬4区228												
1	24	45	縄文土器	漆鉢	口縁部片	に黄褐色						良好
埋薬5区464												
1	25	45	石器	磨石	1/2		9.2	10	4.7	577		粗粒輝石安山岩
2	25	45	石器	凹石	一部欠		9	8.6	6.7	624		粗粒輝石安山岩
埋薬5区583												
1	27	45	縄文土器	漆鉢	1/6	に黄褐色						良好
土坑2区112												
1	30	45	縄文土器	漆鉢	口縁部片	褐色						良好
2	30	45	縄文土器	漆鉢	口縁部片	に橙						良好
3	30	45	縄文土器	漆鉢	口縁部片	に黄褐色						良好
4	30	45	縄文土器	漆鉢	胴部片	に橙						良好
5	30	45	縄文土器	漆鉢	口~胴部	に黄褐色						良好
6	30	45	縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色						良好
7	30	45	石器	磨石	完形		2.50	1.73	0.39	1.61		黒色安山岩
8	30	45	石器	石槌	埋没土		1.30	2.48	0.87	2.65		黒曜石
9	30	45	石器	石槌	+63		2.72	1.85	1.26	6.24		黒曜石
土坑4区184												
1	31		縄文土器	漆鉢	+14	に橙						良好
2	31		縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色						良好
土坑4区186												
1	31		縄文土器	漆鉢	胴部片	に橙						良好
2	31	45	縄文土器	漆鉢	口縁部片	に黄褐色						良好
土坑4区222												
1	31	46	石器	石槌	+14		6.3	7.5	3.8	147		珪質頁岩
土坑4区223												
1	31		縄文土器	漆鉢	胴部片	に黄褐色						良好

建物NO. 同層NO. PL. NO.	種目	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
土坑4区231												
1 - 46	石器	剥片	埋没土			6.6	4.8	3	103	黒曜石		
2 - 46	石器	剥片	埋没土			4.1	2.8	2.6	34	黒曜石		
3 - 46	石器	剥片	埋没土			3.6	3.5	2.4	29	黒曜石		
土坑4区242												
1 32	縄文土器	漆鉢	埋没土		黒褐色					粗砂粒	良好	後期命名式期新。
土坑4区264												
1 32	石器	石核	埋没土			4.2	3.1	1.3	16.5	チャート		
土坑4区251												
1 32	縄文土器	漆鉢	埋没土		褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、沈瀬区画内縄文R.L.
土坑4区252												
1 32	縄文土器	漆鉢	埋没土		褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、熱帯文内縄文R.L.
2 32	縄文土器	漆鉢	埋没土		褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、熱帯文内縄文R.L.
土坑4区253												
1 32	縄文土器	漆鉢	埋没土		褐色					粗砂粒	良好	後期命名式期、湖巻き文、文壇前縄文R.L.
土坑5区486												
1 34	縄文土器	漆鉢	埋没土		黒褐色					粗砂粒	良好	加曾利EⅡ式期。
土坑5区519												
1 34	石製品	石棒	埋没土		黒褐色	14.2	7.1	6.4	1045	閃緑岩		端部に磨打痕あり。
土坑5区559												
1 34	縄文土器	漆鉢	埋没土		褐色					粗砂粒	良好	後期命名式期。
2区遺構外												
1 36	縄文土器	漆鉢	敷石住居36		黒褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、縄文R.L.
2 36	縄文土器	漆鉢	敷石住居36		黒褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、縄文R.L.
3 36	縄文土器	漆鉢	敷石23		黒褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、縄文R.L.、沈瀬区画内縄文R.L.
4 36	縄文土器	漆鉢	11S-22		黒褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、縄文R.L.
5 36	縄文土器	漆鉢	敷石住居36		浅黒褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、熱帯文内縄文R.L.
6 36	縄文土器	漆鉢	敷石住居36		褐色					粗砂粒	良好	中期加曾利EⅡ式期、熱帯文内縄文R.L.
7 36	縄文土器	洗鉢	12B-20		褐色					粗砂粒	良好	後期命名式期、沈瀬区画内縄文R.L.
8 36	縄文土器	洗鉢	古墳住居62		暗灰黄					粗砂粒	良好	後期命名式期。
9 36	縄文土器	漆鉢	12D-23		突起片					粗砂粒	良好	後期命名式期、細面に沈瀬文。
10 36	縄文土器	漆鉢	古墳集石56		突起片					粗砂粒	良好	後期命名式期。
11 37	縄文土器	漆鉢	古代住居69		突起片					粗砂粒	良好	後期命名式期、沈瀬文と竹管文。
12 37	縄文土器	注口土器	古墳古壇66		突起片					粗砂粒	良好	後期命名式期。
13 37	縄文土器	漆鉢	12B-20		突起片					粗砂粒	良好	後期命名式期、沈瀬区画内縄文R.L.

遺跡NO./埋藏NO./PL NO.	種類	形態	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	土質/石材	整形の特徴	
49	39	48	石製品	石棒	古墳古墳66 2区	1/2	12.3	6.9	6.3	627	緑色片岩	下部下半を欠く。
50	39	48	石製品	石棒	古墳古墳66 2区	中位片	14.5	6	4.2	728	緑色片岩	側面に2カ所の凹、折断面に敲打痕有り。
51	39	48	石製品	石棒	古墳住居20	下位片	5.3	3.3	2.9	593	緑色片岩	端部に敲打痕有り。
52	39	48	石製品	石棒	11S-19	小片	8.3	8.5	4.2	490	緑色片岩	下部の一部。
53	39	48	石器	鏃	古墳古墳66	完形	2.11	1.76	0.26	0.70	黒曜石	先端部を欠く。
54	39	48	石器	鏃	古墳古墳66	一部欠	1.50	1.27	0.28	0.71	チャート	先端部と基部の大半を欠く。
55	39	48	石器	鏃	弥生住居100	一部欠	4.12	1.82	0.62	4.10	珪質頁岩	先端部を僅かに欠く。
56	39	48	石器	鏃	11S-21	一部欠	1.68	1.79	0.34	1.30	黒色安山岩	刃部欠損。
57	40	48	石器	スクレーパー	11S-22	完形	5.3	7.3	1.3	52	黒色頁岩	
58	39	48	石器	スクレーパー	12K-21	一部欠	7.1	7.3	2.2	130	黒色頁岩	
59	40	48	石器	スクレーパー	2区	完形	7.1	3.8	1.2	43	黒色頁岩	
60	40	48	石器	スクレーパー	近世島03	完形	8.7	7.6	2.1	150	珪質頁岩	
61	40	48	石器	スクレーパー	2区	完形	6.2	1.6	1.1	65	珪質頁岩	
62	40	48	石器	スクレーパー	弥生産集97	完形	5.9	5.1	1.2	56	頁岩	
63	40	48	石器	くさび形	弥生産集101	完形	3.06	1.90	0.70	4.70	チャート	
64	40	48	石器	打製石斧	中世土坑34	一部片	10.4	6.4	2.2	174	黒色頁岩	両端を欠く。
65	40	48	石器	打製石斧	弥生彫穴67	1/2	4.7	3.8	1.2	29	黒色頁岩	上半を欠く。
66	40	48	石器	打製石斧	12B-20	1/2	6.5	5.0	1.7	20	黒色頁岩	上半を欠く。
67	40	48	石器	打製石斧	12J-23	1/2	4.8	4.9	2.7	48	黒色頁岩	上半を欠く。
68	40	48	石器	打製石斧	2区	一部片	1.9	5.2	1.2	29	黒色頁岩	中位の一部分。
69	41	48	石器	打製石斧	12F-19	一部片	49	4.1	1.6	36	黒色頁岩	両端を欠く。
70	41	48	石器	打製石斧	弥生産集101	1/2	6.3	5.5	2.8	103	黒色頁岩	上半を欠く。
71	41	48	石器	打製石斧	弥生彫穴100	1/2	6.8	6.6	2.3	122	頁岩	上半を欠く。
72	41	48	石器	打製石斧	弥生彫穴15	1/3	5.2	6.4	1.1	48	権砂礫石安山岩	上半を欠く。
73	41	48	石器	打製石斧	弥生産集101	1/3	6.3	6.9	1.0	61	細粒輝石安山岩	上半を欠く。
74	41	48	石器	打製石斧	12E-21	1/2	6.3	6.1	2.0	101	珪質砂岩	上半を欠く。
75	41	48	石器	使用痕のみる石器	12E-21	完形	6.99	2.50	1.01	18	珪質頁岩	
76	41	48	石器	石核	2区		3.3	4.7	5.9	31	黒曜石	
77	41	48	石器	石核	古墳彫穴65		6.1	4.6	3.5	114	珪質砂岩	
78	41	48	石器	石核	古墳彫穴80		7.2	6.7	3.3	163	頁岩	
79	42	48	石器	磨石	12L-25	完形	10.5	4.6	2.3	187	かんらん岩	端部に小凹あり、磨り面に削痕あり。
80	42	48	石器	磨石	古墳土器105	完形	9.3	7.2	2.7	283	砂岩	側面に敲打痕有り。
81	42	49	石器	磨石	11R-20	3/4	10.1	8.2	4.2	557	粗粒輝石安山岩	側面を使用。
82	42	49	石器	磨石	12D-20VI	3/4	10.5	6	2.4	290	ホルンフェルス	側面に敲打痕有り。
83	42	49	石器	凹石	11S-18Ⅱ	完形	8.3	4.5	4.1	283	粗粒輝石安山岩	上面に浅い凹。

遺物NO. (群)NO.	PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	⑤	彫刻の特徴
84	42	49	石部	平安住居09	彫形		10.5	9	6.5	999	粗粒輝石安山岩	両面に凹が各1。
85	42	49	石部	12Q-23	彫形		8.6	6.5	4.3	377	粗粒輝石安山岩	上面に小凹が5カ所。
86	42	49	石部	古墳土層106	彫形		13.1	6.7	3.5	516	粗粒輝石安山岩	側面に敲打痕有り。
87	42	49	石部	弥生住居15	2/3		15.5	8.5	3.5	919	閃緑岩	側面に敲打痕有り。
88	43	49	石部	古墳住居18	2/3		14	15.3	5.3	1034	粗粒輝石安山岩	両面に凹が各1。
89	43	49	石部	古墳住居87	一部欠		23.6	11.7	12.4	4090	粗粒輝石安山岩	2面を使用
90	43	49	石部	甕	ほぼ完形		24	13	6.1	2954	粗粒輝石安山岩	上面のみを使用
91	43	49	石部	2区	一部欠		24.8	13.8	9.7	4400	粗粒輝石安山岩	両面を使用
92	-	49	礫	古墳住居68	完形		9.3	2.8	1.4	65	黒色片岩	両端部に敲打痕有り。
93	-	49	礫	古墳住居61	完形		17.7	4	3	429	緑色片岩	両端部に敲打痕有り。
94	-	49	礫	12G-20	一部欠		6.7	2.5	1.1	26	緑色片岩	端部に敲打痕有り。
95	-	49	礫	12R-24	一部欠		7.5	2.6	1.3	38	黒色片岩	端部に敲打痕有り。
96	-	49	礫	短冊状	1/2		9.4	4.7	1.4	85	黒色片岩	磨り痕有り。
97	-	49	礫	短冊状	一部欠		9.6	6.6	2.1	220	黒色片岩	端部に敲打痕有り。
98	-	49	礫	短冊状	一部欠		10.6	4.9	2.1	150	黒色片岩	端部に敲打痕有り。
99	-	49	礫	12J-23	彫形		11.8	4.8	2.1	172	黒色片岩	両端部に敲打痕有り。
100	-	49	礫	2区	彫形		16.5	9.5	2.6	592	黒色片岩	端部に敲打痕有り。
101	-	49	礫	円状か	一部片		7	5.3	2.3	131	黒色片岩	
4区遺構外												
1	44	49	縄文土器	深鉢	古代溝114	口縁部片	に黄褐色	28.8				良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
2	44	49	縄文土器	深鉢	古代溝114	口縁部片	浅黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
3	44	49	縄文土器	深鉢	弥生土坑207	口縁部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
4	44	49	縄文土器	深鉢	111-16	口縁部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
5	44	49	縄文土器	深鉢	111-18	口縁部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
6	44	49	縄文土器	深鉢	近世溝平31	口縁部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
7	44	50	縄文土器	深鉢	表土	胴部片	に褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
8	44	49	縄文土器	深鉢	中世墓坑185	胴部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
9	44	49	縄文土器	深鉢	不明遺277	胴部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。縄文R _L 。
10	44	49	縄文土器	深鉢	風岡木294	胴部片	明赤褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
11	44	49	縄文土器	深鉢	表土	胴部片	明赤褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
12	45	49	縄文土器	深鉢	近世溝平31	口～胴部	に黄褐色	23				良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内・突起縄文R _L 。
13	44	50	縄文土器	深鉢	風岡木294	口縁部片	に黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。突起文。
14	45	50	縄文土器	深鉢	弥生土坑207	胴部片	褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
15	45	50	縄文土器	深鉢	近世土坑74	胴部片	明黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。
16	45	50	縄文土器	深鉢	近世土坑74	胴部片	明黄褐色					良好 中期加曾利EⅡ式胴。沈瀬区西内縄文R _L 。

遺跡NO. 経緯NO. PL. NO.	種類	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
17	45	深緑	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
18	45	深緑	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。
19	45	深緑	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
20	45	深緑	突起片	に黄褐					粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
21	45	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
22	45	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
23	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
24	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
25	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
26	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
27	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
28	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
29	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
30	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
31	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
32	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
33	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
34	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
35	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
36	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
37	46	50	深緑	突起片	に黄褐				粗砂粒	良好	後期称名寺式期。沈淪区内縄文R.L。
38	46	50	深緑	突起片	に黄褐	32.0			粗砂粒	良好	後期加曾井B1式期。沈淪区内縄文R.L。 上層を欠く。
39	47	50	深緑	突起片	1/2	8.6	5.3	1.4	92	変灰岩	欠部欠損。
40	47	50	深緑	突起片	1/3	7.3	3.6	1.7	79	変灰岩	欠部欠損。
41	47	50	深緑	突起片	2/3	3.59	2.15	0.49	2.8	黒色山岩	先端部を欠く。
42	47	50	深緑	突起片	2/3	7.8	4.3	2.2	11.3	黒色頁岩	刃部欠損を欠く。
43	47	50	深緑	突起片	2/3	13.6	7.3	1.8	216	頁岩	刃部欠損を欠く。
44	47	50	深緑	突起片	2/3	10.5	5.7	7.3	134	頁岩	刃部欠損を欠く。
45	47	50	深緑	突起片	1/2	1.72	1.67	0.60	1.8	黒曜石	上半を欠く。
46	47	50	深緑	突起片	1/2	2.68	4.83	1.43	10.5	黒曜石	
47	48	50	深緑	突起片	1/4	5.5	5.4	2.6	76	ホムソウフェルス	
48	48	50	深緑	突起片	1/4	15.4	134	3.5	1116	粗粒輝石安山岩	中央部は間隔より1cmほど短く。
49	48	51	深緑	突起片	1/4	6.1	5.4	3.8	152	粗粒輝石安山岩	上面のみを使用。
50	48	50	深緑	突起片	1/4	8.5	6.5	3.3	222	変質泥岩	接り面に断面あり。

遺物NO. (前掲NO.) PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	構成	形状の特徴
52	48	50	石器	磨石	古墳古墳105	3/4	9.9	6.7	4.3	453	粗粒輝石安山岩	縦横あり。
53	48	50	石器	多孔石	中世土埴20	2/3	12	8.4	4.5	387	粗粒輝石安山岩	上面に凹みあり、下面1か所 上面に凹みあり、下面1か所 画面を使用。
54	49	50	石器	多孔石	11S-20	一部欠	13.4	9	4.8	667	粗粒輝石安山岩	上面のみを使用。
55	49	51	石器	多孔石	中世溝51	完形	21.2	21.2	11.3	3640	粗粒輝石安山岩	
56	49	51	石器	多孔石	中世大形55	完形	21	19.4	14	4310	粗粒輝石安山岩	
57	-	51	磨	円形	中世大形55	一部欠	6	5.1	0.9	44	緑色片岩	片面を非常によく磨っている。
58	-	51	磨	棒状	11N-20Ⅱ	完形	4.4	0.8	0.7	4	緑色片岩	磨面が見られる。
59	-	51	磨	棒状	11G-20Ⅱ	完形	14.5	4.2	3.3	327	黒色片岩	両端面に敲打痕有り。
60	-	51	磨	短棒状	11H-19	一部欠	15.1	9.1	3.1	556	黒色片岩	端面に磨り痕有り。
5区遺構外												
1	50	51	縄文土器	深鉢	奈良住居261	突起片						中期加齢利EⅡ式期。
2	50	51	縄文土器	深鉢	100-14Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					中期加齢利EⅡ式期。口唇部竹管文。胴部沈線区画内縄文R.L。
3	50	51	縄文土器	深鉢	10J-18Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					中期加齢利EⅡ式期。隆帯区画内縄文R.L。
4	50	51	縄文土器	注口土器	10J-16Ⅱ	口縁部片	に靑					後期体名寺式期。隆帯・沈線文。
5	50	51	縄文土器	注口土器	10J-13Ⅱ	頸部片	に靑褐色					後期体名寺式期。隆帯・沈線文。
6	50	51	縄文土器	浅鉢	平安溝48	突起片	に靑					後期体名寺式期。隆帯・沈線文。
7	50	51	縄文土器	浅鉢	10J-18Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					後期体名寺式期。沈線区画内竹管文。
8	50	51	縄文土器	深鉢	奈良溝壑60	突起片	明赤褐色					後期体名寺式期。
9	50	51	縄文土器	深鉢	10K-16Ⅱ	突起片	に靑					後期体名寺式期。
10	50	51	縄文土器	深鉢	10K-14Ⅱ	突起片	暗灰黄					後期体名寺式期。
11	50	51	縄文土器	深鉢	奈良溝壑60	突起片	に黄褐色					後期体名寺式期。
12	50	51	縄文土器	深鉢	10J-15Ⅱ	突起片	に靑					後期体名寺式期。
13	50	51	縄文土器	浅鉢	10J-17Ⅱ	口縁部片	灰白					後期体名寺式期。沈線区画内竹管文。
14	51	51	縄文土器	深鉢	奈良溝壑60	口~頸部	に黄褐色					後期体名寺式期古。沈線区画内縄文R.L.か。
15	51	51	縄文土器	深鉢	10K-14Ⅱ	口縁部片	に靑					後期体名寺式期。
16	51	52	縄文土器	深鉢	10J-14Ⅱ	口縁部片	暗灰黄					後期体名寺式期。
17	51	52	縄文土器	深鉢	100-14Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					後期体名寺式期。口唇部竹管文。口縁部縄文L.R。
18	51	52	縄文土器	深鉢	10J-16Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					後期体名寺式期新。沈線文。
19	51	52	縄文土器	深鉢	10J-13Ⅱ	口縁部片	に靑					後期体名寺式期新。
20	51	52	縄文土器	深鉢	奈良住居261	口縁部片	に黄褐色					後期体名寺式期新。沈線文。
21	51	52	縄文土器	浅鉢	10S-18Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					後期堀之内I式期。
22	51	52	縄文土器	浅鉢	古墳住居457	口縁部片	灰白~黄					後期堀之内I式期。隆帯上に磨み目文。
23	51	52	縄文土器	深鉢	古墳住居457	口縁部片	に黄褐色					後期堀之内I式期。沈線区画内縄文R.L。
24	51	52	縄文土器	深鉢	奈良溝壑36	口縁部片	に黄褐色					後期堀之内I式期。隆帯に削突文。
25	51	52	縄文土器	深鉢	10K-16Ⅱ	口縁部片	に黄褐色					後期堀之内I式期。隆帯に竹管文・削突文。

標本NO	採掘NO	PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	形状の特徴
26	51	52	縄文土器	酒杯	10K-14Ⅷ	別部片	青					粗砂粒	良好	後閉鎖之内式期。縄文R。
27	51	52	縄文土器	注口土器	古墳住居57	別部片	に黄緑					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬区画内縄文R。
28	51	52	縄文土器	注口土器	古墳住居45Ⅷ	別部片	灰白					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬低何字文、縄文R。
29	51	52	縄文土器	注口土器	11A-20Ⅷ	別部片	灰					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬文、縄文R。
30	51	52	縄文土器	海鉢	古墳住居67	口縁部片	明赤褐					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬低何字文、縄文R。
31	51	52	縄文土器	海鉢	11C-19Ⅷ	口縁部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬区画内縄文R。
32	51	52	縄文土器	海鉢	10K-18Ⅷ	口縁部片	黄灰					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬文、交点に竹管文。
33	52	52	縄文土器	海鉢	10N-17Ⅷ	口縁部片	に灰					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。口縁部際帯文、副部沈瀬文。
34	52	52	縄文土器	海鉢	古墳住居45Ⅷ	別部片	黄褐					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬。沈瀬区画内縄文R。
35	52	52	縄文土器	海鉢	古墳住居67	別部片	灰黄褐					粗砂粒	良好	後閉鎖之内2式期。沈瀬。沈瀬区画内縄文R。
36	52	52	石製品	石棒	10K-14Ⅷ	小片		6	7.1	6.2	263	粗粒輝石安山岩	良好	後閉鎖之内2式期。円形沈瀬文、縄文Rしか。
37	52	52	石器	磨製石斧	奈良住居260	完形		3.4	1.4	0.4	5	変玄武岩	良好	端部に使用痕。
38	52	52	石器	磨製石斧	近世層31	完形		6.7	3.3	1.7	55	変玄武岩	良好	端部に使用痕。
39	52	52	石器	磨製石斧	奈良住居260	完形		10.4	5	2.8	229	変玄武岩	良好	上半部磨削が激しい。
40	52	52	石器	磨製石斧	奈良欄立387	下半片		6.5	7.6	3.2	173	ミロナイト緑岩石	良好	端部に使用痕。
41	52	52	石器	磨製石斧	10J-14Ⅷ	上半片		3.3	3.3	2	38	変玄武岩	良好	先端部を欠く。
42	52	52	石器	石鏝	奈良住居53	一部片		1.40	1.30	0.35	0.76	黒曜石	良好	先端部を欠く。
43	52	52	石器	石鏝	10J-14	完形		1.44	1.44	0.22	0.34	黒曜石	良好	先端部を欠く。
44	52	52	石器	石鏝	近世層02	完形		2.17	1.54	0.33	0.87	チャート	良好	先端部を欠く。
45	52	52	石器	石鏝	10K-15	完形		3.00	1.38	0.37	1.14	チャート	良好	先端部を欠く。
46	52	52	石器	石鏝	10J-15Ⅷ	完形		2.94	1.18	0.44	1.25	チャート	良好	先端部を欠く。
47	52	52	石器	石鏝	中世層03	一部欠		1.74	1.62	0.30	0.81	黒色安山岩	良好	先端部を欠く。
48	52	52	石器	石鏝	奈良住居418	完形		2.46	1.93	0.27	1.02	黒色安山岩	良好	先端部を欠く。
49	52	52	石器	石鏝	10I-13	一部欠		2.10	1.74	0.39	1.34	黒色安山岩	良好	基部片側を欠く。
50	52	52	石器	石鏝	11A-18	一部欠		2.15	1.36	0.23	0.55	黒色安山岩	良好	基部片側を欠く。
51	52	52	石器	石鏝	10L-13	一部欠		1.67	1.29	1.35	0.88	黒色安山岩	良好	先端部、基部を欠く。
52	52	52	石器	石鏝	奈良井戸180	一部欠		3.15	2.94	0.74	5.27	黒色頁岩	良好	先端部を欠く。
53	53	52	石器	スクレーパー	奈良欄立60	完形		6.0	4.5	0.7	28	埴真頁岩	良好	先端部を欠く。
54	53	52	石器	スクレーパー	古代土坑65	完形		7.1	4.0	1.2	45	埴真頁岩	良好	先端部を欠く。
55	53	52	石器	スクレーパー	奈良欄立170	完形		6.2	5.7	1.2	61	黒色頁岩	良好	先端部を欠く。
56	53	52	石器	スクレーパー	10R-19	完形		11.8	5.3	1.2	87	黒色頁岩	良好	先端部、基部を欠く。
57	53	53	石器	スクレーパー	奈良住居53	完形		5.8	6.9	1.0	43	頁岩	良好	刃部欠損。
58	53	53	石器	スクレーパー	近世土坑12	一部欠		3.7	4.2	0.8	15	頁岩	良好	刃部欠損。
59	53	53	石器	くさび形石鏝	奈良住居53	完形		4.7	3.4	0.8	15	チャート	良好	刃部欠損。
60	53	53	石器	打製石斧	中世層03	1/2		5.3	3.5	0.8	22	黒色頁岩	良好	刃部側を欠く。

遺物NO. 前記NO.	PL NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	⑤	形状の特徴
61	54	53	石砂	打製石斧	中腰井戸16	完形	11.9	7.7	1.6	167	黒色頁岩	
62	53	53	石砂	打製石斧	10N-19	1/2	7.3	5.9	2.0	195	黒色頁岩	刃部側を欠く
63	54	53	石砂	打製石斧	奈良庵薬60	1/3	5.2	5.6	2.6	73	黒色頁岩	刃部側を欠く
64	54	53	石砂	打製石斧	10J-14	2/3	8.7	3.7	1.3	67	黒色頁岩	刃部側を欠く
65	54	53	石砂	打製石斧	10J-14	1/3	5.3	4.3	1.8	59	黒色頁岩	両端を欠く
66	54	53	石砂	打製石斧	10J-15	1/2	8.3	6.3	2.8	108	黒色頁岩	刃部側を欠く
67	54	53	石砂	打製石斧	10J-15	1/2	6.5	4.5	0.9	39	黒色頁岩	刃部側を欠く
68	54	53	石砂	打製石斧	中腰40	一部片	3.5	2.5	1.2	8	黒色頁岩	
69	54	53	石砂	打製石斧	10M-14	一部片	3.6	3.3	1.2	20	頁岩	中腰の小片
70	55	53	石砂	打製石斧	10J-13	1/4	4.8	5.2	1.7	46	頁岩	刃部側を欠く
71	54	53	石砂	打製石斧	奈良住居418	1/2	7.2	5.3	1.5	80	細粒輝石安山岩	刃部側を欠く
72	55	53	石砂	打製石斧	奈良庵薬60	2/3	9.2	4.2	1.7	87	細粒輝石安山岩	上部を欠く。
73	55	53	石砂	打製石斧	10J-13	一部片	4.2	3.7	1.1	26	細粒輝石安山岩	上部を欠く。
74	55	53	石砂	打製石斧	10J-14	一部片	4.5	3.0	1.2	24	細粒輝石安山岩	
75	55	53	石砂	打製石斧	10I-16	2/3	8.4	4.3	1.3	85	細粒輝石安山岩	刃部側を欠く。
76	55	53	石砂	打製石斧	10Q-18	完形	10.2	5.1	1.3	105	細粒輝石安山岩	
77	55	53	石砂	打製石斧	古墳跡04	完形	8.0	5.6	1.3	110	変質玄武岩	
78	55	53	石砂	打製石斧	奈良庵薬60	1/2	6.0	7.1	2.3	121	変質玄武岩	上部を欠く。
79	56	53	石砂	打製石斧	10J-14	1/2	8.5	9.9	2.5	256	変質玄武岩	刃部側を欠く。
80	55	53	石砂	打製石斧	近衛土坑35	1/2	7.9	4.2	1.6	82	硬質泥岩	両端を欠く。
81	56	53	石砂	打製石斧	奈良庵薬60	一部片	4.5	4.3	1.5	36	硬質泥岩	
82	56	53	石砂	打製石斧	10J-15	1/2	7.8	40.3	3.7	327	硬質泥岩	刃部側を欠く。
83	56	53	石砂	使用痕のある石器	10K-15		6.0	2.8	0.5	141	黒色頁岩	
84	56	53	石砂	石核	奈良庵薬60		1.7	3.2	1.0	8.0	黒曜石	
85	56	53	石砂	石核	10I-17		1.3	2.8	0.8	4.2	黒曜石	
86	56	53	石砂	石核	奈良庵薬172		3.7	5.2	1.7	37	黒色安山岩	
87	57	53	石砂	石核	10H-16		8.1	8.8	2.7	286	硬質泥岩	
88	56	53	石砂	石核	11A-20		7.8	7.2	10.4	691	アイサイト	
89	57	53	石砂	加工痕のある副片	10K-16		3.1	4.1	1.1	15	チャート	
90	58	53	石砂	加工痕のある副片	10K-14		7.7	5.7	1.7	113	黒色頁岩	
91	58	53	石砂	加工痕のある副片	10K-15		3.7	1.6	0.8	5.8	黒色頁岩	
92	58	53	石砂	加工痕のある副片	10G-18		3.7	2.7	0.9	15	黒色頁岩	
93	57	53	石砂	加工痕のある副片	10C-20		18.0	16.7	5.0	185	黒色頁岩	
94	59	53	石砂	加工痕のある副片	11A-20		2.6	2.6	0.9	7.1	黒色頁岩	
95	58	53	石砂	加工痕のある副片	10J-14		7.5	6.0	2.0	106	珪質頁岩	

遺物No./測定No./P.L.No.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	形状の特徴
96	59	53	石器	加工痕のある薄片	10L-14	4.3	4.3	1.7	40	片蓋貝殻
97	59	53	石器	加工痕のある薄片	10J-13	3.5	4.0	1.1	20	黒色安山岩
98	59	53	石器	加工痕のある薄片	10J-16	3.8	5.4	1.7	3.6	硬質泥岩
99	59	53	石器	加工痕のある薄片	10N-16	2.7	4.3	1.0	1.2	硬質泥岩
100	60	53	石器	加工痕のある薄片	10N-15	7.0	6.4	2.4	130	硬質泥岩
101	60		石器	加工痕のある薄片	10P-15	6.1	5.1	2.2	48	硬質泥岩
102	60		石器	打製石斧	奈良庵60	2.3	3.0	0.9	64	硬質泥岩
103	61	54	石器	石皿	10L-15Ⅱ	13.4	11	4	589	粗粒輝石安山岩
104	61	54	石器	石皿	10L-14Ⅱ	7.5	11.2	4	301	粗粒輝石安山岩
105	60	54	石器	磨石	5区	9	7.8	3.6	477	粗粒輝石安山岩
106	60	54	石器	磨石	10L-13Ⅱ	10.9	5.8	4.2	341	粗粒輝石安山岩
107	61	54	石器	磨石	10M-14Ⅱ	6.5	8.2	4.5	34	粗粒輝石安山岩
108	60	54	石器	磨石	10Q-19Ⅱ	7.3	8.1	1.3	118	砂岩
109	60	54	石器	磨石	10J-16Ⅱ	4.6	6.3	1.1	68	粗粒輝石安山岩
110	61	54	石器	磨石	平安住居58	7.8	6.8	3.7	282	変成武岩
111	61	54	石器	磨石	10P-18Ⅱ	6	12.5	2.5	267	粗粒輝石安山岩
112	61	54	石器	磨石	奈良住居61	8.3	10.8	6.4	573	粗粒輝石安山岩
113	61	54	石器	磨石	平安住居53	10	7.7	3	203	凝灰質砂岩
114	61	54	石器	凹石	奈良瀬立170	13.7	12.1	9.1	2184	粗粒輝石安山岩
115	61	54	石器	凹石	奈良庵60	17	11.8	7.6	1663	粗粒輝石安山岩
116	62	54	石器	凹石	奈良庵60	6	8	3.5	209	粗粒輝石安山岩
117	62	54	石器	多孔石	奈良庵60	13	12	9	2216	粗粒輝石安山岩
118	62	54	石器	多孔石	10J-14Ⅱ	8.2	10.6	3.3	247	粗粒輝石安山岩
119	62	54	石器	多孔石	10J-17Ⅱ	9.8	10.4	4.3	479	粗粒輝石安山岩
120	62	54	石器	多孔石	奈良庵60	18.4	13.8	10.5	3430	粗粒輝石安山岩
121	-	54	靛	棒状	奈良住居53	10.1	2.5	1.7	64	黒色片岩
122	-	54	靛	棒状	奈良庵60	10	3.9	2.2	113	変成武岩
123	-	54	靛	棒状	奈良住居260	11.3	3.4	1.8	97	黒色片岩
124	-	54	靛	棒状	トレンチ	11.9	3.6	2.3	116	黒色片岩
125	-	54	靛	短棒状	10J-17Ⅱ	9.6	4.1	1.7	92	黒色片岩
126	-	54	靛	短棒状	奈良庵60	12.6	3.7	1.9	122	黒色片岩
127	-	54	靛	短棒状	奈良庵60	13.6	4.6	2	167	黒色片岩
128	-	54	靛	平円状	古墳跡04	14.3	5.8	1.8	208	片変武岩
6区遺物外										
1	63	54	石器	石皿	中央調査区	2.11	1.68	0.39	1.42	黒曜石
2	63	54	石器	打製石斧	9T-21	7.0	5.1	1.0	46	硬質泥岩

遺跡NO. 調査NO. PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	粘土/石材	晩成	形状の特徴
住居4区167												
1	64	台付甕	床直	1/2	赤色	10.8				細砂粒	良好	口縁部1条の波状文、頸部断状文、胴部上位波状文。
住居4区215												
1	66	白付甕	床直	1/2	灰黄褐	10.8		7	14.5	細砂粒	良好	口部断状文、頸部断状文、胴部断状文、胴部断状文から胴部口へラ磨き
2	66	甕	+9-15	1/2	に黄電	16.2		19.4		粗砂粒	良好	口部断状文、頸部断状文、胴部断状文、胴部断状文から胴部口へラ磨き
3	66	甕	+11	口縁部片	浅黄電	26.6				粗砂粒	良好	口部断状文、頸部断状文、胴部断状文、胴部断状文から胴部口へラ磨き
4	66	甕	+8、+9	4/5	橙			31	12.4	粗砂粒	良好	口部断状文、頸部断状文、胴部断状文、胴部断状文から胴部口へラ磨き
5	66	甕	+5	完形		15.3	13.6	7.4	14.1	粗粒輝石安山岩	両面に凹有り、上面播磨あり。	
6	-	甕	+19	完形		8.5	4.5	1.3	72	雲母石英片岩	上下面に播磨有り。	
7	-	甕	埋没土	一部欠		11.4	4.1	2.2	142	雲母石英片岩	胴部に龍打痕有り。	
灌漑4区180												
1	67	甕	底面	胴部	浅黄電			46		粗砂粒	良好	胴部へラ磨り。内面へラナデ。
土坑4区211												
1	68	甕	底面	2/3	橙	13.4	7.8		16.8	粗砂粒	良好	口縁部へラナデ、頸部断状文、内面へラナデ。
土坑4区206												
1	68	甕	+15	胴部片	浅黄					粗砂粒	良好	外面刷毛目。内面へラナデ。
土坑4区207												
1	68	甕	+12	胴部片	浅黄		7.6			粗砂粒	良好	内外面へラ磨き。
2	68	甕	+6	胴部片	に黄電		6			粗砂粒	良好	外面へラ磨り。
4区遺構外												
1	69	高坏	台頂105	胴部片	赤褐					粗砂粒	良好	胴部へラ磨き。
2	69	甕	に黄電	7.4	4.2	10.7				粗砂粒	良好	頸部断状文、胴部上半波状文、下半へラ磨き。
3	69	甕	11G-17	口縁一部欠	橙	6.8	4	9	9	粗砂粒	良好	口縁部一対の2小孔。胴部へラ磨り。内面胴部へラ磨き。
4	69	甕	11J-19II	口縁部片	に黄電	18.8				粗砂粒	良好	口縁部断状文、頸部断状文、内面へラ磨き。
5	69	甕	11P-18	1/5	に黄電	9.2				粗砂粒	良好	頸部断状文、胴部上半波状文、下半へラ磨き。内面へラ磨き。
5区遺構外												
1	70	高坏	11A-19IV	胴部片	灰黄					粗砂粒	良好	外面赤色塗彩。縦方向へラ磨き。
2	70	甕	10T-18	口縁部片	に黄	14				粗砂粒	良好	口唇部断状文。
3	70	甕	10P-17	口縁部片	に黄電	17				粗砂粒	良好	口唇部断状文、口縁部刷目。
4	70	甕	11A-20	口縁部片	灰黄褐	17.2				粗砂粒	良好	口唇部断状文、口縁部刷目、頸部2通止断状文。内面へラ磨き。

古墳時代

遺物NO. 種別	出土位置	器種	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	完成	整形の特徴
住居5区457											
1	73 56	土師器	底部一部欠		8.6						
2	73 56	土師器	口縁一部欠	に橙	9.5	3.5	5.5	細砂粒	良好		内外面ヘラ磨き。
3	73 56	土師器	小形壺	靑	10	4.6	12.7	粗砂粒	良好		外面ヘラ磨り。内面ヘラナデ。
4	73 56	土師器	壺	胴部上半片に黄橙				粗砂粒	良好		外面刷毛目+ヘラ磨き。内面ヘラナデ。
5	73 56	土師器	壺	黄橙				粗砂粒	良好		外面ヘラ磨き。内面ヘラナデ。
6	73 56	土師器	壺 + 9	底部	16.8			粗砂粒	良好		外面刷毛目。内面刷毛目+ヘラナデ。
7	73 56	土師器	台付甕	口縁部片に黄橙	16.8			微砂粒	良好		口縁部磨ナデ。顔部以下刷毛目。
8	73 56	石器	磨石	2/3	7.8	7.5	3.6	374	粗粒輝石安山岩		
住居4区226											
1	75	土師器	杯	明橙	14						外面磨方向ヘラ磨き。内面放射状ヘラ磨き
2	75 56	土師器	高坏	靑							外面ヘラ磨き。内面ナデ。
古墳4区105											
1	77 56	土師器	高坏	靑							外面ヘラ磨き
2	77 56	須置器	甕	胴部片 暗灰	22.6						口縁部上位に1段の放射文。
3	77	須置器	甕	胴部片 黄灰							還元塩
4	77 56	石製品	銅形銅製品	完彩	4.8	2.2	0.6	10	軟灰岩		穿孔は2カ所と未貫通の1孔あり。
溝5区04											
1	81	土師器	甕	胴部片							
畠4区111											
1	83 56	石製品	白玉	完彩	0.6	0.5	0.4	0.14	滑石		底部ヘラ磨り。内面ヘラナデ。
畠6区101											孔数0.3
1	86 56	土師器	壺	9 S-21W 底部							
溝橋外4区											
1	87	土師器	杯	胴部片 黒褐	12.6		13.6				胴部ヘラ磨り後ヘラ磨き。内面刷毛目。
2	87	須置器	杯蓋	胴部片 灰	13.8		13				口縁部磨ナデ。底部ヘラ磨り。
3	87	須置器	杯	胴部片 灰	16.2		17.4				ロタ口整形。回転方向不明。天井部回転ヘラ磨り。
4	87	土師器	高坏	杯身下半							胴部磨ナデ。底面ヘラ磨り。
5	87 56	土師器	高坏	胴部片 赤			7.6				脚部磨付。外面ヘラ磨き。
6	87 56	土師器	高坏	胴部片 浅黄橙							杯部内面黒色処理。ヘラ磨き。脚部磨付。外面ヘラ磨き。
7	87 56	土師器	高坏	胴部片 靑			15.6				外面染砂か。脚部磨ナデ。内面ヘラナデ。
8	87 56	土師器	小形壺	胴部片 靑	4.6		8.7				胴部ナデ。底面ヘラ磨り。内面ヘラナデ。
9	87 56	土師器	小形壺	1/2 明志褐	7.8		12.6	12.9			内面に輪状痕。口縁部磨ナデ。脚部ヘラ磨り。
10	87 56	土師器	甕	胴部片 靑	18						口縁部磨ナデ。底面ヘラ磨り。脚部刷毛目。内面ヘラナデ。
11	87 57	土師器	甕	胴部片 靑	13.4		13.8				口縁部磨ナデ。脚部ヘラ磨り。内面ヘラナデ。

遺物NO. 埋没NO. P.L.NO.	種別	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	粘土/石材	焼成	整形の特徴	
12	87	57	土師器	壺	中世土師80	1/3	に橙	17.8	20.2	粗砂粒	良好	外面刷毛目。内面口縁部刷毛目。胴部ヘラナデ。	
13	87	56	土師器	台付甕	11R-18VI		黒褐	12.8		細砂粒	良好	口縁部刷毛目。胴部刷毛目。内面ヘラナデ。	
14	87	57	土師器	台付甕	11Q-18VI		底-脚部片 に黒橙	5		細砂粒	良好	外口部整形。	
15	87	87	須恵器	壺	近世朝平跡31		口縁部片 灰白	15.2		微砂粒	還元焼	ロクロ整形。	
16	87	57	須恵器	壺	近代墓石05		口縁部片 灰白	20.4		微砂粒	還元焼	ロクロ整形。区画周囲に波状文。	
17	88	57	埴輪	人	近世墓石05		手	5.3	2.7	細砂粒	良好	手先端部貼付痕。ナデ整形。	
18	88	57	石製品	銅形模造品	近世朝平跡31		3/4			滑石		穿孔は1カ所	
19	88	57	石製品	銅形模造品	中世溝51		3/4	4.4	1.3	0.4	2	滑石	穿孔は1カ所
遺跡外5区													
1	89		土師器	碇台	平安住居48		脚部片						
2	89	57	須恵器	ハソウ	10K-17VI		脚部						内外面ヘラ磨き。
3	89		須恵器	甕	10K-17VII		口縁部	灰白	8	10.2	粗砂粒	還元焼	ロクロ整形。胴部中に1孔。区画線内輪突文。
4	89		土師器	鉢	11B-20IV		口縁部片	橙	21.4		粗砂粒	良好	ロクロ整形。胴部右回り。胴部貼付。
5	89		土師器	鉢	11A-20VII		口縁部片	に橙	13.6		粗砂粒	良好	口唇部磨毛目。
6	89		土師器	壺	近世溝40		胴部下位片	橙	4.6		粗砂粒	良好	胴部ヘラ磨り。内面ヘラナデ。
7	89		土師器	壺	トレンチ		底部分	に橙	10.8		粗砂粒	良好	内面刷毛目。
8	89		土師器	手捏ね	10T-19VI		底部分	橙		2.6	粗砂粒	良好	胴部下位面取り状のヘラ磨り。内面ヘラナデ。
9	89		土師器	手捏ね	10T-19VI		胴部分	黒褐			粗砂粒	良好	内外面ナデ。
10	89	57	石製品	均互	10J-14VI		1/4	2.5	2.2	1	5	ぎよくずい	孔径2~4mm
11	89	57	石製品	白玉	磨毛井戸80		完形	1	1.1	0.5	1	滑石	孔径2mm

遺跡NO. (前NO.) PL. NO.	種類	図種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
居宅区南條4区03												
1	94	57	須志器	杯蓋	須志器	灰	18	5.4	3.2	細砂粒	還元焼	口ロ整形、回転右回り。積み貼付。
2	94	57	須志器	瓶	須志器	灰	17.8	12.4	16	8	細砂粒	口ロ整形、回転右回り。高台貼付。
3	94	57	土製品	羽口	灰黄						良好	先端部径7.0、孔径1.6
居宅区南條5区172												
1	95		須志器	杯蓋	須志器	灰	19				微砂粒	口ロ整形、回転右回り。天井部中程回転へず附り。
居宅区南條5区169												
1	96		土師器	高坏	土師器	黄	22.4				細砂粒	内外面へず磨き。
2	96	57	須志器	杯	須志器	灰	13.2	7.5	3.7	細砂粒	還元焼	口ロ整形、回転右回り。底部へず附り。焼成時に唇部口縁部が付着。
居宅区南條5区000												
1	98		土師器	杯	土師器	片に黄霞	10.6	8.6			微砂粒	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
居宅区南條5区377												
1	99		土師器	杯	土師器	片に黄	11.8	9.6			微砂粒	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
2	99		土師器	杯	土師器	黄	12	8	2.3		良好	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
3	99		土師器	杯	土師器	片に黄	12	9.6			良好	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
4	99	57	土師器	杯	土師器	片に黄	12.6	10.6	3		良好	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
居宅区南條5区287												
1	101		須志器	杯蓋	須志器	灰白		4.3			細砂粒	口ロ整形、回転右回り。積みは貼付。
2	101		須志器	杯蓋	須志器	灰白	15.8				微砂粒	口ロ整形、回転右回り。天井部中程は回転へず附り。
3	101		須志器	杯	須志器	灰白		9.2			微砂粒	口ロ整形、回転右回り。底部回転へず附り。
居宅区南條5区088												
1	102		須志器	杯蓋	須志器	灰白	11.2				細砂粒	口ロ整形、回転右回り。天井部中程は回転へず附り。
2	102	57	須志器	羹	須志器	灰白	43.6				粗砂粒	口縁部4段の波状文。
居宅区南條5区166												
1	103		土師器	杯	土師器	片に黄	11	9			良好	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
2	103		土師器	杯	土師器	片に黄	13.8	12.2			良好	口縁部上半備ナズ、下半ナズ、底部へず附り。
3	103		須志器	杯蓋	須志器	灰	14				還元焼	口ロ整形、回転右回り。
4	103		須志器	杯	須志器	灰	6.5	6.3			微砂粒	口ロ整形、回転右回り。高台貼付。
5	103		土師器	羹	土師器	黄	5.6				良好	胴部下へず附り。内面へずナズ。
居宅区南條5区171												
1	106		須志器	杯	須志器	粗灰	7.8				微砂粒	口ロ整形、回転右回り。底部回転へず附り。
2	106	57	石砂	底石	石砂		6.8	4.9	4.1	177	花崗岩砂岩	
3	106	57	石砂	底石	石砂		7.7	5.3	2.9	217	花崗岩砂岩	

遺跡NO. 調査NO. PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色澤	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	形状の特徴
居宅掘立柱建物 5区170												
1 108	土師器	杯	P 3	口縁部片	靑	12				細砂粒	やや軟質	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
2 108	土師器	杯	P 2	口縁部片	靑	14.8	9.6		3	微砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
3 108	須恵器	杯	P 3 底面	灰白				36		微砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
4 108	須恵器	杯	P 3	口縁部片	灰白					微砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
5 108	須恵器	杯	P 3	底面片	灰	7.2				微砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
6 108	須恵器	兼	P 2	胴部小片	灰					細砂粒	還元焰	外面叩き。
7 108 57	土師器	兼	P 3 + 15	口-胴中段	赤褐	23.2				細砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、胴部ヘラナリ。内面ヘラナリ。
居宅井戸 5区181												
1 110	土師器	杯	埋没土	1/4	に黄褐色	11.4	10.2		3.4	微砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
2 110	土師器	杯	埋没土	口縁部片	に靑	12	11			微砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
3 110	土師器	杯	埋没土	1/8	に靑	12.6	11		3	微砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
4 110	土師器	杯	埋没土	1/6	に靑	14	12.6			微砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
5 110 58	土師器	杯	埋没土	ほぼ完形	に靑	14.3	13.2		4.3	粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。底部に「卜」の墨書。
6 110 58	土師器	杯	埋没土	7/8	に赤褐	17	13.2		5.3	粗砂粒	良好	口唇部ナデ、口縁部ナデ、胴部ヘラナリ。
7 110 58	須恵器	兼	埋没土	ほぼ完形	黄灰	14.6	9.4		3.5	粗砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
居宅井戸 5区180												
1 112	土師器	杯	埋没土	口縁部片	に靑	11	8.2			微砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
2 112	土師器	杯	埋没土	口縁部片	に靑	12				粗砂粒	やや軟質	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
3 112	須恵器	杯	埋没土	口縁部片	灰	14				粗砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
4 112	須恵器	杯	埋没土	底面片	灰	7				粗砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
5 112 58	須恵器	兼	埋没土	底面片	灰	6.1				粗砂粒	還元焰	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。底部に「命」の墨書。
6 112 58	土師器	兼	埋没土	胴部一部欠	靑	17.8		22.2	16.5	粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、胴部ヘラナリ。内面ヘラナリ。
7 112 58	須恵器	兼	埋没土	口縁部片	灰					粗砂粒	還元焰	口唇部ナデ、胴部ナデ、口縁部は区劃線内に残存。
8 112 58	石器	磨石	埋没土	1/6		9.7	9.4	6.1	626	粗粒輝石安山岩		片面だけ使用
居宅溝 5区164												
1 113	土師器	杯	埋没土	口縁部片	に靑	14				粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
2 113 57	土師器	杯	埋没土	1/3	に黄褐色	12	9			粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、底部ヘラナリ。
居宅溝 5区160												
1 115	土師器	杯	埋没土	1/3	に靑	10.8	7.8		4.3	粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、中位ナデ、下位ヘラナリ。底部ヘラナリ。
2 115	土師器	杯	埋没土	1/4	に靑	12	7		3.5	粗砂粒	軟質	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。
3 115 58	土師器	杯	埋没土	1/2	に靑	11.8	8		3.2	粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、中位ナデ、下位ヘラナリ。底部ヘラナリ。
4 115	土師器	杯	埋没土	1/3	に靑	11.8	8		3.5	粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、中位ナデ、下位ヘラナリ。底部ヘラナリ。
5 115 58	土師器	杯	埋没土	1/2	に靑	12.3	6		4.3	微砂粒	軟質	口縁部上半輪ナデ、中位ナデ、下位ヘラナリ。底部ヘラナリ。
6 115 58	土師器	杯	埋没土	1/2	に靑	12.3	7.2		4.2	粗砂粒	良好	口縁部上半輪ナデ、下半ナデ、底部ヘラナリ。

遺物NO. 検取NO. P.L.NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石質	境成	整形の特徴
7	115	58	土師器	杯	2/3	靑	12.6	10.6	3.5	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
8	115	58	土師器	杯	2/3	に橙	12.8	9	3.7	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
9	115	58	土師器	杯	1/2	に橙	13	12.8	3.2	細砂粒	良好	口縁部横ナデ。底部へテ開り。
10	115	58	土師器	杯	1/2	に橙	13	11.8	3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
11	115	58	土師器	杯	1/4	に橙	13.4	12	3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
12	115	58	土師器	杯	1/4	靑	14	12.6	4	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
13	115	58	土師器	杯	口縁部片	に橙	10.8	8.4		細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
14	115	58	土師器	杯	1/4	に橙	11.8	8.6	2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
15	115	58	土師器	杯	1/4	靑	11.9	9.6	3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
16	115	58	土師器	杯	1/3	靑	12	10	3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
17	115	58	土師器	杯	完整	靑	12.8	11	3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
18	115	58	土師器	杯	1/4	に橙	12.9	10.4	3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
19	115	58	土師器	杯	1/5	に橙	12.8	10	2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
20	115	58	土師器	杯	1/3	に橙	12.9	9.2	3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
21	115	58	土師器	杯	1/5	靑	13	11	3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
22	115	58	土師器	杯	1/3	に橙	13	9.5	3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
23	115	58	土師器	杯	1/3	に橙	13	12	3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
24	115	58	土師器	杯	1/6	に橙	13.2	9	2.5	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
25	115	58	土師器	杯	1/5	靑	13.8	12	2.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
26	115	58	土師器	杯	1/5	靑	13.8	10	3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
27	115	58	土師器	杯	1/5	靑	14	12.2	3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
28	115	58	土師器	杯	1/5	靑	14.8	13	2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
29	115	58	土師器	杯	1/2	靑	13	9.8	2.8	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
30	115	58	土師器	杯	完整	靑	12.8	10.3	2.9	細砂粒	良好	口縁部横ナデ。底部へテ開り。
31	115	58	土師器	杯	1/3	に橙	12	8.7	3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。底部へテ開り。
32	115	58	黒色土器	碗	3/4	に橙	13.1	8	4	粗砂粒	靑火焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。内面へテ磨き。黒色地層。
33	115	58	黒色土器	碗	3/4	靑	17.7	9	5.3	粗砂粒	靑火焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。内面へテ磨き。黒色地層。
34	115	58	須恵器	杯	2/3	靑	10.5	1.8	2.8	細砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
35	116	59	須恵器	杯	3/4	灰	18.8	3.2	4	細砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
36	116	59	須恵器	杯	1/2	灰		2.5		粗砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
37	116	59	須恵器	杯	1/2	灰	17			粗砂粒	靑火焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
38	116	59	須恵器	杯	1/5	灰白	13.7	3.5	2.4	細砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
39	116	59	須恵器	杯	1/3	灰白	14.6	4	4.8	粗砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
40	116	59	須恵器	杯	1/3	灰	14.8	4.4	4	粗砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
41	116	59	須恵器	杯	1/3	灰	15	4.1	2.9	粗砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。
42	116	59	須恵器	杯	1/2	灰	16.6	3.8	3.9	粗砂粒	還元焼	口縁部整形。凹能方高小。底部へテ開り。天井部中程まで凹能へテ開り。

連番NO. 測番NO.	PI. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
43	116	59	須恵器	杯蓋	1/2	灰白	15.4	3.3	3.1	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
44	116	59	須恵器	杯蓋	1/2	灰白	15.6	4.2	3.5	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
45	116	59	須恵器	杯蓋	1/4	灰		3.4					ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
46	116	59	須恵器	杯蓋	1/3	灰		5					ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
47	116	59	須恵器	杯蓋	1/4	暗灰		3.3					ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
48	116	59	須恵器	杯蓋	1/3	灰白	14.3	4.3					ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
49	116	59	須恵器	杯蓋	1/3	灰白	14.4	4.5					ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
50	116	59	須恵器	杯蓋	1/2	灰白	14.4						ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
51	116	59	須恵器	杯蓋	溝み欠	灰白	14.5						ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
52	116	59	須恵器	杯蓋	溝み欠	灰	17.6						ロク口整形、凹転右回り。天井部中程まで凹転へつ割り。
53	116	59	須恵器	杯蓋	1/3	灰	18.8						ロク口整形、凹転右回り。天井部中程まで凹転へつ割り。
54	116	59	須恵器	杯蓋	完形	灰白	17.6	3.9	1.8	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。溝み彫付。天井部中程まで凹転へつ割り。
55	116		須恵器	杯	1/5	灰	12.7	6.5	4	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
56	116	59	須恵器	杯	1/2	粗灰	12.4	8.5	3.6	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
57	116	59	須恵器	杯	1/2	灰	12.7	8.5	3.3	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。
58	116	59	須恵器	杯	1/2	灰	13.1	9	2.8	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。
59	116	59	須恵器	杯	1/2	灰	13.4	9.6	3.3	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。
60	117	59	須恵器	杯	1/3	粗灰	13.6	8.9	3.6	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。
61	117	59	須恵器	杯	1/2	灰	10.8	5.9	3.7	微砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。内面彫部に「X」のへつ割。
62	117		須恵器	杯	1/5	灰	11.1	6.1	3	微砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
63	117		須恵器	杯	1/2	灰	11.3	6.6	3.8	微砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
64	117		須恵器	杯	1/2	灰	11.5	7.2	3.4	微砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。口縁部直上段の凹転へつ割り。
65	117	59	須恵器	杯	2/3	灰白	11.5	6.8	4.2	微砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
66	117	59	須恵器	杯	1/3	灰	11.6	6.4	3.3	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
67	117	59	須恵器	杯	3/4	灰	11.7	7.2	3.2	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。
68	117	59	須恵器	杯	3/4	灰	11.7	6.5	3.8	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
69	117	60	須恵器	杯	2/3	灰	11.8	6.5	3.6	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。凹転へつ割り。
70	117	60	須恵器	杯	3/4	灰	11.9	6.8	3.9	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
71	117	60	須恵器	杯	1/2	灰褐	11.9	6	4	微砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転へつ割り。口縁部直下段の凹転へつ割り。
72	117		須恵器	杯	1/5	灰白	11.9	7	4.3	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
73	117	60	須恵器	杯	3/4	灰	12	7	3.1	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り後側面へつ割り。
74	117	60	須恵器	杯	1/2	灰	12.2	6.5	3.3	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り後側面へつ割り。
75	118	60	須恵器	杯	2/3	灰	12.2	7	3.4	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り後側面へつ割り。
76	118	60	須恵器	杯	3/4	灰白	12.2	6.3	3.7	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
77	118	60	須恵器	杯	3/4	灰白	12.3	7.5	3.8	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。
78	118	60	須恵器	杯	2/3	灰	12.4	7.9	3.6	粗砂粒	還元焼	還元焼	ロク口整形、凹転右回り。底部凹転余切り。

遺物NO. 品名NO.	PL. NO.	種類	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	形状の特徴
79	118	須恵器 杯		1/3	灰白	12.4	6.5		3.8	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。口縁部に輪積痕。底部凹転糸切り。
80	118	須恵器 杯		1/5	黄灰	12.5	7.7		3.5	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
81	118	須恵器 杯		1/2	灰白	12.5	7.5		3.8	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
82	118	須恵器 杯		1/4	灰白	12.6	6.9		3.8	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
83	118	須恵器 杯		1/3	褐灰	12.6	6.5		3.4	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。凹転糸切り。凹転糸切り。
84	118	須恵器 杯		1/4	灰	12.6	6.5		3.9	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
85	118	須恵器 杯	ほぼ完形		灰	12.8	8		3.5	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
86	118	須恵器 杯	3/4		黄	12.8	6.5		3.9	粗砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
87	118	須恵器 杯	2/3		灰	12.8	7.7		4	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
88	118	須恵器 杯	1/2		灰	13.4	8.4		3.9	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
89	118	須恵器 杯		1/3	灰	13.4	7		4.6	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
90	119	須恵器 杯		1/4	灰	14	8.8		4	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。凹転糸切り。凹転糸切り。
91	119	須恵器 杯		1/2	明褐色	14.2	8.7		4	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
92	119	須恵器 杯		1/2	灰白	14.5	9		4	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
93	119	須恵器 杯		1/2	灰	13	6		3.5	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部凹転糸切り。
94	119	須恵器 杯		1/3	黄灰	13.2	7		3.3	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。底部へラ削り。口縁部最下凹転糸切り。
95	119	須恵器 杯		1/3	灰	12.4				細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。
96	119	須恵器 有台杯		1/2	灰	14.2	11	10	4.2	微砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
97	119	須恵器 有台杯		1/2	灰	10.5	6	6.2	5.6	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
98	119	須恵器 有台杯		1/2	灰	11.5	7.3	7	5.6	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
99	119	須恵器 有台杯		1/5	灰	15.8	10	10	6.6	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。
100	119	須恵器 有台杯		1/4	灰	15.7	9.3	9	7.2	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
101	119	須恵器 有台杯		1/4	灰	15.9	8.6	8.7	7.4	細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
102	119	須恵器 有台杯		1/4	灰	12	6.7	6.8	5.1	粗砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
103	119	須恵器 有台杯		1/2	灰	12.3	6	6.2	4.2	粗砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
104	119	須恵器 有台盤		2/3	灰白	15.4	8	7.6	5.7	粗砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
105	119	須恵器 有台盤			灰	17.2	15.6			細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転糸切り。
106	120	須恵器 高坏			底部片					微砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。脚部貼付。
107	120	須恵器 高坏			脚部片					細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。脚部貼付。
108	120	須恵器 平蓋			10L-13H位						還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台・口縁部貼付。脚部凹転糸切り。
109	120	須恵器 短直壺			灰	18.6	25.8			細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台・口縁部貼付。脚部凹転糸切り。
110	120	須恵器 長直壺			灰			10		細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。高台・口縁部貼付。
111	120	須恵器 長直壺			頸部~胴				7	粗砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。頸部貼付。
112	120	須恵器 長頸壺			口縁部片			9.4		細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。
113	120	須恵器 長頸壺			頸部片			11		細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。
114	120	須恵器 長頸壺			頸部片			8.6		細砂粒	還元焼	ロタ口壘形、凹転右回り。頸部貼付。

遺物NO. 埋藏NO. Pl. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
114	120	須恵器	胴部片	灰	灰		19			細砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部下位回転ヘラ削り。
115	120	須恵器	胴部片	灰	灰	10.6	19			細砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部下位回転ヘラ削り。
116	121	須恵器	胴部	灰	灰	25.6				粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部下位回転ヘラ削り。重部貼付。
117	121	須恵器	胴部	灰	灰	20.4				粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部上位回転ヘラ削り。重部貼付。
118	120	須恵器	胴部	灰+ナール	灰	8.5	7			粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部下位回転ヘラ削り。
119	121	須恵器	底部分	灰白	灰	9.2				粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部下位回転ヘラ削り。
120	121	須恵器	口~胴部	灰	灰	16	17.2			細砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴部中に2条の口線。
121	121	須恵器	口~胴部	灰	灰	31.8				細砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。
122	121	須恵器	裏	1/2	灰	23.7	40			粗砂粒	還元焼	胴部平行叩き。
123	121	須恵器	裏		灰	22.4				粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。
124	121	須恵器	裏		灰	43.8				粗砂粒	還元焼	口縁部3段の成状文。
125	121	須恵器	裏		灰	44				粗砂粒	還元焼	口縁部に波状文。
126	122	土師器	裏		に縹	12.8				粗砂粒	良好	口縁部削り。内面ヘラ削り。
127	122	土師器	裏		に縹	13.3				粗砂粒	良好	口縁部削り。内面ヘラ削り。
128	122	土師器	裏		に縹	14.3				粗砂粒	良好	口縁部削り。内面ヘラ削り。
129	122	土師器	裏		に縹	22				粗砂粒	良好	口縁部削り。内面ヘラ削り。
130	122	土師器	裏		に黄緑	19.2	29			粗砂粒	良好	口縁部削り。内面ヘラ削り。
131	122	土師器	底部分	黄	黄					粗砂粒	良好	底部に墨書、文字判読不能。
132	122	土師器	底部分	黄	黄					粗砂粒	良好	底部ヘラ削り。底部に墨書、文字判読不能。
133	122	土師器	底部分	に縹	に縹					粗砂粒	良好	底部ヘラ削り。底部に墨書、文字判読不能。
134	122	土師器	底部分	黄	黄					粗砂粒	良好	底部ヘラ削り。底部に墨書、文字「布」か。
135	122	土師器	底部分	黄	黄					粗砂粒	良好	底部ヘラ削り。底部に墨書、文字判読不能。
136	122	土師器	底部分	黄	黄					粗砂粒	良好	底部ヘラ削り。底部に墨書、文字判読不能。
137	122	土師器	底部分	黄	黄					粗砂粒	良好	底部ヘラ削り。底部に墨書、文字判読不能。
新宅築壘516,308												
1	123	土師器	杯	+3	完形	13			3.6	細砂粒	良好	口縁部上位削り。中位ナデ、下位~底部ヘラ削り。
2	123	土師器	杯	埋没土	1/5	に縹	13		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
3	123	土師器	杯	埋没土	1/2	に黄緑	13.4		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
4	123	土師器	杯	埋没土	1/3	に縹	13.8		3.3	細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
5	123	土師器	杯	埋没土		黄	13			細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
6	123	土師器	杯	+3	完形	12.8	9.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
7	123	土師器	杯	埋没土	1/4	に縹	12.6	9.3	2.7	細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
8	123	土師器	杯	埋没土	1/4	に縹	13.8	9.6	2.9	細砂粒	良好	口縁部上半削り。下半ナデ、底部ヘラ削り。
9	123	須恵器	杯	+2	完形	灰	10.2	1.6	2.1	粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴貼付。天字銘回転ヘラ削り。
10	123	須恵器	杯	埋没土	ほぼ完形	灰	19.6	4.6	3.8	粗砂粒	還元焼	口ノ整形、回転右回り。胴貼付。天字銘回転ヘラ削り。

調査NO	棟NO	棟NO	PL.N.O.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎石/石材	焼成	整形の特徴
11	123			須臾器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	12				細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。天井部回転へず割り。
12	123			須臾器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	13.8				細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。天井部回転へず割り。
13	123			須臾器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰白	18				細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。天井部回転へず割り。
14	124	62		須臾器	杯	+5	1/3	灰白	14.8	8.8		3.8	細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。底部回転余切り。
15	124	62		須臾器	高盤	+4	4/5	灰	15.6	7.6	11	8.5	細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。脚部貼付。
16	124	62		須臾器	壺	+3	口~胴部片	灰	41.8	46.8		46.8	粗砂粒	還元焼	胴部外面のみ、内面ナズ。
17	124	62		石製品	不明	埋没土	1/4		15	10.8	10.2	992	粗砂粒	還元焼	上下側面を平掘り整形。
住居5区49															
1	127	63		須臾器	杯	貯蔵穴	4/5	黄	10	4.5		3.3	粗砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。底部回転余切り。
住居5区51															
1	128	63		土師器	杯	+5	1/4	に黄	11.7	9.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
2	128	63		土師器	杯	+5	3/4	に黄	12.2	8.4		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
3	128			土師器	杯	+5	口縁部片	黄	13.8	9		3	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
4	129	63		須臾器	杯	+8	1/4	灰	13.5	7.8		3.6	細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。底部余切り。
5	129			須臾器	杯	床直	底部片	灰白	6.4				細砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。底部余切り。
6	129			須臾器	壺	+8	底部片	黄	7	6.4		7	粗砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。蓋台貼付。底部余切り。
7	129			土師器	壺	+6	口~胴部	黄	20				細砂粒	良好	口縁部整形、胴部へず割り。内面へずナズ。
8	129			土師器	壺	+10	頸~胴部	黄					細砂粒	良好	口縁部整形、胴部へず割り。内面へずナズ。
住居5区52															
1	131	63		土師器	杯	埋没土	1/3	黄	11.7	7.2		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
2	131	63		土師器	杯	+16	2/3	黄	11.8	7		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
3	131			須臾器	杯蓋	埋没土	口縁部片	灰	15.6				粗砂粒	還元焼	口縁部整形。
4	131			須臾器	杯	埋没土	口縁部片	灰	14.6				粗砂粒	還元焼	口縁部整形、回転右回り。
住居5区53															
1	134			土師器	杯	埋没土	口縁部片	に黄橙	15.8	11			粗砂粒	軟質	口縁部整形ナズ、底部へず割り。
2	134			土師器	杯	埋没土	口縁部片	に黄	15.8				粗砂粒	良好	口縁部整形ナズ、底部へず割り。
3	134	63		土師器	杯	+4	3/4	に黄	13.4			3.1	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
4	134			土師器	杯	床直、+16	1/5	黄	11.2			3.1	粗砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
5	134	63		土師器	杯	床直	2/3	黄	12.6			3.6	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
6	134			土師器	杯	埋没土	口縁部片	黄	12.6				細砂粒	良好	口縁部整形ナズ、底部へず割り。
7	134	63		土師器	杯	埋没土	口縁部片	1/3	黄	14	12.2	3.7	粗砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
8	134	63		土師器	杯	床直、棚方	3/4	黄	16.4	13		4.5	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
9	134			土師器	杯	埋没土	口縁部片	1/6	に黄	10.6	9.8	2	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
10	134			土師器	杯	埋没土	口縁部片	1/6	に黄	12.2		3.2	粗砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。
11	134	63		土師器	杯	床直	1/3	に黄	13.8	11		2.9	細砂粒	良好	口縁部上半橋ナズ、下半ナズ、底部へず割り。

遺物NO.	品目NO.	P.L.NO.	種類	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	土質/石材	硬度	形状の特徴
12	134	63	土師器	+15	1/2	灰	12.6	8.4		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
13	134		須恵器	埋没土	杯	灰	16.8				細砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。
14	134		須恵器	榎方	杯蓋	灰白	12.8				細砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。
15	134	63	須恵器	榎方	杯蓋	灰	14.8	8.6	3.5	3.5	細砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。積み貼付。天井部凹転へテ周リ。
16	134	63	須恵器	榎方	杯蓋	灰	17.2	10	9.8	3.5	細砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。
17	134		須恵器	埋没土	杯	灰	30				細砂粒	還元造	ロク口壘形、高台貼付。口縁部下位凹転へテ周リ。
18	134		須恵器	埋没土	杯	灰	30				細砂粒	還元造	ロク口壘形。
19	135		土師器	埋没土	壺	黄	13.8				細砂粒	良好	口縁部横ナテ、胴部へテ周リ。内面へテナテ。
20	135		土師器	床直	壺	黄	22.2				細砂粒	良好	口縁部横ナテ、胴部へテ周リ。内面へテナテ。
21	135	63	石器	床直	1/2		10	12.6	4.2	76.4	粗粒輝石安山岩		使用は片面だけ
住居5区58													
1	138	63	土師器	床直、+9	1/4	に赤褐	17.8	9		5.3	細砂粒	良好	口唇部横ナテ、口縁部上位ナテ、中位から底部はへテ周リ。
2	138	63	土師器	床直、+10	1/4	に赤褐	18.8	12.2		6.7	細砂粒	良好	口唇部横ナテ、口縁部上位ナテ、中位から底部はへテ周リ。
3	138		土師器	+14、15	杯	に赤褐	18.8				細砂粒	良好	口唇部横ナテ、口縁部上位ナテ、中位から底部はへテ周リ。
4	138		土師器	埋没土	杯	1/4	に褐	19.2			細砂粒	良好	口唇部横ナテ、口縁部上位ナテ、中位から底部はへテ周リ。
5	138		土師器	+7	杯	1/6	に褐	13	10.2		細砂粒	良好	口縁部横ナテ、底部へテ周リ。
6	138		土師器	+8、15	杯	1/6	に赤褐	14.2	13.2		細砂粒	良好	口縁部横ナテ、底部へテ周リ。
7	138	63	土師器	埋没土	杯	1/2	に赤褐	14.2	13.2	2.6	細砂粒	良好	口縁部横ナテ、底部へテ周リ。
8	138	63	土師器	床直	杯	4/5	に黄褐	13		3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
9	138	63	土師器	埋没土	杯	1/4	に赤褐	13.2		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
10	138		土師器	埋没土	杯	杯蓋	13.4				細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
11	138		土師器	+7	杯	に褐	13.4				細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
12	138		土師器	埋没土	杯	に褐	14.8				細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
13	138		土師器	埋没土	杯	1/6	に褐	18.2			細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
14	138		土師器	埋没土	杯	1/4	に赤褐	15			細砂粒	良好	口縁部上半横ナテ、下半ナテ、底部へテ周リ。
15	138	63	須恵器	床直	完形	灰白	14.8	3.7	2.4	3.7	細砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。積み貼付。天井部凹転へテ周リ。
16	138	63	須恵器	床直	杯	灰褐	17	13.4	12.6	7.2	細砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転へテ周リ。
17	138		須恵器	埋没土	杯蓋	灰	2/3	23.4			細砂粒	還元造	ロク口壘形。内面下半ナテ。
18	138		須恵器	+4	杯蓋	灰		21.2			粗砂粒	還元造	ロク口壘形、凹転右回り。胴部下半凹転へテ周リ。
19	138		須恵器	+5	壺	灰					粗砂粒	還元造	外面平打叩き、内面同心状凹へテ周リ。

発掘NO. 住居5区61	発掘NO./PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
1	141	土師器	甕	埋没土	1/5	に霞	14.4				細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
2	141	土師器	杯	埋没土	1/5	に赤褐	14.3				細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
3	141	土師器	杯	床直	1/4	に霞	11.8				細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
4	141	土師器	杯	埋方	1/4	に霞	13				細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
5	141	63	土師器	床直	1/2	に霞	14.4	10.5		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
6	141	土師器	杯	床直	口縁部片	に黄褐	13.2	10			細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
7	141	土師器	杯	埋方	口縁部片	霞	14				細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
8	141	63	須恵器	杯蓋	床直	1/2	褐灰	14.5	3.5	2.2	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。
9	141	須恵器	杯蓋	床直	口縁部片	灰			4.2		細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
10	141	63	須恵器	杯	+5	1/2	灰	12.6	9.2	3.3	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。
11	141	63	須恵器	短距離蓋	床直	1/3	灰	13.8			細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
12	141	須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰	27.6				細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
13	141	63	石器	磨石	床直	完形	7.8	7.4	2.6	77	二ツ岳群石		口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
住居5区63													
1	142	64	土師器	杯	床直	3/4	明褐	11.8	7.9	3	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
2	142	須恵器	高坏	埋没土	脚部片	灰黒					細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
3	142	須恵器	長須壺	埋没土	脚部片	灰黒		17			細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
4	142	64	須恵器	甕	埋没土	口縁部片	灰黒	52			細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
住居5区200													
1	144	土師器	杯	埋没土	口縁部片	霞	15.8	12			細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
2	144	64	土師器	杯	床直、埋方	3/4	霞	12.6	7.6	4.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
3	144	土師器	杯	+7	口縁部片	に霞	11.8				細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
4	144	土師器	杯	埋方	1/4	霞	12.2			3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
5	144	64	土師器	杯	+7	完形	12.8			3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
6	144	土師器	杯	+8	1/5	霞	12.8	10		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
7	144	64	須恵器	杯蓋	床直	完形	黄灰	15.8	4.5	3.4	細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。
8	144	須恵器	杯	埋没土	底部片	灰		9			細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
9	144	須恵器	杯	床直	底部片	灰	7.6				細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。
10	144	64	須恵器	甕	+5、12	1/2	灰白	10.2	4.6		細砂粒	還元焰	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。
11	144	64	土師器	甕	床直、+10	口~脚部片	明褐	20.4			細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。
12	144	64	土師器	甕	床直	口~脚部片	明褐	20.8			細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。
13	144	64	土師器	甕	+4~6	脚~底部片	明褐	7.6			細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部ヘラナリ。口縁部片、天井部同転ヘラナリ。

建群NO	棟群NO	PL NO.	種類	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	地成	整形の特徴
住居 5 区261													
1	146		土師器	土師器	杯	黒設土	口縁部片	16.8	13.8		細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、底部へう閉り。
2	146		土師器	土師器	杯	黒方	口縁部片	13.8			細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部へう閉り。
3	146		土師器	土師器	杯	黒設土	口縁部片	12.2	11.6		細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へう閉り。
4	146		須恵器	須恵器	杯蓋	黒設土	天井部片				細砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へう閉り。
5	146		須恵器	須恵器	盤	黒設土	底部片	15			細砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。黒台貼付。底部回転へう閉り。
6	146		土師器	土師器	罎	カマド	口縁部片	13.2			粗砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へう閉り。
7	146		土師器	土師器	罎	床直	口-胴部片	18.6			細砂粒	良好	口縁部横ナデ、胴部へう閉り。
住居 5 区418													
1	147		土師器	土師器	杯	黒方	口縁部片	13.2	8	2.8	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半から底部はへう閉りか。
2	147		土師器	土師器	杯	黒方	口縁部片	13.6	8.6	2.8	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半から底部はへう閉りか。
3	147		土師器	土師器	杯	黒設土	口縁部片	19.2			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、中位から底部へう閉り。
4	147		須恵器	須恵器	杯蓋	黒設土	口縁部片	14.2			粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回りか。
5	147		須恵器	須恵器	杯蓋	黒設土	口縁部片	15.6			粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。
6	147		須恵器	須恵器	杯蓋	黒方、黒設土	口縁部片	19.8			粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へう閉り。
7	147		須恵器	須恵器	杯	黒設土	口縁部片	12			細砂粒	還元焼	ロクロ整形。
8	147		須恵器	須恵器	杯	黒設土	底部片	8.4			粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へう閉り。
9	147	64	須恵器	須恵器	瓶	黒設土	1/2 灰	10.6	6.4	5.5	粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。黒台貼付。
獨立柱礎群 5 区167													
1	148		須恵器	須恵器	罎	P 7	口縁部片	灰	24.8		粗砂粒	還元焼	ロクロ整形。
井戸 4 区219													
1	149	64	石器	磨石	磨石	黒設土	完形	10	8.6	4.3	276 ニツ倍軽石		
土坑 4 区132													
1	151	64	須恵器	須恵器	杯	+ 5	1/2 灰	13.8	8	3.5	粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
土坑 4 区134													
1	151		灰釉陶器	灰釉陶器	底蓋	黒設土	口縁部片	灰白	10		粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、外面の施釉滑溜。
土坑 5 区54													
1	152	64	土師器	土師器	杯	黒設土	2/3 灰	11.2	8	3.4	粗砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部へう閉り。
土坑 5 区55													
1	153		土師器	土師器	杯	黒設土	口縁部片	15.4			粗砂粒	良好	口縁部上位横ナデ、中位以下へう閉り。
2	153		黒色土器	黒色土器	皿	黒設土	口縁部片	11.6			粗砂粒	還元焼	内外面位処理。ロクロ整形、外面下半へう閉り。
3	153		須恵器	須恵器	把手付甕	黒設土	頸部片	黄灰			粗砂粒	還元焼	ロクロ整形、把手貼付。頸部と胴部接合。

品目NO. 同図NO. PL. NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	整形の特徴
土坑5区65												
1 153	64	土師器	埋没土	1/3	に橙	12.8	8.8		3	細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半へ底部へラ開り。
2 153	64	土師器	埋没土	1/5	に靑	12	7		2.5	細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
3 153	64	須恵器	埋没土	1/4	灰	12	7.2		3.6	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
4 153	64	須恵器	埋没土 +10	1/2	灰白	14.2	8.2		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
5 153	64	須恵器	埋没土 底部片		黄灰		8	8.2		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転承切り。
6 153	64	須恵器	埋没土 +12		灰		8.4	8.4		細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。高台貼付。底部回転承切り。
土坑5区74												
1 154	64	土師器	埋没土	3/4	に靑	11.2	8		3.2	細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
2 154	64	土師器	埋没土 +3、24	3/4	に靑	11.8	7.8		3.6	細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
3 154	64	須恵器	埋没土 +15	2/3	に靑	12.8	6.4		4	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
4 154	64	須恵器	埋没土 +27	1/2	灰白	13.2	7		3.4	細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
土坑5区129												
1 154		土師器	埋没土		に靑	11.6	7.6		2.8	細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
土坑5区134												
1 154	64	須恵器	埋没土		灰	16.6				粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。
土坑5区151												
1 154		須恵器	埋没土		灰			4		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。横貼付。天井部回転へラ開り。
土坑5区155												
1 155		土師器	埋没土	1/4	に靑	11.6	7.6			細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデとへラ開り、底部へラ開り。
2 155		土師器	埋没土		に靑	11	8		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
3 155		土師器	埋没土	1/4	に靑	11.8	8.8			細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
4 155		土師器	埋没土		靑	12.2	8			細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
5 155	64	土師器	埋没土		靑	12.4	8.6			細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
6 155		土師器	埋没土		靑	12.8	9.2			細砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。
7 155	64	須恵器	埋没土	1/4	灰	12.6	6.4		3.7	粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
8 155		須恵器	埋没土		灰	13.2				細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
9 155		須恵器	埋没土		灰		6			細砂粒	還元焰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転承切り。
土坑5区161												
1 155	65	須恵器	埋没土		灰	25.6				粗砂粒	還元焰	口縁部高伏文。
土坑5区219												
1 156		須恵器	埋没土		灰黄靑			2.9		粗砂粒	還元焰	ロクロ整形、横貼付。天井部回転へラ開り。
土坑5区246												
1 156	65	土師器	埋没土	1/4	に黄靑	13			3.5	粗砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。内面へラ開き。
2 156	65	土師器	埋没土	1/3	靑	13.8			3.4	粗砂粒	良好	口縁部上半楕円ナデ、下半ナデ、底部へラ開り。

建物NO/準拠NO/PL NO	種類	器種	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	粘土/石材	焼成	形状の特徴
土境5区1311													
1 156	土師器	杯	埋没土	1/2	に橙		13	7		2.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
土境5区1342													
1 156	石器	砥石	埋没土	1/3			6.1	5.3	1.3	64	細灰質砂岩		
土境5区1344													
1 157	土師器	罌	埋没土	口-胴部片	明褐		21.6				細砂粒	良好	幅積直縁。口縁部横ナデ、胴部ヘラ有り。内面ヘラナデ。
2 157	土師器	罌	埋没土	口-胴部片	赤褐		22.2				細砂粒	良好	幅積直縁。口縁部横ナデ、胴部ヘラ有り。内面ヘラナデ。
3 157	土師器	罌	埋没土	口-胴部片	赤褐		23.8				細砂粒	良好	幅積直縁。口縁部横ナデ、胴部ヘラ有り。内面ヘラナデ。
土境5区1369													
1 156	須臾器	切頭鉢	埋没土	夾井流	灰			4.4			微砂粒	還元焰	口口蓋形、回転右回り。揃一帯貼付。天井部回転ヘラ有り。
土境5区1426													
1 156	須臾器	杯	埋没土	口縁部片	灰		12.6	7.8		2.9	細砂粒	還元焰	口口蓋形。底部回転ヘラ有り。
土境5区1445													
1 158	土師器	杯	埋没土	1/4	に橙		12.6			3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
土境5区1446													
1 158	須臾器	杯蓋	埋没土	1/5	灰		15.8		5.8	3.1	細砂粒	還元焰	口口蓋形、回転右回り。焼貼付。天井部回転ヘラ有り。
2 158	須臾器	杯	埋没土	口縁部片	灰白		17.4				細砂粒	還元焰	口口蓋形。
廣4区114													
1 159	土師器	杯	埋没土	2/3	橙		12.1	8		4.1	細砂粒	良好	垂大、口唇部横ナデ、口縁部ナデで指頭積縁。底部無調整。
2 159	須臾器	杯	埋没土	1/2	灰		14.8	8.2	5.8	5.3	粗砂粒	還元焰	口口蓋形、回転右回り。底部ナデで切り直し技法不明。蓋付焼付。
廣5区48													
1 161	土師器	杯	埋没土	1/5	橙		14.2			4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
2 161	土師器	杯	+6	口縁部片	橙		11.8	9			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
3 161	土師器	杯	+2	口縁部片	橙		12.6	9		2.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
4 161	土師器	杯	埋没土	1/6	明黄褐		11.8	7.6		3.5	細砂粒	良好	口唇部横ナデ、口縁部ナデ、底部ヘラ有り。
5 161	土師器	杯	埋没土	口縁部片	橙		10.8	7.4			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
6 161	土師器	杯	埋没土	1/2	明赤褐		10.8	7.4		3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
7 161	土師器	杯	埋没土	3/4	橙		11.3	8.8		3.6	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
8 161	土師器	杯	埋没土	3/4	橙		11.5	8		3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
9 161	土師器	杯	埋没土	3/4	に橙		11.7	8.2		3.4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
10 161	土師器	杯	埋没土	1/4	橙		11.7	7.8		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
11 161	土師器	杯	埋没土	口縁部片	明褐		11.7	8			細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
12 161	土師器	杯	埋没土	1/4	に黄橙		11.8	8.4		3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデ、底部ヘラ有り。
13 161	土師器	杯	埋没土	3/4	に黄橙		13	8.2		4	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデとヘラ有り。底部ヘラ有り。
14 161	土師器	杯	埋没土	1/3	に橙		13.2	9		3.7	細砂粒	良好	口縁部上半横ナデ、下半ナデとヘラ有り。底部ヘラ有り。

番号NO. (排)NO. (PI)NO.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	⑤	形状の特徴
15	161	黒色土器	埋没土	残存半	にじ	14.8			微砂粒		内面黒色処理。口クロ整形。回転右回り。内面へう襷き。
16	161	黒色土器	埋没土		にじ	16.8			微砂粒		内面黒色処理。口クロ整形。回転右回り。内面へう襷き。
17	161	65 須恵器	+13	底部	灰	7	7.4		細砂粒		口クロ整形。回転右回り。高台付。底部回転軸切り。
18	161	65 須恵器	+11	2/3	灰	15	3.3	3.1	細砂粒		口クロ整形。回転右回り。調子付。天井部回転へう襷き。
19	161	65 須恵器	+14	天井部	灰		3		細砂粒		口クロ整形。回転右回り。調子付。天井部回転へう襷き。
20	161	65 須恵器	+13	天井部	灰		3.8		細砂粒		口クロ整形。回転右回り。調子付。天井部回転へう襷き。
21	161	65 須恵器	埋没土	口縁部片	灰	14.2			細砂粒		口クロ整形。回転右回り。天井部回転へう襷き。
22	161	65 須恵器	埋没土	口縁部片	灰	18			細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
23	161	65 須恵器	+30, 11	1/3	灰	12.6	7		3 細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
24	161	65 須恵器	+2, 3	変形	灰白	14.2	9.8		4.2 細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸へう襷き。
25	161	65 須恵器	埋没土	1/3	灰	12.2	5.2		3 細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
26	161	65 須恵器	+9	3/4	灰白	10.4	5.8		3.1 細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
27	162	65 須恵器	+27	1/4	灰	12	6.2		4 細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
28	162	65 須恵器	+10	3/4	灰	12	6.2		3.6 粗砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
29	162	65 須恵器	埋没土	1/4	灰	13.4	6.2		3.8 粗砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
30	162	65 須恵器	+1, 4, 6	変形	灰白	17	9.2	8.8	7.4 粗砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部回転軸切り。
31	162	65 須恵器	+9	1/3	灰白		9.2	9	細砂粒		口クロ整形。回転右回り。高台付。底部回転軸切り。
32	162	66 須恵器	埋没土		暗灰	20	11.6	21.6	31.8 粗砂粒		口クロ整形。凸帯・耳付。断面外面叩き。
33	162	66 須恵器	埋没土		灰	10			粗砂粒		口クロ整形。
34	162	66 須恵器	+15	胴部片	灰			22.6	細砂粒		胴部下半回転へう襷き。
35	162	66 須恵器	+5	底部片	灰		12.6		細砂粒		口クロ整形。回転右回り。底部叩き。
36	163	66 須恵器	+12, 13	胴部片	灰				細砂粒		胴部部分ナズ。胴部叩き。
37	162	66 須恵器	埋没土	口縁部片	灰	23.8			細砂粒		口クロ整形。
38	163	66 須恵器	+10	口縁部片	灰	25.8			細砂粒		口クロ整形。
39	163	66 須恵器	+7	口縁部片	灰	27			細砂粒		口クロ整形。
40	163	66 須恵器	+2, 6	胴部片	灰				微砂粒		胴部と頸部は接合。口縁部は凹縁による区別と表状。
41	163	66 土師器	+6, 18	口へ頸部片	赤褐色	18.2			微砂粒		口縁部へ頸部ナズ。胴部へう襷き。内面へうナズ。
42	163	66 土師器	埋没土	口へ頸部片	橙	20			微砂粒		頸部に幅僅。口縁部へ頸部ナズ。
43	163	66 銅製品	+8	一部欠		2.68	0.62	0.16	微砂粒		非功部算
番5区232	1	163	66 土師器	杯	1/2	にじ	13	11	3 細砂粒		口縁部上半部ナズ。下半ナズ。底部へう襷き。
番5区370	1	163	66 須恵器	杯	埋没土	天井部片	灰		3.8 細砂粒		口クロ整形。回転右回り。調子付。天井部回転へう襷き。
番5区421	1	164	66 須恵器	長頸壺	成面	頸部	灰		微砂粒		口クロ整形。回転右回り。頸部叩き。

建機NO. (併用NO.) 機種	PL/NO	機種	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	出土/石材	焼成	整型の特徴
講5区437													
1 165		土鍬器	杯	+2	1/5	橙	15.2				微砂粒	軟質	口縁部上半横ナズ、下半一底部へラ削り。
2 165	66	須臾器	杯	+3	1/3	灰	15.6	10	3.3		細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
3 165		須臾器	甕	無没土		灰	29.6				細砂粒	還元端	ロクロ整形。
講5区438													
1 166	66	須臾器	杯蓋	無没土		灰			4		粗砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。胴筋付。天井部回転へラ削り。
2 166		須臾器	杯蓋	無没土		灰	21				細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へラ削り。
3 166	66	須臾器	杯蓋	+4		灰	21.8				細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へラ削り。
4 166		須臾器	杯蓋	無没土	1/4	灰	13	9	3.3		細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
5 166	66	須臾器	碗	無没土	1/3	灰	12	7.6	7.2	4.8	細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部回転へラ削り。
6 166	66	須臾器	高杯	+1		灰					細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。胴筋筋付。
7 166	66	土鍬器	甕	+5		橙	16.6		21.2		粗砂粒	良好	口縁部横ナズ、胴部へラ削り。内面へラナズ。
講5区444													
1 164		須臾器	杯蓋	無没土		灰	13.4				細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。天井部回転へラ削り。
2 164	66	須臾器	杯	無没土	2/3	灰白	13.8	8.5	3.7		細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
遺構外4区													
1 167		土鍬器	杯	中層墓域47		に橙	12	10.6			微砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ。底部へラ削り。
2 167	67	土鍬器	杯	近墓土域61	変形	明赤褐	12.6	12	3.3		粗砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ。底部へラ削り。
3 167	67	土鍬器	杯	近墓土域90	1/3	橙	13	10.6	4.1		木炭	軟質	口縁部上半横ナズ、下半へラ削り。胴部へラ削り。胴の縁は縁のたか凹部。
4 167		須臾器	小皿	11 I - 20	1/6	灰白	7.2	4	1.4		微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
5 167	67	須臾器	皿	古墳105	1/3	灰白	13.6	8	7.6	2	微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
6 167		須臾器	杯			灰	14	10	3.1		微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部へラ削り。
7 167	67	須臾器	杯	11 F - 16 W	1/2	灰白	13.2	6.4	3.6		細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
8 167	67	須臾器	杯	中層溝51	1/2	灰白	14	6.6	3.9		細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。底部回転へラ削り。
9 167		須臾器	碗	11 I - 16		灰	13.8	8.6	3.8		微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部へラ削り。
10 167	67	須臾器	碗	11 H - 17 W	1/6	灰	14.4	8.2	8.4	4.8	細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部へラ削り。
11 167	67	須臾器	碗	11 N - 20 W	1/4	灰白	14.6	6.4	5.4	5.6	細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部へラ削り。
12 167	67	須臾器	高盤	11 L - 14 W		浅黄					微砂粒	還元端	胴筋中に1条の凹線。ロクロ整形、回転右回り。
13 167	67	灰相陶器	皿	中層溝16		灰	9.2	8.8			微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部ナズ。
14 167	67	灰相陶器	碗	古墳105	4/5	灰白	20.6	9.6	9.2	7.7	微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部下方位回転へラ削り。
15 167	67	灰相陶器	碗	11 G - 17 W		灰黄	16				微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。胴筋筋付。底部下方位回転へラ削り。
16 167	67	灰相陶器	碗	11 I - 17		灰		7.1	6.9		微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部下方位回転へラ削り。
17 167	67	緑釉陶器	碗	11 H - 19 W		灰					微砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。高台筋付。底部下方位回転へラ削り。
18 167	67	須臾器	小形皿蓋	中層溝51		灰	4.5		8.2		細砂粒	還元端	ロクロ整形、回転右回り。

器種NO. 併(SINO.) P.L.NO.	器種	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石材	焼成	装飾の特徴
19	167	須臾器 長頸壺	11J-22IV 底部片	灰						細砂粒	還元焼	ロタ口整形、回転右回り。
20	167	須臾器 長頸壺	11I-20IV 底部片	灰白	18.6	9	8.6			細砂粒	還元焼	ロタ口整形、回転右回り、高台継付。
21	167	須臾器 壺	11L-21V 口縁部片	赤褐	18.6					細砂粒	良好	外周縁のみ乳、口縁部縮ナデ、胴部へラ削り、内面胴部へラナデ。
22	167	須臾器 壺	11L-21II 口-胴部片	に黄	20					細砂粒	良好	口縁部縮ナデ、胴部へラ削り、内面胴部へラナデ。
23	168	須臾器 台付壺	11K-17V 脚部	橙	2.8			9.6		細砂粒	良好	脚部貼付、肩完備ナデ、内面胴部へラナデ。
24	168	須臾器 壺	中世酒2 口縁部片	褐灰						細砂粒	還元焼	口縁部2段以上の波状文。
25	168	須臾器 壺	中世酒1 口縁部片	淡黄						細砂粒	還元焼	口縁部1段以上の波状文。
26	168	須臾器 平瓦	中世酒1 小片	灰白-7						粗砂粒	還元焼	
27	168	須臾器 石蓋	11J-19	1/2	4.9	2.3	1.5	18		低沢石		非常に使い込まれている
5区遺構外												
1	169	須臾器 杯	10J-16III 1/3	に黄橙	13.4	6		3.9		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半へラ削り、内面放射状筋文。
2	169	須臾器 杯	10L-13VI 口縁部片	橙	18.8	14				細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
3	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	12.2	8.8		5		粗砂粒	軟質	口縁部上半縮ナデ、下半へラ削り。
4	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	13	8		3.7		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半へラ削り。
5	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	17.6	11.4		5.2		粗砂粒	軟質	口唇部縮ナデ、口縁部へラ削り。
6	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	明黄橙	11.6			3.7		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
7	169	須臾器 杯	谷地	1/4	明黄橙	12.8				細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
8	169	須臾器 杯	10J-15IV 1/4	に黄橙	13					細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
9	169	須臾器 杯	10J-14IV 1/4	に黄橙	13.2			3.6		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
10	169	須臾器 杯	10N-15V 1/3	に黄橙	13.8			3.3		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
11	169	須臾器 杯	10K-17V 1/2	に黄橙	13.8			3.3		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
12	169	須臾器 杯	10K-15V 1/4	に黄橙	15.6			3.3		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
13	169	須臾器 杯	谷地	1/4	に黄橙	15.6		4.2		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
14	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	10.6					細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
15	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	11	9		2.7		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
16	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/5	に黄	11.1	8.4		3.1		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
17	169	須臾器 杯	10L-13VI 3/4	橙	11.8	9.6		3.1		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
18	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	11.8	9.6				細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
19	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	11.8	9.6				細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
20	169	須臾器 杯	10L-13VI 1/2	に黄	12	10.4				細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
21	169	須臾器 杯	近世酒21 2/3	橙	12.2	9.6		3		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
22	170	須臾器 杯	10O-18V 3/4	に黄	12.6	11.2		3		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
23	170	須臾器 杯	谷地	橙	13.6	10		3.6		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
24	170	須臾器 杯	10L-13VI 1/4	橙	14.6	12.8		2.8		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。
25	170	須臾器 杯	掘立	1/4	橙	14.8	11.4	3.4		細砂粒	良好	口縁部上半縮ナデ、下半ナデ、底部へラ削り。

器種NO./洋器NO./P.L.NO.	種類	器種	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石寸	焼成	彫刻の特徴
26	170	67	土師器	杯	10L-13VI	1/4	橙	11.6	8.2	3.3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部へラ削り。
27	170	67	土師器	杯	10L-13VI	2/3	に橙	11.8	9.8	3.1	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部へラ削り。
28	170	68	土師器	杯	10Q-16II	1/2	明赤褐	11.8	8	3.5	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部へラ削り。
29	170	68	土師器	杯	中登土坑10	2/3	橙	11.9	7.8	3.2	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部へラ削り。
30	170	68	土師器	杯	10I-17II	1/2	橙	11.9	10	3	細砂粒	良好	口縁部上半横ナズ、下半ナズ、底部へラ削り。
31	170	68	土師器	杯	10L-13VI	1/3	橙	12	8	3.2	細砂粒	良好	口唇部横ナズ、口縁部ナズ、底部へラ削り。
32	170	68	土師器	杯	10L-13VI	底部小片	に褐				細砂粒	良好	底部へラ削り、外面に墨書、再洗不能。
33	170	68	土師器	鉢	10J-15VI	口縁部片	に黄褐	22			細砂粒	良好	口縁部横ナズ、体部へラ削り。
34	170	68	須恵器	皿	10T-16VI	2/3	灰	14.8	9	3.2	微砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。高台縁付。底部回転削り。
35	170		須恵器	皿	10N-15II	底部	灰	7.3	7.6		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。高台縁付。底部回転削り。
36	170		須恵器	皿	10T-16VI	2/3	灰	9.2	9.6		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。高台縁付。底部回転削り。
37	170		須恵器	杯蓋	10L-14	4/5	灰白	12.2	2	3.8	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
38	170	68	須恵器	杯蓋	10J-15II	4/5	灰	14.2	3.6	3.3	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
39	170	68	須恵器	杯蓋	10Q-13II	4/5	灰	13.9	3.9	2.7	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
40	170	68	須恵器	杯蓋	5区谷地	4/5	灰	13.9	3.6	3.3	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
41	170	68	須恵器	杯蓋	5区谷地	4/5	灰	18.4			細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
42	170		須恵器	杯蓋	10J-15II	1/4	灰	19.4			細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
43	170		須恵器	杯蓋	10T-17II	1/4	灰白	18.8			細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。天井部回転削り。
44	170		須恵器	杯蓋	10L-16VI	天井部片	灰		3		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
45	170	68	須恵器	杯蓋	10S-15II	天井部片	灰白		3.6		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
46	170		須恵器	杯蓋	10I-17II	天井部片	灰		4.8		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
47	170		須恵器	杯蓋	10Q-17II	天井部片	灰		4.4		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
48	170		須恵器	杯蓋	10S-19II	口縁部片	灰白	13.8			細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削付。天井部回転削り。
49	171	68	須恵器	杯	10K-13II	1/3	灰	11.2	7.5	3.4	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。口縁部下位一部回転削り。
50	171	68	須恵器	杯	10Q-14VI	1/4	灰	11.8	6.4	3.6	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
51	171	68	須恵器	杯	5区谷地	1/3	黄灰	11.2	7.5	3.6	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。口縁部下方へラ削り。底部回転削り。
52	171	68	須恵器	杯	10N-17II	1/3	灰	13.8	8.8	3.2	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
53	171	68	須恵器	杯	5区谷地	変形	灰	13.8	8.9	3.8	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。横削削へラ削り。
54	171	68	須恵器	杯	5区谷地	1/4	灰	14.4	8.8	3.9	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
55	171		須恵器	杯	10M-17VI	1/4	灰	14.4	9.1	3.5	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
56	171		須恵器	杯	近藤31	底部片	灰	11	10.2		細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。高台削出し。底部回転削り。
57	171		須恵器	杯	10Q-17VI	1/3	灰	17.8	11.2	6	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
58	171	68	須恵器	杯	10Q-13VI	1/3	灰	10.4	6.5	3.8	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
59	171	68	須恵器	杯	10L-13VI	1/3	灰	11.8	6.9	3.8	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。
60	171	68	須恵器	杯	10L-13VI	2/3	灰白	11.8	7.1	3.9	細砂粒	還元焰	口縁部整形、回転削り。底部回転削り。

遺物No.	発掘No./P.L.No.	種類	器種	出土位置	残存率	色調	①	②	③	④	胎土/石質	境况	彫形の特徴
61	171	須恵器	杯	10L-13N	1/2	灰	11.8	6.9	3.3	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
62	171	須恵器	杯	10L-13N	1/2	灰白	12	7.3	3.5	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
63	171	須恵器	杯	10K-16W	1/3	灰	12	7.2	4	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
64	172	須恵器	杯	10I-17W	1/4	灰	12.2	7	3.9	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
65	172	須恵器	杯	10L-13N	1/4	灰	12.2	7.6	3.7	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
66	172	須恵器	杯	10O-13N	1/4	黄灰	12.4	6.3	4	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
67	172	須恵器	杯	10I-13N	2/3	灰	12.4	8.8	3.3	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
68	172	須恵器	杯	10I-17W	1/2	灰白	12.5	8	3.5	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
69	172	須恵器	杯	10I-17W	2/3	灰	12.5	7.6	3.8	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
70	172	須恵器	杯	10L-13N	1/4	灰	12.5	6.8	3	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
71	172	須恵器	杯	10M-16W	1/4	灰	12.7	6.9	3	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
72	172	須恵器	杯	10O-17W	1/4	黄灰	12.8	7.8	3.2	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
73	172	須恵器	杯	10O-19W	1/4	灰白	14	7	4.3	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
74	172	須恵器	杯	10L-13N	1/4	灰白	11.8	7.2	3.9	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
75	172	須恵器	杯	10I-17W	3/4	灰黄褐	12.7	6.5	3.5	粗砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
76	172	須恵器	杯	10R-14W	3/4	黒焼	12.7	6.1	3.8	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
77	172	須恵器	杯	10L-14	1/3	灰白	12.6	6.6	3.6	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
78	172	須恵器	杯	10L-13N	1/3	灰白	13.6	7.2	2.7	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。底部凹転余切り。	
79	173	須恵器	碗	近世土坑23	1/2	灰	10.4	6.3	6.6	5.1	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
80	172	須恵器	碗	10L-13N	1/2	灰	10.8	6.7	6.8	5	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
81	173	須恵器	碗	武庫坂	完整	完整	10.3	8.1	6.3	4.9	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
82	173	須恵器	碗	10I-13W	1/2	灰	11.4	5.8	5.4	4.6	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
83	173	須恵器	碗	5区谷地	2/3	灰	14.3	7.8	8.2	5.7	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
84	173	須恵器	碗	10L-13N	1/2	灰	14.8	7.7	7.3	5.4	細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
85	173	須恵器	碗	10O-18W	底面	灰白		8	7.4		細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
86	173	須恵器	盤	10G-13W	底面	黄灰		12	11.6		微砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
87	173	須恵器	高坏	10G-18W	脚部片	灰白					微砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。
88	173	須恵器	高坏	近世溝21	脚部片	灰					微砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。
89	173	須恵器	高坏	10S-15W	脚部片	灰白					微砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。
90	173	須恵器	杯	近世溝31	底部片	灰白		10	10		微砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。高台貼付。底部凹転余切り。
91	173	須恵器	短須恵蓋	古井溝04	天井部片	灰			12		微砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。燹貼付。凸部側へ凸削り。
92	173	須恵器	長須恵蓋	10O-16W	1/3	灰白	7.8				細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。
93	173	須恵器	長須恵蓋	10O-14W	口縁部片	灰	9.4				細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。
94	173	須恵器	長須恵蓋	11A-16W	脚部片	灰			6		細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。須部貼付。
95	173	須恵器	長須恵蓋	10R-15W	脚部片	灰			5.8		細砂粒	還元焼	ワタ口彫形、凹転右回り。須部貼付。須部凸帯貼付。